六十塚遺跡

田村・沖宿土地区画整理事業に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第 9 集

1998
土浦市教育委員会
土浦市遺跡調査会
田村・沖宿土地区画整理組合

六十塚遺跡

田村・沖宿土地区画整理事業に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第 9 集

1998
土浦市教育委員会
土浦市遺跡調査会
田村・沖宿土地区画整理組合

例　　言

1．本書は茨城県土浦市沖宿町字六十塚に所在する、六十塚（ろくじゅうつか）遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査の期間は、平成3年5月18日から同年7月26日までである。現地の調査は、土浦市教育委員会の指導のもとに大渕淳志（日本考古学研究所主任調査研究員）が行なった。

3．本書の執筆および編集・刊行に際し、次のように分担して業務にあたった。

編集	大渕淳志・小川和博
執筆	小川和博・大渕淳志・鍛治文博・黒澤春彦・関口満
遺構図作成・トレース	小川和博・郡司悦子・酒井悦子
遺物実測・トレース	小川和博
遺物拓影	小川和博
写真撮影	小川和博・大渕淳志・郡司悦子
レイアウト	大渕淳志・鍛治文博

4．調査記録および出土遺物は、土浦市教育委員会で保管している。

5．現地調査から本書の刊行に至るまで、ご指導いただいた土浦市教育委員会をはじめ下記の諸機関・諸氏から多大なる御協力を頂きました。ここに深く謝意を表する次第です。（敬称略）
藤下昌信、宇佐美義春、千田利明（以上日本考古学研究所）、橋本博文（新潟大学助教授）、橋本勝雄（千葉県立中央博物館）、茨城県立歴史館

6．本報告では、土層の土色構造および含有物の面積割合については「新版標準土色帖」（日本色研事業株式会社）を使用している。

目　　次

例言

第1章　調査経過…… 1
第2章　調査…… 6
第3章　遺構と遺物…… 7
　第1節　旧石器時代…… 7
　　1．概要…… 7
　　2．層序…… 7
　　3．発見された遺構と遺物…… 10
　第2節　縄紋時代…… 16
　　1．遺構…… 16
　　2．土器…… 27
　第3節　弥生時代…… 43
　　1．遺構…… 43
　　2．遺物…… 52
　第4節　古墳時代…… 56
　　1．遺構…… 56
　　2．土器…… 58
　第5節　奈良時代…… 60
　　1．遺構…… 60
　　2．遺物…… 61
　第6節　近世…… 66
　　1．遺構…… 66
　　2．遺物…… 76
　第7節　近現代…… 81
第4章　結語…… 86
別表
　1　縄紋土器観察表…… 89
　2　弥生土器観察表…… 91
　3　土師器観察表…… 95
　4　土師器・須恵器観察表…… 96
　5　銭貨計測値…… 97

挿図目次

Fig. 1　遺跡分布図 …… 2
Fig. 2　グリット設定図 …… 3
Fig. 3　周辺の遺跡 …… 4
Fig. 4　周辺地形図 …… 5
Fig. 5　メインセクション（F6グリット）（1／20） …… 8
Fig. 6　旧石器時代・1号集石遺構 …… 11
Fig. 7　旧石器時代石器出土分布図 …… 12
Fig. 8　旧石器時代の石器（1） …… 13
Fig. 9　旧石器時代の石器 …… 15
Fig.10　縄紋時代　2号集石遺構 …… 28
Fig.11　縄紋土器（早期）出土分布図 …… 32
Fig.12　縄紋土器（前期）出土分布図 …… 34
Fig.13　縄紋土器（中期）分布図 …… 35
Fig.14　縄紋時代石器出土分布図 …… 40
Fig.15　縄紋時代の石器（1） …… 41
Fig.16　縄紋時代の石器（2） …… 42
Fig.17　弥生時代　竪穴住居跡SI01遺物出土分布図 …… 44
Fig.18　弥生時代　竪穴住居跡SI02遺物出土分布図 …… 45
Fig.19　弥生時代　竪穴住居跡SI03遺物出土分布図 …… 46
Fig.20　弥生時代　竪穴住居跡SI04遺物分布図 …… 48
Fig.21　弥生時代　遺構外出土遺物 …… 48
Fig.22　弥生時代　竪穴住居跡SI05遺物出土分布図 …… 49
Fig.23　弥生時代　竪穴状遺構SX01遺物出土分布図 …… 50
Fig.24　弥生時代　竪穴状遺構SX02遺物出土分布図 …… 51
Fig.25　古墳時代　竪穴住居跡SI06遺物分布図 …… 57
Fig.26　奈良時代　竪穴住居跡SI07遺物出土分布図 …… 59
Fig.27　奈良時代　竪穴状遺構SX03遺物出土分布図 …… 61
Fig.28　高台坏接合関係図 …… 62
Fig.29　近世　土壙墓（SK52・SK66） …… 68
Fig.30　近世　土壙墓（SK67・SK69） …… 70
Fig.31　近世　土壙墓出土遺物（SK52・SK56・SK67） …… 77
Fig.32　近世　土壙墓出土遺物（SK69）（1a.2～41（2/3）　1a（1/2）） …… 79

図面目次

PLAN. 1　六十塚遺跡遺構分布図
PLAN. 2　縄紋時代　土坑SK03、風倒木1　土坑SK16
PLAN. 3　縄紋時代　土坑SK19　土坑SK20
PLAN. 4　縄紋時代　土坑SK35　土坑SK38
PLAN. 5　縄紋時代　土坑SK43　土坑SK53
PLAN. 6　縄紋時代　SK54　SK65
PLAN. 7　縄紋時代　土坑SK06　土坑SK08　土坑SK09
PLAN. 8　縄紋時代　土坑SK11　土坑SK12　土坑SK14　土坑SK15　土坑SK26
PLAN. 9　縄紋時代　土坑SK27　土坑SK28　土坑SK29　土坑SK31
PLAN. 10　縄紋時代　土坑SK33　土坑SK40　風倒木2
PLAN. 11　縄紋時代　土坑SK41　土坑SK44　土坑SK45　土坑SK46
PLAN. 12　縄紋時代　土坑SK49　土坑SK50　土坑SK51　土坑SK58
PLAN. 13　縄紋時代　土坑SK60　土坑SK62　土坑SK72
PLAN. 14　縄紋時代　土坑SK68　風倒木3
PLAN. 15　縄紋時代　SK33　SK51　SK23　SK35　SK52　SK50　SK05　SK14
PLAN. 16　縄紋時代　グリット出土土器（22～45、47～50）、埋甕（46）
PLAN. 17　縄紋時代　グリット出土土器（51～79）
PLAN. 18　弥生時代　竪穴住居跡SI01
PLAN. 19　弥生時代　竪穴住居跡SI01　竪穴住居跡SI02
PLAN. 20　弥生時代　竪穴住居跡SI03
PLAN. 21　弥生時代　竪穴住居跡SI03
PLAN. 22　弥生時代　竪穴住居跡SI03
PLAN. 23　弥生時代　竪穴住居跡SI04
PLAN. 24　弥生時代　竪穴住居跡SI05　竪穴住居跡SX01
PLAN. 25　竪穴状遺構SX02
PLAN. 26　弥生時代　SI02
PLAN. 27　弥生時代　竪穴住居跡SI03出土遺物（1）
PLAN. 28　弥生時代　竪穴住居跡SI03出土遺物（2）
PLAN. 29　弥生時代　竪穴住居跡SI03出土遺物（3）
PLAN. 30　弥生時代　SI05
PLAN. 31　弥生時代　SX02
PLAN. 32　古墳時代　竪穴住居跡SI06
PLAN. 33　古墳時代　竪穴住居跡SI06
PLAN. 34　古墳時代　竪穴住居跡SI06掘形（貼床下）

PLAN.35　古墳時代　SI06
PLAN.36　古墳時代　竪穴住居跡SI07　竪穴住居跡SI07カマド
PLAN.37　奈良時代　竪穴状遺構SX03
PLAN.38　奈良時代　SI07
PLAN.39　奈良時代　SI07　SX03
PLAN.40　近世　掘立柱建物跡SB01　掘立柱建物跡SB02
PLAN.41　近世　土壙墓SK52　土壙墓SK66　土壙墓SK67　土壙墓SK69
PLAN.42　近世　土坑SK04　土坑SK07　土坑SK10　土坑SK13
PLAN.43　近世　土坑SK17　土坑SK18　土坑SK34
PLAN.44　近世　土坑SK36　土坑SK47　土坑SK55
PLAN.45　近世　土坑SK56　土坑SK57　土坑SK61
PLAN.46　近世　土坑SK64　土坑SK70　土坑SK72　ピット状遺構Pit01
PLAN.47　近世　溝状遺構SD01・02
PLAN.48　近世　溝状遺構SD01　溝状遺構SD01
PLAN.49　近現代　土坑SK01　土坑SK02　土坑SK21・SK71
PLAN.50　近現代　土坑SK05
PLAN.51　近現代　土坑SK22　土坑SK23
PLAN.52　近現代　土坑SK24　土坑SK25
PLAN.53　近現代　土坑SK30　土坑SK32
PLAN.54　近現代　土坑SK37　土坑SK39
PLAN.55　近現代　土坑SK42　土坑SK48　土坑SK59

図面目次

PL. 1　六十塚遺跡　遺跡近景、調査前遺跡全景、調査終了後遺跡全景
PL. 2　旧石器時代　旧石器時代調査区、旧石器時代層序、旧石器時代石器
PL. 3　縄紋時代　土坑SK03、土坑SK16、土坑SK11、土坑SK08
PL. 4　縄紋時代　土坑SK19、土坑SK20、土坑SK14、土坑SK49
PL. 5　縄紋時代　土坑SK33
PL. 6　縄紋時代　土坑SK50、土坑SK51、土坑SK35、土坑SK38
PL. 7　縄紋時代　土坑SK54、土坑SK65、土坑SK60、土坑SK68
PL. 8　縄紋時代　土坑SK33出土土器、土坑SK73出土土器
PL. 9　縄紋時代　グリット出土土器（前期）、埋甕（中期）
PL.10　縄紋時代　グリット出土土器（中期）、グリット出土土器（中期）
PL.11　縄紋時代　石器、石器（礫器・磨石類）
PL.12　弥生時代　竪穴住居跡SI01

PL. 13　弥生時代　竪穴住居跡SI01、竪穴住居跡SI02
PL. 14　弥生時代　竪穴住居跡SI02、竪穴住居跡SI03
PL. 15　弥生時代　竪穴住居跡SI03、竪穴住居跡SI04
PL. 16　弥生時代　竪穴住居跡SI04、竪穴住居跡SI05
PL. 17　弥生時代　竪穴住居跡SI05
PL. 18　弥生時代　竪穴状遺構SX01、竪穴状遺構SX02
PL. 19　弥生時代　竪穴状遺構SX02
PL. 20　弥生時代　竪穴住居跡SI01・SI03・SI05出土土器
PL. 21　弥生時代　竪穴住居跡SI01出土土器、竪穴住居跡SI02出土土器
PL. 22　弥生時代　竪穴住居跡SI03出土土器
PL. 23　弥生時代　竪穴住居跡SI03出土土器
PL. 24　弥生時代　竪穴住居跡SI03出土土器
PL. 25　弥生時代　竪穴住居跡SI03出土土器
PL. 26　弥生時代　竪穴住居跡SI04出土土器
PL. 27　弥生時代　竪穴状遺構SX01出土土器
PL. 28　弥生時代　竪穴状遺構SX02出土土器、土製品、竪穴住居跡SI05出土銅鏃（表・裏）
PL. 29　古墳時代　竪穴住居跡SI06
PL. 30　古墳時代　竪穴住居跡SI06貼床下土層断面、貼床下完掘、竪穴住居跡SI06出土土器
PL. 31　奈良時代　竪穴住居跡SI07
PL. 32　奈良時代　竪穴住居跡SI07、竪穴住居跡SI07カマド
PL. 33　奈良時代　竪穴住居跡SI07カマド土層層序、竪穴住居跡SI07カマド
　　竪穴住居跡SI07カマド袖部断面
PL. 34　奈良時代　竪穴遺構SX03
PL. 35　奈良時代　竪穴住居跡SI07・竪穴状遺構SX03出土土器
PL. 36　近世　土壙墓SK66
PL. 37　近世　土壙墓SK67、土坑SK40、土壙墓SK52
PL. 38　近世　土壙墓SK69、土坑SK55
PL. 39　近世　土坑SK56、土坑SK61、
PL. 40　近世　土坑SK70、溝状遺構SD01
PL. 41　近世　土坑墓SK69出土　銅鏡（1～4）
PL. 42　近世　銭貨・煙管・釘類・土錘、玉類
PL. 43　近現代　土坑SK05、土坑SK71、土坑SK21、土坑SK42

第1章　調査経過

六十塚遺跡の現地作業は、1991（平成3）年4月18日に開始され、同年7月26日に発掘作業を完了する。以下は現地作業の発掘作業過程である。

1991年4月18日　六十塚遺跡現地作業開始。遺構確認精査作業を始める。
4月23日　グリット設定作業（杭打ち）を行う。終日終了。
4月24日　重機による表土除去作業開始。
5月９日　重機による表土除去作業終了。
5月10日　重機搬出。遺構確認精査作業終了。
5月11日　遺構検出作業開始。土壙墓から始める。
5月17日　遺構土層堆積図実測開始。土層堆積写真撮影開始。
5月20日　土坑完掘写真撮影始まる。同時に土坑平面図・断面図実測始まる。
5月26日　土壙墓出土人骨の慰霊祭を行う。
5月27日　縄紋時代の陥し穴状遺構の検出作業開始。土壙より、銅鏡等を検出する。
5月28日　竪穴住居跡検出作業開始。
5月29日　竪穴住居跡土層堆積図実測・写真撮影作業開始。
5月30日　竪穴住居跡遺物出土状況図実測・写真撮影。
6月16日　竪穴住居跡SI04より銅鏃出土。
7月３日　竪穴住居跡完掘写真撮影開始。
7月11日　竪穴住居跡カマド検出作業開始。土層写真撮影・実測作業開始。
7月14日　竪穴住居跡貼床除去作業開始。
7月17日　旧石器時代調査開始。
7月19日　竪穴住居跡・土坑等検出作業終了。
7月25日　旧石器時代の調査終了。
7月26日　六十塚遺跡現地作業完了。

（大渕　淳志）

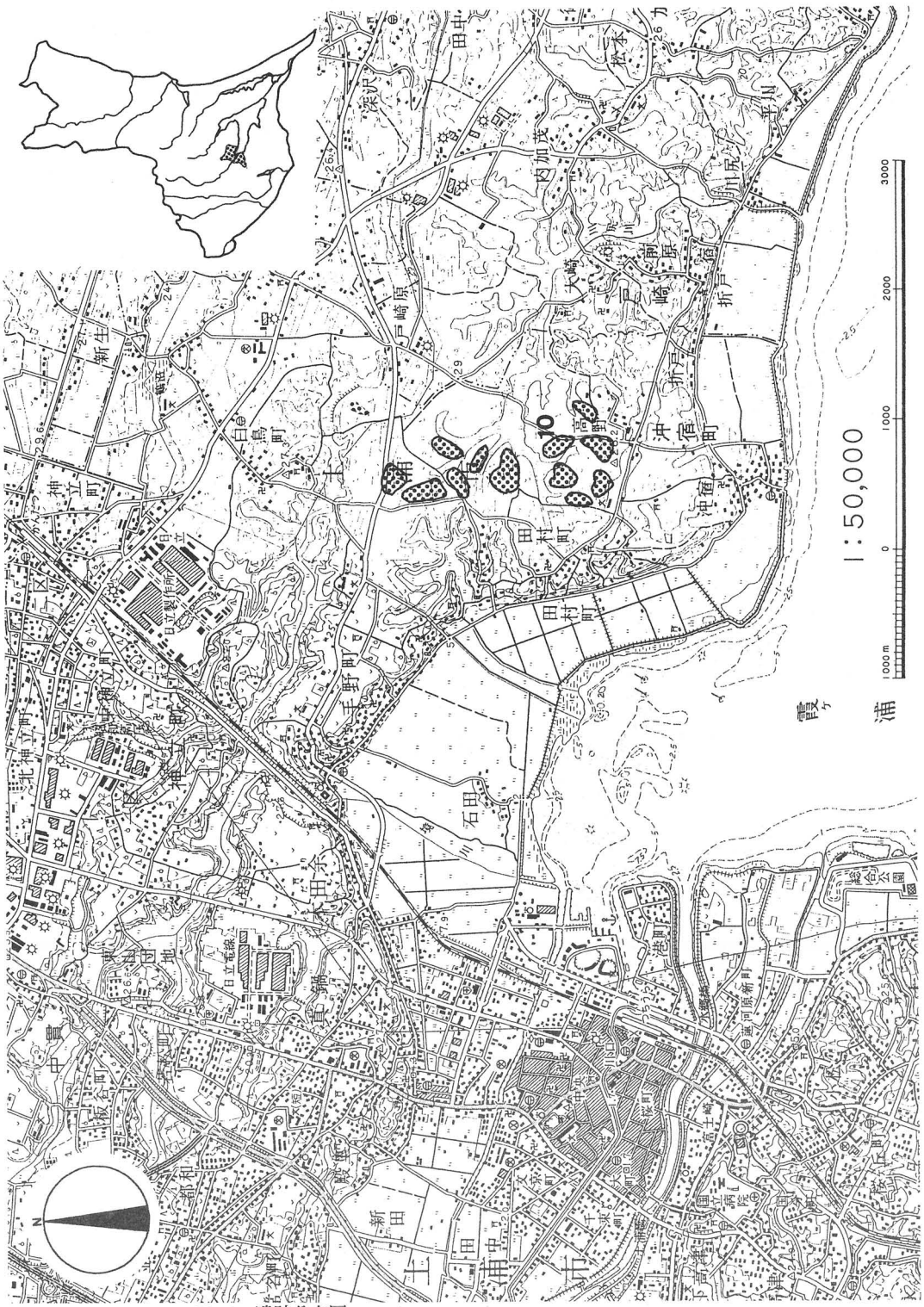


Fig.1　遺跡分布図　（国土地理院発行 1/50,000 に加筆）

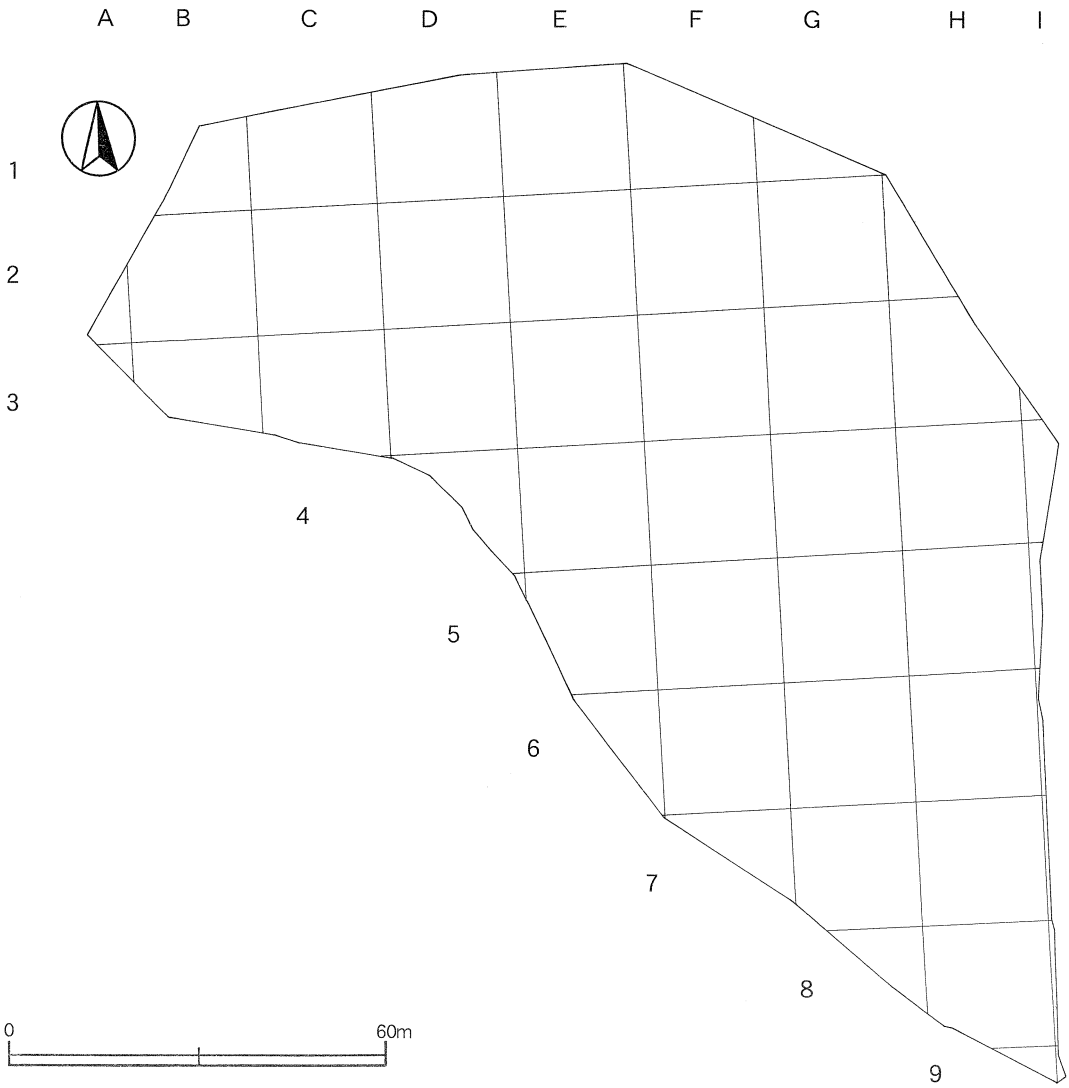


Fig.2　グリット設定図

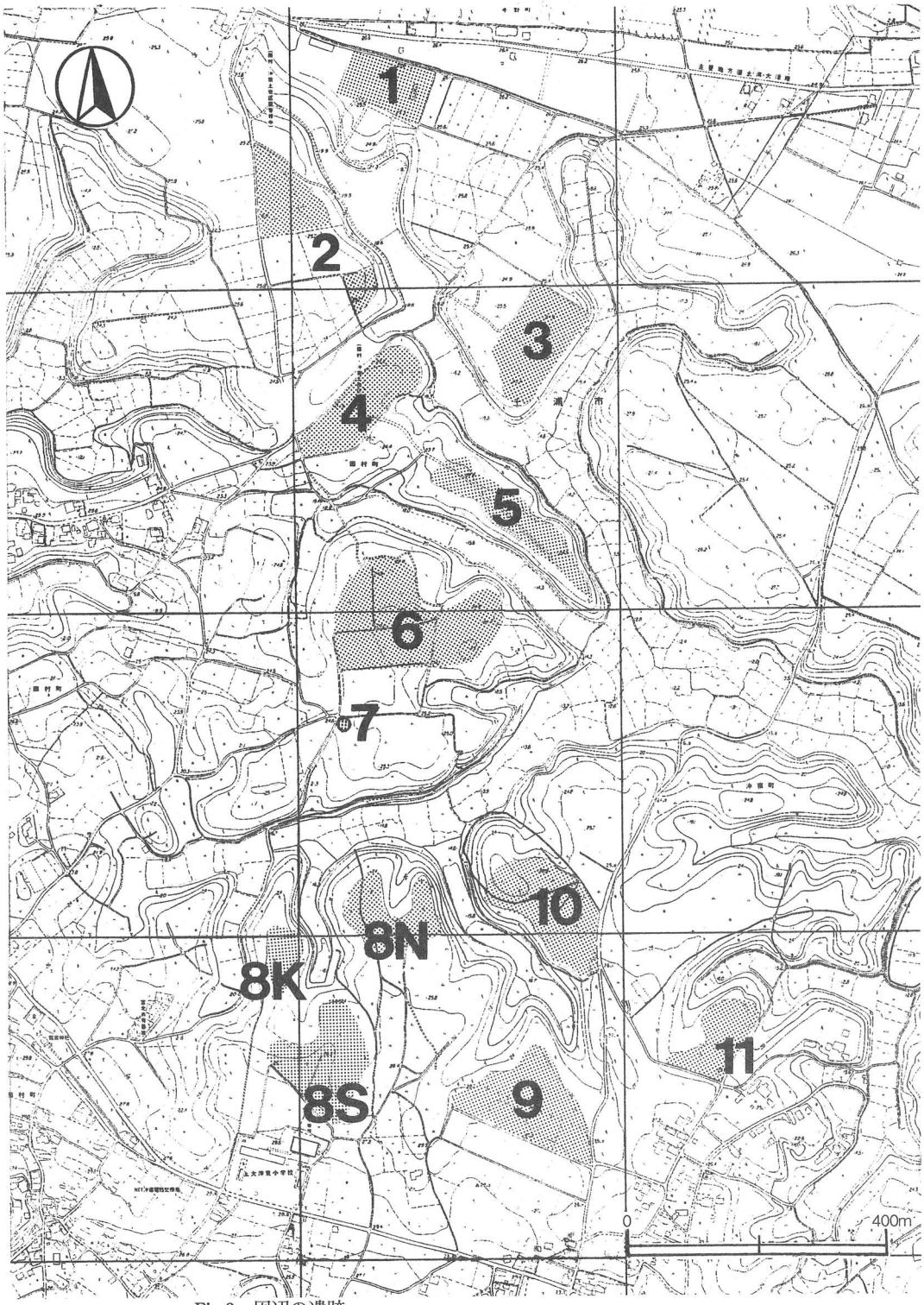


Fig.3　周辺の遺跡

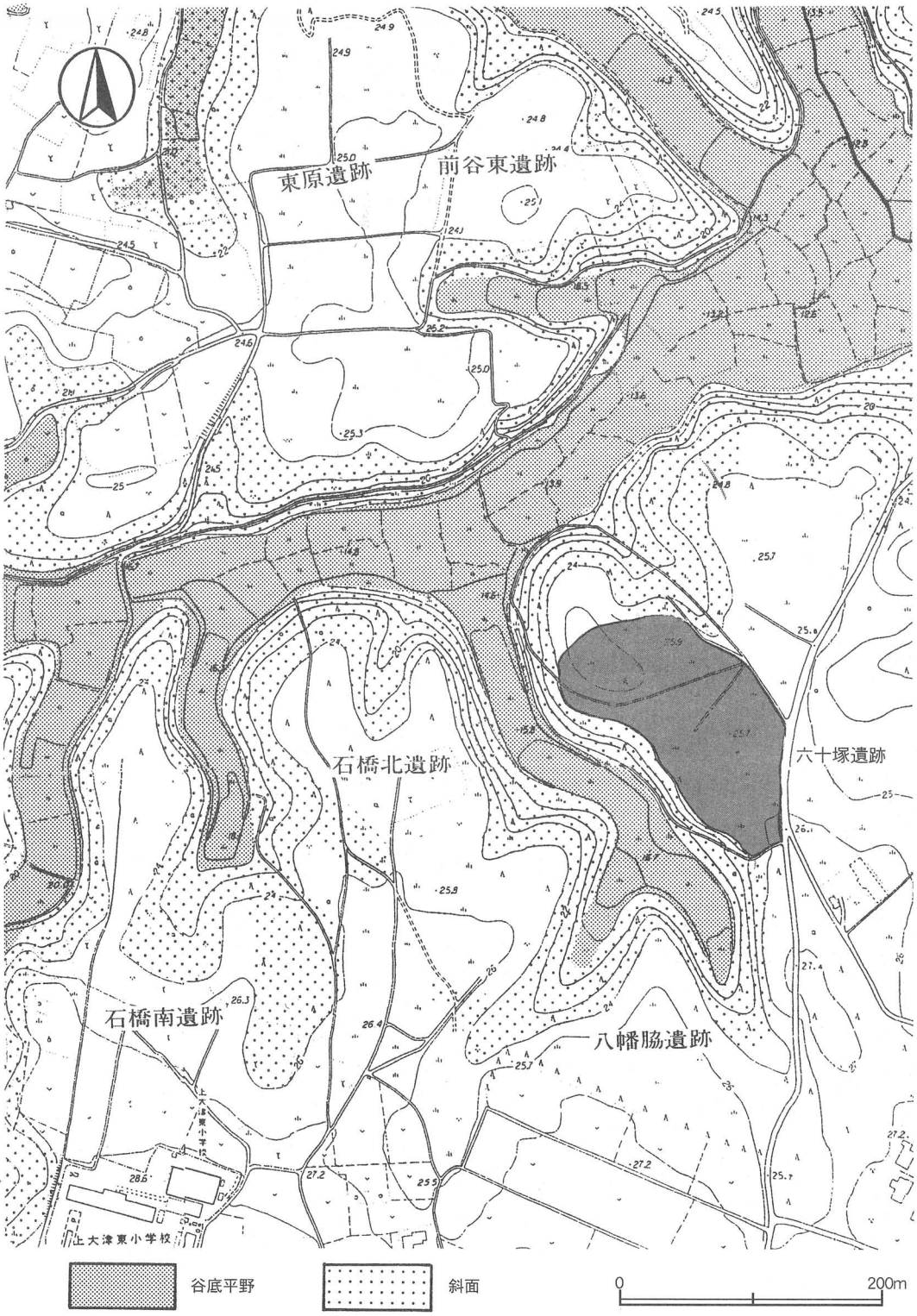


Fig.4　周辺地形図

第2章　調　査

第1節　地区設定

現地調査を行うために、日本平面直角座標を用い、調査区を20m×20mのグリットに設定し、座標軸を北に合わせて、各グリットの名称を南北方向に算用数字を、東西方向をアルファベットを用いた。北から南へ1～9、東から西へA～Iとし、例えば、「A－1地区」のように表記した。(Fig.2参照)

第2節　遺構調査

1. 表土除去

遺構確認面（ソフトローム層）まで、いわゆるノリ切りバケットをつけた重機を用い、地形に合わせ、ほぼ平坦に削平した。また、樹木の木根は残し、作業員によって、人力で除去した。重木の表土除去作業終了後に、人力によって、遺構精査を行いながら、残存していた旧表土等を除去していった。

2. 遺構調査

土坑及び土壙墓の検出作業は、基本的に長軸を、場合によっては短軸方向に分割し、北側ないしは東側をA区とし、それに対する南側あるいは西側をB区とし精査していった。竪穴住居跡・竪穴状遺構は、土層堆積観察のためのベルトを十字に設定し、4つに分けられた区を北西側から時計回りにA区、B・C・D区とし、検出作業を進めていった。各遺構の検出作業は小破片でも遺物を1点ずつ柱状に残し、床面及び低部まで掘り進め、土層堆積写真を撮影した後に、土層堆積図を実測する。その後にベルトを除去し、遺物を残した状態で、遺物出土状況写真を撮影し、遺物出土状況図を実測し、遺物を1点ずつ取り上げて、完掘させていく。完掘後、完掘写真を撮影する。カマド・炉址を有すれば、別個精査した。貼床であれば、完掘平面図終了後、除去を行い、貼床除去後の写真を撮影して終了した。

（大渕　淳志）

第3章　遺構と遺物

第１節　旧石器時代

1. 概要

六十塚遺跡は、南側は深く、北側は浅い谷に浸食され、北方に突出した比較的広い平坦面の拡がる舌状台地上にあり、旧石器時代の遺構として集石が1ヵ所北寄りに検出され、さらに遺物は主に南側基部周辺より集中して出土している。集石はⅣ層ソフトローム中で確認されたもので、規模は小さく、わずかに石核と剥片の2点が出土しただけである。またその他多くの遺物は明瞭な文化層からの出土ではなく、単純でしかもソフトローム層上面から限定された状態で検出されている。これら遺物はすべて石器で、製品としては頁岩製の二次加工が施された剥片1点のみであり、他はいずれも剥片であった。

ソフト

2. 層序

本遺跡調査区全体の土層断面は、ほぼ均一的な堆積状態を示している。ここ土浦市内の常総台地における基盤は、成田層が厚く堆積しており、その上位にローム層が堆積し、暗褐色土・明褐色土と現表土層が覆っている。

常総台地

ローム層は大きく下層部より下末吉ローム層、武蔵野ローム層、立川ローム層に分けることができるが、本遺跡の調査ではその上部にあたる立川ローム層について細分した。土浦市内における立川ローム層の細分は寿行地北遺跡（小川・大淵1991）でも細かな分析を試みているが、その基本は武蔵野台地にみられる立川ローム層との対比であった。ただし、武蔵野台地の良好な堆積状態に比較して、この付近では火山灰の供給源が遠距離のため明瞭な示標テフラを確認することはかなり困難を要する。とくに姶良Tn火山灰（ATパミス）を含む層から上位における層序区分には各研究者の統一的な見解はなく多くの問題を残すこととなった。これらについては隣接する千葉県における下総台地のローム層序の区分でも同様な問題をかかえていたものの、最近の膨大な資料の増加にともなって、武蔵野台地により近い統一的な呼称法が採用されつつあり（田村1987、島立・新田・渡辺1992）、ここ常総台地でも下総台地に近いことから資料の蓄積をもって、さらに産出される石器群の比較を通して統一的な呼称法が可能と考える。

立川ローム

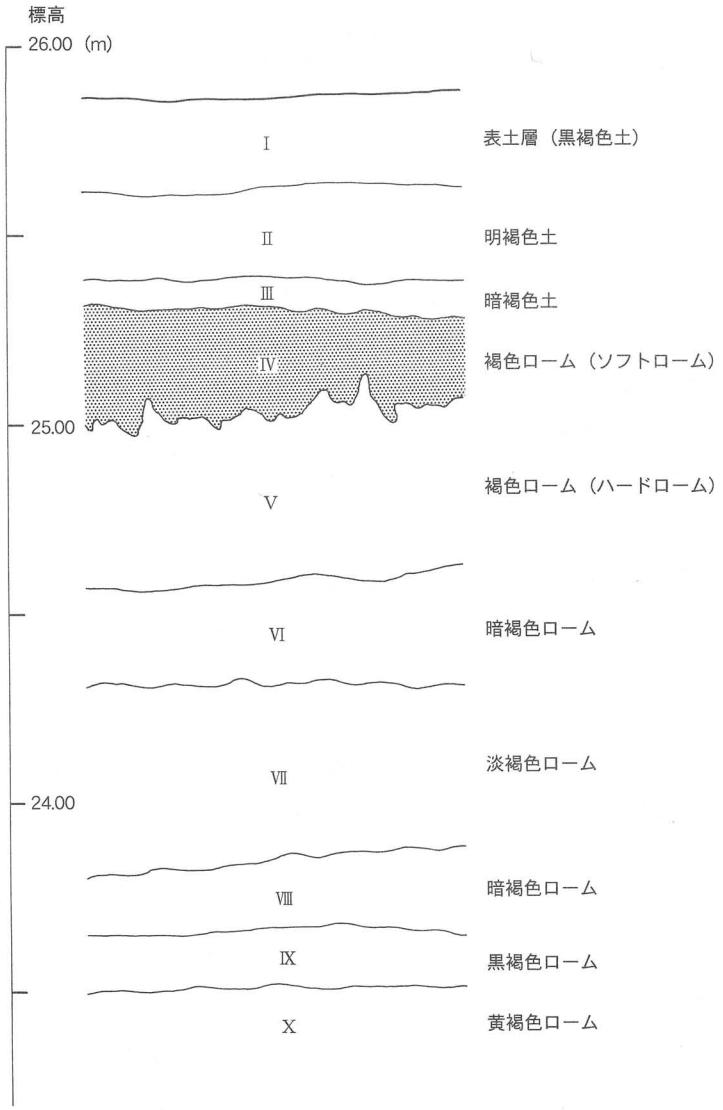


Fig.5　メインセクション（F6グリット）（1／20）

柱状図　　Fig.5土層柱状図は本遺跡西側の旧石器時代確認調査範囲のうち、最も台地平坦よりのE－5区付近の土層図である。これが本遺跡の基本層序であり、以下各層の特徴を記していきたい。

Ⅰ層：黒褐色土（7.5YR4/4）現代の森林土層および攪乱層であり、所謂表土層である。粘性、締りがなく、草木の根の影響が著しい。層厚は15～30cm前後である。

Ⅱ層：明褐色土（7.5YR5/6）Ⅰ層よりは粘性、締りとも増すが、全体的にはパサパサしている。所謂新期テフラと呼称されている層であるが、遺物の包含はなく、しかも調査方法の制約により出土遺物を明確にはなし得なかった。層厚は20～25cmである。　新期テフラ

Ⅲ層：暗褐色土（7.5YR3/4）調査区全体に遺存するものの、薄層で、ローム粒子（直径1～2mm大の粒径）が比較的多く含有している。本遺跡では平安時代の遺構が本層中で検出されている。明瞭な遺物の包含が認められない。層厚は8～15cm前後である。

Ⅳ層：橙色ローム（ソフトローム）（7.5YR7/6）立川ローム軟質部である。締りが若干弱くボソボソしており、Ⅴ層との境は明瞭であるが、かなり複雑な食込み状態がみられる。本層が旧石器時代の集石および遺物包含層である。層厚は概ね25cm前後である。　ソフト　包含層

Ⅴ層：褐色ローム（ハードローム）（7.5YR4/6）立川ローム硬質部に相当する。粘性、締りとも強く、粒子が細かく堅緻である。全体的に均質であり。遺物の包含は認められなかった。層厚は45cmである。　ハード　暗色帯

Ⅵ層：暗褐色ローム（7.5YR4/4）立川ローム層第2暗色帯に相当する層と考えられる。粘性、締りとも強く、Ⅴ層との境界は明瞭である。なおやや軟質の部分も認められるところもある。層厚は約35cmである。

Ⅶ層：明褐色ローム（7.5YR5/8）やや明るいロームで全体が硬質であるが、部分的に軟質状態が観察される。層厚は約45cmである。

Ⅷ層：にぶい褐色ローム（7.5YR6/3）Ⅶ層より色調は明るいが、全体に軟質部分が多い。しかし、粘性、締りとも強い。層厚は約20cmである。

Ⅸ層：褐色ローム（10YR4/6）Ⅶ層よりさらに暗い色調で、また粘性や締りもより強くなる。粒子は細かいが全体が砂粒状を呈している。層厚は約15cmである。

Ⅹ層：灰黄褐色ローム（10YR6/2）立川ローム最下層に相当するものと考えられる。やや明るく、全体に締りもよく硬質であるが、軟質部分もみられる。

以上が本調査地域の基本土層である。旧石器時代包含層（文化層）摘出の意味で現表土層より約2.5mの深さのグリットをE－5地点、さらに面として捉えるため10×10mの大グリットの調査区１地点設定し調査を行った。あいにく旧石器時代以降の遺構の検出が多く、調査地点設定に大きな障害となったが、調査全域の約8％に当たる115m²を発掘可能となった。その成果は十分とはい　文化層

えないものの、少なくとも当地域ではまだ件数例が少ない旧石器文化の検討材料を提示できたものと確信している。

3. 発見された遺構と遺物

本遺跡から遺構として、集石遺構が1ヵ所検出され、さらに調査区全域から遺物として石器が13点出土している。これら石器はあいにく1つのまとまりとしてのユニットとして確認できないものの、当地域の旧石器文化の一資料を追加することとなった。

A．遺構

1号集石（Fig.6）

調査区北側台地縁辺部にあたるD－1区で検出された。東西1.5m、南北1m の範囲に拳大の礫が散点して分布しており、出土層位はⅣ層（橙色ローム＝ソフトローム）最上部である。集石底面は比較的安定し、ほぼ平坦面を呈しており、掘り込みなどの遺構は伴わない。検出された礫は9点で、うち4点および2点の2例6点が接合資料として確認された。これらはいずれも復元率100％の円礫となる。また他の構成礫3点は概ね拳大かそれよりもやや小さな円礫で、ひび割れも全くなく完形の礫である。したがって本集石は4個の礫群で構成されていたことになる。礫の総重量は15.2kgで、表面に赤化もしくは炭化物、タール状の付着物は観察されず、また打痕が認められる礫はなく、使用頻度は低く、短期間のうちに廃棄された可能性が高い。また集石に伴って石器２点が出土している。メノウ製石核（Fig.8－8）と安山岩製剥片（Fig.8－6）1点である。これら石器の出土層位は集石とほぼ同じであり、本址に伴う石器と考えてよいであろう。

集石底面

円礫

石核

B．遺物

石器（Fig.8－1～９、Fig.9－10～13）

1・二次加工を有する剥片　　G－7区Ⅳ層出土。形状は横倒三角形状を呈する縦長剥片を素材としている。打面は極めて小さく、しかも平坦剥離によって除去されている。裏面には良好なバルブが発達し、剥片表面の左側縁下部にはやや抉入状の刃潰し加工が施され、さらに稜上にも微細な剥離が認められ稜上調整が観察される。頁岩製である。

バルブ

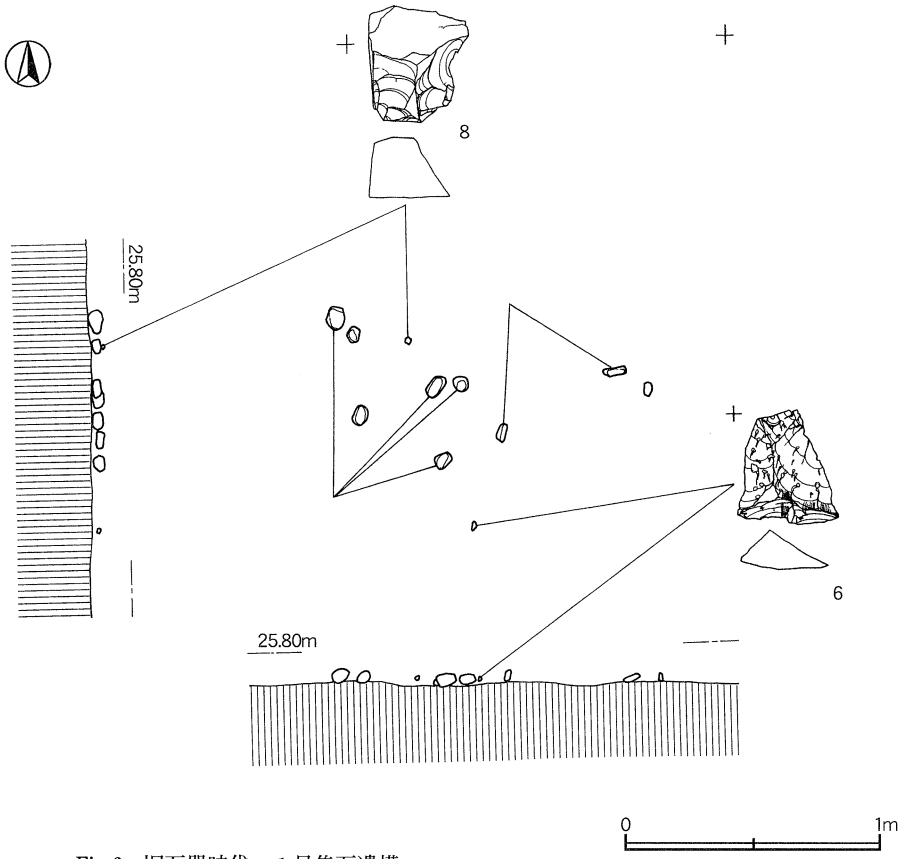


Fig.6　旧石器時代・１号集石遺構

２・剥片　F－5区Ⅳ層上部出土。薄手の縦長剥離である。礫面を頭部に残している。打面は原礫面打面で、背面は90°対向する剥離面で構成されている。頁岩製である。

３・調整剥片　F－6区Ⅳ層上部出土。縦長剥片であるが、表面右側縁および裏面右側縁辺には調整剥離が認められる。チャート製である。　調整剥片

４・剥片　G－7区Ⅳ層上部出土。長方形状の平面形を呈した比較的薄手の縦長剥離である。打面は小さく、しかも平坦剥離によって除去されている。背面はすべて主要剥離と同じ打面からの同方向の剥離で覆われている。頁岩製である。

５・剥片　H－6区Ⅳ層上部出土。縦長剥片で、右側縁に礫面を残している。主要剥離面と背面は同じ打面からの同方向の剥離で覆われている。チャート製である。

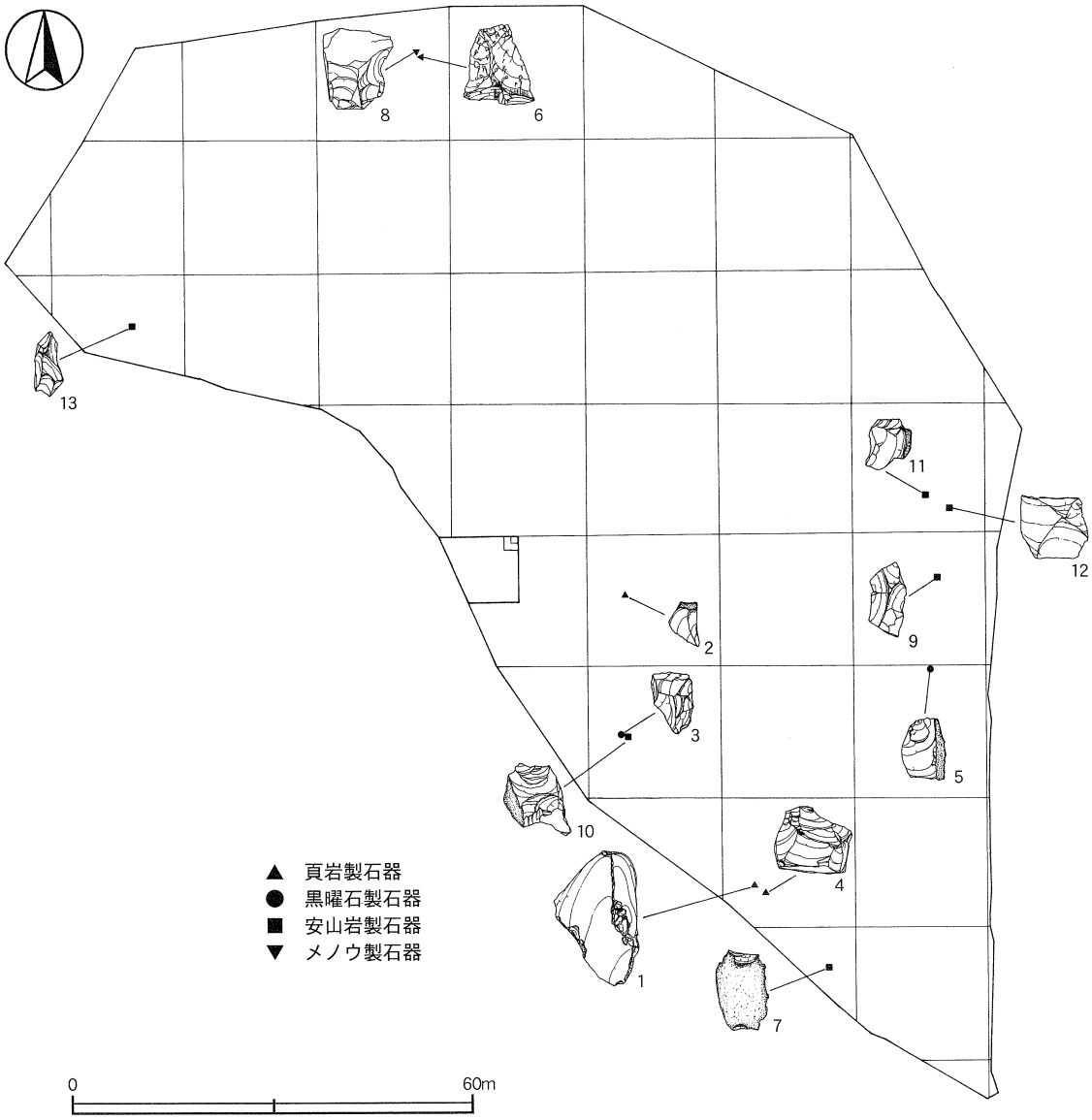


Fig.7　旧石器時代石器出土分布図

6・剥片　D－1区1号集石、Ⅳ層上部より出土。縦長剥片で、打面は比較的小さく、断面は比較的肥厚する三角形状を呈する。主要剥離と背面には同方向の剥離が認められる。黒曜石製である。

黒曜石

7・剥片　G－8区Ⅲ層最下部出土。器厚の薄い縦長剥片。背面に大きく原礫面を残す。バルブはわずかに発達している。安山岩製である。

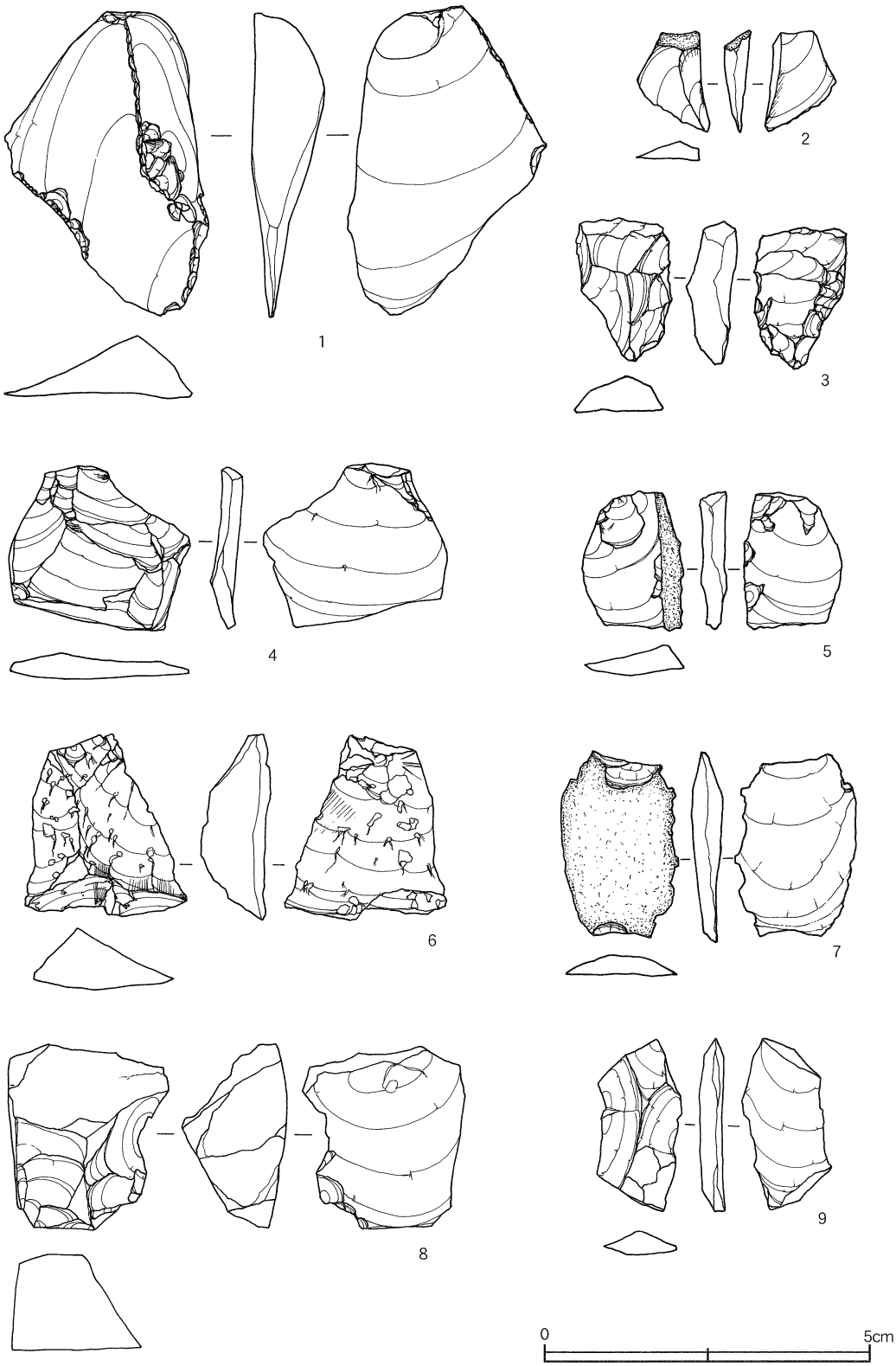


Fig.8　旧石器時代の石器（1）

石核

8・石核　D－1区１号集石、Ⅳ層上部より出土。剥片素材の石核である。素材剥片は複剥離面打面の厚手の縦長剥片で、背面は主要剥離面と対向の剥離で覆われている。また表面には原礫面を大きく残している。メノウ製である。

9・剥片　H－5区Ⅳ層上部出土。両端を欠損した縦長の剥片である。表面には稜をもち、石刃状の観を呈している。安山岩製である。

石刃

10・剥片　F－6区Ⅲ層最下部出土。形状の平面形を呈した縦長剥片である。背面上部には原礫面が残り、打面は単剥離打面である。安山製である。

11・剥片　H－4区Ⅳ層上部出土。器厚の極めて薄手の縦長剥片である。背面右側縁には原礫面を残している。打面は小さく、バルブがわずかながら発達している。安山岩製である。

12・剥片　H－4区Ⅳ層上部出土。四辺形を呈する縦長の剥片である。背面における剥離面を大きく残している。安山岩製である。

13・剥片　B－3区Ⅲ層最下部出土。小形の縦長剥片である。打面は極めて小さく、バルブは発達せず、背面中央に1条稜が通っている。安山岩製である。

（小括）

土浦市内における旧石器時代の遺構・遺物について、最近その検出例を多くしている。とくに今回対象となった田村沖宿区画整理事業地内における発掘調査の成果については目を見張るものがある。あいにくここ六十塚遺跡ではわずかに集石1ヵ所と石器13点のみで、石器集中地（ユニットもしくはブロック）として確認されていないが、市内の旧石器時代の類例を増したことは誤りないであろう。

集石

さて、六十塚遺跡の調査の結果、調査区北端に位置する集石とそれに伴う石器2点（石核・剥片）と調査区全域に11点の石器が出土している。この11点の石器は、二次加工を有する剥片1点、調整剥片1点、剥片9点であり。すべて単独出土であり、大半は調査区南側に集中していた。ただし、石器ユニットとしてまとまりある出土状態を呈していない。また出土層位はⅢ層（暗褐色土）最下層からⅣ層（橙色ローム＝ソフトローム）上部に限られ、いずれの石器もほぼ同時期の所産であろう。これはメルクマールとなる石器の出土はないものの、時期的にはナイフ形石器以後のいわゆるⅢ期終末からⅣ期にかけてであり、一方素材となる石質が頁岩と安山岩が中心であることからみても時期的な幅はさほどなかったと考える。また集石址では黒曜石とメノウを

素材

素材とする石器が出土している。調査区南側からは1点も出土していないことから、黒曜石を素材とする段階と用いない段階の差がみられる。これは層位的にはほとんど差がないものの、石質の差から見ると集石址の構築時期が若干古くなるものと想定している。　時期差

（小川和博）

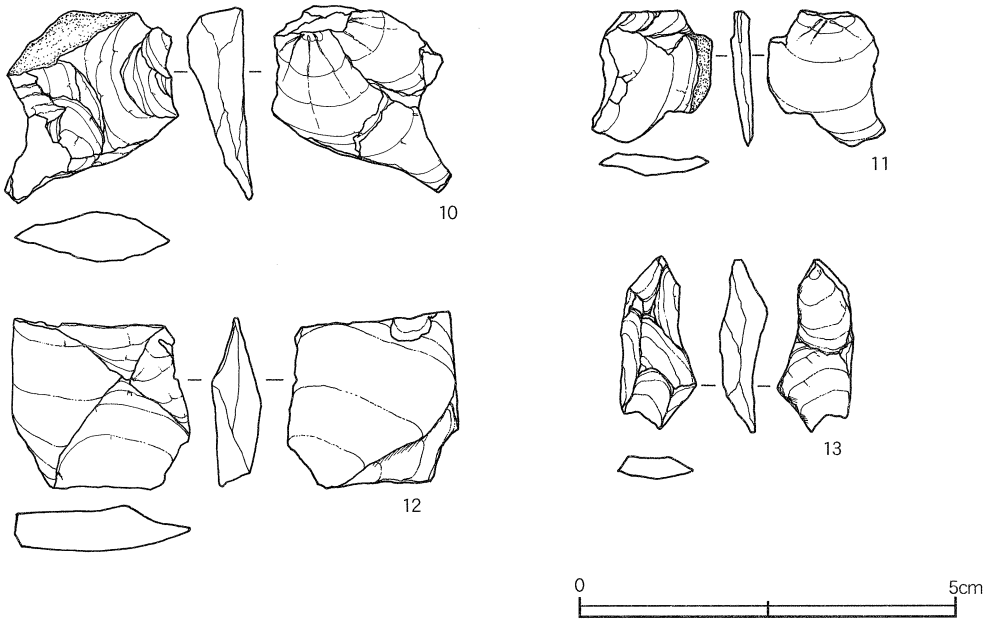


Fig.9　旧石器時代の石器

番号	石器名	出土地点	層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石材	備考
Fig.8—1	二次加工のある剥片	G7—2		71.4	42.7	14.3	29.78	頁岩	
Fig.8—2	剥片	F5		21.5	4.4	4.4	1.04	頁岩	
Fig.8—3	調整剥片	F6—1		32.5	9.5	9.5	6.92	チャート	
Fig.8—4	剥片	G7—1		33.8	5.8	5.8	8.68	頁岩	
Fig.8—5	剥片	SI01—14		30.4	5.5	5.5	4.90	チャート	
Fig.8—6	剥片	SD02—1		41.9	13.3	13.3	14.32	黒曜石	集石
Fig.8—7	剥片	F7		41.6	5.7	5.7	6.72	安山岩	
Fig.8—8	石核	D1		42.8	23.3	23.3	35.20	メノウ	集石
Fig.8—9	剥片	H5		39.0	5.6	5.6	4.48	安山岩	
Fig.9—10	剥片	F6—1		29.9	9.5	9.5	10.78	安山岩	
Fig.9—11	剥片	H4		26.1	3.0	3.0	1.90	安山岩	
Fig.9—12	剥片	H4		32.1	9.0	9.0	11.56	安山岩	
Fig.9—13	剥片	B3		33.3	8.1	8.1	2.82	安山岩	

Tab.3　旧石器時代・石器計測地

第２節　縄紋時代

１．遺構

Ａ．陥し穴状遺構

北西に突出し、南北に延びる台地上15，100m²を発掘調査した結果、縄紋時代の遺構として土坑が34基検出された、うち陥とし穴と考えられる土坑は10基、炉穴として4基であり、その他土坑20基あり、その形態より円形土坑5基、楕円形土坑8基、長方形土坑1基、その他6基に大きく分けられる。ここではまず、覆土の堆積状態による時期別分類を試みたが、縄紋時代および縄紋時代以降という大きな枠でしか判別不可能であった。したがって、土坑覆土内から出土した遺物をもって所属時期を判断した以外、明確な時期を指示し得る土坑は少なかった。なお土坑周辺より出土した遺物からみると縄紋時代早期末葉、前期前半から中葉、中期中葉と幅広く、土坑の構築もこのいずれかの時期に所属するものと思われる。

土坑SK03（PLAN.2）

調査区の中央、F－4地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに長楕円形を呈している。平面規模は開口部で、長径218cm、短径38cm、底部は長径228cm、短径25cm、深さ80cmを測る。南西壁で10cmオーバーハングしている。坑底施設としては、ピット13個が規則的に底面全体に配置されている。径7～10cm、深さ3～5cmを測る。長軸方位はN－58°－Wを示す。壁は緩い外傾をなしている。覆土は５層に分層され、1層は多量のローム粒を含む明褐色土。2層は微量のローム粒を含む暗褐色土。3層は微量のローム粒を含む褐色土。4層は多量のローム粒を含む黒褐色土。5層は多量のロームブロックを含む黄褐色土で1～3層が本土坑に相当する覆土と思われる。4、5層は後述する風倒木1に相当すると思われる。自然堆積層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態、形態から判断して縄紋早期の陥し穴と思われる。風倒木１によって北東～南東の上面が壊されている。

規模

坑底施設

覆土

土坑SK16（PLAN.2）

調査区の北西側、B－2地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに長楕円形を呈している。平面規模は開口部で長径171cm、短径85cm、底部は長径133cm、短径58cm、深さ87cmを測る。坑底施設としてはピット5個が底面ほぼ中央に1列で配置されている。径8～15cm、深さ9～18cmを測る。長軸方位

規模

坑底施設

はN－23°－Eを示す。壁は外傾をなし、南壁付近はほぼ垂直に立ち上がる。
覆土は6層に分層され、1層は多量のローム粒を含む黄褐色土。2層多量のローム粒を含む褐色土。3層は多量のローム粒、ロームブロックを含む暗褐色土。4層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黄橙色土。5層は多量のローム粒、ロームブロックを含む褐色土。6層は多量のローム粒を含む黄橙色土で自然堆積層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態、形態から判断して縄紋早期の陥し穴状遺構と思われる。　覆土　時期

土坑SK19（PLAN.3）

調査区の北西側、C－3地区に位置する。南側が調査区域外となっているため、約1/2の調査となった。平面形は開口部、底部ともに長楕円形を呈していると思われる。平面規模は確認面で開口部が長径135cm、短径89cm、底部は長径124cm、短径52cm、深さ69cmを測る。坑底施設としてはピット7個が底面全体で確認されている。径6～18cm、深さ5～20cmを測る。長軸方位はN－29°－Wを示す。壁は外傾をなしている。覆土は3層に分層され、1層は多量のローム粒を含む暗褐色土。2層は多量のローム粒を含む黄橙色土。3層は少量のローム粒、ロームブロックを含む暗褐色土で自然堆積層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態、形態から判断して縄紋早期の陥し穴状遺構と思われる。　規模　坑底施設　覆土　時期

土坑SK20（PLAN.3）

調査区の北西側、C－3地区に位置する。平面形は開口部で長楕円形、底部で不整長方形を呈する。平面規模は開口部で長径259cm、短径105cm、底部で長径230cm、短径42cm、深さ100cmを測る。坑底施設としてはピット15個が底面全体で確認されているが不規則である。径4～12cm、深さ4～6cmを測る。長軸方位はN－62°－Eを示す。壁は緩い外傾をなしている。覆土は6層に分層され、1層は多量のローム粒を含む暗黄褐色土。2層は少量のローム粒を含む暗褐色土。3層は多量のローム粒を含む褐色土。4層は多量のローム粒を含む黄褐色土。5層は多量のローム粒を含む暗褐色土。6層は多量のローム粒、少量のロームブロックを含む黄橙色土で自然堆積である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態、形態から判断して縄紋早期の陥し穴状遺構と思われる。　規模　坑底施設　覆土　時期

土坑SK35（PLAN.4）

調査区の南側、F－6地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに長楕円

規模　形を呈する。規模は開口部で長径267cm、短径99cm、底部は長径231cm、短径52cm、深さ96cmを測る。長軸方位はN－47°－Wを測る。壁はほぼ垂直に

下部施設　立ち上がる。底面は東側が低くなっており、平坦面はほとんどない。下部施設としては、長軸方向に径4～7cm、深さ5～8cmの小ピットが若干蛇行しながら検出された。

覆土　覆土は4層に分層でき、1層は少量のローム粒を含む暗褐色土。2層は多量のローム粒を含む黒褐色土。3層は多量のローム粒、少量のロームブロックを含む暗褐色土。4層は多量のローム粒、微量のロームブロックを含む暗褐色土で、いずれも自然堆積層である。

出土遺物　出土遺物は縄紋早期・茅山式土器（PLAN.15－5・6）4点検出されている。

時期

土坑SK38（PLAN.4）

調査区の北西側、D－2地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに長楕円形を呈する。

規模　規模は開口部で長径348cm、短径93cm、底部は長径317cm、短径43cm、深さ91cmを測る。長軸方位はN－23°－Wを示す。壁は39cmの所まで垂直に立ち上がり、それより上は緩く外傾をなしている。底面はピット以外はほぼ平坦である。

下部施設　下部施設としては、長軸方向に小ピットが3個検出され北東より長径22cm、短径20cm、深さ6cmの楕円形のもの。径13cm、深さ6cmの円形のもの。径15cm、深さ8cmの円形のものであり、真ん中のピットがやや南側にずれているが、ほぼ規則的な配置といえる。

覆土　覆土は2層に分層でき、1層は多量のローム粒、ロームブロックを含む暗黄褐色土。2層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黄橙色土で、いずれも自然堆積層である。

時期　出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態、形態から判断して縄紋時代早期の陥し穴状遺構と思われる。

土坑SK53（PLAN.5）

調査区の南側、F－6地区に位置する。平面形は、開口部、底部ともに長楕円形である。

規模　規模は開口部で長径210cm、短径78cm、底部は長径168cm、短径43cm、深さ236cmを測る。長軸方位はN－40°－Wである。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

覆土　底面はほぼ平坦である。覆土は7層に分層でき、1層は微量のローム粒を含む褐色土。2層は微量のローム粒を含む黒褐色土。3層は微量のローム粒を含む暗褐色土。4層は多量のローム粒を含む明褐色土。5層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黄橙色土。6層は微量のローム粒を含む黒褐色土。7層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黒褐色土でいずれも自然堆積層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土、形態から判断して

縄紋時代早期の陥し穴状遺構と思われる。　時期

土坑SK54（PLAN.6）

調査区の南側、F－6地区に位置する。平面形は開口部、底部で長楕円形である。規模は開口部で長径260cm、短径138cm、底部は長径213cm、短径60cm、深さ130cmを測る。長軸方位はN－61°－Wである。壁は55cmまで垂直に立ち上がり、それより上は緩い外傾をなしている。底部は小ピット以外はほぼ平坦である。下部施設としては、底面両端に楕円形の小ピットが1個ずつ確認されている。長径、短径ともに58cm、10cmで深さが東側で25cm、西側で23cmである。覆土は6層に分層でき、1層は多量のローム粒を含む褐色土。2層は微量のローム粒を含む黒褐色土。3層はローム粒を含む黄褐色土。4層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黄橙色土。5層はローム粒、ロームブロックを含む明褐色土。6層は多量のローム粒を含む暗褐色土でいずれも自然堆積層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態、形態から判断して縄紋時代早期の陥し穴状遺構と思われる。

規模　下部施設　覆土　時期

土坑SK58（PLAN.12）

調査区の南側、F－5地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに楕円形を呈している。平面規模は開口部で長径120cm、短径57cm、底部で長径72cm、短径47cm、深さ68cmを測る。坑底施設は底部中央にピット2個を伴う。北側より径10cm、深さ7cm、径20cm、深さ20cmである。長軸方位はN－23°－Wである。覆土は4層に分層でき、1層は多量のローム粒を含む黒褐色土。2層は多量の焼土粒を含む赤褐色土。3層は多量のローム粒を含む暗褐色土。4層は多量のローム粒を含む褐色土で自然堆積層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態、形態から判断して、縄紋時代早期の陥し穴状遺構と思われる。

規模　坑底施設　覆土

土坑SK65（PLAN.6）

調査区の東側、H－6地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに長楕円形を呈する。底部西側に径80×20cm、深さ2cmの落ち込みを持つ。平面規模は開口部で長径177cm、短径33cm、底部で長径185cm、短径70cm、深さ63cmを測る。東西それぞれ5cmオーバーハングしている。坑底施設は底部東側にピット4個を伴う。すべて径8cm、深さ9cmを測る。覆土は2層に分層され、1層は多量のローム粒を含む黄橙色土。2層は多量のローム粒を含む暗黄褐色土で自然堆積層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態、形態から

規模　坑底施設　覆土

判断して、縄紋時代早期の陥し穴状遺構と思われる。

B．土坑

土坑SK06（PLAN.7）

調査区のH－9に位置する。約1/3は調査区域外となっているため、約2/3の調査である。平面形は確認面で開口部、底部ともに楕円形を呈している。平

規模　面規模は確認面で開口部で長径111cm、短径80cm、底部で78cm、短径68cm、深さ28cmを測る。長軸方向は、N－10°－Eを示す。底部はほぼ平坦で壁は緩い外傾をなしている。覆土は6層に分層され、1層は表土層で黒褐色土。2層は少量のローム粒を含む黒色土。3層は少量のローム粒を含む暗褐色土。4層は少量のローム粒を含む黒色土。5層は少量のローム粒を含む黒褐色土。6層は多量のローム粒を含む黄橙色土で自然堆積層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して縄紋時代早期の土坑と思われる。

土坑SK08（PLAN.7）

調査区の北西側、B－2地区に位置する。平面形は開口部で不整長方形、底部は不整円形を呈している。平面規模は開口部で長径119cm、短径79cm、底部で長径94cm、短径63cm、深さ26cmを測る。坑底施設としては底部ほぼ中央に長径20cm、短径14cm、深さ8cmを測る楕円形の小ピット1個が確認されている。壁は外傾をなし、西壁は緩く外傾しながら立ち上がる。底面はほぼ

覆土　平坦である。覆土は3層に分層でき、1層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黄橙色土。2層は多量のローム粒を含む暗褐色土。3層は多量のローム粒、ロームブロックを含む暗褐色土で自然堆積層である。出土遺物は検出さ

時期　れなかったが、覆土の状態から判断して、縄紋時代の土坑と思われる。

土坑SK09（PLAN.7）

調査区の南東側、H－8地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに楕円

規模　形を呈している。平面規模は開口部で長径80cm、短径62cm、底部で長径58cm、短径47cm、深さ16cmを測る。長軸方位はN－36°－Eを示す。底面はほぼ平坦で壁は緩い外傾をなしている。覆土は2層に分層され、1層はローム粒、焼土粒を含む黄橙色土。2層は多量のローム粒ブロック、微量の焼土粒を含む黄橙色土で自然堆積層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の

時期　状態から判断して縄紋時代早期の土坑と思われる。

土坑SK11（PLAN.8）

調査区の北西側、B－2地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに楕円

形を呈している。平面規模は開口部で長径107cm、短径58cm、底部で長径94cm、短径53cm、深さ23cmを測る。長軸方位はN－7°－Wを示す。壁は外傾をなしている。底面は鍋底状で平坦面はほとんどない。覆土は2層に分層され、1層は少量のローム粒、微量のロームブロックを含む褐色土。2層は多量のローム粒を含む暗黄褐色土で自然堆積層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して縄紋時代の土坑と思われる。

規模

覆土

土坑SK12（PLAN.8）

調査区の北西側、B－2地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに長楕円形を呈する。平面規模は開口部で長径141cm、短径72cm、底部で長径64cm、短径34cm、深さ22cmを測る。長軸方位はN－20°－Wを示す。壁は外傾をなし、西壁は緩く外傾しながら立ち上がる。底面は鍋底で平坦面はほとんどない。覆土は2層に分層され、1層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黄褐色土。2層は多量のローム粒、ロームブロックを含む褐色土で自然堆積層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して縄紋時代の土坑と思われる。

規模

覆土

時期

土坑SK14（PLAN.8）

調査区の北西側、B－3地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに円形を呈している。平面規模は開口部で長径92cm、短径84cm、底部で長径74cm、短径64cm、深さ8cmを測る。長軸方位はN－51°－Wを示す。壁は外傾をなしている。底面はほぼ平坦面である。覆土は2層に分層され、1層は少量のローム粒を褐色土。2層は少量のローム粒を含む黄橙色土で自然堆積層である。出土遺物としては縄紋中期加曽利E2式の土器片が2点出土しており、縄紋時代中期の土坑と思われる。

規模

覆土

時期

土坑SK15（PLAN.8）

調査区の北西側、B－3地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに円形を呈している。平面規模は開口部で長径68cm、底部で径74cm、深さ10cmを測る。壁は外傾をなしている。底面はほぼ平坦である。覆土は2層に分層され、1層は多量のローム粒、少量のロームブロックを含む黄橙色土。2層は少量のローム粒、ロームブロックを含む褐色土でいずれも自然堆積層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して縄紋時代の土坑と思われる。

規模

覆土

時期

土坑SK26（PLAN.8）

規模　調査区の中央西側、D－4地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに楕円形を呈する。平面規模は開口部で長径93cm、短径67cm、底部で長径72cm、せ径48cm、深さ5cmを測る。底面中央に径38×32cmの焼土域が検出されている。長軸方位はN－39°－Wを示す。壁は緩く外傾をなしている。底面は中央部が若干高いがほぼ平坦である。

覆土　覆土は1層のみで多量のローム粒、焼土を多く含む褐色土でいずれも自然堆積層である。

時期　出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して、縄紋時代早期の炉穴と思われる。

土坑SK27（PLAN.9）

規模　調査区の中央西側、D－4地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに円形を呈する。平面規模は開口部で長径80cm、短径76cm、底部で長径59cm、短径53cm、深さ10cmを測る。底面中央に径35×33cmの焼土域が検出されている。壁は緩く外傾をなしている。底面は中央部が若干高いがほぼ平坦である。

覆土　覆土は1層のみで、多量のローム粒、焼土粒を多く含む褐色土で自然堆積層である。

時期　出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態、形態から判断して縄紋時代早期の土坑と思われる。

土坑SK28（PLAN.9）

規模　調査区の中央西側、D－4地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに楕円形を呈する。平面規模は開口部で長径68cm、短径50cm、底部で長径53cm、短径36cm、深さ12cmを測る。底面の北西側に径35×23cmの焼土域が検出されている。長軸方位はN－37°－Wを示す。壁は緩く外傾をなしている。底面は南側が若干深くなっている。

覆土　覆土は１層のみで多量のローム粒、焼土粒を含む褐色土で自然堆積層である。

時期　出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態、形態から判断して縄紋時代早期の炉穴と思われる。

土坑SK29（PLAN.9）

規模　調査区の中央西側、D－4地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに楕円形を呈する。平面規模は開口部で長径93cm、短径66cm、底部で長径57cm、短径47cm、深さ13cmを測る。底面の東側に径41×31cmの焼土域が検出されている。長軸方位はN－13°－Eを示す。壁は緩く外傾をなしている。底面は鍋底状でほぼ平坦面はない。

覆土　覆土は1層のみで多量のローム粒、焼土粒を含む褐色土で自然堆積層である。

時期　出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態、形態から判断して縄紋時代早期の炉穴と思われる。

土坑SK31（PLAN.9）

調査区の中央西側、D－4地区に位置する。平面形は開口部で不整円形を呈し、底部は円形を呈する。平面規模は開口部で長径164cm、短径97cm、底部で長径94cm、短径85cm、深さ43cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁は緩く外傾をなしている。覆土は2層に分層でき、1層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黄橙色土。2層は多量のローム粒、ロームブロックを含む褐色土でいずれも自然堆積層である。出土遺物は縄紋土器小片が2点出土している。覆土の状態、出土遺物から判断して縄紋時代早期の土坑と思われる。

規模

覆土

時期

土坑SK33（PLAN.10）

調査区の西側、D－4地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに不整楕円形を呈する。平面規模は開口部で長径115cm、短径89cm、底部は長径93cm、短径69cm、深さ23cmを測る。長軸方位はN－3°－Wを示す。壁は東側がかなり緩く外傾している以外は緩い外傾をなしている。そのため底面はやや西寄りとなっている。底面は全体的に鍋底状である。底面西側に長径68cm、短径33cmの焼土域が底面で確認されている。覆土は2層に分層でき、1層は多量のローム粒、焼土粒を含む褐色土。2層は多量のローム粒、微量の焼土粒を含む暗褐色土でいずれも自然堆積層である。出土遺物は縄紋早期・子母口式土器（PLAN.15－1・2）4点検出されており、いずれも底面上15cmの所で確認されている。本址は子母口式期の炉穴である。

規模

覆土

時期

土坑SK41（PLAN.11）

調査区の南東側、H－8地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに楕円形を呈している。平面規模は開口部で長径150cm、短径117cm、底部で長径133cm、短径97cm、深さ10cmを測る。長軸方位はN－24°－Wを示す。底面はほぼ平坦で壁は緩い外傾をなしている。覆土は2層に分層され、1層は多量のローム粒を含む褐色土。2層は多量のローム粒を含む黄橙色土で自然堆積層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して、縄紋時代早期の土坑と思われる。

規模

覆土

時期

土坑SK44（PLAN.11）

調査区の南東側、H－8地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに楕円形を呈している。平面規模は開口部で長径106cm、短径73cm、底部で長傾72cm、短傾58cm、深さ13cmを測る。長軸方位としてはN－55°－Wを示す。底面はほぼ平坦で壁は緩い外傾をなしている。覆土は2層に分層され、1層は多量のローム粒を含む暗褐色土。2層は多量のローム粒を含む黄橙色土で自然

規模

覆土

堆積層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して、

時期　縄紋時代早期の土坑と思われる。

土坑SK45（PLAN.11）

調査区の東側、H－3地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに楕円形

規模　を呈する。平面規模は開口部で長径145cm、短径93cm、底部で長径114cm、短径62cm、深さ20cmを測る。長軸方位はN－55°－Wを示す。底面はほぼ平

覆土　坦で壁は緩い外傾をなしている。覆土は4層に分層され、1層は多量のローム粒を含む暗褐色土。2層は多量のローム粒を含む黒褐色土。3層は少量のローム粒を含む褐色土。4層は多量のローム粒、ロームブロックを含む褐色土で埋め戻し層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して

時期　縄紋時代早期の土坑と思われる。

土坑SK46（PLAN.11）

調査区の南東側、H－8地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに円形

規模　を呈している。平面規模は開口部で長径101cm、短径98cm、底部で長径58cm、短径53cm、深さ20cmを測る。底面はほぼ平坦で壁は緩い外傾をなしている。

覆土　覆土は2層に分層され、1層は多量のローム粒、ロームブロックを含む暗褐色土。2層に多量のローム粒、ロームブロックを含む黄橙色土で埋め戻し層であ

時期　る。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して、縄紋時代早期の土坑と思われる。

土坑SK49（PLAN.12）

調査区の西側、H－3地区に位置する。平面形は開口部で不整円形、底部は

規模　不整楕円形を呈する。規模は開口部で径67cm、底部は長径49cm、短径43cm、深さ20cmを測る。壁は緩い外傾をなしている。底面は鍋底状でほぼ平坦であ

覆土　る。覆土は2層に分層でき、1層は多量のローム粒、微量のロームブロックを含む暗褐色土。2層は多量のローム粒を含む褐色土で、いずれも自然堆積であ

時期　る。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断すると縄紋時代早期の土坑と思われる。

土坑SK50（PLAN.12）

調査区の南東側、H－7区に位置する。平面形は開口部、底部とも楕円形を

規模　呈する。平面規模は開口部で長径97cm、短径76cm。底部は長径82cm、短径64cm、深さ10cmを測る。底面はほぼ平坦で、坑底施設として西端に長径

覆土　31cm、短径24cm、深さ14cmを測る小ピットをもつ。覆土は2層に分層でき、

1層は少量のローム粒、微量の焼土を含む褐色土。2層は少量のローム粒を含む暗褐色土で自然堆積層である。出土遺物として縄紋前期・黒浜式土器1点（PLAN.15－17）が覆土中より検出されている。　時期

土坑SK51（PLAN.12）

調査区の南東隅、H－7区に位置する。東側約半分が未調査区域にある。確認されている平面形は開口部、底部ともほぼ円形を呈し、長径168cm。底部は長径148cm、深さ25cmを測る。底部はやや起伏があるものの、平坦である。壁は緩く外傾して立ち上がる。覆土は5層に分層でき、1層は少量のローム粒を含む黒色土。2層は少量のローム粒を含む暗褐色土。3層は少量のローム粒を含む黒褐色土。4層は多量のローム粒を含む褐色土。5層は多量のローム粒を含む黄橙色土で自然堆積土である。出土遺物は縄紋早期・子母口式土器1点（PLAN.15－3）が検出されている。　覆土　時期

土坑SK60（PLAN.13）

調査区の南側、F－5地区に位置する。平面形は開口部で楕円形を呈し、底部は不整楕円形を呈する。平面規模は開口部で長径215cm、短径144cm、底部で長径150cm、短径92cm、深さ73cmを測る。長軸方位はN－44°－Eを示す。底面はほぼ平坦で壁は緩い外傾をなしている。覆土は6層に分層され、1層は多量のローム粒、焼土粒を含む黒褐色土。2層は多量のローム粒を含む黒色土。3層は多量のローム粒を含む黄橙色土。4層は多量のローム粒、ロームブロックを含む暗褐色土。5層は多量のローム粒、ロームブロックを含む褐色土で埋め戻し層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して、縄紋時代早期の土坑と思われる。　規模　覆土　時期

土坑SK62（PLAN.13）

調査区の東側、G－4地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに円形を呈している。平面規模は開口部で長径85cm、短径83cm、底部で径60cm、深さ14cmを測る。底面はほぼ平坦で緩く外傾をなしている。覆土は3層に分層でき、1層は多量のローム粒を含む黒褐色土。2層は微量のローム粒を含む暗褐色土。3層は少量のローム粒を含む暗褐色土で埋め戻し層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して、縄紋時代早期の土坑と思われる。　規模　覆土　時期

土坑SK68（PLAN.14）

調査区の東側、H－6地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに不整円

規模　形を呈している。平面規模は開口部で長径146cm、短径113cm、底部で長径112cm、短径97cm、深さ16cmを測る。底面はほぼ平坦で壁は緩く外傾をなしている。SB02のピットに切られる。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して、縄紋時代早期の土坑と思われる。

時期

土坑SK72（PLAN.13）

規模　調査区の東側、H－6地区に位置する。平面形は開口部で楕円形を呈し、底部は隅丸方形を呈する。平面規模は開口部で長径101cm、短径56cm、底部は長径81cm、短径46cm、深さ58cmを測る。

覆土　覆土は4層に分層され、1層は多量のローム粒、ロームブロックを含む暗褐色土。2層は多量のローム粒を含む黒褐色土。3層は多量のローム粒を含む黄橙色土。4層は多量のローム粒を含む褐色土で自然堆積層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して、縄紋時代早期の土坑と思われる。

時期

（小川和博・鍛治文博）

C．集石

2号集石（Fig.10）

規模　東側台地基部にあたるⅠ－4区のⅢ層中より6個の構成礫からなる小規模な集石址である。その規模は東西0.8m、南北1.8mの範囲にほぼ一面に散点しており、集石址としてはかなり弱い集中度をもって分布している。検出地点の層序はほぼ水平を保ち、掘り込みなどの遺構は確認できなかった。なお出土した礫は、最小341.5gから最大555gまでの均一的な礫であり、礫間の重量差はほとんどなく、総重量は約2.8kg、平均重量466.9gを測る。また構成礫間には接合関係は全くみられず、すべて完形もしくは完形に近い礫によって占められている。礫の大きさは拳大に限定され、平均長さ10.15cm、幅6.98cm、厚さ5.61cmを測る。

重量

礫

以上検出された礫には赤化もしくは炭化物、タール状の付着物を全く観察できず、1点のみ棒状礫の先端部にわずかな打痕をもつ砂岩製の石が出土している。その他構成される礫の石材は砂岩をはじめ角閃石、閃緑岩からなり特に優先的な占有率を示すものはない。なお縄紋土器等明らかな所属時期を決定する遺物は認められないが、第Ⅲ層下部という縄紋時代早期から前期にかけての出土層位から判断して、所属時期もこの時期と考えてよいであろう。

Ⅲ層下部

（小川　和博）

D．風倒木痕

風倒木1（PLAN.2）

調査区の中央、F－4地区に位置する。平面形は開口部で楕円形を呈し、底面は不整形を呈している。底部中央南寄りに径41×25cm、深さ17cmである。平面規模は開口部で長径210cm、短径144cm、底部で長径178cm、短径88cm、規模深さ71cmを測る。底面はほぼ平坦で壁は緩く外傾をなしている。覆土は、前述のSK3の4、5層が相当すると思われる。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して縄紋早期の風倒木と思われる。

規模

覆土

風倒木2（PLAN.10）

調査区の南東側、H－6地区に位置する。平面形は開口部で楕円形を呈し、底部は不整形を呈している。西側でSK73、底部中央でSK79を壊している。平面規模は開口部で長径290cm、短径185cm、底部は長径202cm、短径152cm、深さ71cmを測る。長軸方位はN－60°－Wを示す。底面はほぼ平坦で壁は緩く外傾をなしている。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して縄紋期の風倒木と思われる。

規模

風倒木3（PLAN.14）

調査区の北東側、G－2地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに不整方形を呈している。平面規模は開口部で長径244cm、短径226cm、底部は長径185cm、短径153cm、深さ58cmを測る。長軸方位はN－60°－Wを測る。底面は凹凸が多く平坦面はほとんど無く、壁は緩い外傾をなしている。底面に小ピットが5個検出された。径21～52cm、深さ11～20cmを測る。配慮に規則性はみられない。覆土は2層に分層され、1層は多量のローム粒、ロームブロックを含む褐色土。2層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黄橙色土で自然堆積層である。出土遺物は縄紋土器（中期）の小破片が1点検出されている。

規模

覆土

（鍛治　文博）

2．土器

炉穴4基

六十塚遺跡では、縄紋時代に帰属する遺構としては陥し穴11基、土坑20基が確認されているが、これらのうち土坑8基より遺物として縄紋土器の出土がある。いずれも土坑と土器の共伴関係は明確であり、土器の時期を持って土坑の帰属時期が判断可能である。

A．土坑出土の遺物

SK33（PLAN.15－1a・b、2）

1a・bは口縁部破片で、約1/6程残存している。推定口径約36.5cm、現存する器高は9.5cmを測る。器形は口唇部が若干外反し、口縁部から胴部へと直行する深鉢形土器である。口唇部の形態は丸頭状を呈し、口唇部に角頭状工具によるほぼ同間隔の刺突文が施文され、しかも押圧が強いために小さな波状を呈する。器面整形は外面が横位および斜位の比較的粗い擦痕状整形が施され、内面は全面ナデによって調整が行われている。胎土に微量の繊維を含む細砂粒が目立つ。

深鉢

2は胴部破片である。器面調整は内外面とも丁寧なナデ整形が施されており、堅緻で焼成も良好。胎土に微砂粒が含有されている。

子母口式

以上1・2とも縄紋早期後半・子母口式土器である。

SK51（PLAN.15－3）

3は胴部破片である。無文で器面調整は外面が右下りの斜行する擦痕状整形が施され、内面は比較的丁寧な縦位のナデ整形が施されている。胎土は多量の微砂粒を含み、焼成は良好である。縄紋早期後半・子母口式土器である。

子母口式

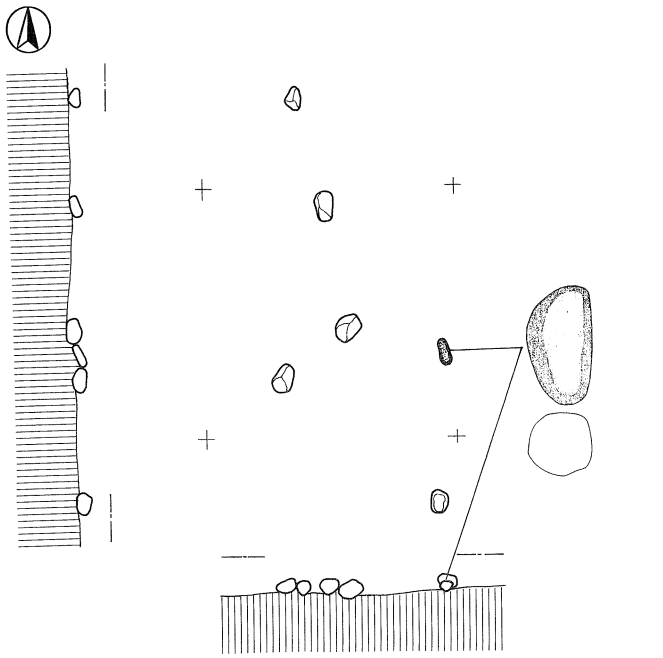


Fig.10　縄紋時代　2号集石遺構

覆土中より出土している。

SK23（PLAN.15－4）

4は胴部破片である。無文で器面調整は外面が角頭状工具による縦位のケズリ整形が施され、内面はナデ整形が施されている。胎土には多量の石英粒・長石粒・雲母粒を含み、焼成は堅緻で良好である。縄紋早期後半・子母口式土器である。覆土中より出土している。　子母口式

SK35（PLAN.15－5・6）

5・6とも小片でいずれも胴部破片である。5は外面が斜行する条痕整形が施され、内面はナデ整形が施されている。胎土には繊維を多目に含む。6も同様、外面には条痕整形が施され、内面は比較的丁寧なナデ整形が行われている。胎土には多量の繊維を含み、わずかに微砂粒を含有する。5・6とも縄紋早期後半・条痕紋系土器群前半期であるが、条痕紋施紋のみのため土器型式の判別は困難を要するが、一応広義の茅山式土器である。　条痕紋　茅山式

SK52（PLAN.15－7～16）

覆土中より小片を含めて13片の土器片が出土しているが、うち比較的大きな10片のみ図示した。いずれも縄紋前期前半・関山式土器に比定される。　関山式

7は胴部破片で、縄紋施紋を地紋にコンパス紋および半截竹管状工具による平行沈線文を斜行させている。また縄紋原体は単節斜縄紋ＬＲを施している。8～15は縄紋のみを施紋する一群である。8は胴部中央の抉れ部付近の破片で、単節斜縄紋ＲＬを施し、縄紋原体の末端部が看過される。なお末端部は幅の短いループ紋を構成している。9も胴部破片である。紋様は単節斜縄紋で左右に撚り分けた原体の回転痕を交互に組合せ、上下に羽状を作出している。なお上部の原体の始まりは短くなり、徐々に回転させていくにしたがい羽状を呈するようになる。10も胴部破片で、9と同様左右に撚り分けた原体の回転痕を交互に組合せ、上下の羽状を施している。11・13～15は単節斜縄紋を原体としている。また12は左右の羽状を作出している。16は底部および底部周辺の破片である。底部の形態は、なだらかな上げ底状を呈し、底裏面には文様の施紋は認められない。また底部周辺の紋様は左右の撚り分けた原体の回転痕を交互に組合せ左右縦位に羽状を作出し、底部周縁辺には還付末端痕（ループ文）が認められる。　羽状縄紋

いずれの土器片とも内面の調整は丁寧なナデ整形が施されており、胎土には比較的多くの繊維を含む。さらに細な雲母片および長石粒を含有している。　胎土

全体的にはやや堅緻で焼成は良好である。

SK50（PLAN.15－17）

17は胴部の小破片である。紋様は篦状工具による刺切状の沈線が縦位および斜位に施紋されている。また内面は横位のナデによる整形が施されている。胎土には繊維を含み、また微細な石英粒・長石粒を含有する。縄紋前期・黒浜式土器である。

黒浜式

SK40（PLAN.15－18）

コンパス紋

18は口縁部破片である。紋様は半截竹管により、口縁部に沿ってコンパス紋を巡らし、さらに同一工具により斜行する並行沈線を施文した後、爪形文を加えている。また内面は横位の丁寧なナデ整形が施されている。胎土に多量の繊維を含み、微細な砂粒を含有する。縄紋前期・黒浜式土器である。

SK05（PLAN.15－19）

19は口縁部破片である。口唇部の形態はやや内削状を呈する平縁の深鉢形土器。紋様は内面が無節Lの縄紋が横位回転施紋され、二段の結節を有する。さらに縄紋施紋後、残り縦位の沈線を垂下させる。また内面はアナダラ属の貝殻腹縁紋を横位および斜位に施す。胎土に微細な砂粒を含み、焼成は良好である。縄紋前期末葉の土器である。

貝殻腹縁紋

SK14（PLAN.15－20・21）

20・21はいずれも小片で、胴部破片である。20は縦位の沈線により区画され、単節RLの縄紋を縦位回転施紋する。内面はナデ整形が施されている。胎土に雲母片を多量に含み、焼成は良好である。21は単節RLの縄紋を横位回転施文する。内面は丁寧に横ナデが施されている。胎土に多量の微砂粒を含む、焼成は良好である。いずれも縄紋中期後半・加曽利E2式土器である。

加曽利E2

（小川　和博）

B．包含層出土の遺物

(1) 包含層出土遺物の分布（Fig.11～13）

本遺跡調査区内における土器の取り上げについては、遺跡全体に方眼を組むため、20mの基準杭（大グリッド）を設け、さらに必要に応じ1mのメッシュ（小グリッド）を設定し、全点ドットの原位置記録保存調査を基本とした。したがって表面採集資料以外は大グリッド内出土として一括取り上げは極力避けることとした。また包含層以外の諸遺構（縄紋時代から近世）内出土遺物についても同様全点ドットの原位置調査を実施している。ここではまず包

含層における縄紋土器と石器の分布図を作成した。本遺跡の包含層から出土した遺物は縄紋土器と石器で、縄紋土器は早期、前期、中期、後期に属する土器である。また石器は石鏃、ピエスエスキーユ、礫器、磨石、敲石がある。

a）縄紋早期の土器（Fig.11）

早期

早期の土器は第Ⅰ群土器・沈線紋系土器と第Ⅱ群土器・条痕紋系土器があるが、包含層中の遺物は極端に少なくわずかに第Ⅱ群土器がF8区より1点検出されたのみである。また第Ⅰ群土器はすべて弥生時代の住居跡であるSI03覆土中より出土したもので、他はSK23、SK33、SK35、SK74（いずれも第Ⅱ群土器）と土坑内より確認されており、包含層の検出はできなかった。

b）縄紋前期の土器（Fig.12）

前期

前期の土器は、第Ⅲ群土器・羽状紋系土器、第Ⅳ群土器・貝殻腹縁紋系土器、第Ⅴ群土器・結節縄紋系土器がある。これらのうちSK73、SK75、SK79（以上第Ⅲ群土器）とSK83（第Ⅴ群土器）の土坑内で確認されている以外で包含層より出土した土器が16点ある。これらはいずれも調査区の南側に集まって分布している。まず第Ⅲ群土器は、該期土坑の集中する南東側にはまとまらず、広範囲の広がりがみられ、わずかにG7区とH7区にまとまる傾向がある。第Ⅳ群土器は破片数が少なくE6区より1点のみ出土している。また第Ⅴ群土器は4点出土しており、E5、G7、H9区と広い範囲で確認されて、傾向としては顕著な分布を示さなかった。結果的には破片数の少なさもあり、まとまりある分布を捉えることはできなかった。

c）縄紋中期の土器（Fig.13）

中期

中期の土器は、第Ⅵ群土器・阿玉台系土器、第Ⅶ群・加曽利E系土器がある。これらのうちSK14より第Ⅶ群土器が2点出土し、さらに調査区北西端台地縁辺部のC4区より底部を欠損した深鉢形土器である第Ⅵ群土器・阿玉台式土器1個体が検出されている。この土器の出土状況は口縁部を上にした直立の野外埋甕で、掘り込みは土器の埋設できる程度の小規模な土坑で、周辺には該期に相当する遺構の検出はできなかった。

これら以外が包含層およびその他遺構からの出土土器であるが、第Ⅵ群土器が4点、第Ⅶ群土器が26点である。まず第Ⅵ群土器の出土地点はD4区、G9区、H7区、H9区と調査区全体に広がり、破片数も少なく、まとまりは全くない。したがってC4区出土の埋甕だけが目立っている。また第Ⅶ群土器は調査区全体に広がり、やはりまとまりある状況は捉えることはできなかったが、

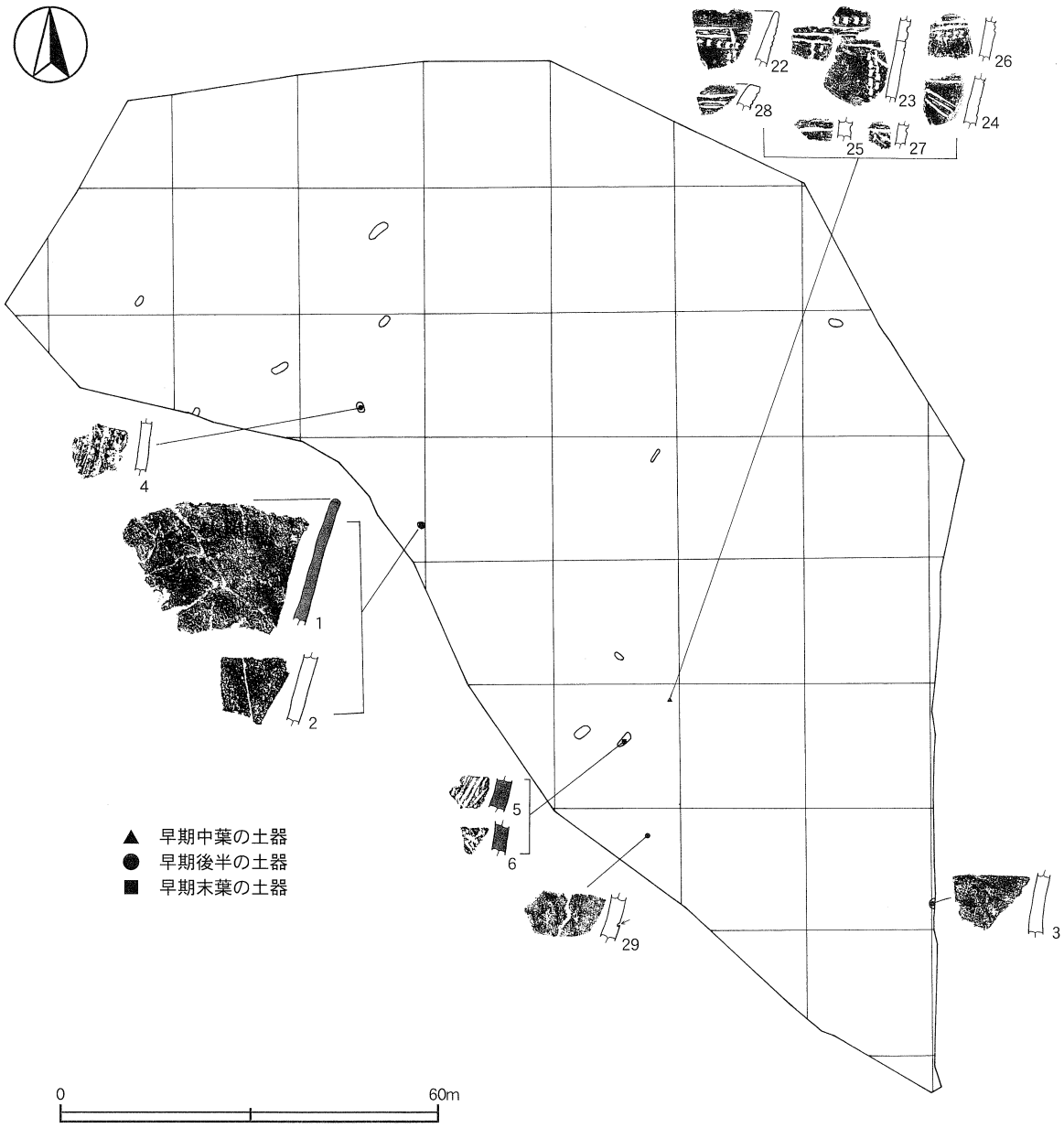


Fig.11　縄紋土器（早期）出土分布図

SK14が位置するB4区内で検出された平安時代の住居跡であるSI05覆土中より5点の第Ⅷ群土器の出土がある。同遺構の周辺の包含層からの出土はないものの、この付近が第Ⅷ群土器の包含層であることは誤りないであろう。なおその他の第Ⅷ群土器は調査区の東側半分に薄く広がっており、とくに顕著なまとまりを示していない。

d）縄紋後期の土器

後期の土器は、破片数が少なく、しかも出土地点も一括として取り上げたためここでは図示していない。　後期

(2) 縄紋土器（PLAN.16、17）

包含層出土の土器群は、ほとんどが破片であり、分類可能な破片は60点余であった。所属時期は早期、前期、中期、後期の土器群であり、以下群別を行い分類を行う。なお色調および胎土の状態については一覧表で示してある。　分類

第Ⅰ群土器　早期中葉の沈線紋系土器

第Ⅱ群土器　早期後葉の条痕紋系土器

第Ⅲ群土器　前期前半の羽状縄紋系土器

第Ⅳ群土器　前期後半の竹管紋系土器（貝殻腹縁紋系土器）

第Ⅴ群土器　前期末葉の結節縄紋系土器

第Ⅵ群土器　中期中葉の阿玉台系土器

第Ⅶ群土器　中期後半の加曽利Ｅ系土器

第Ⅷ群土器　後期の土器

第Ⅰ群土器（PLAN.16－22～28）

早期の沈線紋系土器である。22～25は同一個体である。22のみ口縁部破片で、口唇部形態が角頭状を呈する。器形は口縁部から胴部へほぼ直行する深鉢形土器である。紋様は、無紋地に刺突文と沈線による区画紋が施され、刺突紋は［状を呈する刺突である。沈線区画紋は鋭利な篦状工具による2もしくは3本を一単位とする区画紋が施紋されており、さらに24でみるようにこの区画紋は斜位にも施されている。また内面の器面調整は丁寧な磨きである。胎土には微細な砂粒を含み、焼成は良好である。28は口縁部破片で、口唇部形態が角頭状を呈する。文様は口唇部直下から鋭利な篦状工具による横位の平行細沈線を巡らす。内面は器面調整は磨きである。　沈線紋

第Ⅱ群土器（PLAN.16－29）

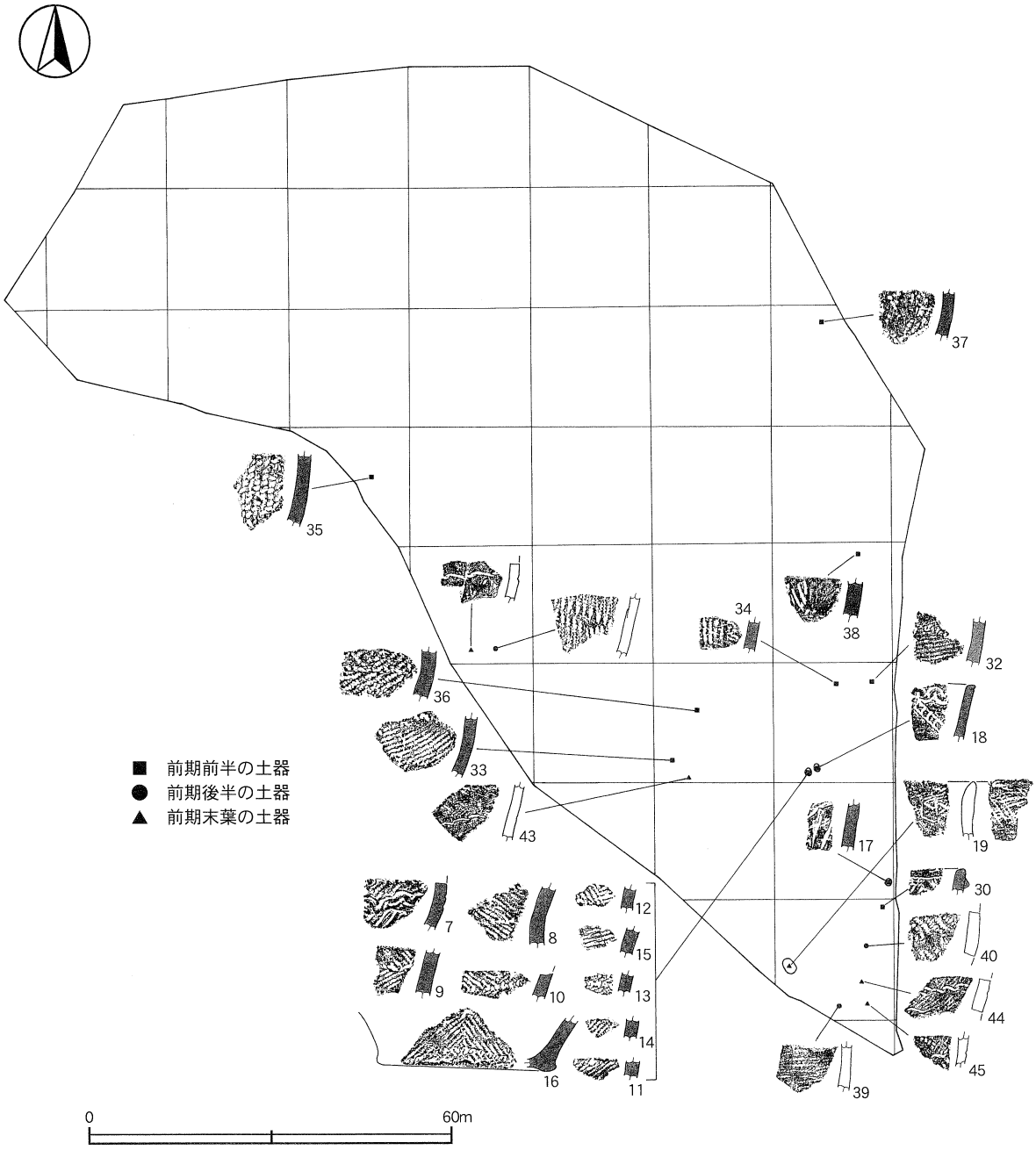


Fig.12　縄紋土器（前期）出土分布図

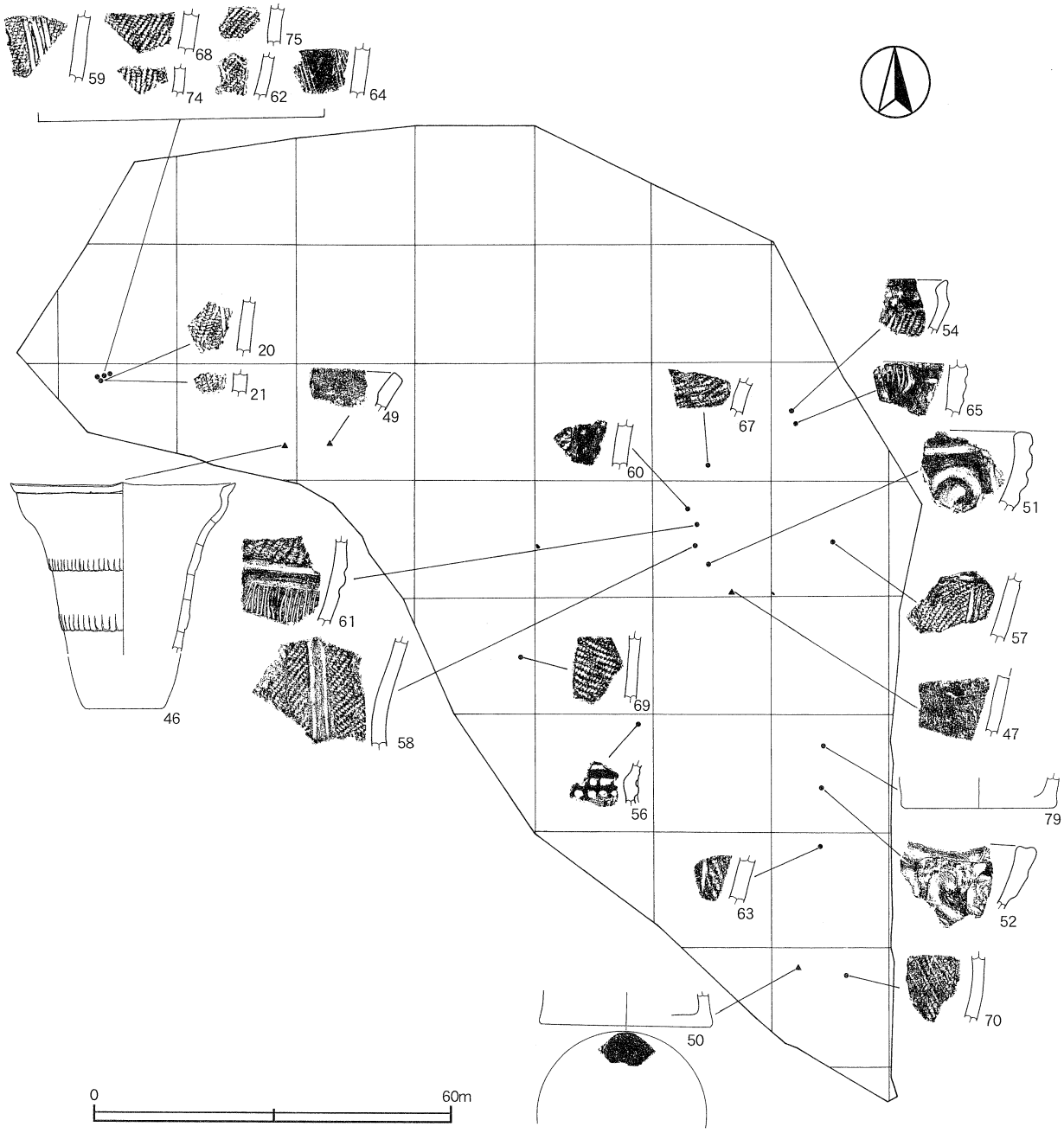


Fig.13　縄紋土器（中期）出土分布図

条痕紋　早期後半の条痕紋系土器である。包含層からの出土1点のみである。29は胴部破片である。器面の調整は、内外面とも磨きが施されている。なお外面に細い棒状工具による刺突紋が斜め上より施紋している。胎土には砂粒を多く含み、焼成は良好である。子母口式土器である。

子母口

第Ⅲ群土器（PLAN.16－30～38）

羽状縄紋　前期前半の羽状縄紋系土器を一括する。胎土に植物繊維を多量に含み、内面がいずれも丁寧に磨かれている。30は口縁部破片で平縁の深鉢である。口唇部下を無紋帯として、以下を竹管様工具によるＶ字紋を配し、その終起点に瘤状の添付紋を加える。焼成は良好である。31～38は縄紋を基調とする胴部破片である。31は単節斜縄紋を施すもので、原体は0段3条で、左右に撚り分けた原体の回転痕を交互に組合せ、左右の羽状を作り出している。32は縄紋のみの胴部破片であるが、原体は単節斜縄紋で、その上端部に還付末端痕（ループ紋）を施す。33も縄紋施紋の胴部破片である。単節斜縄紋を施すもののその端部にはループ紋をもたない。ただ竹管状工具による押捺痕を紋様帯上部に残している。34は単節斜縄紋を施す胴部破片である。31と同様左右に撚り分けた原体の回転痕を交互に組合せ、左右の羽状を作り出している。35は複節斜縄紋であるが、節が交互に異なり「異節斜縄紋」である。これは「一度合撚された条を正撚にした安定した縄で、撚りはLである（山内1979）。」関山式土器の特徴とされている。36は単節斜縄紋を施す胴部破片である。単節LRを原体として単方向施紋を指向し、胴破片のほぼ中央部に原体末端の圧痕が残されている。35・36とも微細な雲母片を含有している。37も胴部破片で、紋様施紋が薄く判別し難いが、35と同様、異節斜縄紋Lを施している。胎土に多量の繊維を含む。38は篦状工具による刺切状の沈線紋が縦位もしくは斜行して施紋されている。胎土に微量の繊維を含む。

ループ紋

異節斜縄紋

第Ⅳ群土器（PLAN.16－39～41）

諸磯a式　前期後半の竹管紋系土器のうち、諸磯a式土器、浮島式土器である。39は胴部破片で、絡条体を施紋した土器である。原体は単軸絡条体Lを施している。40も胴部破片で、単節斜縄紋を施紋している。原体はRL横位回転である。節が比較的大きな原体である。41はアナダラ属の貝殻背圧痕が施された浮島Ⅲ式土器である。施紋は縦位にかなり密な圧痕が加えられている。原体である貝殻も比較的大きなものを使用していたようである。

浮島式

第Ⅴ群土器（PLAN.16－42～45）

前期末葉の結節縄紋土器である。いずれも撚り紐の末端が認められる結節が横位に施紋される。すべて結節は顕著であり、胎土は緻密で焼成も良好である。中期初頭下小野式に近似するものの、直前の前期末葉に位置付けたい。　結節縄紋

第Ⅵ群土器（PLAN.16－46～50）

中期中葉の阿玉台土器である。46はC－3区の埋甕として検出した深鉢形土器である。底部および体部の一部が欠損しているものの復元ができた。口径20.6cm、現存する器高15.6cmを測る。器形はキャリパー状を呈し、円筒状の胴部から口縁部は明瞭なくびれを付けず開きながら内彎し、さらに口唇部において短く外反する。口唇部の形態は肥厚しながら内削ぎ状を呈し、しかも四単位の山形小突起をもっている。紋様は短い口縁部に稜をもち、頸部まで内外面とも丁寧なナデが施されているものの無紋である。胴部ではヒダ状圧痕紋が列巡る。いずれも指頭圧痕による。胎土中に雲母片の他には石英粒を含む。焼成は良好である。47・48も深鉢の胴部破片である。いずれも内外面とも丁寧なナデが施されているものの無紋である。49は口縁部が肥厚し、内面口縁部と体部の境に明瞭な段を有する浅鉢形土器で、口縁部内外面とも無紋帯である。50は深鉢形土器の底部破片である。底部縁辺の形態は鋭角に突出して、くびれ部をもつ。おそらく胴部はふくらみながら外傾していくであろう。なお底面には網代痕が認められるものの、指頭調整によるナデによって消され、網代の形態は不明である。胎土に雲母片と石英粒を含有し焼成は良好である。

阿玉台式　ヒダ状圧痕　網代底

第Ⅶ群土器（PLAN.17－51～76）

中期後半の加曽利E式土器を一括する。51は口縁部破片である。器形はいわゆるキャリパー状を呈し、口縁部が内彎する。紋様は沈線による区画紋および渦巻紋を設けている。胎土は緻密で焼成は良好である。器面の調整は内外面共にミガキである。52も口縁部破片で口唇部が幅広となっている。器形はやはりキャリパー状を呈するものの、口縁部の内彎は緩くほぼ直行する。紋様は沈線による渦巻紋、蕨手紋を配する。器内面は横位のミガキを施し、胎土には微細な砂粒を含み、焼成は良好である。53は口縁部破片である。口唇部は丸みをもつ角頭状を呈し、口縁部から胴部へと直行する深鉢形土器である。口縁部上端に帯状の粘土帯を貼り付け隆帯とし、口縁部紋様には沈線による縦位および横位に施されている。ただし、横位施紋は隆帯下のみみら

加曽利E

れる。54も口縁部破片である。口縁部は内彎し、口唇部で小さく外反する深鉢形土器である。口縁部は無紋帯として残し、横位の微隆起帯で区画し、体部は単節斜縄紋RLの縦位回転により施紋している。胎土は微細で焼成は良好である。55は口縁部の破片で、二本単位の隆帯による円形紋の区画が表出され、区画外は沈線紋が描かれる。胎土には砂粒を多く含み、焼成良好である。56は口縁部破片で、二段の円形刺突が巡る。内外面共に丁寧なミガキが施され、胎土は微細で焼成は良好である。57～60・62・63は胴部破片で縄紋地紋に沈線による懸垂紋を垂下させている。57は地紋に複節斜縄紋LRに二本の平行する沈線紋を垂下させ、さらに横位の区画紋が加えられている。施紋順序は縄紋→沈線紋である。58は胴部中位にあたる破片で、地紋に単節斜縄紋RLを縦位回転施紋し、二本の平行する沈線紋を垂下させ、沈線紋間を磨消す。施紋順序は縄紋→沈線紋→磨消しである。59は単節斜縄紋RLの縦位回転を地紋に三単位の直行する沈線紋と一単位の蛇行沈線紋を懸垂紋として垂下させる。62も同様単節斜縄紋RLに蛇行沈線紋を垂下させる。いずれも縄紋→沈線施紋である。60・63は先の58と同様縄紋施紋後、沈線紋を垂下させ、沈線紋間を無紋とする磨消懸垂紋が施されている。なお58よりも無紋の幅が広い。61は胴部中位の破片で、二本の平行する沈線に挟まれた隆帯を区画紋として上段が節の大きな単節斜縄紋RLを縦位回転させ、下段は櫛歯状工具による縦位の細かい条線が施されている。64も櫛歯状工具による縦位の条線を垂下させるが、施紋はやや間隔をあけて施している。65は口縁部付近の破片で幅広い隆帯による楕円形区画紋内を櫛歯状工具による条線によって充填している。66～75はいずれも縄紋施紋のみの胴部破片である。66～68は単節斜縄紋RLを縦位回転施紋。69は単節斜縄紋RLを横位回転施紋。70は単節斜縄紋RLの縦位回転施紋。73は無節斜縄紋Lの横位回転施紋。74は単節斜縄紋LRの縦位回転施紋である。76は底部の小破片で中期後半に属するものと考える。なおこれらはいずれも加曽利E2式後半からE3式にかけてのものである。

懸垂紋

施紋順序

低部

第Ⅷ群（PLAN.17－77～79）

後期に属するものを一括する。77は曲線の沈線区画内に無紋帯と縦位の単節斜縄紋RL施紋が充填されている。称名寺Ⅰ式土器である。78は口縁部破片で、口唇部は角頭状を呈し、口縁部下に横位の沈線紋が巡る。器面内外面とも丁寧なミガキが施されている。堀之内1式土器である。

（小川　和博）

(3) 石器（Fig.15－1～3、Fig.16－4～8）

本遺跡の調査区から出土した石器は、石鏃２点。ピエスエスキーユ1点、礫器1点、磨石4点、敲石1点である。ここでは縄紋時代早期から後期にいたる遺物が地点を異にして出土しているが、石器も同様その点数も少なくしかも土器と共伴するものは皆無であることから、石器の所属する時期を限定できないでいる。したがって土器の項目とは違って時期の区別することなく扱い、計測等については一覧表でその明細を示すこととした。

石鏃（1・2）

石鏃

1は脚部の一方を欠損する。比較的よく整った左右対称形である。脚部はやや内彎し、扶入は深い。主要剥離を残さず、調整は全面におよび最終調整は両側縁に集中する。黒曜石製である。2は先端部を欠損する。長幅比が大きな製品で、比率は約1：2.5である。側縁の形態はほぼ直線的で、基部はやや内彎して脚部がわずかに認められる。調整加工さは丁寧で、主要剥離は全く残さず、両縁、基部とも細部の調整剥離が施されている。チャート製である。

ピエスエスキーユ（3）

ピエスエスキーユ

3はやや縦長の楔状を呈し、下端に打撃痕をもち一方の面に大きく自然面を残している。チャートを素材としている。

礫器（4）

礫器

4は扁平な不正形の自然石を素材として、下端に簡単な加工を施し刃部を作り出している。側縁および裏面の調整は全く行われず、自然面をそのまま残している。砂岩製である。

磨石（5～8）

5は破片である。ほぼ楕円形の自然石を用い、現存面の一部に使用痕（ミガキ）が認められる。6は約半分を欠損している。円礫をもちい、表裏面共に入念なミガキが施されている。また側縁も同様なミガキがみられる。7は円形の自然石をもちいており、側縁に使用痕が認められる。5～7はいずれも砂岩製である。8は7と同様、円形の自然石をもちい、側縁に使用痕が認められる。なおすべて敲石として使用された痕跡は認められない。

敲石（9）

9は楕円形の自然石をもちい、下端の一部に使用痕がわずかに認められる。砂岩製である。第2集石址より出土。

（小川　和博）

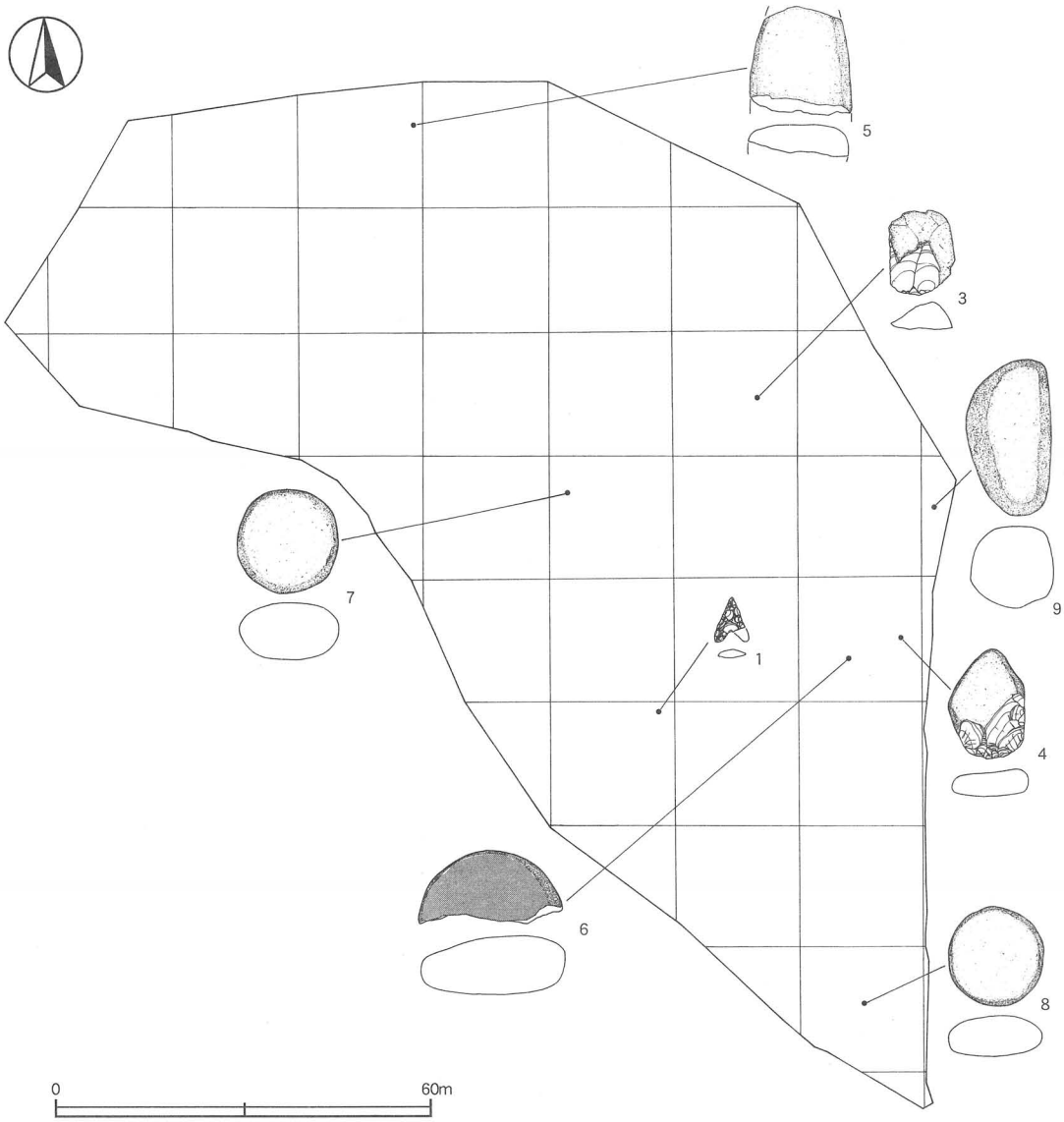
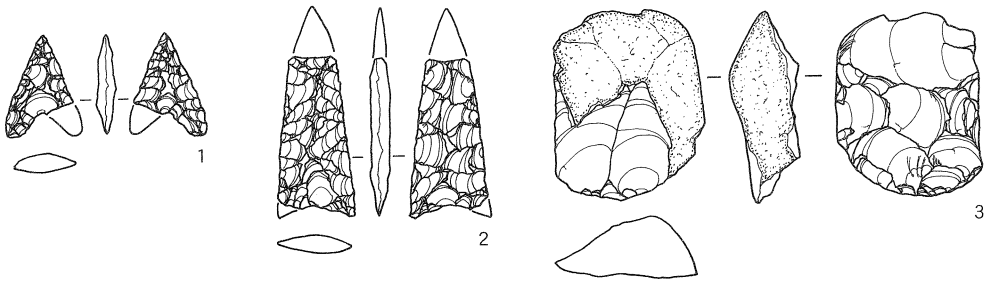


Fig.14　縄紋時代石器出土分布図



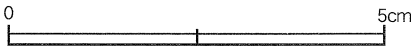


Fig.15　縄紋時代の石器（1）

番号	石器名	出土地点	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石材	備考
Fig.15−1	石鏃	SI5−92	19.4	(13.1)	3.8	(0.60)	黒曜石	脚部欠損
Fig.15−2	石鏃	表採	(20.9)	14.1	3.8	(2.04)	チャート	先端部欠損
Fig.15−3	ﾋﾟｴｽｴｽｷｰﾕ	G−3	36.5	28.6	13.7	13.94	チャート	
Fig.16−9	礫器	H−5	64.9	46.6	14.7	65.0	砂岩	
Fig.16−9	磨石	D1−8	(62.0)	(60.9)	(19.9)	(100.2)	砂岩	約1/5残存
Fig.16−9	磨石	H−5	(41.7)	(86.6)	34.8	(158.5)	砂岩	約1/3残存
Fig.16−9	磨石	H−7	57.2	51.5	24.8	128.5	砂岩	
Fig.16−9	磨石	SI07	63.9	50.9	35.7	210.5	花崗岩	
Fig.16−9	敲石	I4−4	93.7	50.7	48.5	341.5	砂岩	集石

Tab.4　縄紋時代の石器計測値

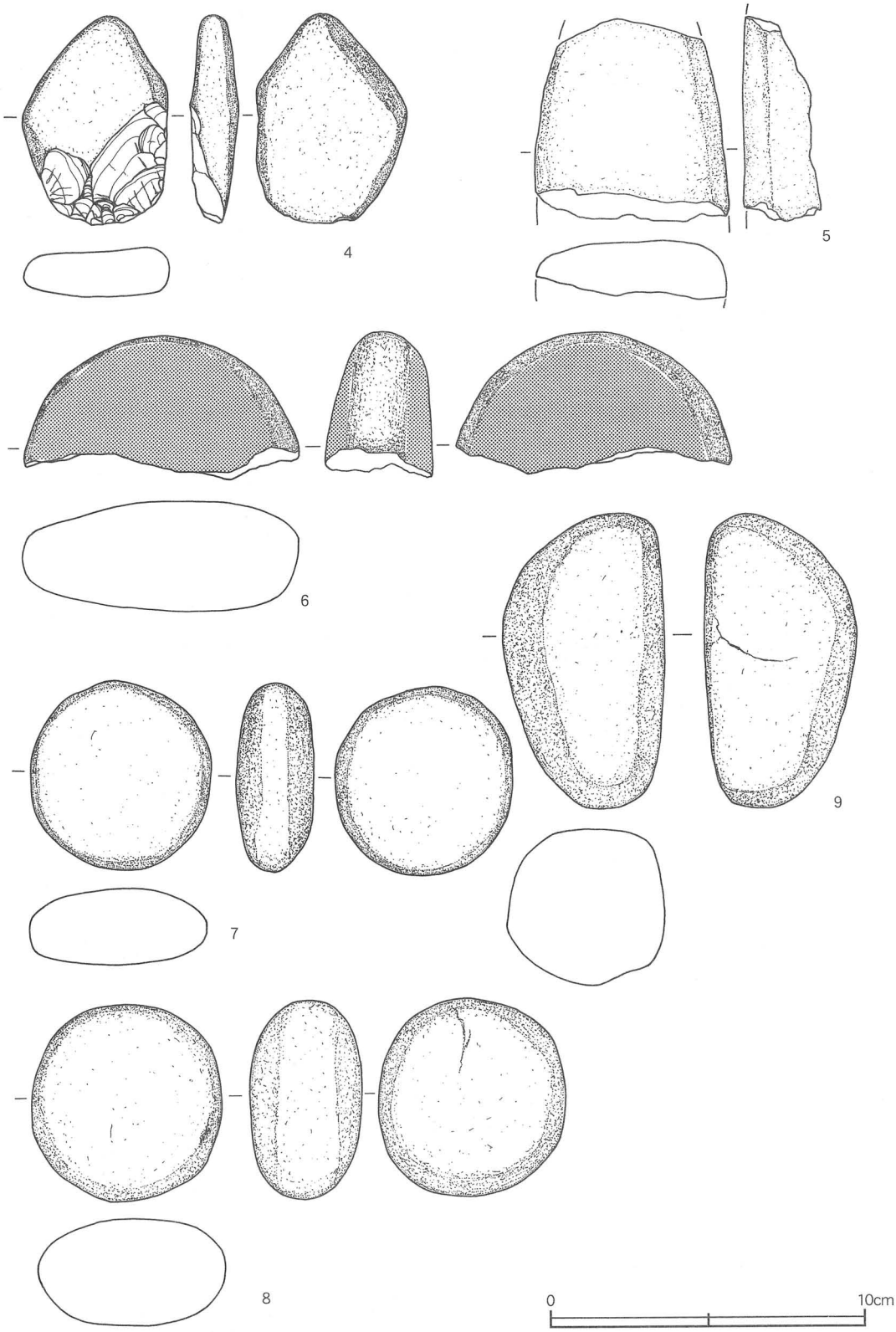


Fig.16　縄紋時代の石器（2）

第3節　弥生時代

六十塚遺跡の弥生時代の遺構は、遺跡の中央部から南側にかけて分布している。この遺跡の弥生時代の集落は竪穴住居跡（SI）5軒と竪穴状遺構（SX）2基から構成されている。これらの遺構の時期は、共伴する出土土器からほぼ同時期の弥生時代後期後半と考えられる。本遺跡においては、この弥生時代後期後半の時期が集落として最も景観を整えた時期と推定できるであろう。

時期

1．遺構

A．竪穴住居跡

六十塚遺跡では、5軒の縦穴住居跡が調査区の中央部から南側にかけて分布し、検出された。これらの竪穴住居跡の時期はすべて弥生時代後期後半に属する。

住居跡の平面形態は、基本的に方形を呈している。また、これらの住居跡はすべて炉址を有して、それらの炉址の位置は住居中央よりやや北側に寄って検出されている。これらの住居跡の床面の状態は、すべて直床で貼床を施しているものはみられなかった。また、柱穴はその有無を含め、主柱穴・支柱穴ともにその配置や本数はさまざまで、住居跡間で同一な遺構は検出されていなかった。

住居形態

この遺跡の弥生時代の集落（遺構）がこの遺跡の他の時代の遺構と大きく異なる点の一つは、共伴する遺物の中に石英あるいは白色のめのうが含まれているかいないかであろう。この六十塚遺跡の弥生時代のみのすべての遺構から、石英ないしは白色のめのうの剥片が覆土中あるいは床面に接して出土している。この石英と白めのうに関してこの遺跡の弥生時代の集落を考えるうえでの大きな要素の一つと考えられる。

石英

またこの遺跡はほぼ同一時期に存在していた可能性が強いが、この同時期の集落が廃絶した後に、自然埋没がある程度進行し、住居の窪地化が進む過程で、どこからか持ってきた土器の破片を一括廃棄していたと推定される。

竪穴住居跡SI01（Fig.17・PLAN.18・19、PL.. 12・13）

調査区南側H－7地区に位置する。住居主軸をN－47°－Wにとる。平面規模は長軸6.0m、単軸5.1mを測り、長方形に近い平面形態を呈する。壁検出高に差があり、北壁で50cm、南壁では30cmになる。床面は直床。北壁のほとん

H－7地区

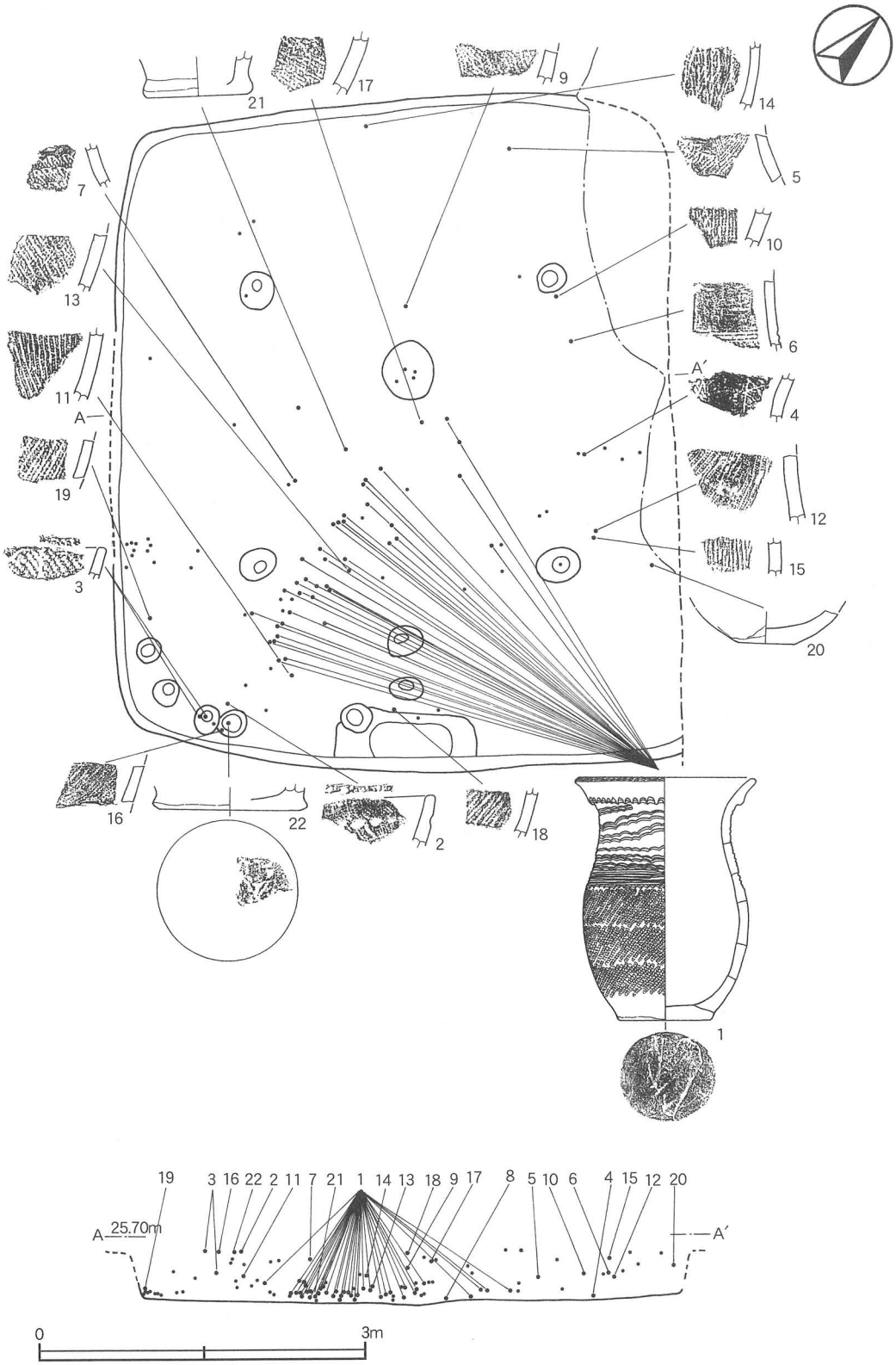


Fig.17　弥生時代　竪穴住居跡SI01遺物出土分布図

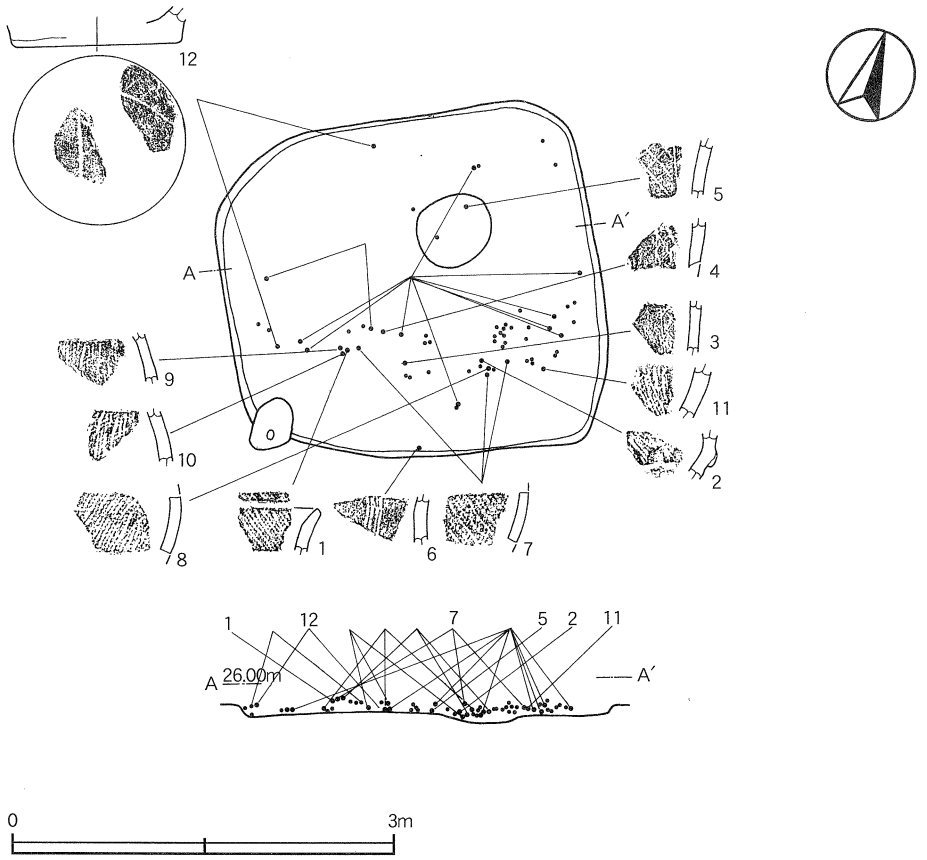


Fig.18　弥生時代　竪穴住居跡SI02遺物出土分布図

どの部分と北壁際の床面の一部、南壁の一部が、現代の攪乱の為、破壊され検出できなかった。炉址は住居中央より北側へ寄ったところに設置されている。規模は56×48cmを測り、卵形の形状をしている。掘り込みは深さ8cm。主柱穴は4本を配置し、それ以外にも7本のピットを配す。主柱穴の深さは70～80cmを測る。支柱穴は浅く、南西側隅部の二本の支柱穴が深さ20～30cmを計測するが、他の5本は深さ3～8cmと極端に浅い。この住居址の入り口部は東壁中央部と考えられる。入り口部の施設と考えられるのは、方形の浅い掘り込み（深さ4cm）とこの掘り込み周辺の3本のピットであろう。これらの3本の支柱穴は深さはそれぞれ、P5が深さ20cm、P6が30cm、P7が深さ6cmを計測する。これらの入り口部の施設周辺の床面は、極めて固くよく締まって検出されていた。覆土は自然堆積である。

支柱穴

入り口部

遺物は、住居廃絶後に一括廃棄されたものと考えられる。

竪穴住居跡SI02（Fig.18、PLAN.19、PL.13・14）

H−9地区　調査区南側H−8地区に位置する。住居主軸をN−64°−Eにとる。平面規模は長軸3.0m、短軸2.7mを測り、長方形に近い平面形態をもつ。壁検出高は6cmと浅い。床面は直床。南西コーナーの壁と床面の一部が現代の木根によって攪乱されている。炉址は住居中央よりやや北側へ寄ったところに設置されている。規模は60×60cmを測り、やや歪んだ円形の形状をしている。掘り込みは深さ10cm。主柱穴・支柱穴等はこの住居跡より検出することはできなかった。炭化物が２点、住居址南西側から、床面より14cmの高さで浮いた状態

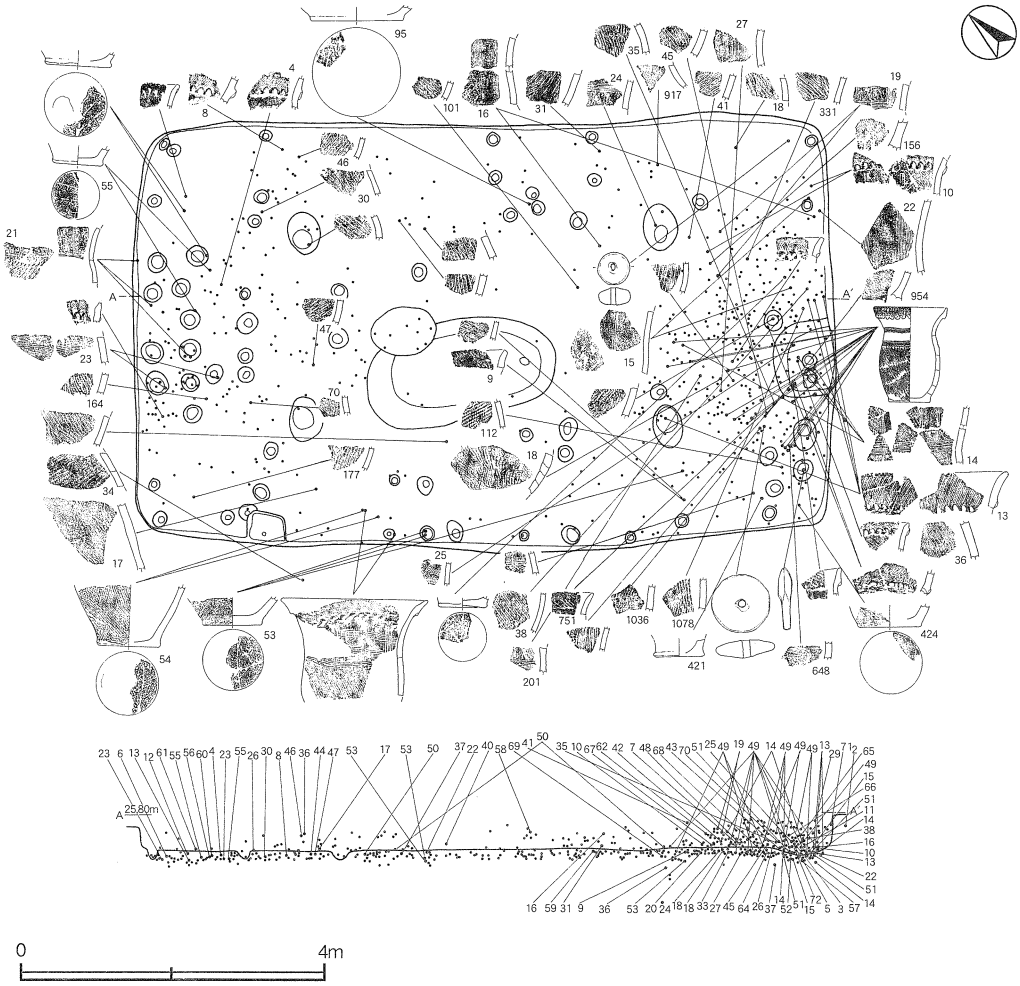


Fig.19　弥生時代　竪穴住居跡SI03遺物出土分布図

で出土していた。炭化物の大きさは、2点ともに直径4cm、長さ12cmを測る。覆土は自然堆積であった。

出土遺物は住居廃絶後の一括廃棄と考えられる。

竪穴住居跡SI03（Fig.19、PLAN.20～22、PL.14・15）

調査区南側F－5、F－6、G－5、G－6地区に跨がって位置する。住居主軸をN－35°－Wにとる。平面規模は長軸9.3m、短軸5.6mを測り、長方形に近い平面形態をもつ。本遺跡の弥生時代の遺構の中では最大。壁検出高に差があり、北壁で30cm、南壁では45cmになる。床面は直床。炉址は住居中央よりやや北側へ寄ったところに設置されている。規模は85×65cmを測り卵形の形状をしている。掘り込みは深さ3cm。主柱穴は4本を配置し、それ以外にも75の支柱穴を配す。主柱穴の深さは82～98cmを測る。支柱穴の深さは6～50cmを測る。本遺構の南東側壁中央部に入り口部の施設と考えられる2つの支柱穴（P73・P74）を有する方形の掘り込み（深さ10～13cm）がある。支柱穴P73・P74は各々深さ35cm・16cmを測る。覆土は自然埋没土と考えられる。

入り口部

出土遺物は住居廃絶後に一括廃棄されたものと考えられる。

竪穴住居跡SI04（Fig.20・21、PLAN.23、PL.16）

調査区中央F－4、F－5に位置する。平面形は南北に長い方形を呈する。北壁の一部を土坑SK72に壊されている。主軸方向はN－39°－Wを示す。長軸4.82m、短軸3.72mを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は14～28cmを測る。床面は直床でほぼ平坦である。炉趾は住居中央よりやや北側で設置され、長径78cm、短径68cm、深さ6cmを計る。主柱穴は4本を配置し、支柱穴は16本配す。主柱穴の深さは68～79cm、支柱穴の深さは11～37cmを計測する。南壁中央部に入り口部の施設と考えられる半円形の掘り込みがある。規模は70×55cm、深さ11cmを測る。本趾の覆土は4層に分けられ、自然埋没土と考えられる。

出土遺物は住居廃絶後に一括廃棄されたものと推定される。

竪穴住居跡SI05（Fig.22、PLAN.24、PL.16・17）

調査区中央F－4に位置し、標高25.44～25.48mに立地する。平面形は南北に長い方形を呈する。主軸方向はN－57°－Wを示す。長軸3.54m、短軸3.20m

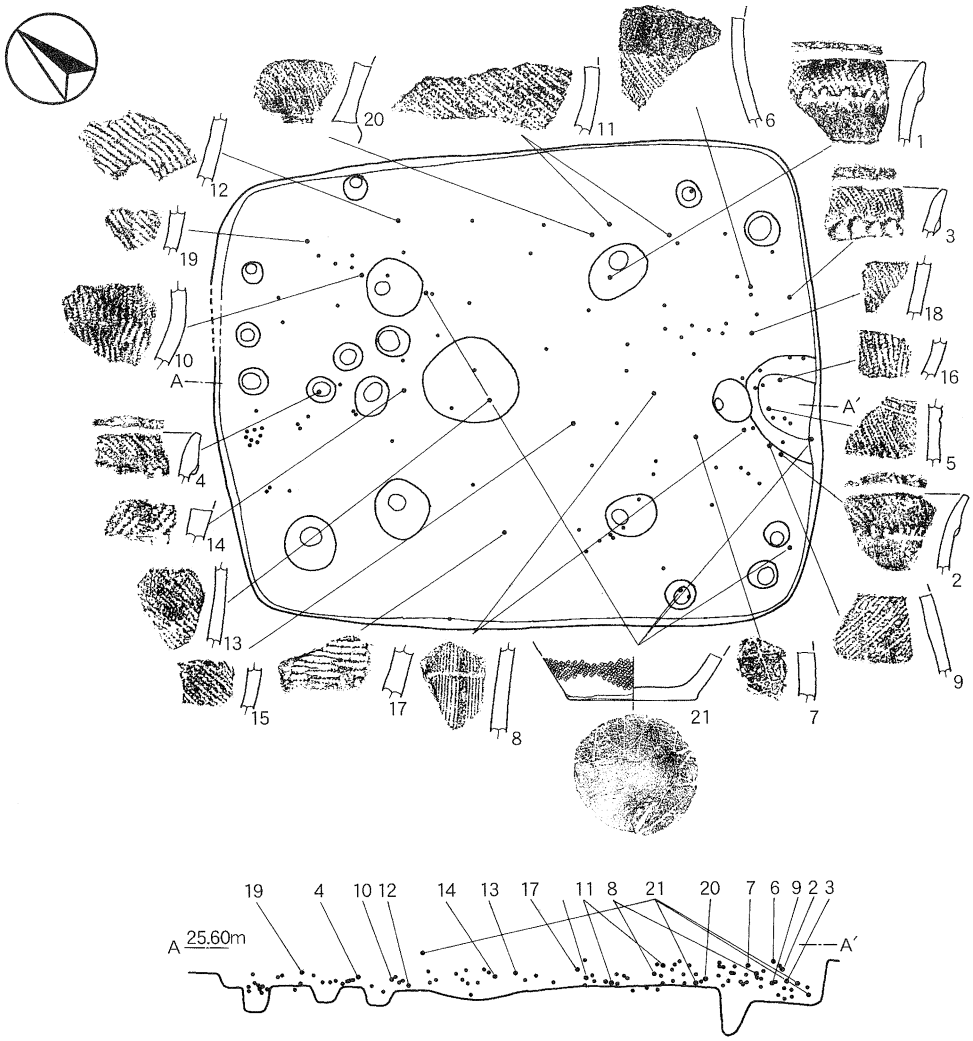


Fig.20　弥生時代　竪穴住居跡SI04遺物分布図

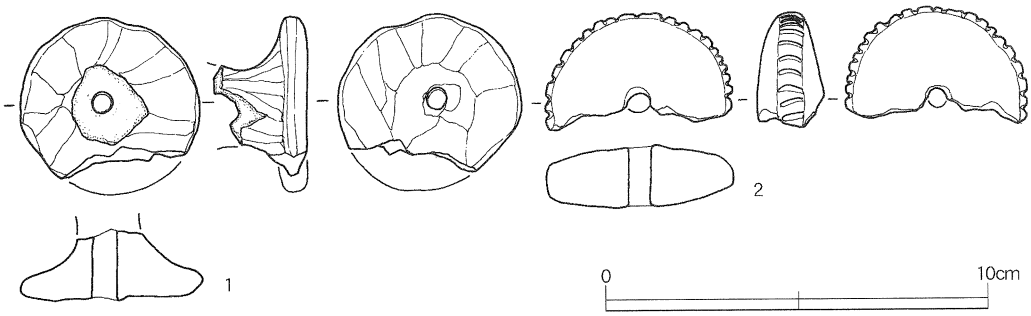


Fig.21　弥生時代　遺構外出土遺物

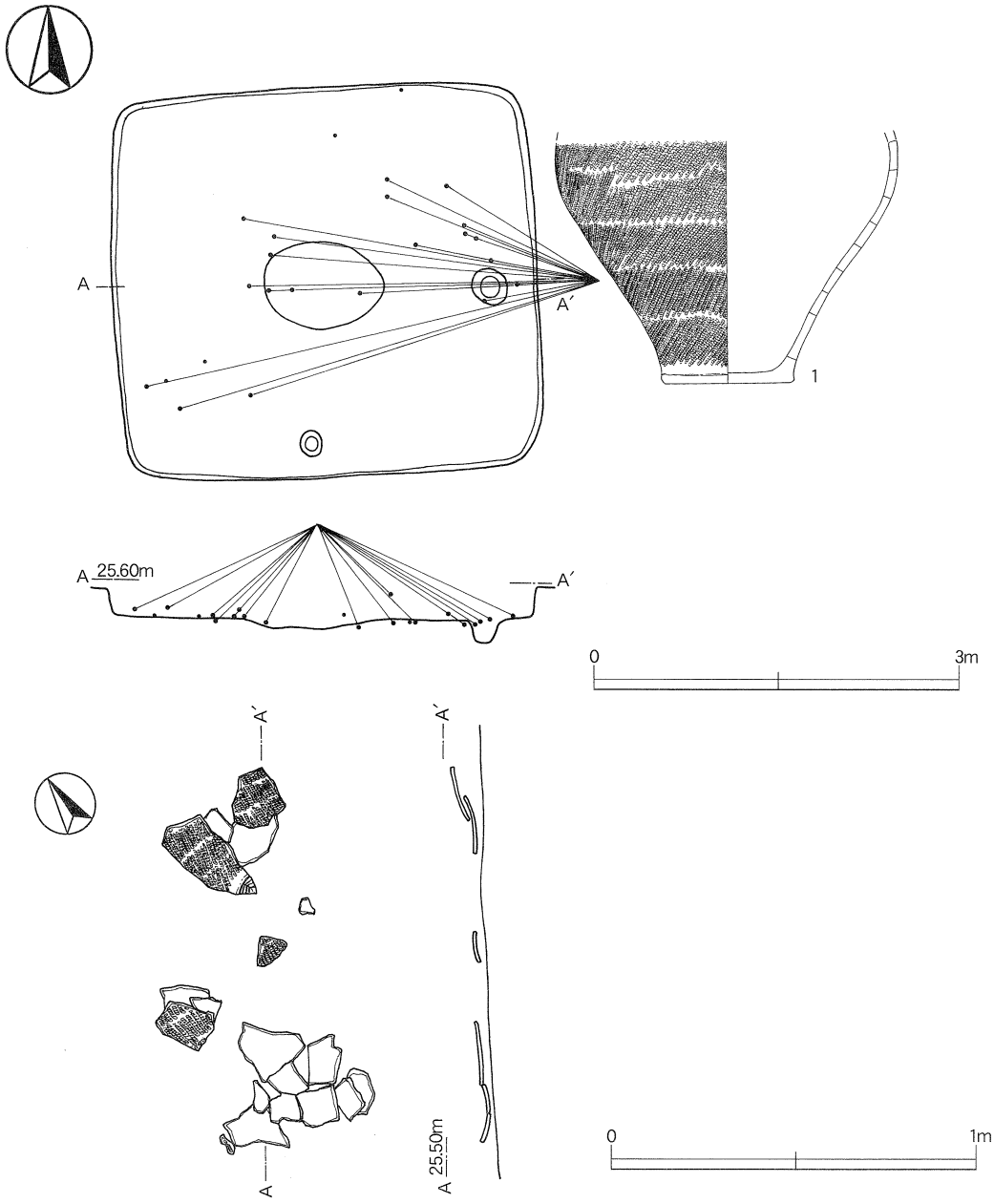


Fig.22　弥生時代　竪穴住居跡SI05遺物出土分布図

を測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、標高は20～25cmを計測する。底面は直床で、ほぼ平坦である。炉址は住居中央に設置され、長径100cm、短径70cm、深さ5cmを測る。柱穴は2本配置し、いずれも支柱穴と思われる。P1は規模が

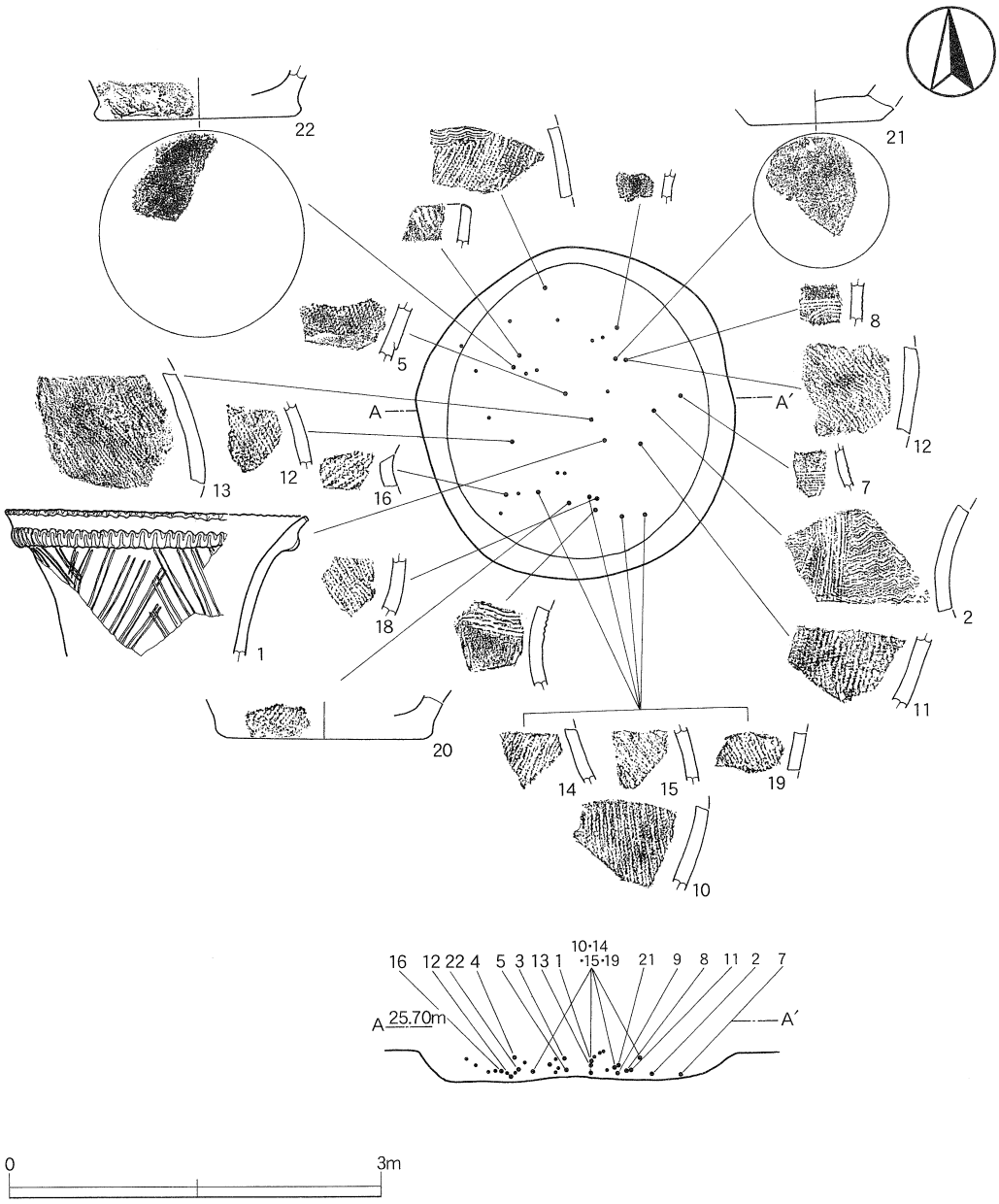


Fig.23　弥生時代　竪穴状遺構SX01遺物出土分布図

22×18cmで、深さ28cmを有し、P2は規模が32×28cm、深さ14cmを測る。本址の覆土は4層に分けられ、自然埋没土と推定される。

出土遺物は廃絶後に一括廃棄されたものと考えられる。

B．竪穴状遺構

竪穴状遺構SX01（Fig.23、PLAN.25、PL.18）

調査区の南東側H－5、H－6に位置し、標高25.52～25.63ｍの平坦部に立地する。平面形は略円形を呈する。長軸方向はＮ－0°を示す。長径2.68m、短径2.58mを測る。壁は緩やかに立ち上がり、壁高は28～34cmを計測する。床面は直床で、底面はやや起伏がある。柱穴・炉址は配置されていない。覆土は7層に分けられ、自然埋没土と考えられる。

略円形

出土遺物は住居廃絶後に一括廃棄したものと推定される。

竪穴状遺構SX02（Fig.24、PLAN.25、PL.18・19）

調査区の南西側F－6区に位置し、標高25.68～25.72mの平坦部に立地する。平面形はやや南北に長い略円形を呈する。長軸方向はＮ－43°－Ｅを示す。長径3.00m、短径2.76mを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は約30cmを計測する。底面は直床で、ほぼ平坦である。柱穴は東側に1本のみ有し、大きさは長径30cm、短径28cm、深さ10cmの略円形を呈する。炉址その他は配置されていない。覆土は4層に分けられ、自然埋没土と考えられる。

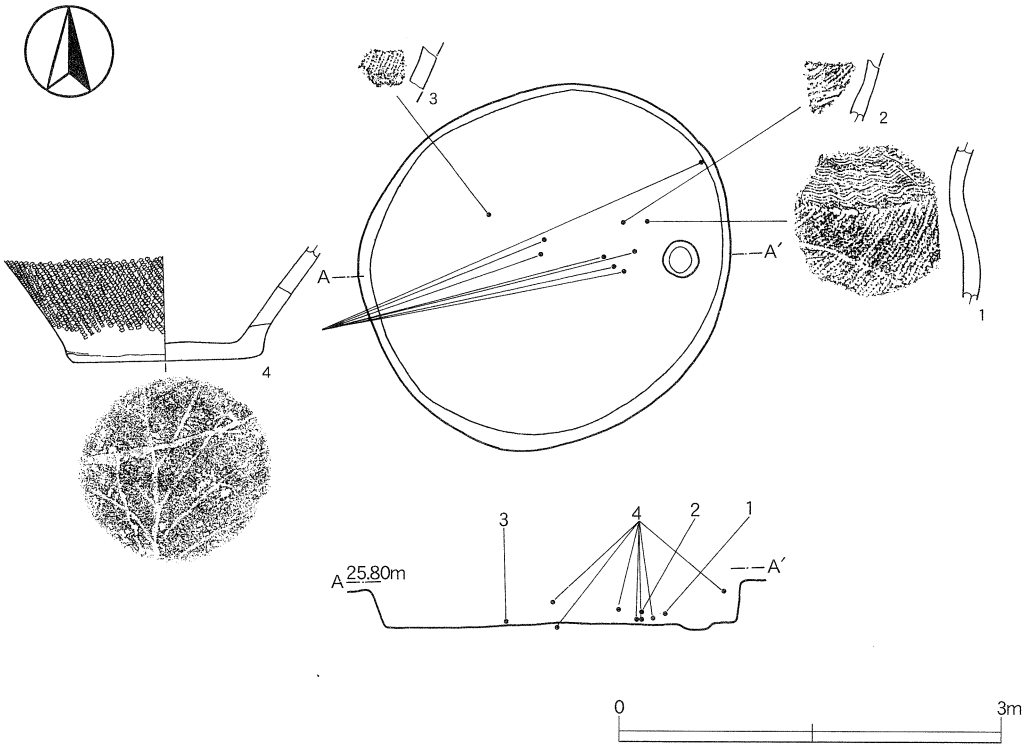


Fig.24　弥生時代　竪穴状遺構SX02遺物出土分布図

出土遺物は廃絶後に覆土が堆積し始め、窪地化が進んだ段階での、一括廃棄と推定される。（大渕淳志）

2．遺物

A．竪穴住居跡

竪穴住居跡SI01（PLAN.49－1～22）

a．土器

出土した遺物は土器のみである。壷及び甕であるが、1を除き形態が明瞭な土器はない。1は小形の中頸形壷である。口縁部および体部の一部を欠損するのみで、ほぼ完存する。器形は、口縁部が大きく外反し、頸部は緩く括れ、胴部中位に最大径をもち、平底の底部である。計測値は、口径13.7cm、頸径9.5cm、胴径12.3cm、器高18.3cm、底径7.3cmを測る。紋様は、口唇部に縄紋原体による施紋。口縁部は段をもち、有段の無紋帯下端に押圧痕を巡らし口縁部下部から胴上部にかける頸部紋様帯は櫛歯状工具による波状紋を巡らす。波状紋は6条確認でき、施紋は左から右へ、下位から上位の順で施されている。肩部は横位の半截竹管による直線紋が3条重畳されている。胴部は附加条縄紋を3段にわたって施紋している。2・3は口縁部破片である。いずれも小片で、2はやや内湾気味に立ち上がってゆるく外傾する甕形土器。丸頭状の口唇部に縄紋施紋し、附加条縄紋を地紋に口縁部に平行して縄紋原体により押捺が施されている。3はゆるく外反する甕形土器。口唇部に縄紋施紋し、外面は単節縄紋LRが施紋する。4は篦状工具による格子状紋。5は半截竹管状工具による平行沈線紋を施す。6の頚部に5本単位の櫛歯状を山形状紋に、頸部下位に附加条紋を施紋する。8～19は縄紋施紋の胴部破片で、附加条縄紋を施紋する。20～22は底部破片。20は胴部が球形を呈する壷形土器。22は木葉痕を残置する。

中頸形壷
波状紋
半截竹管
格子状紋
山形状紋
木葉痕

竪穴住居跡SI02（PLAN.49－1～12）

a．土器

1は外反気味に立ち上がる壷形土器。口唇部に縄紋施紋し、口縁部にも附加条縄紋が施紋されている。2も口縁部破片で、縄紋施紋の複合口縁である。口縁部は附加条縄紋に、下端に棒状工具による押圧痕が巡る。3～6は壷形土器の頸部破片で、3～5は同一個体である。篦状工具による縦位の沈線区画内に格子状紋を施紋する。6は4の単位の櫛歯紋土器である。7～11は縄紋施紋の胴部

複合口縁
押圧痕

破片で、いずれも附加条縄紋を施紋する。12は底部破片で、木葉痕を残置する。　格子状紋

竪穴住居跡SI03（PLAN.51－1～19・53－20～55・55－56～72）

a．土器

弥生土器の他に土製品と銅製品が出土している。1は小形の中頸形壷である。口縁部および体部の約1/3を欠損する。器形は口縁部が大きく外反しながら口唇部で短く立ち上がり、頸部は緩く括れ、胴部は内彎気味に膨れる。口縁部に最大径をもち、平底の底部である。計測値は口径12.8cm、頸径9.0cm、胴径10.6cm、器高16.6cm、底径7.0cmを測る。紋様は、口唇部に縄紋原体による施紋。口縁部も附加条縄紋を施し、有段の口縁部下端に縄紋原体による押圧痕を巡らし、頸部から肩部紋様帯は櫛歯状工具による櫛歯紋を間隔を開けて2列巡らす。櫛歯紋は4単位確認でき、施紋は左から右へ施されている。肩部櫛歯紋下に附加状縄紋を施紋している。また底部に木葉痕を残置する。なお、縄紋と櫛歯紋は縄紋施紋を先に施している。内面にはスス状の炭化物が付着している。2は口縁部を残存する壷形土器で、口縁部は大きく外反し、胴部は内彎気味に立ち上がる。推定口径は19.0cmを測る。複合口縁で、口唇部に縄紋施紋し、口縁部も附加条縄紋を施し、口縁下端に縄紋原体による押圧痕を巡らす。頸部は4単位の櫛歯状工具により横位に3条巡らし、同一工具によりスリット状手法の縦位区画が施されている。胴部は附加条縄紋を施紋する。3～8は複合口縁の口縁部破片。3は口唇部に篦条工具による刻目紋を巡らし、口縁部下端には棒状工具による押圧痕を施す。4・5・7は口唇部に縄紋原体を押捺し、口縁部下端も縄紋原体を押圧する。6は口唇部に縄紋施紋し、頸部に篦状工具による格子状紋を施す。9・10は折返し口縁で、口唇部に縄紋施紋し、口縁部に附加条縄紋を施す。10は口唇部に縄紋原体を施紋し、無紋帯の口縁部に棒状工具による刺突紋を巡らす。11～15も口縁部付近の破片で、11・12は同一個体。口縁部下端は棒状工具による刻み。頸部に6本単位の櫛歯状工具による縦位の区画紋を施す。13～15も口縁部下端は棒状工具による刻みを巡らし、15の頸部紋様帯は幅広の篦状工具による縦位区画紋内にペン先状工具による格子状紋を充填する。16～28は頸部付近の破片で、櫛歯紋土器である。16は櫛歯状工具による縦位区画紋内に格子紋を充填させ、区画下位に附加条縄紋を施紋する。17・20・25・26は櫛歯紋による区画紋で、工具は17が4本、20が6本、25は3本を単位とする。18・19・23は縦位の区画紋にペン先状工具

中頸形壷　縄紋原体　櫛歯紋　木葉痕　炭化物　複合口縁　スリット　格子状紋　刺突紋　棒状工具　格子状紋　区画紋

による格子紋を充填する。21・22・24・28は櫛歯紋を縦位もしくは横位に施紋する。27は櫛歯紋が波状紋となる。29～61は縄紋施紋の胴部破片である。62～65は底部破片で、63・64・69は縄紋施紋、63～69は木葉痕を残置している。

波状紋

B．土製品（PLAN.55－70・71）

土製品として紡錘車1点と土玉1点が出土している。70は紡錘車である。完形で、長径5.2cm、短径5.0cm、孔径0.6cm、厚さ1.6cm、重量51.2gを測る。断面の形状は上下面とも中央部が膨らむ凸面を呈し、両面とも平滑に調整されている。71は土玉である。完形で、長径2.9cm、短径2.76cm、孔径0.6cm、厚さ1.5cm、重量8.84gを測る。上・下両面から押し潰したように全体に偏平である。比較的平滑に整形されている。

紡錘車

土玉

C．金属製品（PLAN.55－72）

金属製品として銅鏃が出土している。ほぼ完形で、現存長4.18cm、身部最大幅1.1cm、身部最大厚0.42cm、茎部幅0.61～0.53cm、茎部厚0.45～0.38cmを測る。鏃身の形状は関が緩やかで略楕円形を呈し、身の中軸に稜があるが、稜線は身下半部約2／3程まで明瞭に続くものの、関部からの稜線は明確ではない。茎部の断面形は楕円形をなす。

銅鏃

鏃身

竪穴住居跡SI04（PLAN.52）

a．土器

1～4は壷形土器の複合口縁部破片である。1は口唇部に縄紋原体を押圧し、口縁部に附加条縄紋を施紋し、口縁部下端に棒状工具による刻みが巡る。2・3は口唇部に縄紋原体を押圧し、口縁部下端も縄紋原体による刻みを巡らす。また2は篦状工具による格子紋を施す。5は肩部破片。附加条縄紋施紋後、半截竹管による沈線紋を巡らす。6も肩部破片無紋下に附加条縄紋を施紋する。7は篦状工具による格子紋を施す。8は櫛葉紋を縦位に施紋する。9～20は附加条縄紋施紋の胴部破片である。21は附加条縄紋施紋の底部破片で、底面には木葉痕を残置する。

複合口縁

縄紋原体

格子状紋

木葉痕

竪穴住居跡SI05（PLAN.57）

a．土器

1は大形の壷形土器で底部から胴部にかけて残存する。平底で胴部は内彎気味に立ち上がる。胴部に附加条縄紋が施紋され、底面には木葉痕が残置する。

竪穴状遺構SX01（PLAN.59）

a．土器

1は肩部上位から口縁部にかけての破片。頸部から緩く外反して開く甕形土器。口唇部は棒状工具により刻みを巡らし、口縁部は段1段で、無紋帯である。口縁部段下端は棒状工具による押圧痕を施す。頸部紋様は半截竹管状工具の平行沈線による山形紋を施紋する。2は4単位の櫛歯状工具による縦位区画が施され、区画内に横位の波状紋が充填する。3は肩部破片で波状櫛歯紋下位には附加条縄紋が施紋する。4は口縁部破片。口唇部に棒状工具により刻みが巡り、口縁部は半截竹管状工具による平行沈線紋が施されている。5は折返し口縁で、口縁部に附加条縄紋が施紋されている。6～8は櫛歯紋土器で、6は波状紋が施されている。9は細いペン先状工具による格子紋が施紋されている。10～19は附加条縄紋が施紋された胴部破片である。20～22は底部破片。21・22は木葉痕が残置する。

甕形土器

山形紋

平行沈線

竪穴状遺構SX02（PLAN.59）

木葉痕

a．土器

1は頸部付近の破片。櫛歯状工具による波状紋を施し、肩部以下附加条縄紋を施紋する。2・3は附加条縄紋施紋の胴部破片。4は底部破片で、底面には木葉痕を残置する。

波状紋

遺構外出土遺物

木葉痕

a．紡錘車（Fig.21－1・2）

表採資料であるが、土製紡錘車が2点出土している。1は一部欠損している。下面長径4.8cm、短径4.5cm、上面長径2.1cm、短径1.9cm、孔径1.56cm、現存高2.5m、現重量45.1gを測る。縁辺面は比較的粗いナデ成形である。褐色を呈し、胎土に石英粒を含む。2はほぼ半分を欠損している。径5.1cm、孔径0.6cm、厚さ1.7m、現重量28.6gを測る。縁辺部にヘラ状工具によるキザミを全周させる。断面の形状は上下面とも中央部が膨らむ。褐色を呈し、石英粒を含む。焼成は良好である。

（小川　和博）

第4節　古墳時代

六十塚遺跡の古墳時代の遺構は、同時代前期の竪穴住居跡1軒のみしか検出されていない。

1．遺構

A．竪穴住居跡

六十塚遺跡における唯一の古墳時代の遺構で、古墳時代前期の五領式期に該当する。出土した遺物等から、特殊な祭祀的な遺構である可能性は少ない。また、遺物の出土状況及び住居内の堆積土の観察から次のことが判る。この古墳時代前期の竪穴住居は、住居廃絶後にローム粒を主とした人為的な埋戻し作業が行われていて、この土砂と共に、すでに破片となっている使用することのできない半完形の五領式期の土器が投棄的に捨てられている。

竪穴住居跡SI06（Fig.25、PLAN.32～34、PL.29・30）

調査区の北側F－1、F－2、G－1に位置し、標高25.54～25.65mの平坦部に立地する。平面形は北西－南東方向に長い方形を呈する。主軸方向はN－52°－Eを示す。長軸6.24m、短軸5.50mを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は24～34cmを計測する。床面はやや固い貼床で、ほぼ平坦である。炉址は住居中央よりやや北東側に設置され、長径58cm、短径40cm、深さ6cmを測る。貯蔵穴は1基設置され、南壁中央よりやや西側にあって、平面形は隅丸方形を呈し、大きさは長軸70cm、短軸60cm、深さ30cmを計り、底面に長さ12cmの略円形の掘り込みを有している。柱穴は4本の主柱穴と、住居中央の1本の支柱穴を配置している。主柱穴はP1が46×28cm、深さ66cmを計り、P2が26×16cm、深さ58cm。P3が42×38cm、深さ64cm。P4は35×28cm、深さ56cmを計測する。支柱穴はP5は36×33cm、深さ13cmを測る。また、この支柱穴の掘り込みに接して南西側に床面の焼けた範囲があり、平面形は略円形で大きさは20×18cmの範囲で比較的よく焼けている。他に床面・壁などで加焼を受けた部分は見られないが、覆土中からは、少量ながら焼土粒及び炭化物が検出されている。その住居内の覆土は5層に分けられ、人為的な埋め戻し土と推定される。

貯蔵穴

出土遺物は、住居廃絶後に埋め戻し土と共に一括廃棄されたものと考えられる。

（大渕　淳志）

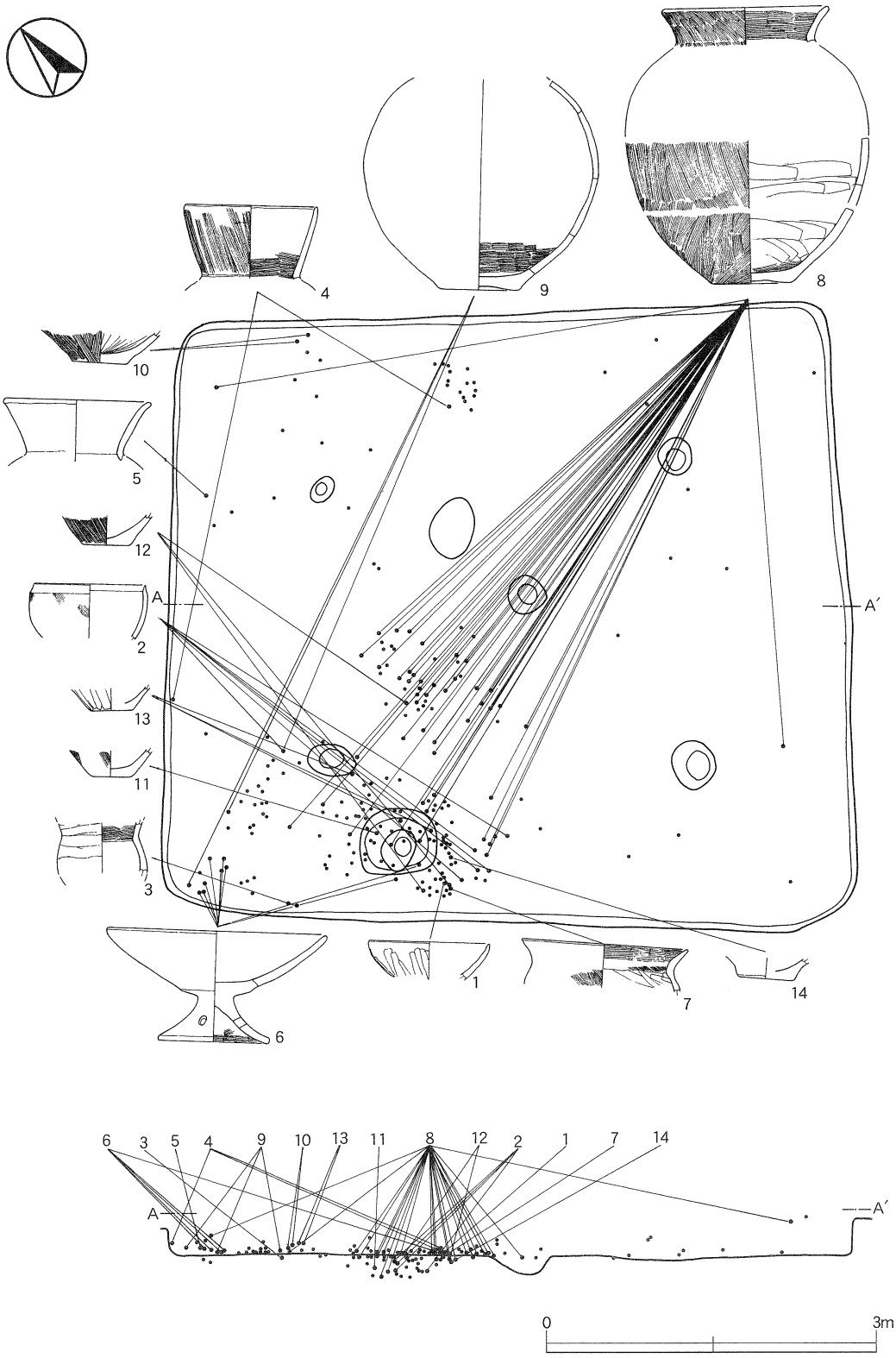


Fig.25　古墳時代　竪穴住居跡SI06遺物分布図

2．土器（PLAN.35－1～14）

本址から土師器のみ出土している。出土した器種は、椀・坩・高坏・壷・甕である。1は口縁から体部中位にかけて1/6弱遺存し、推定口径は11.0cm、現器高は3.5cmを測る。口縁部が内彎気味に立ち上がる椀である。内外面とも細かいミガキに近い調整が施され、外面に縦位の調整痕がみられる。海綿骨針を含み、赤褐色を呈する。焼成は良好である。2は口縁部から体部下部約1/3弱を遺存する椀である。推定口径10.0cm、現器高4.8cmを測る。体部は内湾気味に移行し、口縁部端で短く垂直に立ち上がる。口縁部は横ナデ、体部外面はハケ目調整の後ヘラナデが施され、内面もヘラナデ調整。微細な砂粒を含み、明赤褐色を呈する。焼成は良好で、堅緻である。3は坩の体部破片である。体部の遺存は約1/5程度である。現器高4.7cmを測る。体部は張りの弱い胴部から口縁部外半も若干弱く、垂直気味に立ち上がる。外面横位のヘラナデ整形。内面口縁部にハケ目痕が残る。赤色を呈し、胎土に長石・石英粒を含む。焼成は良好で、堅緻である。4は口縁部破片約1/5程度遺存する。推定口径12.0cm、現器高6.7cmを測る。直口の坩形を呈するものである。外面に縦方向のハケ目、内面口縁部下部にも横方向のハケ目が残る。赤橙色を呈し、胎土に長石粒を含み、焼成は良好で、堅緻である。5は口縁部が大きく外反する甕である。口縁部を約1/6程度遺存し、推定口径13.0cm、現器高5.2cmを測る。口縁部は外反する。外面は横ナデ、外面はヘラナデ調整が施されている。浅黄橙色を呈し、胎土に石英・長石粒を含み、焼成は良好で堅緻である。6は高坏で、坏部の約1/3程度を欠損する。口径20.0cm、器高10.2cm、脚部径10.0cmを測る。浅い盤状の坏部と截頭円錐形の脚部からなる。外面は全体に横位のハケ目調整後、縦位のヘラナデによって整形し、内面丁寧なヘラナデ整形。脚部外面縦位のハケ目調整後、ヘラナデ整形。内面横位のハケ目痕を残置する。赤褐色を呈し、胎土に海綿骨針を含む。焼成は良好である。7～9は甕である。7は口縁部約1/4ほど遺存する。口縁部は外反し、体部は球形を呈する。推定口径15.0cm、現器高4.0cmを測る。外面口縁部は横ナデ整形。体部はハケ目調整後、ヘラナデ。内面口縁部横位のハケ目調整。体部ヘラナデ。橙色を呈し、胎土に海綿骨針・長石粒を含む。焼成は良好。8は体部上半部を欠損する。口径15.0cm、推定器高30.0cm、底径7.0cmを測る。ほぼ球形の体部から口縁部は外反する。底部はやや上げ底状を呈する。外面は口縁部から底部まで縦位のハケ目調整痕を全く消失させない。内面口縁部は横位のハケ目

椀

椀

横ナデ

ハケ目

坩

坩

ハケ目

甕

高坏

甕

ハケ目

調整。体部はヘラナデ整形を施す。明赤褐色を呈し、胎土に石英、海綿骨針を含む。焼成は良好で、堅緻である。9は体部約1/2ほどを遺存している。最大径は胴部中位に位置し、21.2cm、現器口19.2cm、底径7.0cmを測る。ほぼ球形の体部をもち、底部はやや上げ底気味である。赤色を呈し、胎土に海綿骨針を含み、焼成は良好である。　(小川和博)

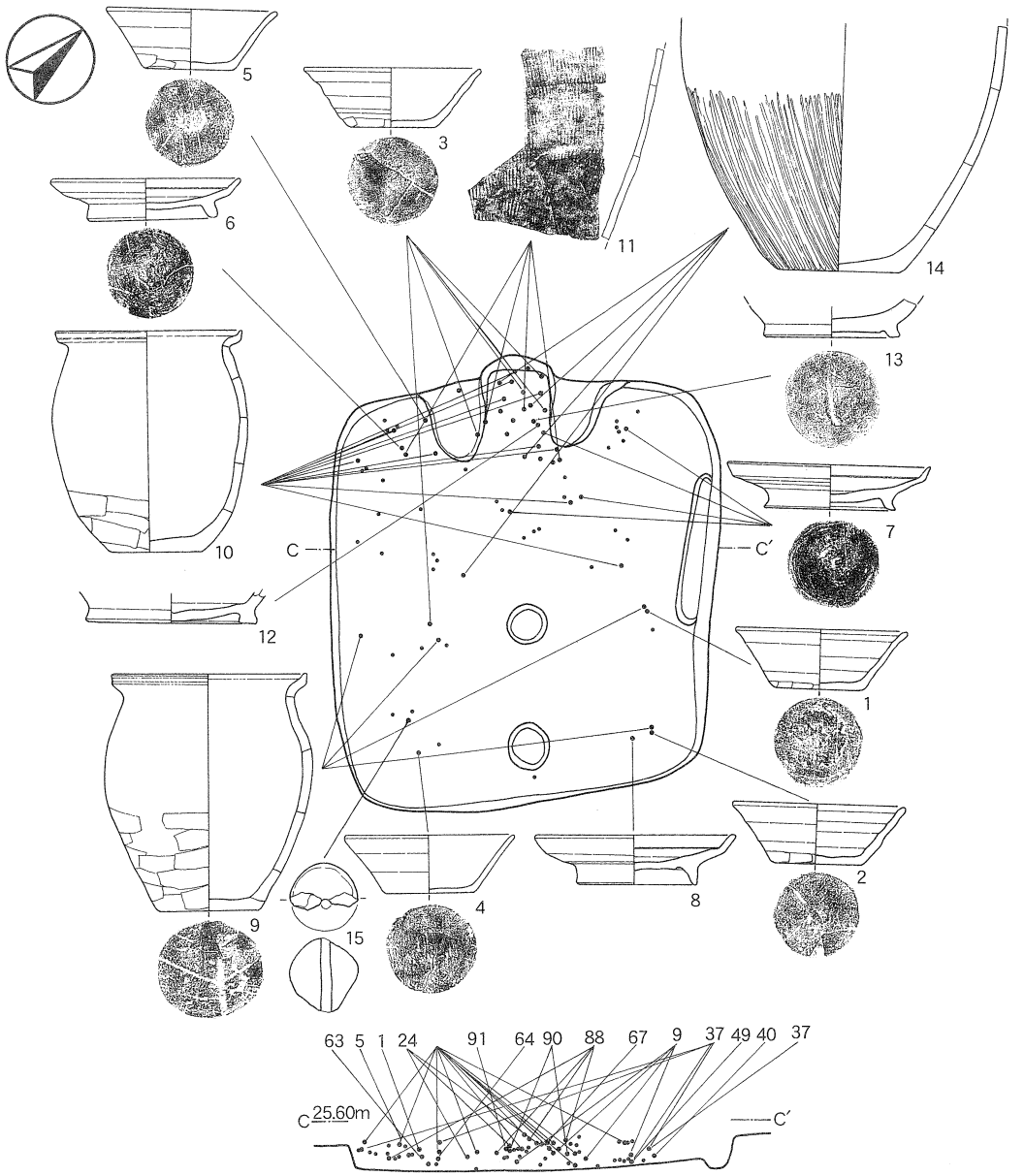


Fig.26　奈良時代　竪穴住居跡SI07遺物出土分布図

第5節　奈良時代

六十塚遺跡の奈良時代の遺構は、竪穴住居跡1軒と竪穴状遺構1基の計2基の遺構しか検出されていない。これらの2基の遺構は直線距離において、約80m程離れているが、これらの遺構内で検出された高台付坏が接合していることからも（Fig.28参照）、同一の時期に存在していた可能性が高い。

接合

1．遺構

A．竪穴住居跡

竪穴住居跡SI07（Fig.26、PLAN.36、PL.31～33）

調査区の西側B－3に位置し、標高25.40～25.50mの平坦部に立地する。平面形は北西－南東方向に長い方形を呈する。主軸方向はN－56°－Wを示す。長軸3.42m、短軸3.12mを計る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は約20cmを計測する。床面は直床でほぼ平坦である。カマドは北西壁中央で設置され、カマドの袖部は粘土で構築し、燃焼部はほとんど焼けていない。柱穴は2基検出され、いずれも支柱穴と推定される。中央に設置されている柱穴P1は径34cm、深さ18cmを計り、南東壁際中央のP2は38×34cm、深さ22cmを計測する。壁溝は北東壁の一部のみで設置され、幅22cm、深さ8cmを計る。住居内の覆土は3層に分けられ、人為的な埋め戻し土と考えられる。

出土遺物は、Fig.26の1・2・4・8の土器以外は、住居廃絶後に、人為的な埋め戻し度と共に一括廃棄されたものと推定される。

B．竪穴状遺構

竪穴状遺構SX03（Fig.27、PLAN.37、PL.34）

調査区の北側中央部F－2・F－3に位置し、標高25.36～25.52mの平坦部に立地する。平面形は北西－南東方向に長い方形を呈する。長軸方向はN－30°－Wを示す。長軸2.90m、短軸2.88mを計る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は36～44cmを計測する。床面は直床でやや起伏がある。柱穴は中央北東側に1基設置され、大きさは46×40cm、深さ12cmを計る。また、北東壁中央に20cmほどの半円形の張り出し的な掘り込みがある。遺構内の覆土は5層に分けられ、人為的な埋め戻し土と考えられる。この遺構はカマドを設置する以前に廃棄された、作りかけの住居の可能性が推定される。出土遺物は廃絶後に

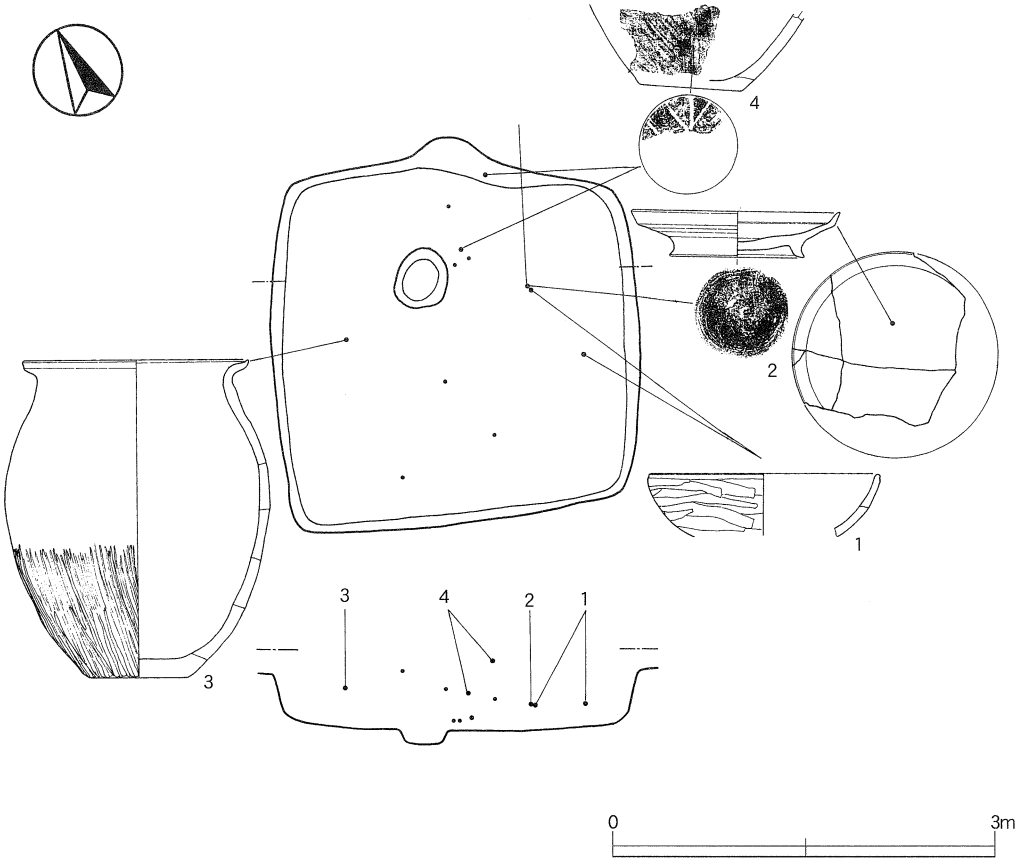


Fig.27　奈良時代　竪穴状遺構SX03遺物出土分布図

埋め戻し土と共に一括廃棄されたものと考えられる。

（大渕　淳志）

2．遺物

竪穴住居跡SI07（PLAN.38・39）

a．土器（1～14）

奈良時代の土器として、須恵器・土師器があり、須恵器は坏・高台付皿・甕であり、土師器は坏・甕がある。土器の大部分は竈周辺に集中し、他は壁周辺から出土している。

須恵器坏

1・2・4・5は須恵器・坏である。1は完形土器で、ロクロ成形。口径13.6cm、器高4.9cm、底径7.0cmを測る。体部は直線的に外方へ開き、口唇部は小さく外反する。底部は回転ヘラ切りの後、手持ちヘラ削りを施し、体部下端部は

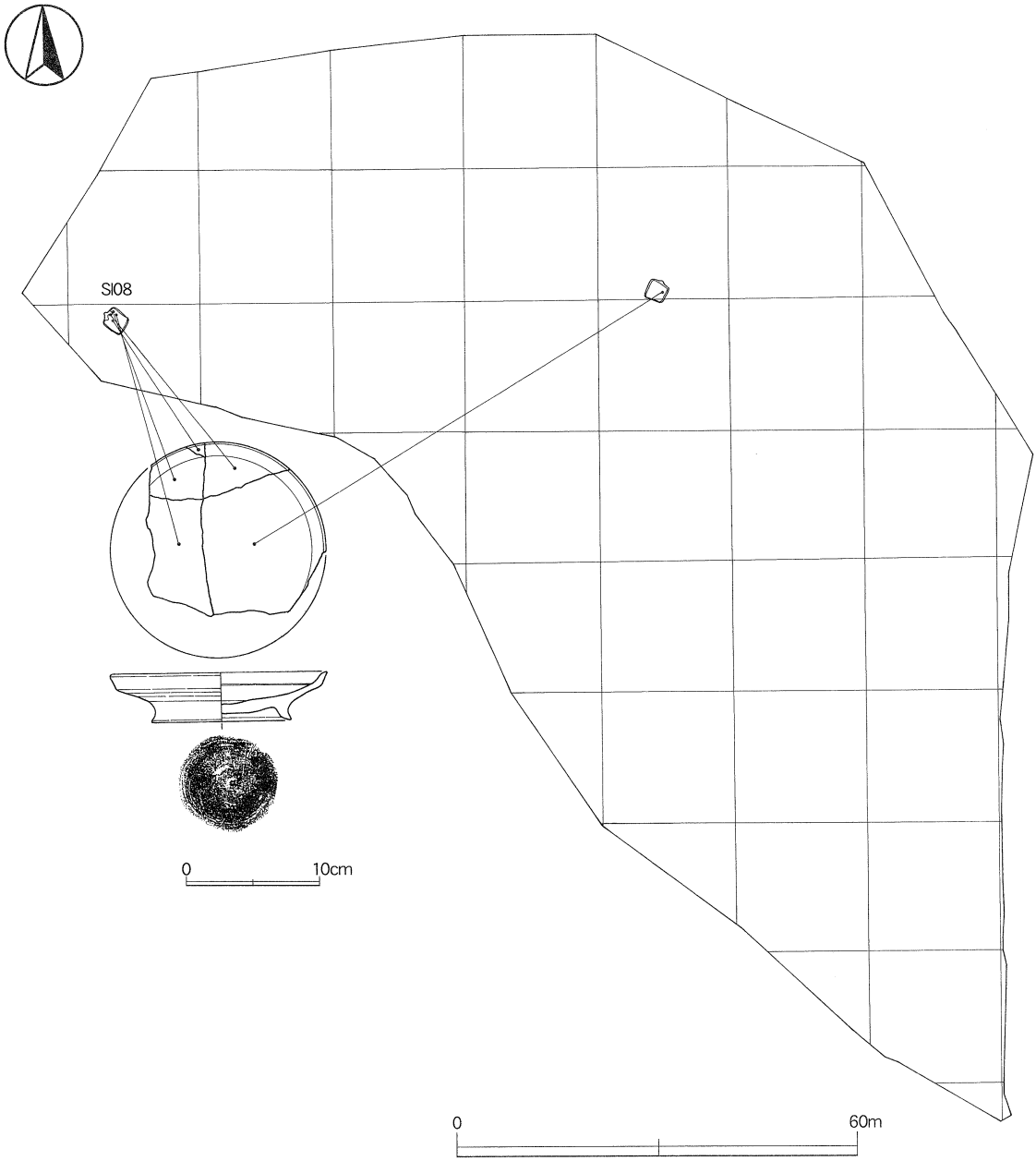


Fig.28　高台坏接合関係図

回転ヘラ削り整形を加える。灰白色を呈し、胎土に海綿骨針、長石粒を多く含む。焼成は良好である。2も完形で、ロクロ成形。口径13.4cm、器高4.9cm、底径6.8cmを測る。体部はほぼ直線的に大きく開く。底部はヘラ切りの後、一

方向の手持ちヘラ削り整形を加える。また体部下端部は手持ちヘラ削りを施す。灰白色を呈し、胎土に長石粒、石英粒を含む。焼成は良好である。4も完形土器でロクロ成形。口径13.3cm、器高4.8cm、底径6.8cmを測る。体部は直線的に開き、口唇部は小さく外反する。底部はヘラ切りの後、ヘラ削り整形を施す。体部下端部は手持ちヘラ削りをする。明褐色を呈し、胎土に微細な石英粒、雲母片を含む。焼成は良好である。5も完形土器で、ロクロ成形。口径13.4cm、器高4.8cm、底径7.4cmを測る。体部は直線的に外方へ開き、口唇部は小さく外反する。底部は回転ヘラ切りの後、一方向の手持ちヘラ削りを施し、体部下端部は手持ちヘラ削り整形を加える。灰白色を呈し、胎土に石英粒、長石粒を多く含む。焼成は良好である。3は土師器・坏である。完形土器で、ロクロ成形。口径14.0cm、器高4.8cm、底径6.8cmを測る。体部はほぼ直線的に開き、口唇部は小さく外反する。底部はヘラ切りの後、一方向の手持ちヘラ削り整形を加える。また体部下端部は手持ちヘラ削りを施す。黄橙色を呈し、胎土に海綿骨針を含む。焼成は良好である。

土師器坏

6～8は高台付皿である。いずれも須恵器・ロクロ成形である。6は完形で、口径14.9cm、器高3.4cm、底形9.8cmを測る。体部は内彎気味に大きく開き、口縁部は外方へ開く。高台は短く「ハ」の字状に開く。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。灰白色を呈し、胎土に石英粒、長石粒を含む。焼成は良好である。7は体部の一部を欠損する。口径16.7cm、器高3.6cm、底径10.8cmを測る。体部は内彎気味に大きく開き、口縁部は短く立ち上がる。高台は短く「ハ」の字状に開く。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。灰白色を呈し、胎土に微細な砂粒を含む。焼成は良好である。なお、体部の約半分（土器の網部分）が西方40m離れたSX03より出土している。8は完形で、口径16.0cm、器高4.1cm、底形8.8cmを測る。体部は内彎気味に大きく開き、口縁部は短く立ち上がる。高台は短く「ハ」の字状に開く。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。灰黄色を呈し、胎土に海綿骨針を含む。焼成は良好である。

高台付皿

9～11・14は甕で、11が須恵器で、他は土師器である。9は体部の一部を欠損する。口径15.4cm、器高19.2cm、底形8.2cmを測る。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反し、口唇部は強く上方へつまみ上げられる。外面口縁部は横ナデ。体部上半部はヘラナデ。下半部は横位のヘラ削り。内面口縁部は横ナデ。体部はヘラナデ。底部は木葉痕を残置する。黒褐色を呈し、胎土に石英粒、長石粒を含む。焼成は良好である。10は体部上部の一部

甕

を欠損する。口径14.8cm、器高17.8cm、底径6.2cmを測る。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は強く外反し、口唇部は強く上方へつまみ上げられる。外面口縁部は横ナデ。体部上半部から中位部はヘラナデ。下半部は横位のヘラ削り。内面口縁部は横ナデ。体部はヘラナデ。底部は木葉痕を残置する。浅黄橙色を呈し、胎土に石英粒、雲母片を含む。焼成は良好である。14は体部下半部を欠損する。現存器高20.0cm、底径10.0cmを測る。体部は内彎気味に立ち上がる。外面体部中位はヘラナデ。下半部は縦位のヘラナデ。内面体部はヘラナデ。底部は木葉痕を残置する。明黄褐色を呈し、胎土に石英粒、石英粒を含む。焼成は良好である。11は須恵器・甕体部破片で、外面に縦位の平行タタキ目。内面平滑な当て具痕を残す。胎土に長石粒、石英粒を含む。暗緑灰色を呈し、焼成は良好である。12・13は須恵器・壷底部破片である。12はロクロ成形。現存器高2.7cm、底径13.4cmを測る。高台は短く付く。底部は回転ヘラ切り。外面に緑釉が掛かっている。胎土に微細な砂粒を含む。焼成は良好である。13もロクロ成形で、現存器高3.1cm、底径10.8cmを測る。高台は短く外方へ開く。底部は回転ヘラ切りである。内面に自然釉が掛かっている。黒褐色を呈し、微細な砂粒を含む。焼成は良好である。

木葉痕

自然軸

b．土製品

土玉

土製品として土玉が1点出土している。15は完存する。径2.7cm、厚さ3.0cm、孔径0.38cm、重さ10.25gを測る。やや楕円形を呈し、焼成は良好。

竪穴状遺構SX03（PLAN.39）

a．土器（1～4）

奈良時代の土器として、須恵器・土師器があり、須恵器は高台付皿であり、土師器は坏・甕がある。

土師器坏

高台付皿

甕

1は土師器・坏である。体部の一部のみ残存。口径18.0cm、現器高5.0cmを測る。体部は内彎気味に外方へ開く。外面口縁部は横ナデ。体部横位のヘラナデ。内面ヘラ整形。にぶい橙色を呈し、胎土に微細な砂粒を含む。焼成は良好である。2の須恵器・高台付皿は先のSI07出土7の土器の網目部分と接合したものである。3は土師器・甕である。口縁部の一部を欠損する。最大径は体部中位にあり、口径17.7cm、器高25.0cm、底径7.8cmを測る。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外半し、口唇部は短くつまみ上げられる。外面口

縁部は横ナデ、体部上半部分はヘラナデ、下半部分は縦位のヘラナデ。内面口縁部横ナデ、体部ヘラナデ。にぶい橙色を呈し、胎土に石英粒、長石粒を含む。焼成は良好である。4も土師器・甕である。底部破片で、現器高5.3cm、底径8.0cmを測る。体部は内彎気味に立ち上がり、底部に木葉痕を残置する。外面斜行するヘラナデ。内面ヘラナデ整形。黒褐色を呈し、胎土に微細な砂粒を含む。焼成は良好である。　木葉痕

（小川和博）

第6節　近世

本遺跡における近世（江戸時代）の遺構は、掘建柱建物跡2棟、土坑20基、溝状遺構2条が調査区南東付近を中心に南西域にかけて分布している。特に南西域は六道銭と考えられる銭貨や人骨が検出されている墓坑4基が確認され、しかも小屋的な掘建柱建物跡が存在する墓地であることが判明した。他の土坑は耕作時の農耕土坑（通称イモ穴）と考えられる。また溝状遺構も墓域もしくは畑地の境する溝と考えられる。

1．遺構

A．掘建柱建物跡

調査区南東端に墓抗に接して建てられており、しかも簡素な作りから墓地に係わる小屋と思われる。なお、検出された2棟はいずれも隣接しているため構築に時間差があるものと考えられる。

掘建柱建物跡SB01（PLAN.40）

柱間
主軸
柱穴

調査区南東端H－6地区に位置する。柱間は1間×1間で、規模は2.55×2.57mとほぼ正方形を呈し、主軸はN－57°－Eをとる。柱通りはかなり整然としている。柱穴の形状は円形を呈し、上端径31～40cm、下端径15～21cm、検出面の深さ31～41cmを計測する。時期は覆土の状態から判断して近世と考えられ、隣接する墓地に関係するものとみられる。遺物の出土はない。

掘建柱建物跡SB02（PLAN.40）

主軸
柱間
柱穴

調査区南東端H－6地区に位置する。東隣には1号掘建柱建物跡が構築されている。本址は東西棟の建物跡と考えられ、主軸はN－75°－Eを取る。柱間は1間（？）×2間で、規模は2.81×3.85mを測る。ただし、東側は調査範囲外なので、まだ東方向へ延びる可能性は大きいが、南北方向へ延びることはない。柱間寸法は西端南北列が1.35m、1.22m。北端東西列が3.50mと広くなっている。なお、柱通りは計画的に配され、かなり整然としている。柱穴の形状はほぼ円形を呈し、上端径25～36cm、下端径10～21cm、検出面の深さ17～39cmを計測する。時期は覆土の状態から判断して近世と考えられ、やはり1号掘建柱建物跡と同様に墓地に関係するものとみられる。遺物の出土はない。

B. 土坑

土坑は大きく墓坑と土坑の2種に分けることができ、墓坑は埋葬人骨の他、銭貨、鏡、数珠などが副葬され、その形態は円形を基本とする。また土坑の形態は円形、楕円形、隅丸長方形などがあるが、出土遺物は皆無で土坑のすべての用途を確定できていない。

土坑SK52（Fig.29・31、PLAN.41）

調査区の東側、H－6地区に位置する。北東側に位置する風倒木2によって、一部壊されている。平面形は開口部で楕円形を呈していたと思われ、底面は楕円形を呈する。平面規模は開口部で長径118cm、短径90cm、底部で長径82cm、短径62cm、深さは西側で23cmを測る。底面はほぼ平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は7層に分層され、上層は多量のローム粒を含む暗黄褐色土。2層は多量のローム粒、微量のロームブロックを含む黒褐色土。3層は多量のローム粒、微量のロームブロックを含む黒色土。4層は多量のローム粒、少量のロームブロックを含む暗褐色土。5層は多量のローム粒を含む黄橙色土。6層は多量のロームブロックを含む暗褐色土。7層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黒色土で埋め戻し層である。出土遺物としては、土坑南～南東側にかけての底面付近に人骨が検出された。頭蓋は顔面がほぼ真北を向き、下顎骨、顎関節は外れていないが、頭頂から前頭部にかけては消失している。脊柱は北東へ南西方向に向いており、大腿骨は南北方向に向いている。蹲踞位で埋葬されていたと思われる。副葬品は、銭貨6枚が底面付近で検出されている。近世の土坑墓である。

規模
覆土
出土遺物
人骨の状態

土坑SK66（Fig.29・31、PLAN.41）

調査区の東側、H－5地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに円形を呈している。平面規模は開口部で径120cm、底部で径105cm、深さ36cmを測る。底面はほぼ平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は5層に分層され、1層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黄橙色土。2層は多量のローム粒を含む黒褐色土。3層は多量のローム粒を含む暗褐色土。4層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黄橙色土。5層は多量のローム粒を含む黄橙色土で埋め戻し層である。出土遺物としては、人骨が土坑やや南東寄りの底面付近に存在していた。頭蓋は顔面が北西を向き、下顎骨も顎関節も外れていない。

規模
覆土
出土遺物
人骨の状態

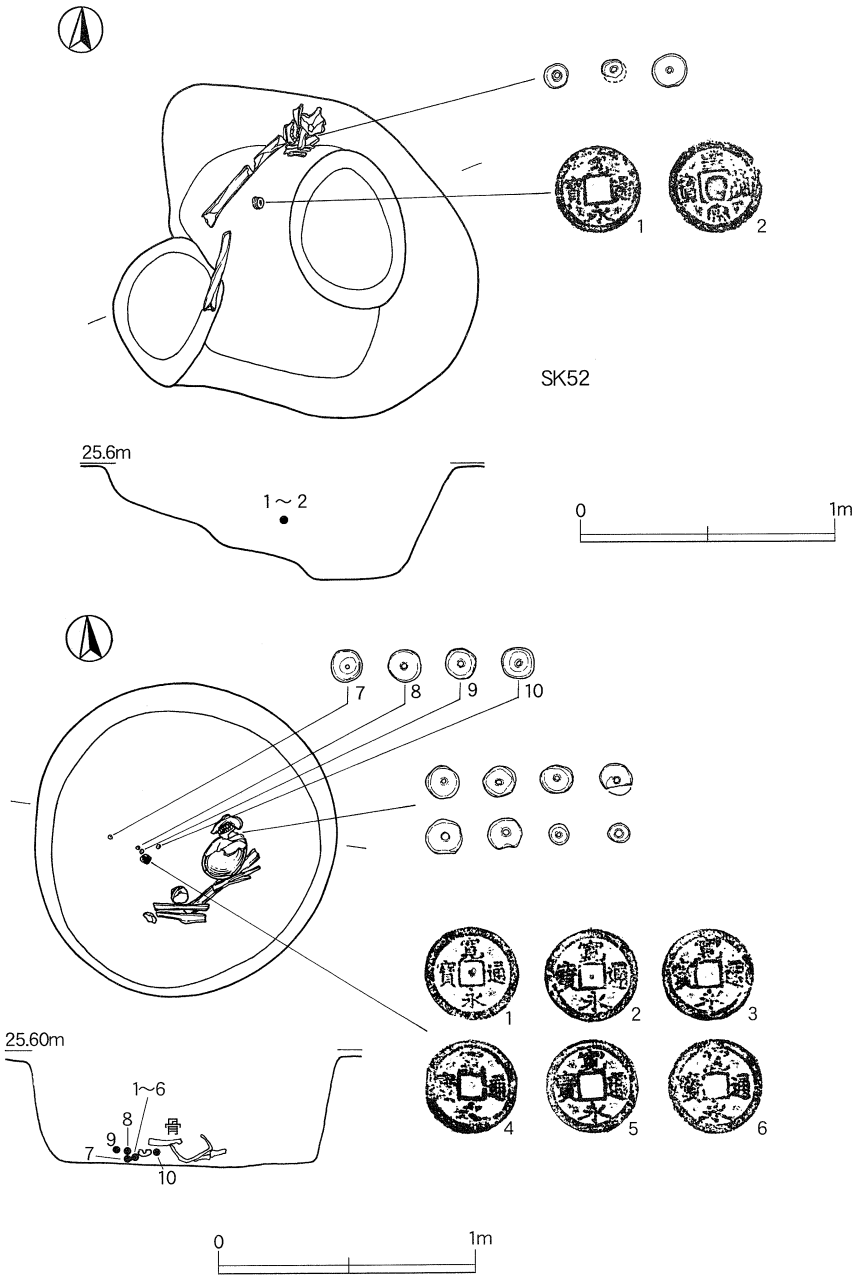


Fig.29　近世　土壙墓（SK52・SK66）

背柱は崩れて、椎骨はほとんど橈骨と尺骨が頭蓋の下で北東～南西方向に走っている。膝も強く屈曲しており、土坑の北東側に倒れている。当初は蹲踞位をとっていたものと思われる。副葬品としては、木製の数珠玉が1点、貝製の数珠玉が1点、ガラス製の数珠玉が2点、銭貨6枚が土坑中央の底面付近で出

副葬品

土している。近世の土坑墓である。

土坑SK67（Fig.30・32、PLAN.41）

調査区の東側、H－5地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに円形を呈している。土坑底部中央に楕円形を呈する径53×33cm、深さ5cmを測る掘込みを持つ。平面規模は開口部で長径120cm、短径115cm、底部で長径97cm、短径87cm、深さ53cmを測る。土坑中央に長径24cmの焼土域が底面に確認された。底面はほぼ平坦で壁は緩い外傾をなしている。覆土は6層に分層され、1層は多量のローム粒を含む黒褐色土。2層は黄橙色土のロームブロック層。3層は多量のローム粒を含む褐灰色土。4層は多量のローム粒を含む暗褐色土。5層は多量のローム粒を含む褐色土。6層は微量のローム粒を含む黄褐色土で、全体に締まりのない埋め戻し層である。出土遺物としては、土坑中央東側に部位不明の骨片1点と土坑中央西側に歯1点が底面で確認されている。副葬品として、数珠玉が5点、土製品が1点が中央～西側の底面10～20cm上位で検出された。近世の土坑墓である。

規模
覆土
出土遺物
副葬品

土坑SK69（Fig.30・32、PLAN.41）

調査区の東側、H－6地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに楕円形を呈している。土坑底部中央北西側に楕円形を呈する径112×75cm、深さ北西側23cm、南東側33cmを測る小土坑が存在し、人骨はここに埋葬されている。平面規模は開口部で長径158cm、短径108cm、底部で長径132cm、短径90cm、深さ63cmを測る。底面はほぼ平坦で壁は北西壁。南東壁でほぼ垂直に立ち上がり、北東壁で33cm、南西壁で23cmの所まで緩い外傾をなし、それより上面はかなり緩い外傾をなしている。覆土は4層に分層され、1層は多量のローム粒を含む黒褐色土。2層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黄褐色土。3層は微量のローム粒を含む暗褐色土。4層は多量のロームブロックを含む黄橙色土で埋め戻し層である。出土遺物としては、人骨が土坑中央西側の底面付近に存在していた。頭蓋は顔面が南西を向き、下顎骨、顎関節は外れていた。頭蓋付近に部位不明の骨片5点が散在していた。断定はできないが、蹲踞位で埋葬されたものと思われる。副葬品としては、青銅製の鏡1面、銭貨6枚、煙管1点が底面付近で検出された。不明鉄片は底面上位10cmの所で検出された。近世の土坑墓である。

規模
覆土
出土遺物
人骨の状態
副葬品

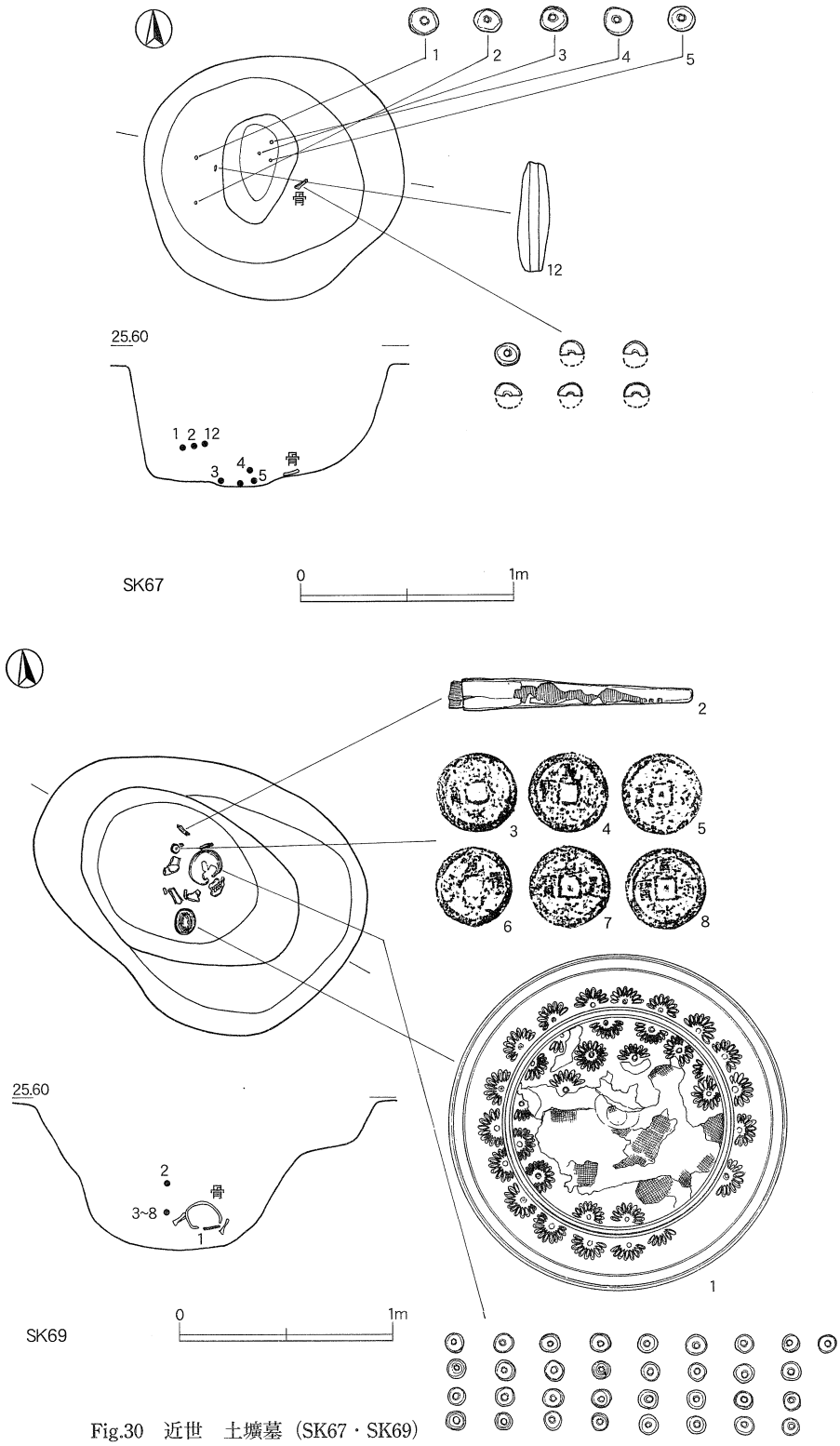


Fig.30　近世　土壙墓（SK67・SK69）

土坑SK04（PLAN.42）

調査区の中央、F－3地区に位置する。平面形は開口部で楕円形を呈し、東側に径54×28cmのピットを持つ。底面は不整形を呈している。平面規模は開口部で長径160cm、短径104cm、底部で長径123cm、短径52cm。深さ52cmを測る。長軸方向はN－72°－Wを示す。底面はほぼ平坦で壁は緩い外傾をなしている。覆土は6層に分層され、1層は多量のローム粒を含む暗褐色土。2層は多量のローム粒を含む褐色土。3層は微量のローム粒を含む黒褐色土。4層は多量のローム粒を含む褐色土。5層は多量のローム粒を含む黒褐色土。6層は多量のロームブロックを含む黄橙色土で自然堆積層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して近世の土坑と思われる。

規模

覆土

土坑SK07（PLAN.42）

調査区の北西側、B－2地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに楕円形を呈する。平面規模は開口部で長径123cm、短径69cm、底部で長径61cm、短径27cm、深さ45cmを測る。長軸方向はN－32°－Wを示す。壁は緩く外傾をなしている。底面はほぼ平坦である。覆土は2層に分層され、1層は多量のローム粒を含む褐色土。2層は多量のローム粒、微量のロームブロックを含む褐色土で自然堆積層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して、近世の土坑と思われる。

規模

覆土

時期

土坑SK10（PLAN.42）

調査区の北西、B－2地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに長方形を呈する。規模は開口部で長径110cm、短径86cm。底部で長径86cm、短径36cm、深さ22cmを測る。長軸方位はN－77°－Wを示す。壁は緩く外傾をなしている。底面はほぼ平坦である。下部施設は抗底中央やや東寄りに小ピット2本検出される。北側より長径18cm、短径16cm、深さ9cmの楕円形小ピットと南側の長径19cm、短径10cm、深さ10cmの楕円形小ピットである。覆土は2層に分層され、1層は多量のローム粒子を含む黒褐色土。2層は多量のローム粒子を含む暗黄褐色土でいずれも自然埋土である。出土遺物は検出されていないが、覆土の状態から近世土坑と思われる。

規模

下部施設

覆土

土坑SK13（PLAN.42）

調査区の東側、G－6、H－6地区に位置する。平面形は開口部、底部とともに不整楕円形を呈している。平面規模は開口部で長径103cm、短径98cm、底部で長径93cm、短径57cm、深さ80cmを測る。底部北側に径46×44cm、深さ14cmを測る不整円形の小ピットを持つ。長軸方向はN－80°－Wを示す。底面は鍋底状で平坦面は無く壁はほぼ垂直に立ち上がる。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して近世の土坑と思われる。

規模

土坑SK17（PLAN.43）

調査区の北西側、B－2地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに楕円形を呈する。平面規模は開口部で長径123cm、短径87cm、底部は長径90cm、短径59cm、深さ32cmを測る。長軸方向はN－81°－Eを示す。壁は緩く外傾をなしている。底面は鍋底状で平坦面はほとんどない。下部施設としては坑底中央やや南西寄りに長径37cm、短径27cm、深さ14cmの楕円形の小ピットが検出された。覆土は2層に分層でき、1層は多量のローム粒を含む暗褐色土。2層は多量のローム粒を含む黒褐色土で自然堆積層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して、近世の土坑と思われる。

規模

下部施設

覆土

時期

土坑SK18（PLAN.43）

調査区の北西側、C－2地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに楕円形を呈している。平面規模は開口部で長径152cm、短径133cm、底部は長径120cm、短径97cm、深さ17cmを測る。長軸方向はN－73°－Eを示す。壁は緩く外傾をなしている。底面はほぼ平坦である。覆土は4層に分層でき、1層は多量のローム粒、ロームブロック、少量の炭化物、焼土粒を含む暗褐色土。2層は多量のローム粒、少量の炭化物、焼土粒を含む黒褐色土。3層は多量のローム粒、炭化物、焼土粒を含む黒褐色土。4層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黄橙色土で自然堆積層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して近世の土坑と思われる。

規模

覆土

時期

土坑SK34（PLAN.43）

調査区の南東、E－3地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに円形を呈する。規模は開口部で長径109cm、短径107cm。底部で長径90cm、短径88cm、深さ11cmを測る。壁は緩く外傾をなしている。底面は起伏があるもの

平面形

規模

のほぼ平坦で、一部硬化面が認められるものの、全体に軟弱である。下部施設はない。覆土は3層に分層され、1層は多量のローム粒子を含む褐色土。2層は多量のローム粒・炭化粒子を含む黒褐色土。3層は微量のローム粒子を含む暗褐色土でいずれも自然埋土である。出土遺物は検出されていないが、覆土の状態から近世土坑と思われる。　覆土

土坑SK36（PLAN.44）

調査区の中央北側、E－3地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに円形を呈している。平面規模は開口部で長径160cm、短径145cm、底部は長径103cm、短径91cm、深さ21cmを測る。底面はほぼ平坦である。壁は緩い外傾をなしている。覆土は5層に分層でき、1層は多量の炭化粒を含む暗褐色土。2層は微量の炭化粒を含む黒褐色土。3層は多量のローム粒、炭化粒を含む暗褐色土。4層は多量の炭化粒、焼土粒を含む炭化層。5層は微量のローム粒、炭化粒を含む黒褐色土で埋め戻し層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して近世の土坑と思われる。　規模　覆土

土坑SK47（PLAN.44）

調査区の東側、H－3地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに不正円形を呈する。規模は開口部で長径79cm、短径74cm。底部で長径50cm、短径45cm、深さ11cmを測る。壁は緩く外傾をなしている。底面は起伏があるもののほぼ平坦で、一部硬化面が認められるものの、全体に軟弱である。坑底施設はない。覆土は2層に分層され、1層は多量のローム粒子と炭化粒を含む黒褐色土。2層は多量のローム粒・ロームブロック・炭化粒を含む黒色土でいずれも自然埋土である。出土遺物は検出されていないが、覆土の状態から近世土坑と思われる。　平面形　規模　覆土

土坑SK55（PLAN.44）

調査区の南側、F－6地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに楕円形を呈している。平面規模は開口部で長径175cm、短径105cm、底部は長径153cm、短径63cm、深さは49cmを測る。長軸方向はN－52°－Wを示す。底面はほぼ平坦である。壁は緩く外傾をなしている。覆土は6層に分層でき、1層は少量のローム粒を含む黒褐色土。2層は多量のローム粒、ロームブロック　規模　覆土

を含む暗褐色土。3層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黒褐色土。4層は多量のローム粒、微量のロームブロックを含む黒色土。6層は多量のローム粒、ロームブロックを含む褐色土で埋め戻し層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して近世の土坑と思われる。

土坑SK56（PLAN.45）

規模　調査区の南側、F－6地区に位置する。平面形は開口部で不整楕円形を呈し、底部で隅丸方形を呈している。平面規模は開口部で長径72cm、短径59cm、底部で径43cm、深さは46cmを測る。長軸方向はN－47°－Wを示す。底面はほぼ平坦である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

覆土　覆土は4層に分層でき、1層は多量のローム粒、ロームブロックを含む褐色土。2層は多量のローム粒、少量のロームブロックを含む暗褐色土。3層は少量のローム粒、微量のロームブロックを含む黒褐色土。4層は多量のローム粒、ロームブロックを含む暗褐色土で埋め戻し層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して近世の土坑と思われる。

時期

土坑SK57（PLAN.45）

規模　調査区の南側、F－6地区に位置する。平面形は開口部で円形を呈し、底部は隅丸方形を呈している。平面規模は開口部で長径106cm、短径102cm、底部で径70cm、深さ19cmを測る。底面はほぼ平坦である。壁は緩く外傾をなしている。

覆土　覆土は2層に分層でき、1層は多量のローム粒を含む暗褐色土。2層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黄橙色土で埋め戻し層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して近世の土坑と思われる。

時期

土坑SK61（PLAN.45）

平面形　調査区の東側、G－4地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに不正円形を呈する。

規模　規模は開口部で長径108cm、短径107cm。底部で長径77cm、短径74cm、深さ40cmを測る。壁は急外傾をなしている。底面は起伏があるもののほぼ平坦で、一部硬化面が認められるものの、全体に軟弱である。下部施設はない。

覆土　覆土は4層に分層され、1層は多量のローム粒子・ロームブロックを含む暗褐色土。2層は多量のローム粒を含む黒褐色土。3層は微量のローム粒子・ロームブロックを含む暗褐色土。4層は多量のローム粒子を含む黄橙色

土でいずれも埋め戻し埋土である。出土遺物は検出されていないが、覆土の状態から近世土坑と思われる。

土坑SK64（PLAN.46）

調査区の東側、G－4地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに円形と思われるが、北東側の一部が攪乱のため、プランがはっきりしない。平面規模は開口部で径110cm、底部で82cm、深さ15cmを測る。底面はほぼ平坦で壁は緩く外傾をなしている。覆土は4層に分層され、1層は多量のローム粒・炭化粒を含む褐色土。2層は多量のローム粒・炭化粒を含む暗褐色土。3層は多量のローム粒、炭化粒を含む黒褐色土。4層は多量のローム粒・炭化粒を含む黒色土で埋め戻し層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して近世の土坑と思われる。

規模

覆土

土坑SK70（PLAN.46）

調査区の東側、H－6地区に位置している。平面形は開口部、底部ともに円形を呈している。平面規模は開口部で径102cm、底部で径80cm、深さ19cmを測る。底面はほぼ平坦で壁は緩い外傾をなしている。覆土は3層に分層され、1層は多量のローム粒、炭化粒を含む褐色土。2層は多量のローム粒・炭化粒、微量のロームブロックを含む黒色土。3層は多量のローム粒、ロームブロック、少量の炭化粒を含む黄橙色土で自然堆積層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して近世の土坑と思われる。

規模

覆土

土坑SK72（PLAN.46）

調査区のほぼ中央部、F－4地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに不正円形を呈する。規模は開口部で長径90cm、短径84cm。底部で長径79cm、短径74cm、深さ10cmを測る。壁は緩く外傾をなしている。底面は起伏があり、一部硬化面が認められるものの、全体に軟弱である。下部施設はない。覆土は3層に分層され、1層は多量のローム粒子を含む黄橙色土。2層は多量のローム粒・ロームブロックを含む暗褐色土。3層は多量のローム粒子・ロームブロックを含む黒褐色土でいずれも埋め戻し埋土である。出土遺物は検出されていないが、覆土の状態から近世土坑と思われる。

平面形

規模

覆土

ピット状遺構P01（PLAN.46）

規模　調査区のほぼ中央部、H－4地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに楕円形を呈する。規模は開口部で長径55cm、短径50cm。底部で長径18cm、短径9cm、深さ60cmを測る。ほぼ垂直に立ち上がり、底面は丸みを帯びている。

D．溝状遺構

溝状遺構SD01（PLAN.47）

規模　発掘調査区域の東側で検出された南北に走る溝である。標高は25.60～25.93mで、長さ42mから2mまでの大小4つに分断されているが本来は1条のものであったと考えられる。つまり、H4区からG5、6、7、8区を通りH9区に抜ける西側に膨らみを持つ緩やかな弧を描くと思われる。この溝状遺構の全長は1本と考えると116m以上である。また、上幅は60～120cmで、下幅は40～60cmを計り、深さは10cm、最深部で30cmであり、溝の断面は偏平したU字状を呈する。覆土の状態などから近世のものと思われる。

溝状遺構SD02（PLAN.47）

規模　この溝状遺構はSD01のさらに東側にあり、SD01と直行に近い形で存在する。標高は25.60～25.90mで18mと3mの2つの溝になっているが、これも本来はつながっていたと思われる。H5区からH6区をかすめ、16区へ至るほぼ直線の溝であり、全長は21.80m以上である。上幅は40～60cm、下幅は20～40cmを測り、深さは10～37cmである。また、溝の断面はSD01と同じく偏平のU字状である。やはり、覆土状態などからこの溝状遺構も近世のものと思われる。

（小川和博・鍛治文博）

2．遺物

土坑SK52（Fig.31）

副葬品として銭貨および数珠玉が出土している。

銭貨　1・2は銭貨で、やはり六道銭と呼ばれる銅貨である。2枚出土、いずれも『寛永通宝』である。完形品であるが、文字の錆化がやや進み、鋳上がりが良いにもかかわらず、文字の詳細な判読は困難である。なおすべて元禄10（1967）年以降に鋳造され、背面に「文」を持たない新寛永通宝である。

数珠玉　3～5は数珠玉である。3・4は木製数珠玉であるが、朽腐が進み、表面の摩

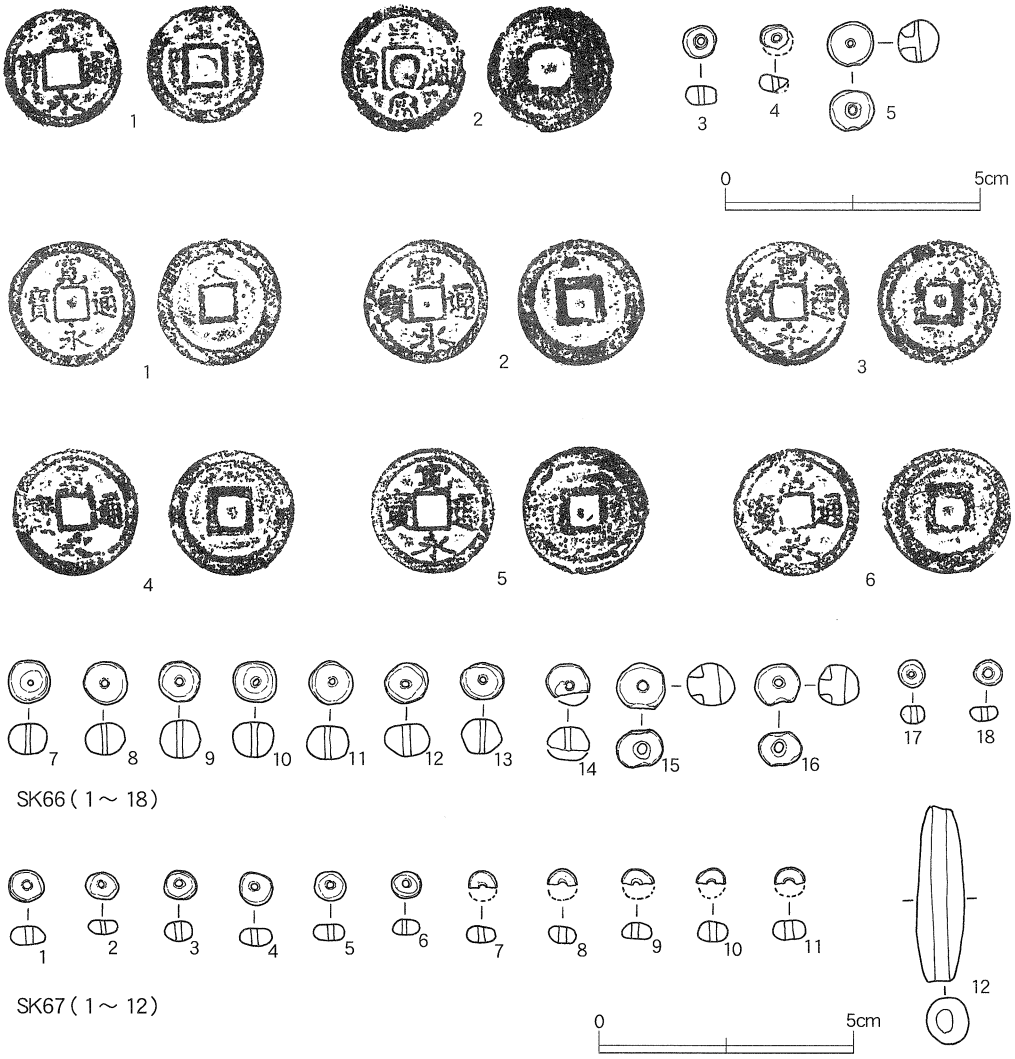


Fig.31　近世　土壙墓出土遺物（SK52・SK66・SK67）

耗が著しい。大きさは偏平を呈し、長径0.58cm、短径0.35cm、重量0.14gを測る。また5はガラス製数珠玉である。完存品で、大きさは長径0.82cm、短径0.71cmのほぼ球形である。また穴は中央部と横脇に穿孔されている。色調は白色透明である。

土坑SK66（Fig.31）

副葬品として銭貨として木製数珠玉およびガラス製数珠玉が出土している。

1～6は銭貨で、明らかに六道銭と呼ばれる銅貨で、6枚出土しすべて『寛永　　寛永通宝

通宝』である。いずれも完存品で、鋳上がりが良く、比較的鮮明な銭文を残す。1はいわゆる「文銭」で、寛文8（1668）年から鋳造され背面に「文」字を有する銭貨である。2～6は元禄10（1697）年以降に鋳造され、背面に「文」を持たない新寛永通宝である。

数珠玉　7～18は数珠玉で12点残存していた。紐等で通されていたものであろうが、出土地点に多少のばらつきがみられ、組み合わせ関係を明確にはできなかった。なお、数珠玉の材質は木製とガラスがあり、木製数珠玉の形状はおおよそ3種に分類できる。

a類　a類：径が長径0.78～0.80cm、短径が0.59～0.60cmで、比幅差が0.2cmの偏平を呈するもの（7・8）。

b類　b類：長径が径0.75～0.78cm、短径が0.65～0.70cmと比幅差が0.1cm以下のほぼ球形を呈するもの（9～14）。

a類・b類とも中央部に径1mm前後の孔を有するもので、7～12は金箔が施されていた。また重量は0.21～0.31gである。

c類　c類：球形を呈し、長径0.78～0.80cm、短径0.68cmとa・b類よりもやや大きく、重量も0.78～0.80gを測り、しかも孔が一方向だけではなく、横方向からも穿孔されているもの（15・16）である。

ガラス製　またガラス玉は2個出土している。長径0.45～0.5cm、短径0.33cm、重量わずかに0.1gとやや小さく偏平で、軽量である。また色調は灰白色（2.5Y8/2）を呈する。なお、これらの数珠玉から埋葬者の宗派、階級等を明確にはできなかった。

土坑SK67（Fig.31）

副葬品として数珠玉と管状土錘が出土している。

数珠玉　数珠玉は11点残存していた。やはり紐等で繋がれていたものであろうが、やや散点していた。材質はガラス製で、11点のうち6点が完存していた。大きさは長径0.495～0.61cm、短径0.28～0.37cmで、平均径は長径0.56cm、短径0.358cm。平均孔径0.16cm。平均重量は0.2gを測る。また色調は灰白色（2.5Y8/1～8/2）を呈する。

管状土錘　管状土錘は副葬品であるか不明であるが、数珠玉とほぼ同一地点から出土している。土師質で棒状品に粘土を巻き付けて紡錘状に成形したものである。先端部の一部を欠損しており、現存長3.45cm、幅0.88cm、重量2.49gを測る。

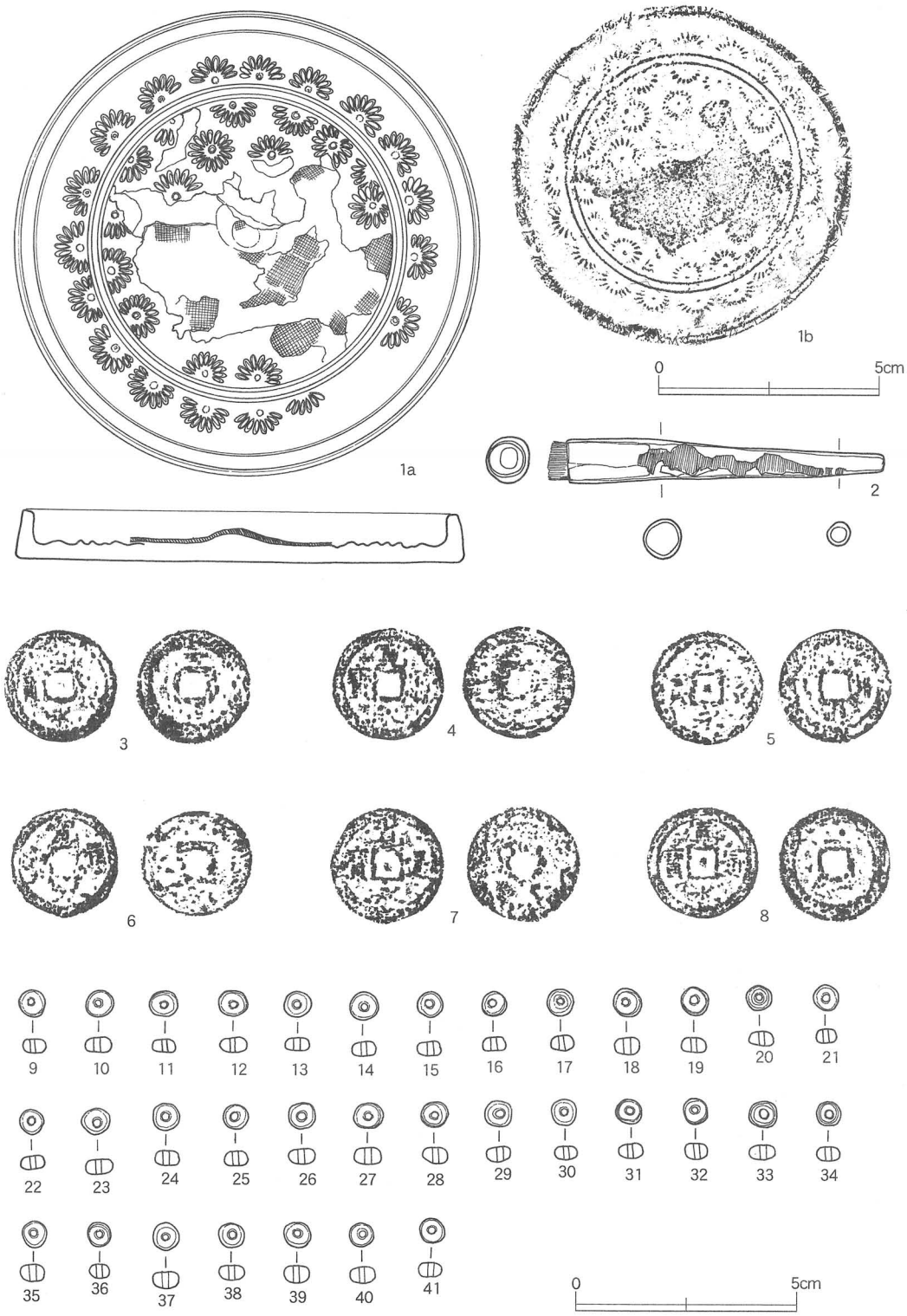


Fig.32　近世　土壙墓出土遺物（SK69）（1a.2～41（2/3）　1a（1/2））

土坑SK69（Fig.32）

副葬品として銅鏡、煙管、銭貨および数珠玉が出土している。

和鏡

1の銅鏡は頭部の脇もしくは下部に納められていたようである。また鏡の一部に錆着した布の断片がみられた。頭部の脇であり、錆着の状態から判断して遺体の着装品ではなく、鏡本体を包装もしくは袋の布と思われる。銅鏡は錆化が進み図柄の一部が不明であるが、完形品である。直径10.09cmの小型の紐鏡で、中央に紐を持ち、柄はない。縁は内傾式の中縁で、高さ1.06cm、幅0.48cmを測る。二重の界圏を巡らし、図柄は菊花を界圏に規則正しく配し、さらに内区一面に菊花を散らす。また錆着化により菊花以外の図柄は確認できなかった。なお、厚さ0.8cm、重量247gを測る。

中縁
界圏
菊花

煙管

2の煙管は遺体の上面により出土したものである。吸口部を完存している。真鍮製で肩がつかないもので、、ほぼ直線的に打ち出して作出されている。長さ7.2cm、羅宇接合部径0.98cm、吸口部径0.48cm、重量4.88gを測る。

吸口

銭貨

3～8は銭貨で、やはり六道銭と呼ばれる銅貨で、6枚出土しすべて『寛永通宝』である。いずれも完形品であるが、重ねて出土したため、文字の錆化が進み、鋳上がりが良いにもかかわらず、文字の詳細な判読は困難である。

なおすべて元禄10（1697）年以降に鋳造され、背面に「文」を持たない新寛永通宝である。

数珠玉

9～41はガラス製数珠玉である。33点出土し、すべて完存していた。大きさは長径0.532～0.638cm、短径0.301～0.390cmで、平均径は長径0.574cm、短径0.354cmで偏平を呈し、平均孔径0.165cm。平均重量は0.20gを測る。また色調は灰白色（2.5Y8/1～8/2）を呈する。（別表5）

（小川和博）

第7節　近現代

土坑SK01（PLAN.49）

調査区の北東側、B－1地区に位置する。平面形は開口部で不整楕円形、底部で不整長方形を呈する。規模は開口部で長径100cm、短径69cm、底部は長径46cm、短径32cm、深さ33cmを測る。長軸方位はN－12°－Wを示す。壁は、南北壁はほぼ垂直で、東西壁は緩く外傾をなしている。底面は全体的に鍋底状で平坦面はほとんどない。覆土は2層に分層でき、1層は多量のローム粒を含む褐色土。2層は少量のローム粒を含む暗褐色土でいずれも自然堆積層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して近代の土坑と思われる。

規模

覆土

土坑SK02（PLAN.49）

調査区の北西側、B－1地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに楕円形を呈する。規模は開口部で長径116cm、短径82cm、底部は長径96cm、短径48cm、深さ22cmを測る。長軸方位はN－67°－Eを示す。壁は緩く外傾をなしている。底面はほぼ平坦である。覆土は2層に分層でき、1層は多量のローム粒を含む褐色土。2層は多量のローム粒、ロームブロックを含む暗褐色土でいずれも自然堆積層である。出土遺物は検出されなかったが覆土の状態から判断して近代の土坑と思われる。

規模

覆土

土坑SK05（PLAN.50）

調査区の南東側、H－8地区に位置する。平面形は開口部で楕円形を呈し、底部は不整形を呈する。平面規模は開口部で長径304cm、短径197cm、底部で長径158cm、短径は北西側60cm、南東側88cmを測る。底部中央に径125×56cm、深さ北西側7cm、南東側16cmを測る。落ち込みと北東側に径55×23cm、深さ62cmを測る小ピットを持つ。長軸方位はN－30°－Wを示す。底部は鍋底状で平坦面はなく、壁は緩い外傾をなしている。覆土は10層に分層され、1層は多量のロームブロック、ローム粒を含む黄褐色土。2層は多量のロームブロックを含む褐灰色土。3層は微量のロームブロックを含む暗褐色土。4層は多量のローム粒を含む褐色土。5層は多量のロームブロック、ローム粒を含む褐灰色土。6層は微量のローム粒を含む黒褐色土。7層は多量のロームブロック、

規模

覆土

ローム粒を含む黄褐色土。8層は黄橙色土でロームブロック層。9層は多量のローム粒を含む黒色土。10層は黄橙色土でロームブロック層で東から西に流れ込んだ層である。出土遺物は縄紋土器（前期）が検出されていた。覆土の状態から判断して近代の土坑と思われる。

土坑SK21（PLAN.49）

規模　調査区の北西側、C－3、D－3地区に位置する。平面形は開口部で8の字状を呈し、底部は北西側、南東側に楕円形ピットをそれぞれ1個付随する。規模は開口部で長径205cm、短径101cm、底部は長径184cm、短径は北西側で100cm、南東側で82cm、深さ62cmを測る。長軸方位はN－36°－Wを示す。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は北西側が深く、中央～南東側が浅くなっている。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して、近代の土坑と思われる。

土坑SK22（PLAN.51）

規模　調査区の中央西側、D－4地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに楕円形を呈する。規模は開口部で長径159cm、短径102cm、底部で長径116cm、短径67cm、深さ78cmを測る。長軸方位はN－48°－Wを示す。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。南東側128cm、底部が南側123cmオー

覆土　バーハングしている。覆土は5層に分層でき、1層は多量のローム粒を含む褐色土。2層は多量のローム粒、ロームブロックを含む暗黄褐色土。3は多量のローム粒、少量のロームブロックを含む暗褐色土。4層は多量のローム粒、ロームブロックを含む暗褐色土。5層は多量のロームブロック、ローム粒を含む褐色土でいずれも自然堆積層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して、近代の土坑と思われる。

土坑SK23（PLAN.51）

調査区の中央北側、D－3地区に位置する。平面形は開口部で楕円形を呈し、南東側に長径57cm、短径40cmの方形張出し部を持つ。底面は楕円形を呈し、

規模　北側に楕円形ピット1個を付随する。規模は開口部で長径156cm、短径109cm、底部は長径115cm、短径81cm、深さは北側で78cm、南側で65cmを測る。長軸方位はN－71°－Wを示す。壁は緩く外傾をなしている。底面は、中央付近で

段差があるもののほぼ平坦である。覆土は2層に分層でき、1層は多量のローム粒、ロームブロックを含む褐色土。2層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黄橙色土でいずれも埋め戻し層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して、近代の土坑と思われる。　覆土

土坑SK24（PLAN.52）

調査区の中央北側、D－3地区に位置する。平面形は開口部で楕円形を呈し、底部は円形を呈する。規模は開口部で長径138cm、短径108cm、底部は長径75cm、短径73cm、深さ81cmを測る。長軸方位はN－30°－Wを示す。壁は北西壁は緩い外傾をなし、他はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。覆土は4層に分層でき、1層は多量のローム粒、ロームブロックを含む褐色土。2層は多量のローム粒、ロームブロックを含む暗褐色土。3層は多量のローム粒、ロームブロックを含む暗黄褐色土。4層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黒褐色土でいずれも埋め戻し層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して、近代の土坑と思われる。　規模　覆土

土坑SK25（PLAN.52）

調査区の中央西側、D－3、D－4地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに楕円形を呈する。平面規模は、開口部で長径160cm、短径148cm、底部で長径87cm、短径80cm、深さ80cmを測る。長軸方位はN－42°－Wを示す。壁は緩い外傾をなしている。底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分層でき、1層は多量のローム粒、ロームブロックを含む褐色土。2層は多量のローム粒、ロームブロックを含む暗黄褐色土。3層は少量のローム粒、ロームブロックを含む黒褐色土でいずれも埋め戻し層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して、近代の土坑と思われる。　規模　覆土

土坑SK30（PLAN.53）

調査区の中央西側、D－4地区に位置する。平面形は開口部で不整円形を呈し、底部は円形を呈する。平面規模は開口部で長径178cm、短径176cm、底部で長径59cm、短径57cm、深さ70cmを測る。底部は鍋底状でほぼ平坦面はなく、壁は緩く外傾をなしている。覆土は4層に分層でき、1層は多量のローム粒を含む褐色土。2層は多量のローム粒、少量のロームブロックを含む黒褐色土。　規模　覆土

3層は少量のローム粒を含む黒褐色土。4層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黄橙色土で自然堆積層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して近代の土坑と思われる。なお、北西側でSK31に切られている。

土坑SK32（PLAN.53）

規模　調査区の中央西側、D－4、E－4に位置する。平面形は開口部、底部とともに楕円形を呈している。平面規模は開口部で長径152cm、短径107cm、底部で長径71cm、短径65cm、深さ73cmを測る。東側に径44×26cmのテラスをもつ。長軸方位はN－84°－Eを示す。底部はほぼ平坦で、壁は緩い外傾をなしている。

覆土　覆土は3層に分層でき、1層は多量のローム粒を含む黒褐色土。2層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黄橙色土。3層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黒褐色土で埋め戻し層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して、近代の土坑と思われる。

土坑SK37（PLAN.54）

規模　調査区の北側、E－2地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに不整円形を呈する。平面規模は開口部で長径130cm、短径117cm、底部は長径84cm、短径78cm、深さ40cmを測る。長軸方位はN－10°－Wを示す。壁は緩い外傾をなしている。

下部施設　底面は鍋底状でピット以外はほぼ平坦である。下部施設として抗底中央に径17cm、深さ61cmの円形ピットが検出されている。

覆土　覆土は3層に分層でき、1層は多量のロームブロック、ローム粒を含む暗褐色土。2層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黒褐色土。3層は多量のローム粒を含む黒褐色土でいずれも自然堆積層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して、近代の土坑と思われる。

土坑SK39（PLAN.54）

規模　調査区の北西側、D－3地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに不整長方形を呈する。平面規模は開口部で長径190cm、短径72cm、底部は長径180cm、短径46cm、深さ11cmを測る。長軸方位はN－41°－Wを示す。壁はかなり緩い外傾をなしている。

覆土　底面は鍋底状でかなり凸凹がある。覆土は2層に分層でき、1層は多量のローム粒を含む褐色土。2層は多量のロームブロックを含む褐色土でいずれも自然堆積層である。出土遺物は検出されなかった

が、覆土の状態から判断して、近代の土坑と思われる。

土坑SK42（PLAN.55）

調査区の東側、G－4地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに楕円形を呈している。平面規模は開口部で長径153cm、短径138cm、底部は長径97cm、短径79cm、深さ61cmを測る。長軸方位はN－18°－Eを示す。底面はほぼ平坦で壁は緩い外傾をなしている。覆土は5層に分層され、1層は黄橙色土でロームブロック層である。2層は多量のロームブロックを含む黄褐色土。3層は多量のローム粒を含む暗褐色土。4層は多量のロームブロック、ローム粒を含む黒褐色土。5層は多量のロームブロック、ローム粒を含む褐色土で埋め戻し層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して、近代の土坑と思われる。

規模

覆土

土坑SK48（PLAN.55）

調査区の東側、H－3地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに円形を呈している。平面規模は開口部で径112cm、底部で長径82cm、短径78cm、深さ10cmを測る。底面はほぼ平坦で壁は緩い外傾をなしている。覆土は3層に分層され、1層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黒褐色土。2層は多量のローム粒を含む暗褐色土。3層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黄橙色土で埋め戻し層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して、近代の土坑と思われる。

規模

覆土

土坑SK59（PLAN.55）

調査区の南側、F－5地区に位置する。平面形は開口部、底部ともに不整方形を呈している。平面規模は開口部で長径130cm、短径73cm、底部は長径78cm、短径50cm、深さ48cmを測る。長軸方位はN－46°－Eを示す。底面はほぼ平坦で、壁は緩い外傾をなしている。覆土は5層に分層でき、1層は多量のローム粒、ロームブロックを含む褐色土。2層は多量のローム粒を含む黒褐色土。3層は多量のローム粒、ロームブロックを含む暗褐色土。4層は多量のローム粒、ロームブロックを含む黒褐色土。5層は多量のロームブロック、ローム粒を含む褐色土で埋め戻し層である。出土遺物は検出されなかったが、覆土の状態から判断して、近代の土坑と思われる。（小川和博）

規模

覆土

第4章　結語

今回、田村・沖宿遺跡群の六十塚遺跡の埋蔵文化財の発掘調査において、検出された遺構は、旧石器時代の集石遺構1ヶ所と、縄紋時代早期末葉～中期前半の遺構40基（陥し穴状遺構10基、底面の一部が焼けている土坑5基、その他の土坑21基、集石遺構1基、風倒木3基）、弥生時代後期の遺構6基（竪穴住居跡4軒、竪穴状遺構2基）、古墳時代前期の竪穴住居跡1軒、奈良時代の遺構2基（竪穴住居1軒、竪穴状遺構1基）、近世の遺構25基（掘立柱建物跡2軒、土壙墓4基、その他の土坑17基、溝状遺構2条）、近現代の土坑16基を数える。これら旧石器時代～近現代の総遺構数は91基になる。出土した遺物としては、旧石器時代の石器、縄紋時代早期・前期・中期の縄紋土器、縄紋時代石器、弥生時代後期の弥生土器、同時期の紡錘車・土錘・銅鏃・石英の剥片、古墳時代前期の土師器、奈良時代の土師器・須恵器、土玉、近世の古銭・ガラス玉・銅鏡・キセル・人骨などが検出されている。

遺構

遺物

これらの検出された遺構の中で、弥生時代後期の集落が、この六十塚遺跡の中で最も景観を整えた時期であり、おそらく、一時期の集落であったと考えられ、また出土遺物の中に銅鏃及び多量の石英の剥片が検出されていることからも、石器関係の生産関連遺跡の可能性が高く、この集落内の2基の竪穴状遺構も工房関係の作業小屋的な要素が推定される。また、その後の古墳時代前期、奈良時代でも1軒ほどの住居跡か検出されていず、特に古墳時代前期の時期は“離れ”的な住居の可能性が高く、集落自体は構成されていない。奈良時代も“離れ”的な要素があるが、竪穴状遺構の検出状況をみるかぎり、これから住居をつくろうとする以前に廃棄した作りかけの住居の可能性があり、これから集落を構成して遺構とした時点で何らかの理由で廃絶した集落ではないかとも考えられる。近世期の2軒の掘立柱建物跡は、土壙墓に伴う墓地の“守り屋”的な小屋であった可能性もある。

工房址

守り屋

最後に、現地作業から整理作業そして、報告書刊行に際して、関係機関及び個人から多大な御協力・御指導を賜ったことに記して謝意を表し、筆を擱くこととしたい。

（大渕淳志）

別　　表

1　縄紋土器観察表
2　弥生土器観察表
3　土師器観察表
4　土師器・須恵器観察表
5　銭貨計測値

別表1　**縄紋土器観察表**

番号	出土地点	器種	部位	文様・整形 口縁部	文様・整形 胴部	文様・整形 底部	色調	胎土	焼成	器厚	備考
1	SK33	深鉢	口縁	刺突＋ナデ	―――	―――	7.5YR7/4	雲母・石英	良	0.69	子母口
2	SK33	深鉢	胴部	―――	ナデ	―――	7.5YR8/8	繊維を含む	やや良	0.98	子母口
3	SK74	深鉢	胴部	―――	ナデ	―――	7.5YR8/6	長石を含む	良	0.90	子母口
4	SK23	深鉢	胴部	―――	ナデ	―――	7.5YR5/4	金雲母・石英	良	0.85	子母口
5	SK35	深鉢	胴部	―――	条痕	―――	7.5YR7/8	繊維を含む	やや良	1.09	茅山
6	SK35	深鉢	胴部	―――	条痕	―――	7.5YR7/6	繊維を含む	やや良	1.02	茅山
7	SK73	深鉢	胴部	―――	車LR＋竹管	―――	7.5YR4/8	繊維を含む	やや良	0.90	関山
8	SK73	深鉢	胴部	―――	単節LR	―――	7.5YR7/4	繊維を含む	やや良	0.95	関山
9	SK73	深鉢	胴部	―――	羽状・単LR	―――	7.5YR6/4	繊維を含む	やや良	1.05	関山
10	SK73	深鉢	胴部	―――	羽状・単RL	―――	7.5YR7/4	繊維を含む	やや良	1.01	関山
11	SK73	深鉢	胴部	―――	単節LR	―――	7.5YR6/5	繊維を含む	やや良	0.97	関山
12	SK73	深鉢	胴部	―――	羽状・単RL	―――	7.5YR4/3	繊維を含む	やや良	0.84	関山
13	SK73	深鉢	胴部	―――	単節LR	―――	7.5YR4/2	繊維を含む	やや良	0.85	関山
14	SK73	深鉢	胴部	―――	単節LR	―――	7.5YR7/6	繊維を含む	やや良	0.83	関山
15	SK73	深鉢	胴部	―――	単節LR	―――	7.5YR7/4	繊維を含む	やや良	0.92	関山
16	SK73	深鉢	胴部	―――	―――	―――	7.5YR8/6	繊維を含む	やや良	0.80	関山
17	SK75	深鉢	胴部	―――	沈線	羽状・単LR	7.5YR5/6	長石を含む	良	0.78	黒浜
18	SK79	深鉢	口縁	竹管	―――	―――	7.5YR5/6	繊維を含む	やや良	0.65	黒浜
19	SK83	深鉢	口縁	無節貝殻腹縁	―――	―――	7.5YR8/6	長石を含む	良	0.85	前期末
20	SK14	深鉢	胴部	―――	単節RL沈線	―――	7.5YR5/6	雲母・長石	良	0.98	加曽利E
21	SK14	深鉢	胴部	―――	単節LR	―――	7.5YR5/6	長石を含む	良	0.99	加曽利E
22	SI03	深鉢	口縁	沈線＋刺突	―――	―――	7.5YR7/2	長石・石英	良	0.70	田戸下層
23	SI03	深鉢	胴部	―――	沈線＋刺突	―――	7.5YR7/2	長石・石英	良	0.87	田戸下層
24	SI03	深鉢	胴部	―――	沈線	―――	7.5YR7/2	長石・石英	良	0.90	田戸下層
25	SI03	深鉢	胴部	―――	沈線	―――	7.5YR7/2	長石・石英	良	0.89	田戸下層
26	SI03	深鉢	胴部	―――	沈線＋刺突	―――	7.5YR7/2	長石・石英	良	0.77	田戸下層
27	SI03	深鉢	胴部	―――	沈線	―――	7.5YR7/2	長石・石英	良	0.75	田戸下層
28	SI03	深鉢	口縁	沈線	―――	―――	7.5YR6/8	長石・石英	良	0.77	田戸下層
29	F8G	深鉢	胴部	―――	ナデ＋刺突	―――	7.5YR6/1	長石・石英	良	0.97	子母口
30	G8G	深鉢	口縁	―――	―――	―――	7.5YR7/2	繊維を含む	やや良	0.91	関山
31	表採	深鉢	胴部	―――	単節RL	―――	7.5YR7/3	繊維を含む	やや良	1.22	関山
32	H7G	深鉢	胴部	―――	単節L	―――	7.5YR6/6	繊維を含む	やや良	0.95	関山
33	G7G	深鉢	胴部	―――	単節L	―――	7.5YR8/6	繊維を含む	やや良	0.82	関山
34	H7G	深鉢	胴部	―――	単節R	―――	7.5YR8/3	繊維を含む	やや良	0.79	関山

番号	出土地点	器種	部位	文様・整形 口縁部	文様・整形 胴部	文様・整形 底部	色調	胎土	焼成	器厚	備考
35	D5G	深鉢	胴部	――	異節LR	――	7.5YR7/6	繊維を含む	やや良	1.15	関山
36	G7G	深鉢	胴部	――	単節LR	――	7.5YR7/6	繊維を含む	やや良	1.01	関山
37	H4G	深鉢	胴部	――	異節LR	――	7.5YR8/4	繊維を含む	やや良	0.88	黒浜
38	H6G	深鉢	胴部	――	沈線	――	7.5YR8/6	繊維を含む	やや良	1.06	黒浜
39	H9G	深鉢	胴部	――	撚糸R	――	7.5YR8/6	石英・長石	良	0.80	諸磯a
40	H9G	深鉢	胴部	――	単節RL	――	7.5YR5/8	長石を含む	良	0.75	諸磯a
41	E6G	深鉢	胴部	――	貝殻腹縁	――	7.5YR8/6	石英を含む	良	0.87	浮島
42	H5G	深鉢	胴部	――	単節LR	――	7.5YR4/1	長石を含む	良	0.70	前期末
43	G7G	深鉢	胴部	――	無節L	――	7.5YR8/2	石英・長石	良	0.63	前期末
44	H7G	深鉢	胴部	――	無節L	――	7.5YR8/2	石英を含む	良	0.78	前期末
45	H9G	深鉢	胴部	――	無節L	――	7.5YR8/4	長石を含む	良	0.77	前期末
46	C3G	深鉢							良		阿玉台
47	G5G	深鉢	胴部	――	ナデ	――	7.5YR6/6	雲母・石英	良	0.85	阿玉台
48	H9G	深鉢	胴部	――	無節L	――	7.5YR8/4	石英・長石	良	0.73	阿玉台
49	D4G	深鉢	口縁	――	――	――	7.5YR6/3	金雲母・石英	良	1.15	阿玉台
50	H7G	深鉢	底部	――	――	――	7.5YR7/6	石英・雲母	良	0.94	阿玉台
51	H5G	深鉢	口縁	――	――	――	7.5YR6/8	長石を含む	良	1.32	加曽利E
52	H7G	深鉢	口縁	ナデ	――		7.5YR6/2	雲母・石英	良	1.05	加曽利E
53	表採	深鉢	口縁	――	――	網代痕	7.5YR7/6	石英・長石	良	1.00	加曽利E
54	H4G	深鉢	口縁	沈線	――	――	7.5YR7/2	長石を含む	良	0.72	加曽利E
55	表採	深鉢	口縁	隆帯＋単節	――	――	7.5YR6/8	雲母・石英	良	1.08	加曽利E
56	SI03	深鉢	口縁	隆帯＋沈線	刺突	――	7.5YR7/8	石英・長石	良	1.19	加曽利E
57	G5G	深鉢	胴部	微隆帯＋単節	複節LR	――	7.5YR8/6	石英・雲母	良	0.98	加曽利E
58	G5G	深鉢	胴部	隆帯＋沈線	単節RL＋沈線	――	7.5YR7/6	石英を含む	良	1.05	加曽利E
59	SX03	深鉢	胴部	――	単節RL＋沈線	――	7.5YR6/4	石英・長石	良	1.01	加曽利E
60	G5G	深鉢	胴部	――	単節RL＋沈線	――	7.5YR7/1	石英を含む	良	1.15	加曽利E
61	G5G	深鉢	胴部	――	単節LR＋沈線	――	7.5YR7/6	石英・長石	良	0.86	加曽利E
62	SX03	深鉢	胴部	――	単節RL＋沈線	――	7.5YR6/6	雲母・長石	良	0.92	加曽利E
63	SI03	深鉢	胴部	――	無節L	――	7.5YR8/6	石英を含む	良	1.13	加曽利E
64	SX03	深鉢	胴部	――	条線	――	7.5YR8/6	長石を含む	良	1.01	加曽利E
65	H4G	深鉢	口縁	――	条線＋隆帯	――	7.5YR7/6	長石を含む	良	1.41	加曽利E
66	SX03	深鉢	胴部	――	単節RL	――	7.5YR7/4	雲母・石英	良	1.00	加曽利E
67	G4G	深鉢	胴部	――	単節LR	――	7.5YR7/8	石英を含む	良	0.89	加曽利E
68	SX03	深鉢	胴部	――	単節RL	――	7.5YR7/4	雲母・石英	良	1.00	加曽利E
69	E6G	深鉢	胴部	――	単節LR	――	7.5YR8/6	長石を含む	良	0.85	加曽利E
70	H9G	深鉢	胴部	――	無節R	――	7.5YR8/8	石英・長石	良	0.82	加曽利E

番号	出土地点	器種	部位	文様・整形 口縁部	文様・整形 胴部	文様・整形 底部	色調	胎土	焼成	器厚	備考
71	G4G	深鉢	胴部	――	単節LR	――	7.5YR8/6	長石を含む	良	0.83	加曽利E
72	SX03	深鉢	胴部	――	単節LR	――	7.5YR8/4	石英・長石	良	1.05	加曽利E
73	H9G	深鉢	胴部	――	無節L	――	7.5YR8/2	石英を含む	良	0.78	加曽利E
74	SX03	深鉢	胴部	――	単節LR	――	7.5YR6/6	長石を含む	良	0.86	加曽利E
75	SX03	深鉢	胴部	――	単節LR	――	7.5YR8/4	石英・長石	良	1.05	加曽利E
76	表採	深鉢	胴部	――	単節LR+沈線	――	7.5YR8/4	石英を含む	良	0.70	加曽利E
77	表採	深鉢	口縁	――	――	――	7.5YR8/4	石英を含む	良	1.07	堀之内1
78	表採	深鉢	口縁	――	――	――	7.5YR7/4	石英を含む	良	0.86	堀之内1

別表2　**弥生土器観察表**

SI01

番号	器種	部位	文様・整形 口唇部	文様・整形 口縁部	文様・整形 胴部	文様・整形 底部	色調	胎土	焼成	器厚	備考
1	甕	完形	付加R $\frac{L}{L}$+$\frac{L}{L}$	刻み(縄紋)	櫛歯+付加R $\frac{L}{L}$+$\frac{L}{L}$	木葉痕	7.5YR7/4	石英を含む	良	0.85	定形
2	甕	口縁	単RL		――	――	7.5YR8/6	泥岩を含む	良	0.76	
3	甕	口縁	――	単RL	――	――	7.5YR2/1	長石を含む	良	0.46	
4	甕	頸部	――	沈線	――	――	7.5YR4/1	石英長石	良	0.60	
5	甕	頸部	――	櫛歯+付加L $\frac{R}{R}$+$\frac{R}{R}$	――	――	7.5YR /1	長石石英	良	0.60	
6	甕	頸部	――	ナデ	――	――	7.5YR3/1	長石石英	良	0.59	
7	甕	頸部	――	付加RL $\frac{L}{L}$+$\frac{L}{L}$	――	――	7.5YR7/2	石英を含む	良	0.60	
8	甕	胴部	――	――	付加L $\frac{R}{R}$+$\frac{R}{R}$	――	7.5YR3/1	石英長石	良	0.78	
9	甕	胴部	――	――	付加R $\frac{L}{L}$+$\frac{L}{L}$	――	7.5YR7/8	長石を含む	良	0.68	
10	甕	胴部	――	――	付加L $\frac{R}{R}$+$\frac{R}{R}$	――	7.5YR7/5	長石石英	良	0.76	
11	甕	胴部	――	――	付加L $\frac{R}{R}$+$\frac{R}{R}$	――	7.5YR6/3	長石石英	良	0.68	
12	甕	胴部	――	――	付加L $\frac{R}{R}$+$\frac{R}{R}$	――	7.5YR3/1	長石石英	良	0.82	
13	甕	胴部	――	――	付加R $\frac{L}{L}$+$\frac{L}{L}$	――	7.5YR7/4	長石を含む	良	0.68	
14	甕	胴部	――	――	付加L $\frac{R}{R}$+$\frac{R}{R}$	――	7.5YR2/1	石英を含む	良	0.49	
15	甕	胴部	――	――	付加L $\frac{R}{R}$+$\frac{R}{R}$	――	7.5YR7/6	石英を含む	良	0.50	
16	甕	胴部	――	――	付加L $\frac{R}{R}$+$\frac{R}{R}$	――	7.5YR5/8	長石を含む	良	0.63	
17	甕	胴部	――	――	付加R $\frac{L}{L}$+$\frac{L}{L}$	――	7.5YR6/7	石英を含む	良	0.65	
18	甕	胴部	――	――	付加L $\frac{R}{R}$+$\frac{R}{R}$	――	7.5YR7/2	石英を含む	良	0.64	
19	甕	胴部	――	――	付加L $\frac{R}{R}$+$\frac{R}{R}$	――	7.5YR4/4	石英を含む	良	0.53	
20	甕	底部	――	――	――	ナデ	7.5YR4/1	石英長石	良	0.87	
21	甕	底部	――	――	――	ナデ	7.5YR7/6	石英を含む	良	0.73	
22	甕	底部	――	――	――	木葉痕	7.5YR4/1	石英長石	良	0.81	

SI02

番号	器種	部位	文様・整形 口唇部	口縁部	胴部	底部	色調	胎土	焼成	器厚	備考
1	甕	口縁	付加R{L/L+L/L}	付加R{L/L+L/L}	――	――	7.5YR7/4	長石を含む	良	0.65	
2	甕	口縁	――	付加R{L/L+L/L}	――	――	7.5YR6/3	石英を含む	良	0.73	
3	甕	頸部	――	――	沈線	――	7.5YR5/4	長石石英	良	0.55	
4	甕	頸部	――	――	沈線	――	7.5YR7/6	長石を含む	良	0.64	
5	甕	頸部	――	――	沈線	――	7.5YR5/3	石英長石	良	0.59	
6	甕	頸部	――	――	櫛歯	――	7.5YR/1	石英雲母	良	0.63	
7	甕	胴部	――	――	付加R{L/L+L/L}	――	7.5YR7/2	長石を含む	良	0.48	
8	甕	胴部	――	――	付加L{R/R+R/R}	――	7.5YR7/4	長石石英	良	0.49	スス付着
9	甕	胴部	――	――	付加L{R/R+R/R}	――	5YR2/1	石英長石	良	0.61	
10	甕	胴部	――	――	付加L{R/R+R/R}	――	7.5YR1.7/1	石英長石	良	0.59	
11	甕	胴部	――	――	付加R{L/L+L/L}	――	7.5YR6/8	石英長石	良	0.89	
12	甕	底部	――	――	付加R{L/L+L/L}	木葉痕	7.5YR7/4	石英長石	良	1.24	

SI03

番号	器種	部位	口唇部	口縁部	胴部	底部	色調	胎土	焼成	器厚	備考
1	甕	完形	付加R{L/L+L/L}	付加R{L/L+L/L} 刻み	櫛歯+付加R{L/L+L/L}	木葉痕	7.5YR6/8	石英・海綿骨針	良	0.82	
2	甕	上半	付加R{L/L+L/L}	付加R{L/L+L/L} 刻み	櫛歯+付加R{L/L+L/L}	――	7.5YR2/1	石英長石	良	0.63	
3	甕	口縁	刻目	付加L{R/R+R/R}+刻目	――	――	7.5YR1/6	石英長石	良	0.60	
4	甕	口縁	付加R{L/L+L/L}	付加R{L/L+L/L}+刻目	――	――	7.5YR4/1	長石石英	良	0.57	
5	甕	口縁	――	付加R{L/L+L/L}+刻目	――	――	7.5YR5/4	長石石英	良	0.65	
6	甕	口縁	付加R{L/L+L/L}	付加R{L/L+L/L}+沈線	――	――	7.5YR1.7/1	長石	良	0.51	
7	甕	口縁	付加R{L/L+L/L}	付加R{L/L+L/L}+刻目	――	――	7.5YR8/6	石英	良	0.64	
8	甕	口縁	付加R{L/L+L/L}	付加R{L/L+L/L}	――	――	7.5YR7/4	長石雲母	良	0.64	
9	甕	口縁	付加R{L/L+L/L}	付加R{L/L+L/L}	――	――	7.5YR7/3	石英長石	良	0.55	
10	甕	口縁	付加L{R/R+R/R}	刺突	――	――	7.5YR3/1	長石	良	0.59	
11	甕	口縁	――	付加R{L/L+L/L}+刻目+櫛歯	――	――	7.5YR6/4	長石石英	良	0.78	
12	甕	口縁	――	付加R{L/L+L/L}+刻目	――	――	7.5YR7/6	長石	良	0.77	
13	甕	口縁	――	付加R{L/L+L/L}+刻目	――	――	7.5YR6/6	石英長石	良	0.62	
14	甕	口縁	――	付加L{R/R+R/R}	――	――	7.5YR1.7/1	長石	良	0.76	
15	甕	口縁	――	付加R{L/L+L/L}+刻目+櫛歯	――	――	7.5YR7/4	長石石英	良	0.71	
16	甕	頸部	――	付加R{L/L+L/L}+沈線+櫛歯	――	――	7.5YR6/6	長石石英	良	0.67	
17	甕	頸部	――	付加L{L/L+L/L}+沈線+櫛歯	――	――	7.5YR3/1	長石	良	0.65	スス付着
18	甕	頸部	――	沈線+櫛歯	――	――	7.5YR7/8	長石	良	0.71	
19	甕	頸部	――	沈線+櫛歯	――	――	7.5YR4/4	石英長石	良	0.72	
20	甕	頸部	――	櫛歯	――	――	7.5YR6/3	長石	良	0.77	
21	甕	頸部	――	櫛歯	――	――	7.5YR3/1	長石石英	良	0.76	
22	甕	頸部	――	櫛	――	――	7.5YR6/8	石英長石	良	0.87	

Tab.8

SI02

番号	器種	部位	文様・整形 口唇部	口縁部	胴部	底部	色調	胎土	焼成	器厚	備考
23	甕	頸部	――	沈線	――	―	7.5YR6/4	石英長石	良	0.65	
24	甕	頸部	――	櫛歯	――	―	7.5YR6/3	石英長石	良	0.77	
25	甕	頸部	――	櫛歯	――	―	7.5YR6/8	長石	良	0.65	
26	甕	頸部	――	付加R{L/L+L/L+櫛歯	――	―	7.5YR6/3	石英長石	良	0.60	
27	甕	頸部	――	櫛歯	――	―	7.5YR6/6	長石	良	0.55	
28	甕	頸部	――	櫛歯	――	―	7.5YR7/6	石英長石	良	0.71	
29	甕	胴部	――	――	付加R{L/L+L/L	―	7.5YR4/2	石英	良	1.00	
30	甕	胴部	――	――	付加L{L/L+L/L	―	7.5YR8/6	長石石英	良	0.69	
31	甕	胴部	――	――	付加R{L/L+L/L	―	7.5YR8/6	石英長石	良	1.01	
32	甕	胴部	――	――	付加R{L/L+L/L	―	7.5YR8/4	長石	良	0.55	
33	甕	胴部	――	――	付加R{L/L+L/L	―	7.5YR8/6	長石石英	良	0.69	
34	甕	胴部	――	――	単RL	―	7.5YR7/6	石英長石	良	0.61	
35	甕	胴部	――	――	付加R{L/L+L/L	―	7.5YR8/4	石英長石	良	0.60	
36	甕	胴部	――	――	付加R{L/L+L/L（浅）	―	7.5YR8/6	石英長石	良	0.81	
37	甕	胴部	――	――	付加R{L/L+L/L	―	7.5YR8/8	石英長石	良	0.80	
38	甕	胴部	――	――	単RL	―	7.5YR3/1	石英	良	1.00	
39	甕	胴部	――	――	付加R{L/L+L/L	―	5YR7/8	石英長石	良	0.50	
40	甕	胴部	――	――	付加L{R/R+R/R（浅）	―	7.5YR8/4	石英長石	良	0.62	
41	甕	胴部	――	――	付加R{L/L+L/L	―	5YR7/6	石英長石	良	0.65	
42	甕	胴部	――	――	付加R{L/L+L/L	―	7.5YR8/6	長石	良	0.66	
43	甕	胴部	――	――	付加R{L/L+L/L	―	7.5YR4/1	長石	良	0.67	
44	甕	胴部	――	――	付加L{R/R+R/R	―	7.5YR8/8	長石	良	0.83	
45	甕	胴部	――	――	付加L{R/R+R/R	―	7.5YR8/4	石英	良	0.75	
46	甕	胴部	――	――	付加L{R/R+R/R	―	10YR8/4	石英長石	良	0.86	
47	甕	胴部	――	――	付加R{L/L+L/L	―	7.5YR8/6	石英長石	良	0.79	
48	甕	胴部	――	――	付加R{L/L+L/L	―	7.5YR4/1	長石	良	0.90	
49	甕	胴部	――	――	付加L{R/R+R/R	―	7.5YR3/1	長石石英	良	0.69	
50	甕	胴部	――	――	付加L{R/R+R/R	―	10YR3/1	石英長石	良	0.55	
51	甕	胴部	――	――	付加R{L/L+L/L	―	7.5YR5/1	石英長石	良	0.75	
52	甕	胴部	――	――	付加R{L/L+L/L	―	7.5YR7/4	長石	良	0.50	
53	甕	胴部	――	――	付加L{R/R+R/R	―	5YR7/8	石英雲母	良	0.58	
54	甕	胴部	――	――	付加R{L/L+L/L	―	7.5YR8/3	石英	良	0.63	
55	甕	胴部	――	――	付加L{R/R+R/R	―	5YR8/4	長石	良	0.58	
56	甕	胴部	――	――	付加R{L/L+L/L	―	7.5YR7/6	長石石英	良	0.75	
57	甕	胴部	――	――	単RL	―	7.5YR8/6	石英長石	良	0.77	
58	甕	胴部	――	――	単LR	―	5YR8/4	長石	良	0.82	

SI03

番号	器種	部位	文様・整形 口唇部	口縁部	胴部	底部	色調	胎土	焼成	器厚	備考
59	甕	胴部	――	――	単LR	―	7.5YR7/4	石英長石	良	0.79	
60	甕	底部	――	――	付加R｝＋	―	7.5YR7/2	長石	良	1.06	
61	甕	底部	――	――	付加R｝＋	―	7.5YR7/2	長石	良	0.63	
62	甕	底部	――	――	ナデ	ナデ	7.5YR3/1	長石	良	0.83	
63	甕	底部	――	――	付加L｝＋	木葉痕	5YR7/4	長石	良	0.67	
64	甕	底部	――	――	付加R｛L/L＋L/L	木葉痕	7.5YR7/4	長石石英	良	0.77	
65	甕	底部	――	――	ナデ	木葉痕	7.5YR8/6	石英長石	良	0.71	
66	甕	底部	――	――	ナデ	木葉痕	7.5YR7/3	長石	良	0.77	
67	甕	底部	――	――	ナデ	木葉痕	5YR8/4	長石	良	0.78	
68	甕	底部	――	――	ナデ	木葉痕	7.5YR6/3	石英長石	良	0.55	
69	甕	底部	――	――	付加R｛L/L＋L/L	木葉痕	7.5YR6/2	石英長石	良	0.92	

SI04

1	甕	口縁	単RL	単RL	――	―	7.5YR3/1	石英長石	良	0.62	
2	甕	口縁	付加R｛L/L＋L/L	付加R｛L/L＋L/L	――	―	7.5YR4/1	チャート	やや良	0.53	スス付着
3	甕	口縁	付加R｛L/L＋L/L	付加R｛L/L＋L/L	――	―	7.5YR8/6	石英長石	良	0.65	
4	甕	口縁	付加R｛L/L＋L/L	付加R｛L/L＋L/L	――	―	7.5YR8/2	長石	良	0.65	
5	甕	胴部	――	――	沈線＋付加R｛L/L＋L/L	―	7.5YR3/1	石英長石	良	0.51	スス付着
6	甕	頸部	――	――	付加R｛L/L＋L/L	―	7.5YR3/1	石英長石	良	0.60	
7	甕	頸部	――	――	沈線	―	7.5YR7/8	石英長石	やや良	0.72	
8	甕	頸部	――	――	櫛描文	―	7.5YR5/8	長石	良	0.71	
9	甕	胴部	――	――	付加L｛R/R＋R/R	―	7.5YR8/6	石英長石	良	0.65	
10	甕	胴部	――	――	単RL	―	7.5YR3/1	長石	良	0.74	
11	甕	胴部	――	――	付加R｛L/L＋L/L	―	7.5YR7/4	石英雲母	良	0.72	
12	甕	胴部	――	――	単RL	―	7.5YR8/3	長石	良	0.58	
13	甕	胴部	――	――	付加R｛L/L＋L/L	―	7.5YR7/5	石英長石	良	0.52	
14	甕	胴部	――	――	単RL	―	7.5YR5/8	石英雲母	良	0.90	
15	甕	胴部	――	――	付加R｛L/L＋L/L	―	7.5YR4/1	石英長石	良	0.52	
16	甕	胴部	――	――	付加R｛L/L＋L/L	―	7.5YR7/4	石英長石	良	0.57	スス付着
17	甕	胴部	――	――	単RL	―	7.5YR8/6	石英長石	良	0.83	
18	甕	胴部	――	――	付加R｛L/L＋L/L	―	7.5YR7/4	長石	良	0.80	スス付着
19	甕	胴部	――	――	単RL	―	7.5YR3/1	石英長石	良	0.70	
20	甕	底部	――	――	付加R｛L/L＋L/L	―	7.5YR2/1	石英長石	良	0.75	
21	甕	底部	――	――		木葉痕	7.5YR2/1	石英長石	良		

SI05

1	甕	下半	――	――	付加L｛R/R＋R/R	木葉痕	7.5YR5/1	石英	良	0.78	

SX01

番号	器種	部位	文様・整形 口唇部	口縁部	胴部	底部	色調	胎土	焼成	器厚	備考
1	甕	口縁	付加	刻目	ハケ目+沈線	—	7.5YR5/1	長石	良	0.58	
2	甕	頸部	—	—	櫛歯	—	7.5YR3/1	石英長石	良	0.63	
3	甕	胴部	—	—	櫛歯+付加	—	7.5YR5/1	石英雲母	良	0.60	
4	甕	口縁	刻目	—	ハケ目+条線	—	5YR7/6	雲母長石	良	0.80	
5	甕	口縁	—	付加R{L/L+L/L	櫛歯	—	7.5YR5/1	長石	良	0.65	
6	甕	頸部	—	—	櫛歯	—	7.5YR3/1	石英長石	良	0.68	
7	甕	頸部	—	—	櫛歯	—	5YR7/4	雲母石英	良	0.53	
8	甕	胴部	—	—	沈線	—	5YR7/4	石英長石	良	0.60	
9	甕	頸部	—	—	付加R{L/L+L/L	—	7.5YR3/1	長石	良	0.49	
10	甕	胴部	—	—	単LR	—	5YR3/4	雲母石英	良	0.75	
11	甕	胴部	—	—	付加R{L/L+L/L	—	7.5YR5/2	長石	良	0.97	
12	甕	胴部	—	—	付加R{L/L+L/L	—	7.5YR/1	石英長石	良	0.62	
13	甕	胴部	—	—	付加R{L/L+L/L	—	7.5YR7/6	石英長石	良	0.85	
14	甕	胴部	—	—	付加R{L/L+L/L	—	7.5YR7/6	石英長石	良	0.57	
15	甕	胴部	—	—	付加R{L/L+L/L	—	7.5YR8/8	石英	良	0.65	
16	甕	胴部	—	—	付加R{L/L+L/L	ナデ	7.5YR3/1	雲母石英	良	0.62	
17	甕	胴部	—	—	付加R{L/L+L/L	木葉痕	7.5YR3/1	長石	良	0.65	
18	甕	胴部	—	—	付加R{L/L+L/L	木葉痕	7.5YR2/1	石英長石	良	0.60	
19	甕	胴部	—	—	付加L{R/R+R/R	—	7.5YR6/8	石英長石	良	0.59	
20	甕	底部	—	—	—	—	5YR6/2	石英	良	1.05	
21	甕	底部	—	—	付加R{L/L+L/L	—	7.5YR8/4	石英長石	良	1.48	
22	甕	底部	—	—	—	—	7.5YR7/6	石英長石	良	1.16	

SX02

1	甕	頸部	—	—	櫛歯+付加R{L/L+L/L	—	7.5YR8/3	石英長石	良	0.65	
2	甕	胴部	—	—	付加R{L/L+L/L	—	7.5YR7/8	石英長石	良	0.62	
3	甕	胴部	—	—	付加R{L/L+L/L	—	7.5YR3/1	石英を含む	良	0.76	
4	甕	底部	—	—	付加	木葉痕	YR		良		

別表3　**土師器観察表**

SI06

番号	器種	部位	成形・整形 口縁部	体部	底部	色調	胎土	焼成	大きさ 口径	器高	備考
1	坏	体部	横ナデ	ヘラナデ		2.5YR5/8	海綿骨針	良	10.8	3.5	1/8残・赤彩
2	埦	体部	横ナデ	ハケ目		2.5YR5/8	長石含	良	10.0	4.8	1/3残

SI06

番号	器種	部位	成形・整形 口縁部	成形・整形 体部	成形・整形 底部	色調	胎土	焼成	大きさ 口径	大きさ 器高	備考
3	坩	体部	ヘラナデ	ヘラナデ	――	10R5/8	長石・石英含	良	―	4.7	1/5残・赤彩
4	坩	口縁	ハケ目	――	――	10R6/8	長石含	良	12.0	6.7	1/5残
5	壷	口縁	横ナデ	――	――	7.5YR8/6	長石・石英含	良	13.0	5.2	1/6残
6	高坏	完形	ヘラナデ	ヘラナデ	――	2.5YR7/6	海綿骨針・石英	良	19.8	10.2	2/3残・赤彩
7	甕	口縁	横ナデ	ハケ目	――	2.5YR7/6	海綿骨針・長石	良	15.0	4.0	1/4残
8	甕	口縁・底部	ヘラナデ	ハケ目	ヘラナデ	2.5YR5/8	海綿骨針・石英	良	15.0	(25.0)	2/3残
9	甕	体部	横ナデ	ヘラ磨	ヘラナデ	10R5/8	海綿骨針	良	―	19.2	1/2残
10	甕	底部	ハケ目	ハケ目	ヘラナデ	10R5/8	海綿骨針・石英	良	―	2.7	1/2残
11	甕	底部	――	ハケ目	ヘラナデ	2.5YR4/5	砂粒含	良	―	2.4	1/2残
12	甕	底部	――	ハケ目	ヘラナデ	10R6/8	長石・チャート含	良	―	2.6	――
13	甕	底部	――	ヘラナデ	ヘラナデ	7.5YR7/6	海綿骨針・長石	良	―	2.1	1/2残
14	甕	底部	――	ヘラナデ	ヘラナデ	7.5YR8/8	石英・長石	良	―	1.8	1/4残

別表4　**土師器・須恵器観察表**

SI07

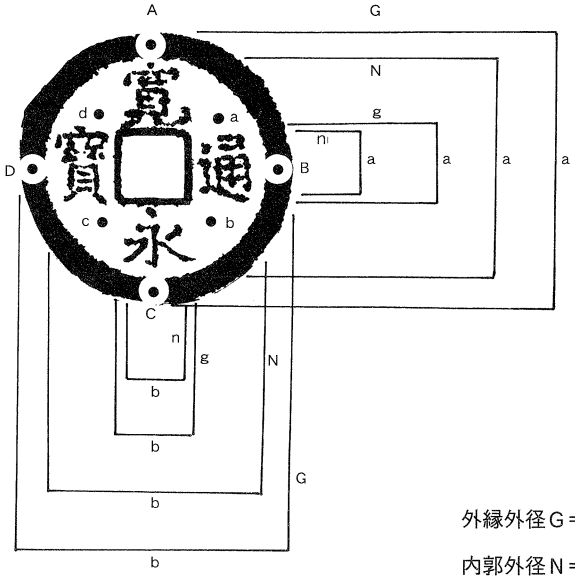
番号	器種	部位	成形	成形・整形 口縁部	成形・整形 体部	成形・整形 底部	色調	胎土	焼成	大きさ 口径	大きさ 器高	大きさ 底径
1	須恵・坏	完	ロクロ	ロクロ	ヘラ削り	ヘラナデ	2.5Y7/1	海綿骨針	良	13.6	4.9	7.0
2	須恵・坏	完	ロクロ	ロクロ	ヘラ削り	ヘラ削り	2.5Y7/1	長石・石英含	良	13.4	4.9	6.8
3	土師・坏	完	ロクロ	ロクロ	ヘラ削り	ヘラ削り	7.5YR7/8	海綿骨針	良	14.0	4.8	6.8
4	須恵・坏	完	ロクロ	ロクロ	ヘラ削り	ヘラナデ	7.5YR7/2	石英・雲母含	良	13.3	4.8	6.8
5	須恵・坏	完	ロクロ	ロクロ	ヘラ削り	ヘラ削り	2.5Y7/1	海綿骨針	良	13.4	4.8	7.4
6	須恵・高台	完	ロクロ	ロクロ	ヘラ削り	ヘラ切り	5Y7/1	石英・雲母含	良	14.9	3.4	9.8
7	須恵・高台	完	ロクロ	ロクロ	ヘラ削り	ヘラ切り	7.5Y5/1	石英含	良	16.7	3.6	10.8
8	須恵・高台	完	ロクロ	ロクロ	ヘラ削り	ヘラ切り	2.5Y6/2	海綿骨針	良	16.0	4.1	8.8
9	土師・甕	完	輪積	横ナデ	ヘラナデ	木葉痕	5YR2/1	石英・長石含	良	15.4	19.2	8.2
10	土師・甕	完	輪積	横ナデ	ヘラナデ	ヘラ削り	10YR8/4	石英・雲母含	良	14.8	17.8	6.2
11	須恵・甕	体部	輪積	――	タタキ目	――	2.5Y7/1	石英含	良	―	―	―
12	須恵・壷	底部	ロクロ	――	ロクロ	ヘラ切り	5Y4/4	石英含	良	―	2.7	13.4
13	須恵・壷	底部	ロクロ	――	ロクロ	ヘラ切り	7.5YR3/2	石英含	良	―	3.1	10.8
14	土師・甕	体部	輪積	――	ヘラナデ	木葉痕	10YR7/6	石英・長石含	良	―	20.0	10.0

SX03

1	土師・坏	体部	―	ヨコナデ	ヘラナデ	――	5Y7/1	石英・長石含	良	18.0	4.9	
2	須恵・高台	完形	ロクロ	ロクロ	ヘラ削り	ヘラ切り	7.5Y5/1	石英含	良	16.7	3.6	10.8
3	土師・甕	完形	輪積	横ナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	5YR7/4	石英・長石含	良	17.7	25.0	7.8
4	土師・甕	底部	輪積	――	ヘラナデ	木葉痕	10YR3/1	石英含	良	―	6.0	8.0

別表5　**銭貨計測値**

挿図	番号	出土地点	種　類	W(g)	G	N	g	n	T	t	初鋳年代:元号/西暦	備考
Fig.31	1	SK52	寛永通宝	2.28	2.29	0.83	1.93	0.67	1.02	0.73	元禄10(1697)	
	2	SK52	寛永通宝	2.24	2.48	0.91	2.04	0.76	1.21	0.81	元禄10(1697)	
Fig.31	1	SK66	寛永通宝	3.38	2.52	0.74	2.01	0.6	1.4	0.66	寛文8(1668)	文銭
	2	SK66	寛永通宝	4.26	2.50	0.77	2.05	0.57	1.46	0.86	元禄10(1697)	
	3	SK66	寛永通宝	4.34	2.45	0.82	1.99	0.56	1.64	0.99	元禄10(1697)	
	4	SK66	寛永通宝	3.62	2.47	0.81	2.03	0.58	1.34	0.70	元禄10(1697)	
	5	SK66	寛永通宝	3.96	2.48	0.82	2.06	0.64	1.33	0.91	元禄10(1697)	
	6	SK66	寛永通宝	3.44	2.49	0.78	2.02	0.58	1.43	0.85	元禄10(1697)	
Fig.32	3	SK69	寛永通宝	3.70	2.56	0.79	2.06	0.60	1.42	0.71	元禄10(1697)	
	4	SK69	寛永通宝	3.40	2.56	0.74	2.03	0.53	1.20	0.56	元禄10(1697)	
	5	SK69	寛永通宝	3.88	2.86	0.74	2.05	0.57	1.63	0.74	元禄10(1697)	
	6	SK69	寛永通宝	4.90	2.53	0.75	2.09	0.57	1.61	0.82	元禄10(1697)	
	7	SK69	寛永通宝	3.18	2.58	0.75	2.13	0.56	1.65	0.66	元禄10(1697)	
	8	SK69	寛永通宝	3.72	2.56	0.79	2.06	0.56	1.46	0.78	元禄10(1697)	



外縁外径 $G = \frac{Ga+Gb}{2}$ ，外縁内径 $g = \frac{ga+gb}{2}$

内郭外径 $N = \frac{Na+Nb}{2}$ ，内郭内径 $n = \frac{na+nb}{2}$

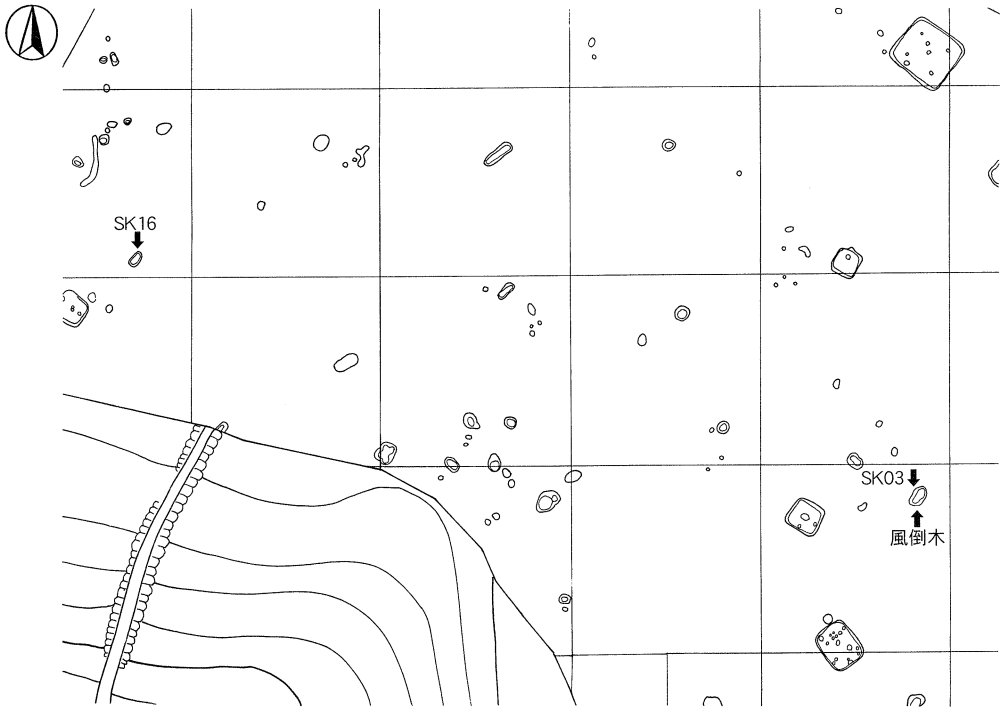
外 縁 厚 $T = \frac{A+B+C+D}{2}$ ，文字面厚 $t = \frac{a+b+c+d}{2}$

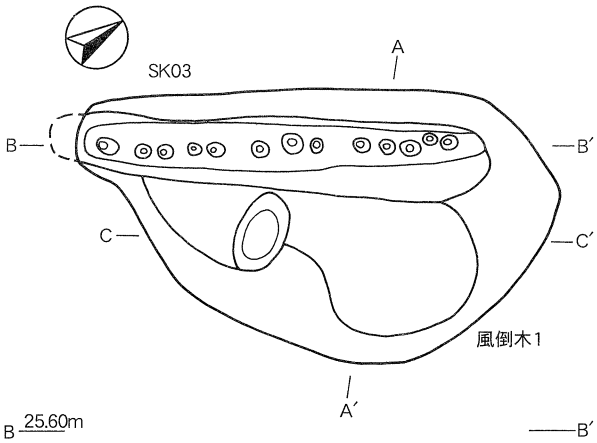
銭貨計測方法
参考『平城宮発掘調査報告Ⅵ』P189
奈良国立文化財研究所

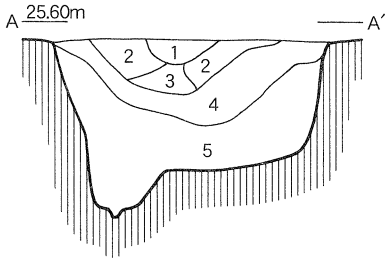
図面・図版

六十塚遺跡遺構分布図

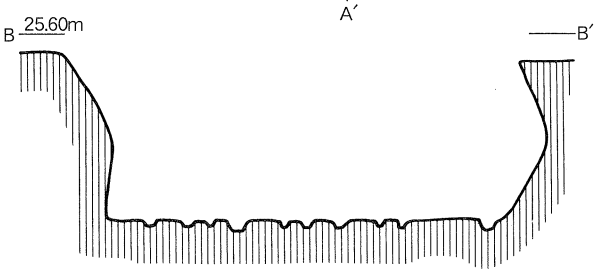
0 40m

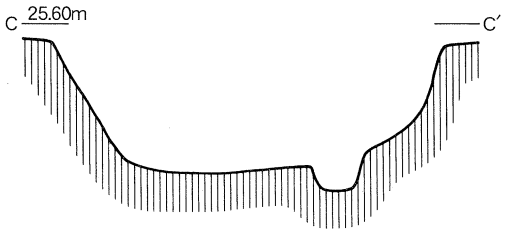

SK16
SK03
風倒木



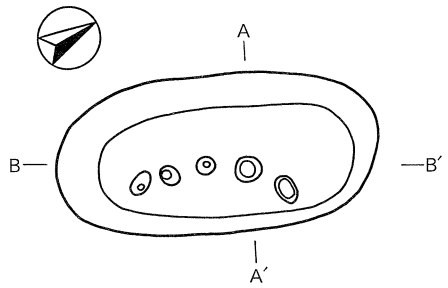


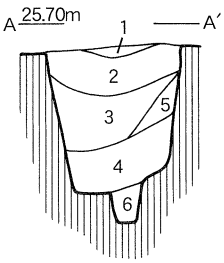
1. 明褐色土　多量にローム粒を含む。粘性が弱い。
2. 暗褐色土　微量のローム粒を含む。粘性が弱い。
3. 褐色土　微量のローム粒を含む。粘性が強い。
4. 黒褐色土　多量のローム粒を含む。粘性が強い。
5. 黒褐色土　多量のローム粒を含む。粘性が強い。
6. 黄橙色土　多量のローム粒を含む。

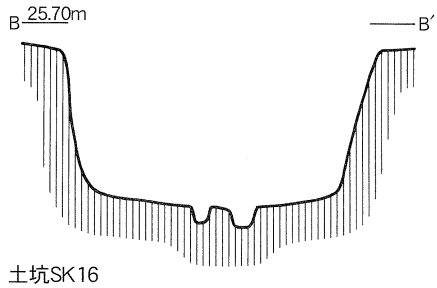




土坑SK03、風倒木1

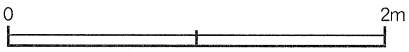


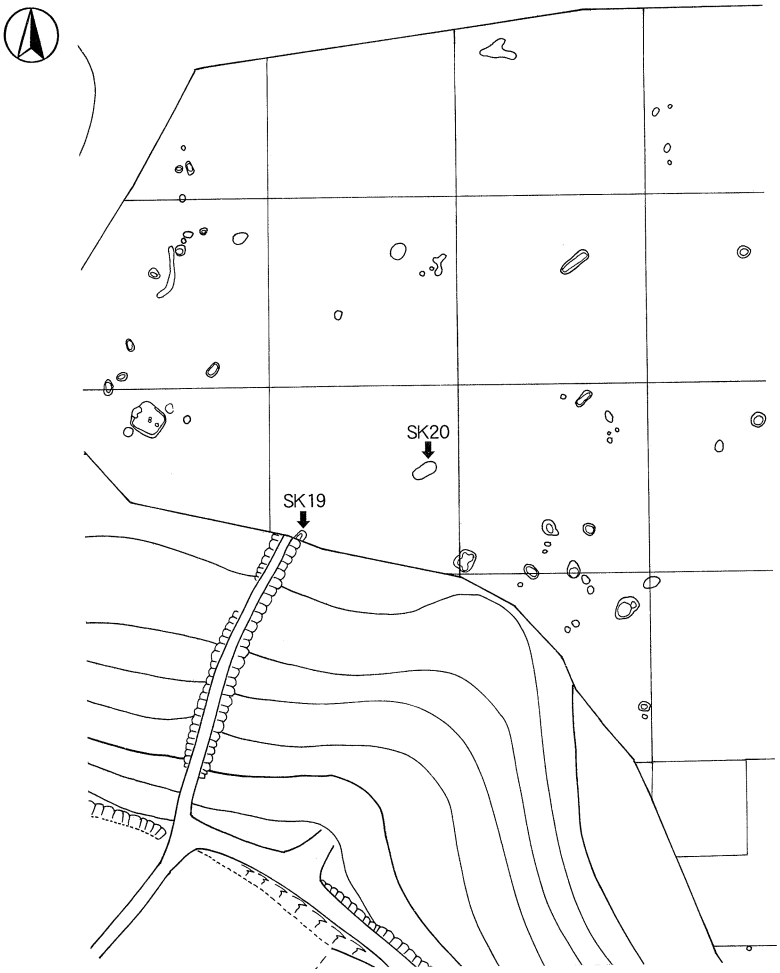


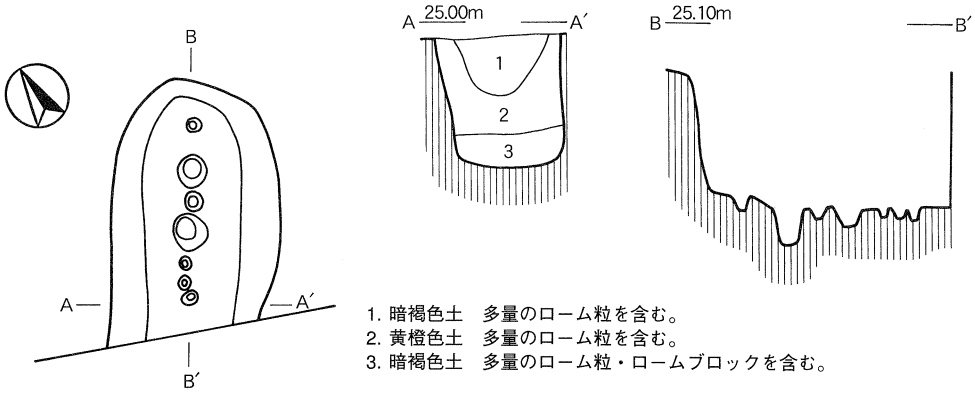


1. 黄橙色土　多量のローム粒を含む。粘性が弱い。
2. 褐色土　多量のローム粒を含む。
3. 暗褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
4. 黄橙色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
5. 褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
6. 黄橙色土　多量のローム粒を含む。粘性が強い。

土坑SK16

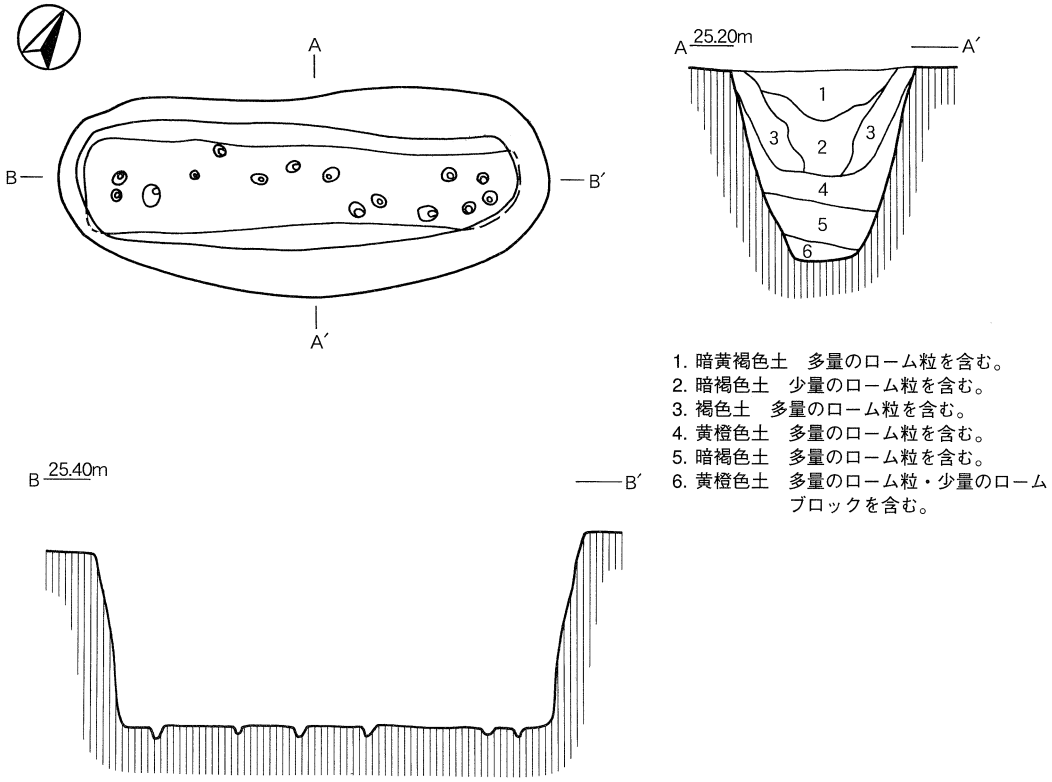



SK20
SK19



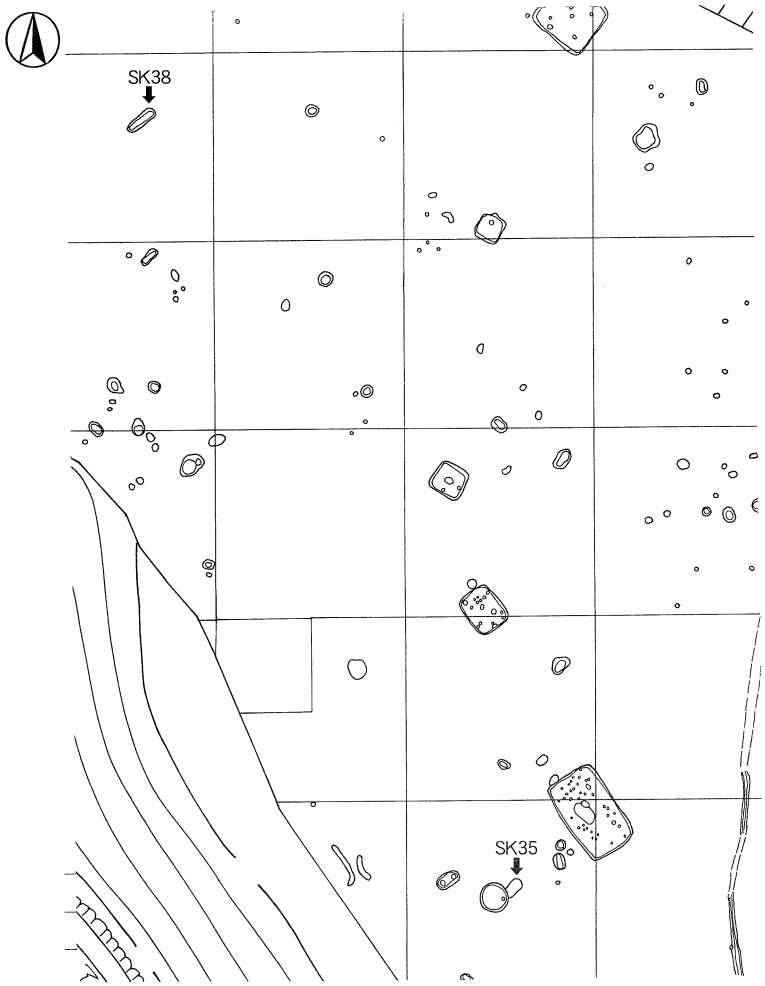
1. 暗褐色土　多量のローム粒を含む。
2. 黄橙色土　多量のローム粒を含む。
3. 暗褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。

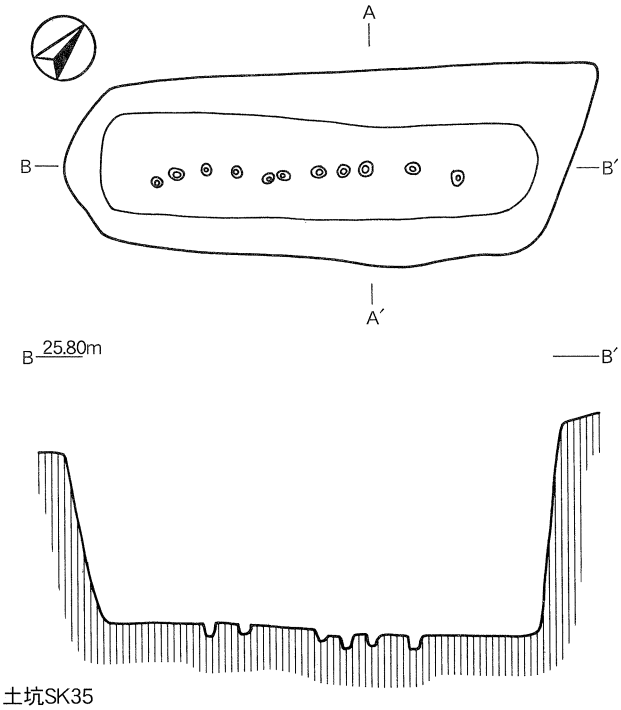
土坑SK19

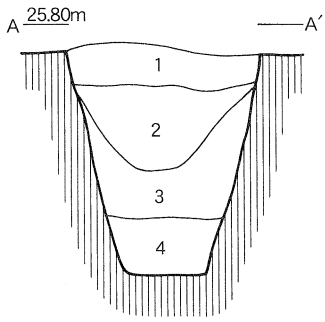


1. 暗黄褐色土　多量のローム粒を含む。
2. 暗褐色土　少量のローム粒を含む。
3. 褐色土　多量のローム粒を含む。
4. 黄橙色土　多量のローム粒を含む。
5. 暗褐色土　多量のローム粒を含む。
6. 黄橙色土　多量のローム粒・少量のロームブロックを含む。

土坑SK20

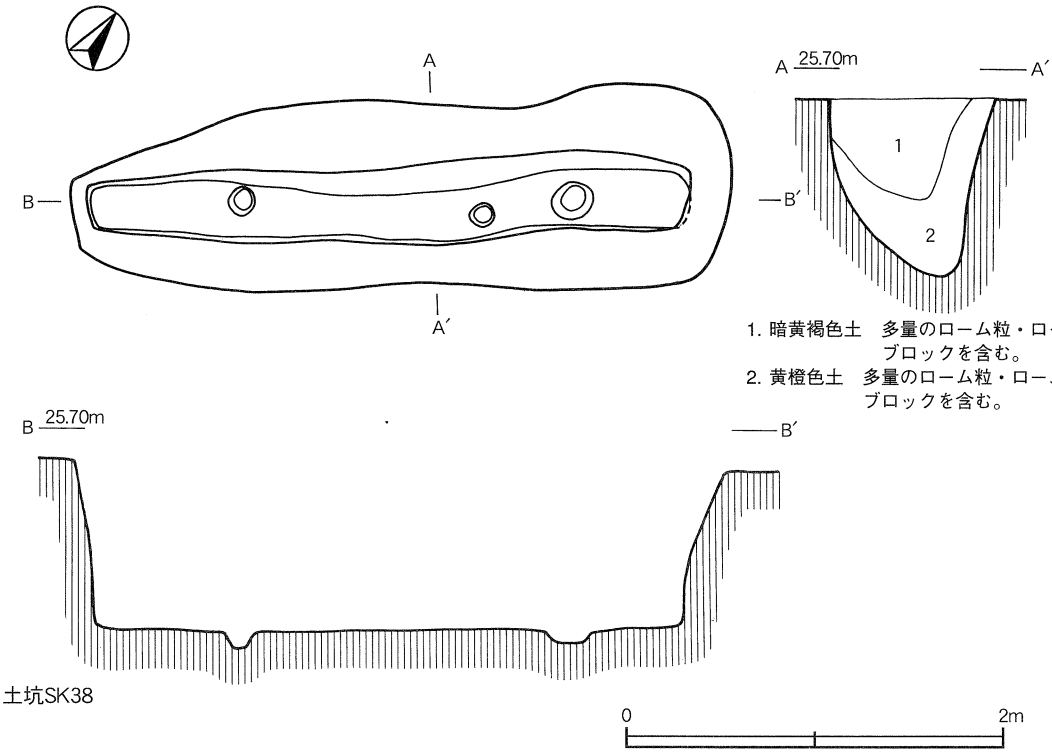

SK38
SK35





1. 暗褐色土　少量のローム粒を含む。
2. 黒褐色土　多量のローム粒を含む。
3. 黄橙色土　多量のローム粒、少量のローム ブロックを含む。
4. 暗褐色土　多量のローム粒、微量のローム ブロックを含む。

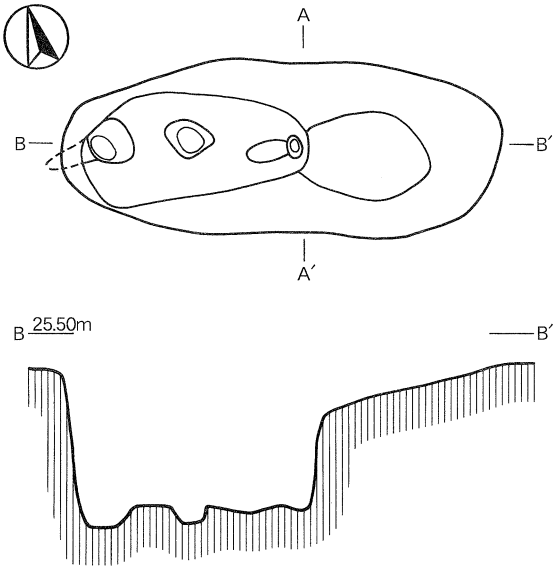
土坑SK35

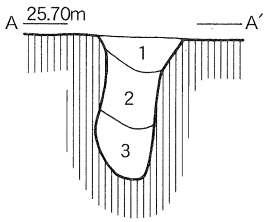


1. 暗黄褐色土　多量のローム粒・ローム ブロックを含む。
2. 黄橙色土　多量のローム粒・ローム ブロックを含む。

土坑SK38

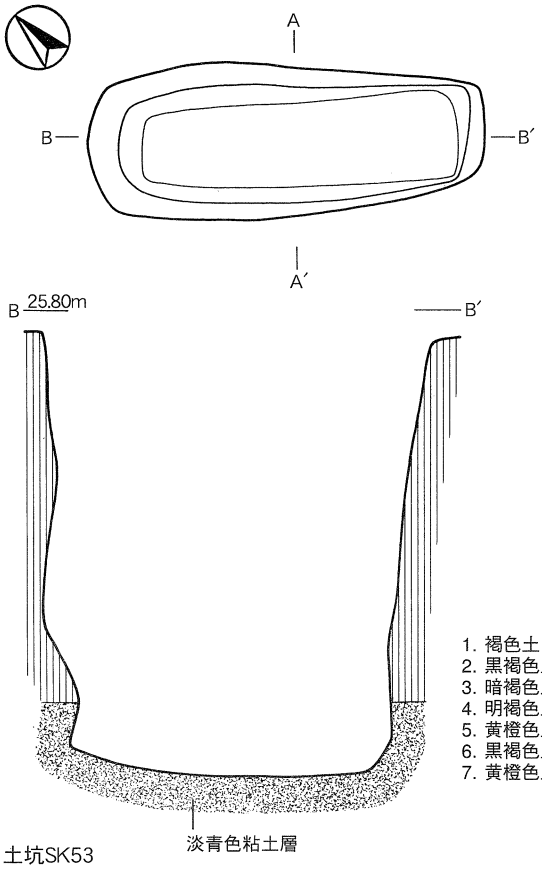
SK43
SK53

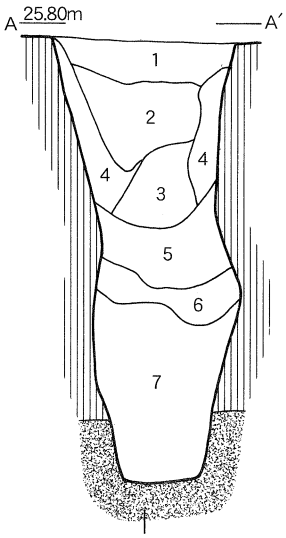




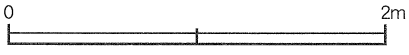
1. 褐色土　少量のローム粒を含む。
2. 暗褐色土　少量のローム粒を含む。
3. 暗褐色土　微量のローム粒を含む。

土坑SK43



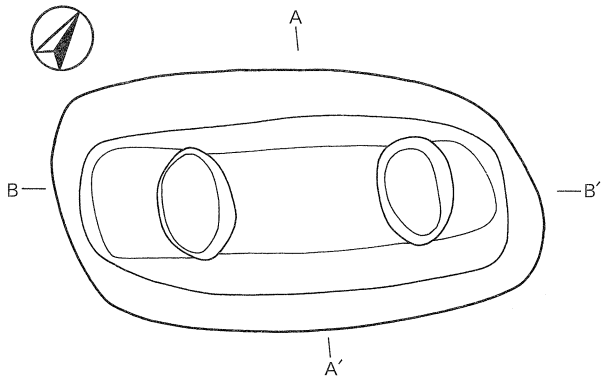


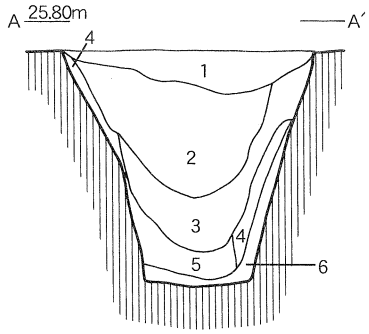
1. 褐色土　微量のローム粒を含む。
2. 黒褐色土　微量のローム粒を含む。
3. 暗褐色土　微量のローム粒を含む。
4. 明褐色土　微量のローム粒を含む。
5. 黄橙色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
6. 黒褐色土　微量のローム粒を含む。
7. 黄橙色土　少量のローム粒・ロームブロックを含む。



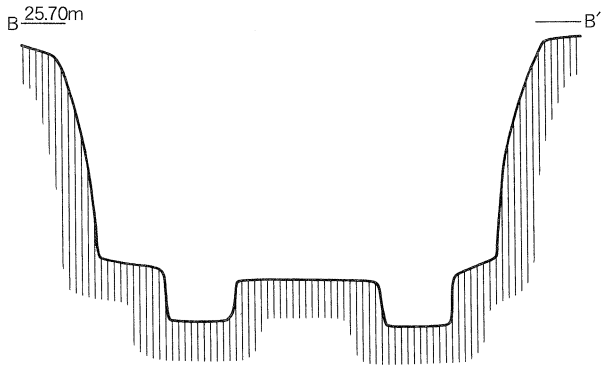
土坑SK53

SK54
SK65

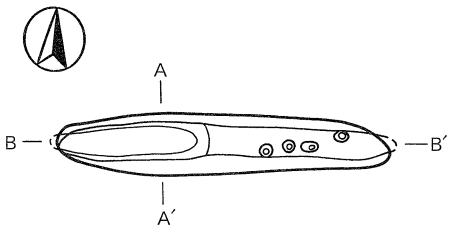


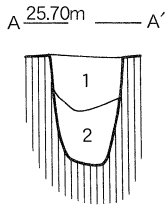


1. 褐色土　多量のローム粒を含む。
2. 黒褐色土　微量のローム粒を含む。
3. 黄橙色土　多量のローム粒を含む。
4. 黄橙色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
5. 明褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
6. 暗褐色土　多量のローム粒を含む。

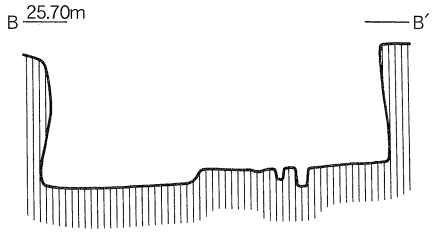


SK54

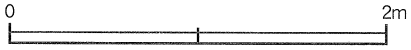


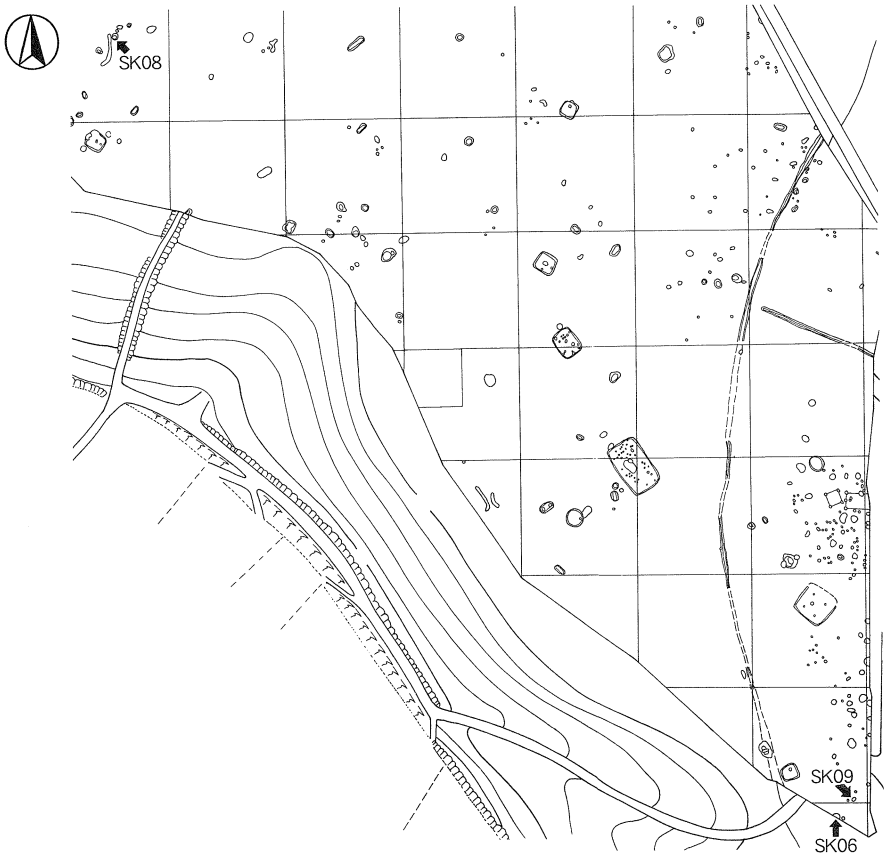


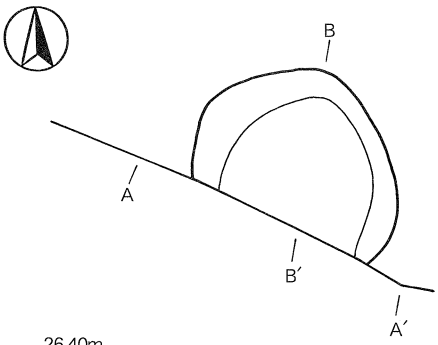
1. 黄橙色土　多量のローム粒を含む。
2. 暗黄褐色土　多量のローム粒を含む。

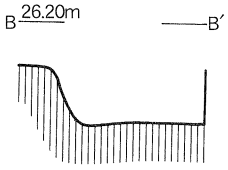


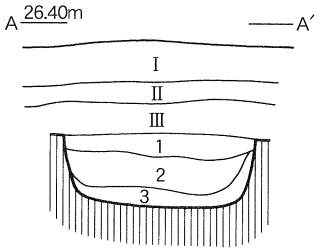
SK65




SK08
SK09
SK06

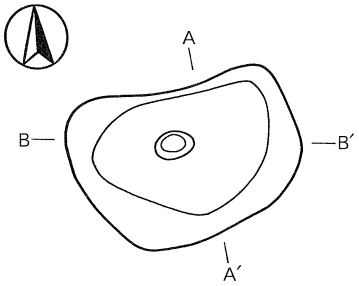


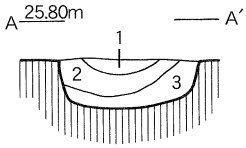




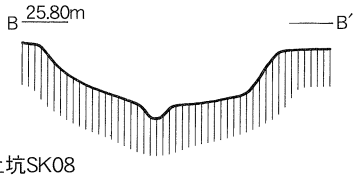
Ⅰ. 黒褐色土　表土層
Ⅱ. 黒色土　少量のローム粒を含む。
Ⅲ. 褐色土　少量のローム粒を含む。
1. 暗褐色土　少量のローム粒を含む。
2. 黒褐色土　少量のローム粒を含む。
3. 黄橙色土　多量のローム粒を含む。

土坑SK06

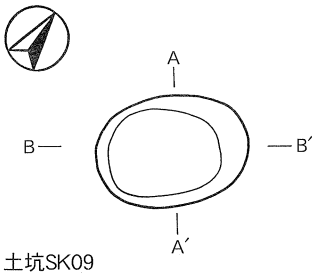


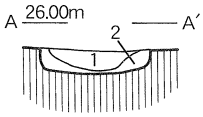


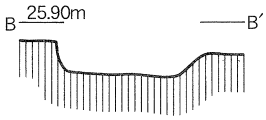
1. 黄橙色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
2. 暗褐色土　多量のローム粒を含む。
3. 褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。



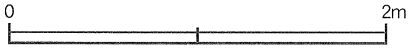
土坑SK08

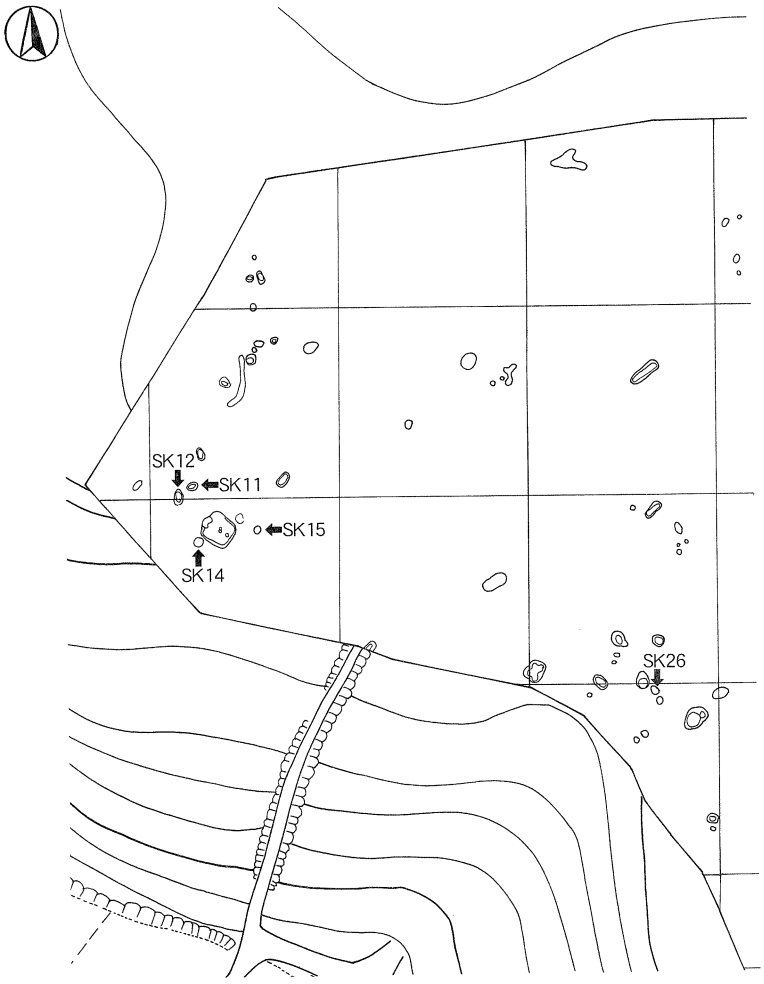


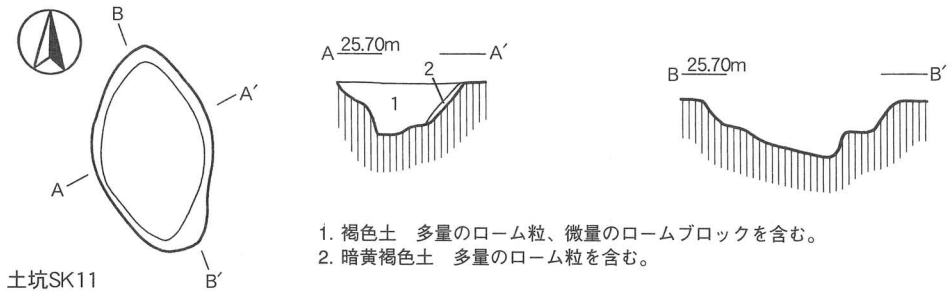




土坑SK09

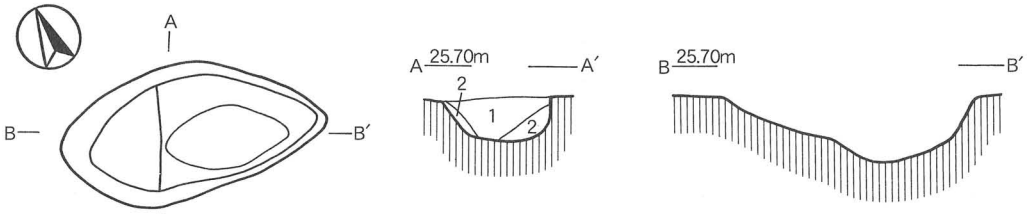



SK12
SK11
SK15
SK14
SK26



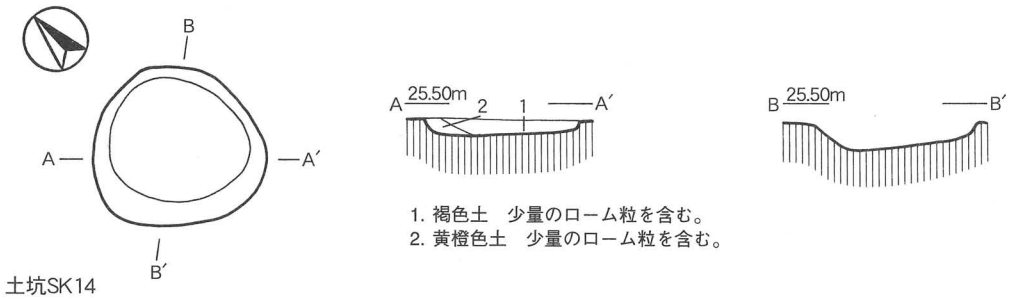
土坑SK11

1. 褐色土　多量のローム粒、微量のロームブロックを含む。
2. 暗黄褐色土　多量のローム粒を含む。



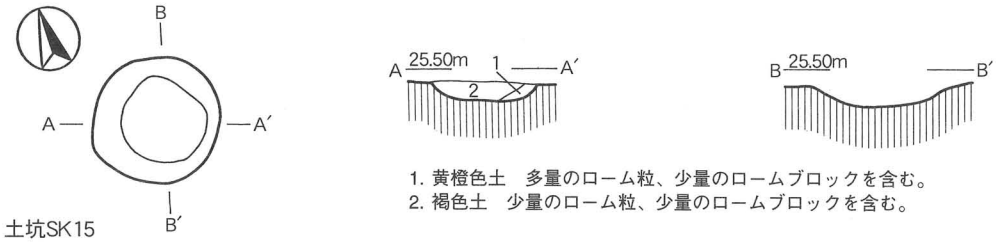
土坑SK12

1. 黄橙色土　多量のローム粒、ロームブロックを含む。
2. 褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。



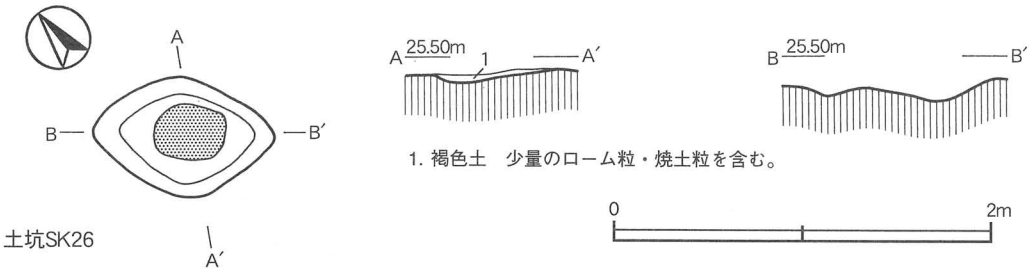
土坑SK14

1. 褐色土　少量のローム粒を含む。
2. 黄橙色土　少量のローム粒を含む。



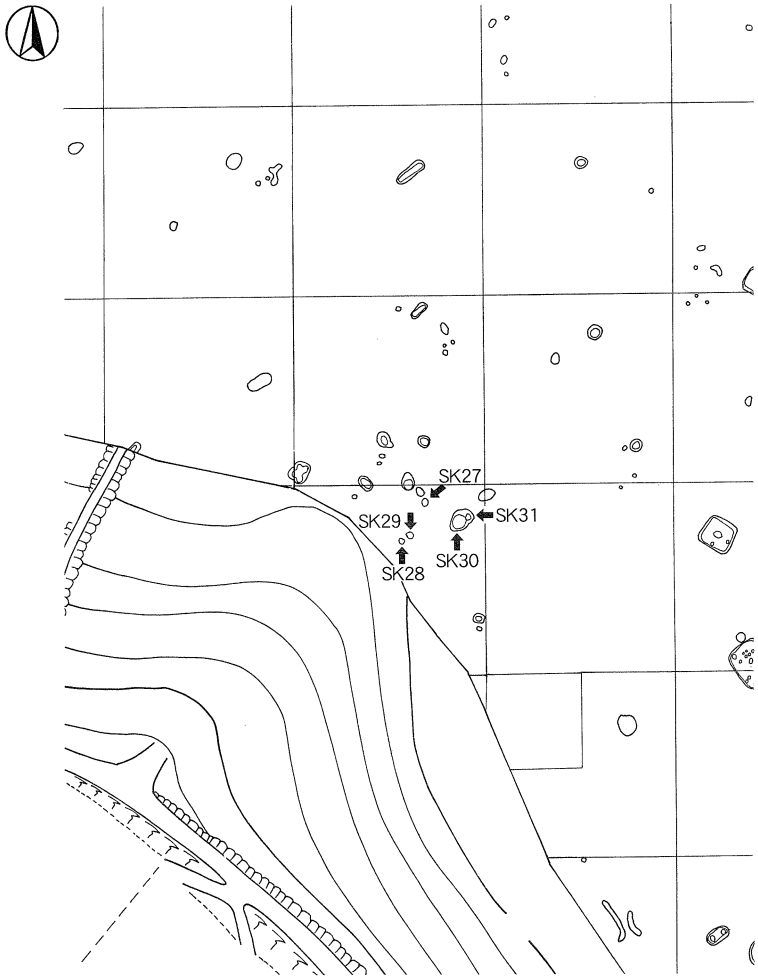
土坑SK15

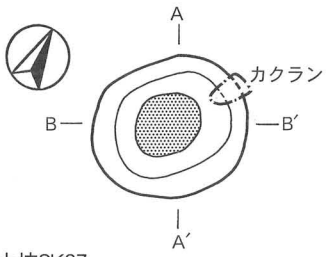
1. 黄橙色土　多量のローム粒、少量のロームブロックを含む。
2. 褐色土　少量のローム粒、少量のロームブロックを含む。

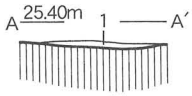


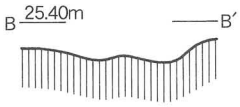
土坑SK26

1. 褐色土　少量のローム粒・焼土粒を含む。


SK27
SK29
SK31
SK28
SK30

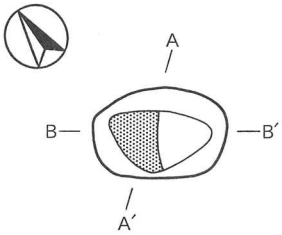


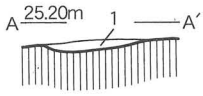


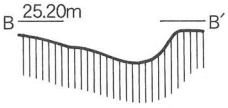


1. 褐色土　少量のローム粒・焼土粒を含む。

土坑SK27

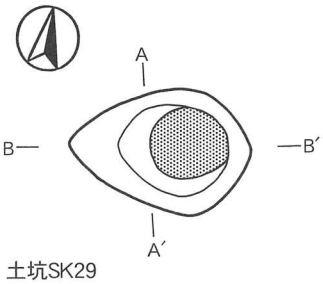


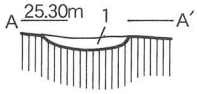


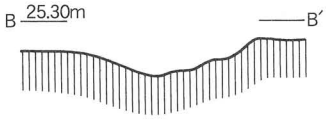


1. 褐色土　少量のローム粒・焼土粒を含む。

土坑SK28

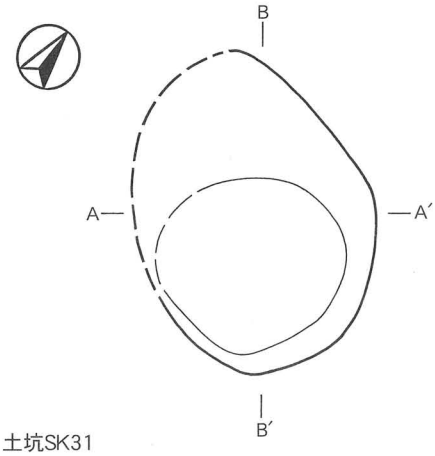


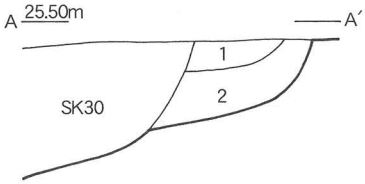




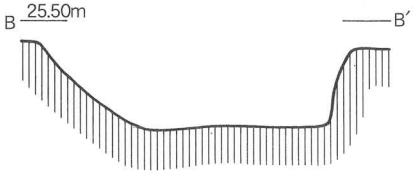
1. 褐色土　少量のローム粒・焼土粒を含む。

土坑SK29

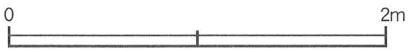


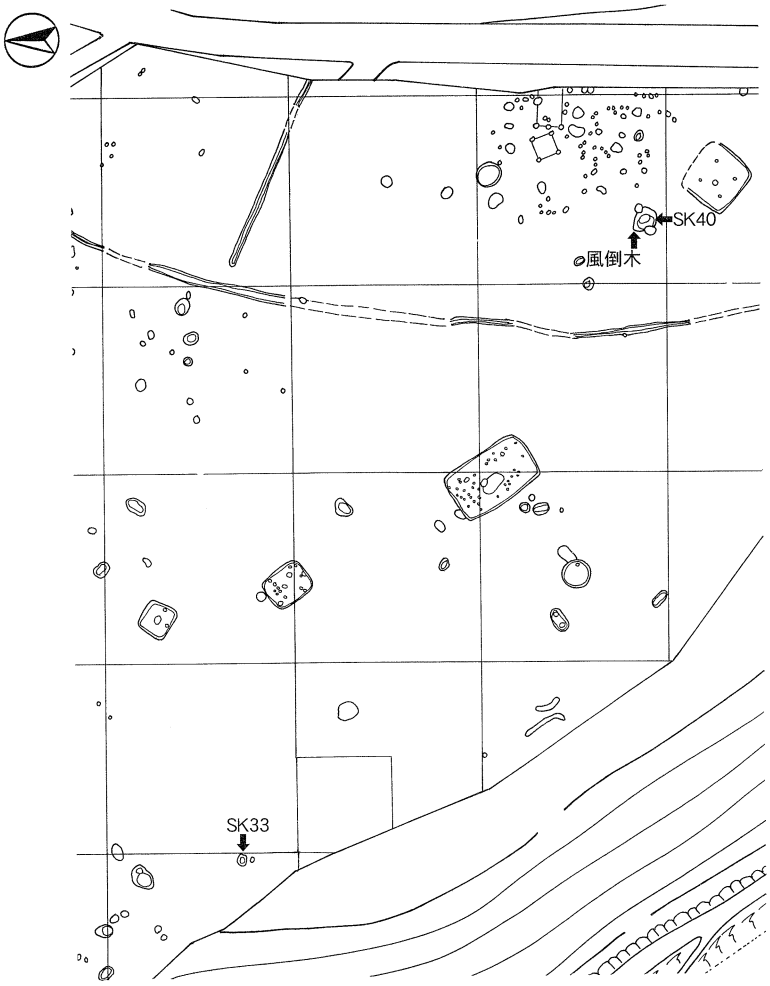


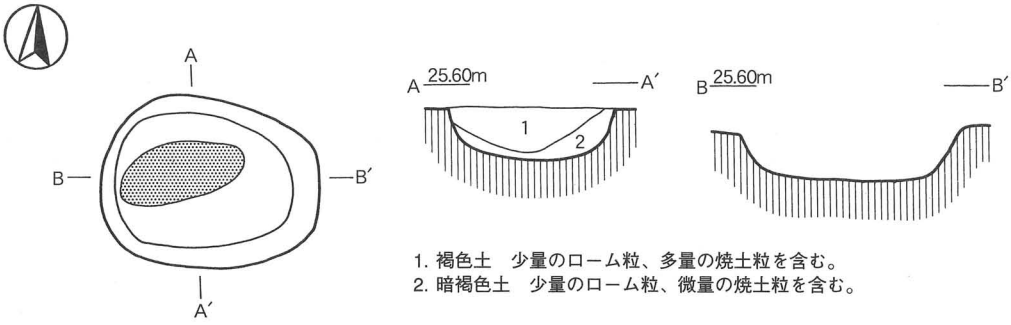
1.黄橙色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
2..褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。



土坑SK31

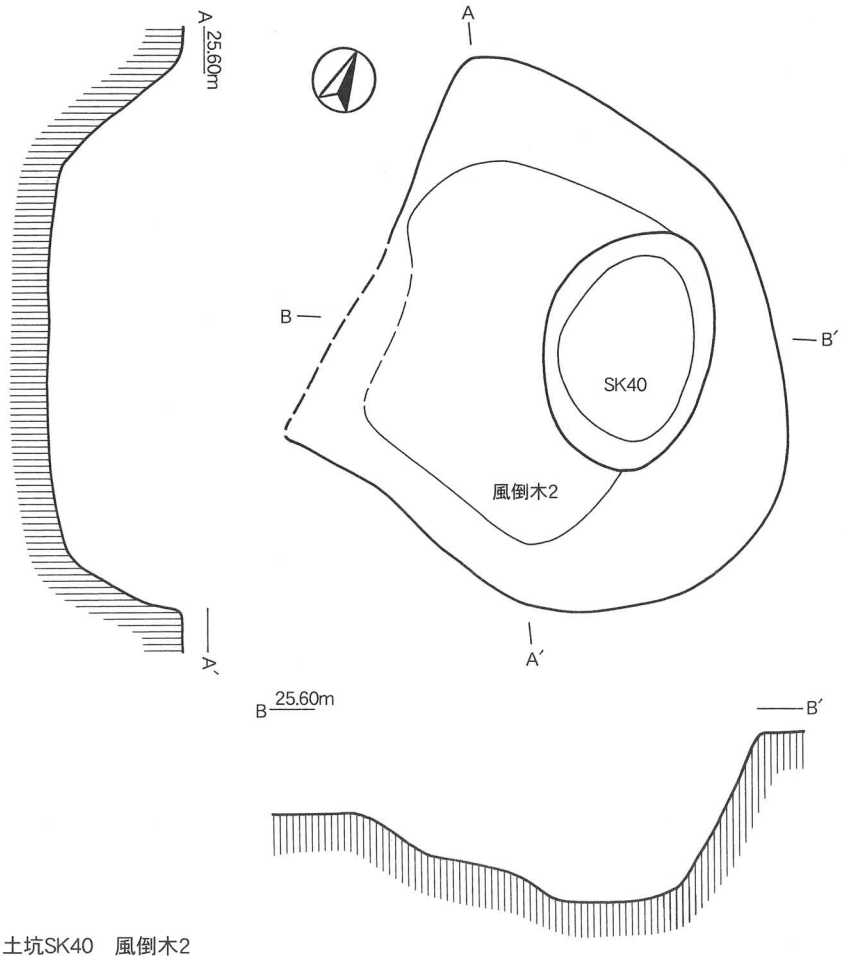



SK40
風倒木
SK33

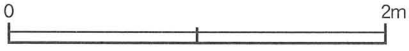


1. 褐色土　少量のローム粒、多量の焼土粒を含む。
2. 暗褐色土　少量のローム粒、微量の焼土粒を含む。

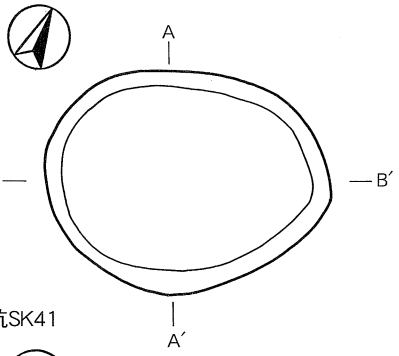
土坑SK33



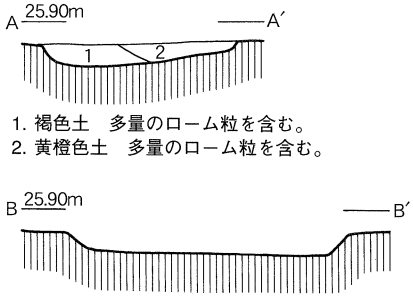
土坑SK40　風倒木2



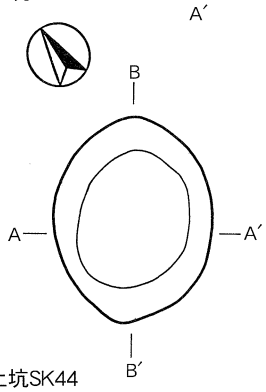
SK45
SK41
SK46
SK44



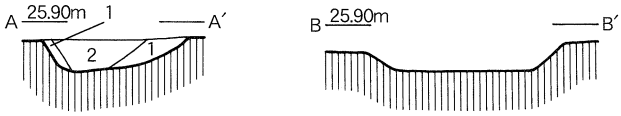
土坑SK41



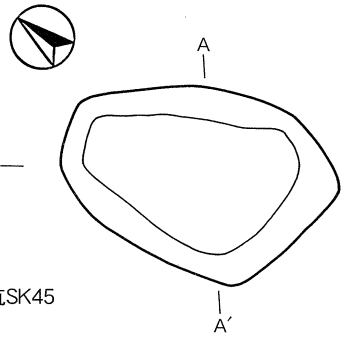
1. 褐色土　多量のローム粒を含む。
2. 黄橙色土　多量のローム粒を含む。



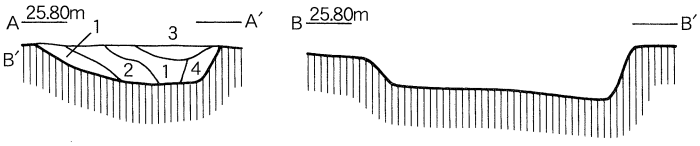
土坑SK44



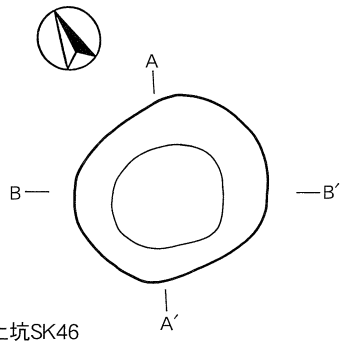
1. 暗褐色土　多量のローム粒を含む。
2. 黄橙色土　多量のローム粒を含む。



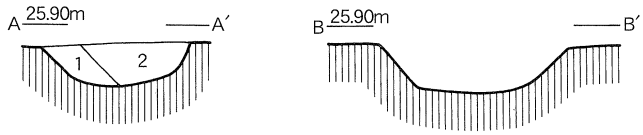
土坑SK45



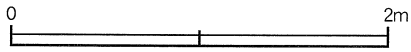
1.暗褐色土　少量のローム粒を含む。
2..黒褐色土　少量のローム粒を含む。
3. 褐色土　少量のローム粒を含む。
4. 褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。



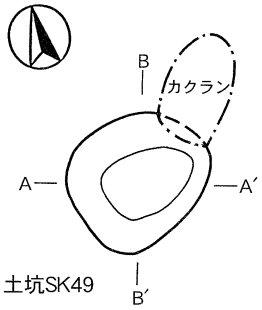
土坑SK46



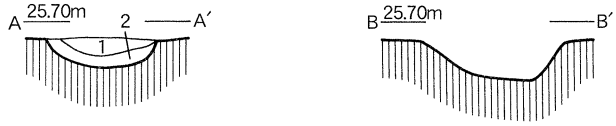
1. 暗黄褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
2. 黄橙色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。



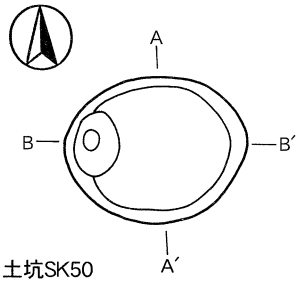
SK49
SK58
SK51
SK50



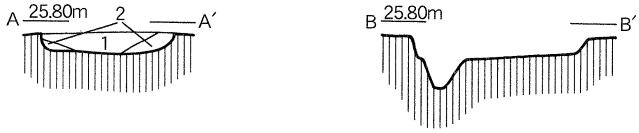
土坑SK49



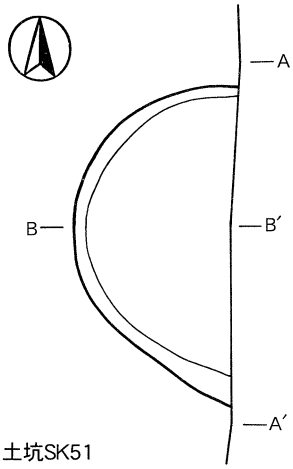
1. 暗褐色土　少量のローム粒、微量のロームブロックを含む。
2. 褐色土　多量のローム粒を含む。



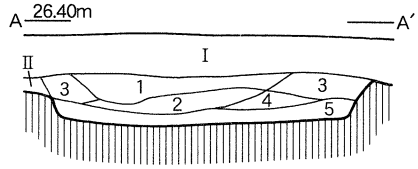
土坑SK50

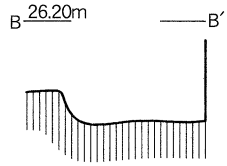


1. 褐色土　少量のローム粒、微量の焼土粒を含む。
2.暗褐色土　少量のローム粒を含む。

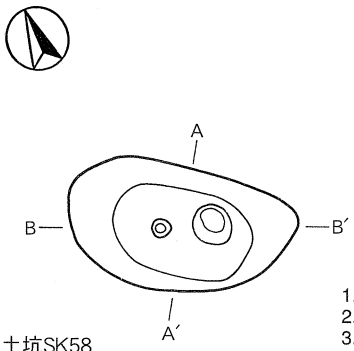


土坑SK51

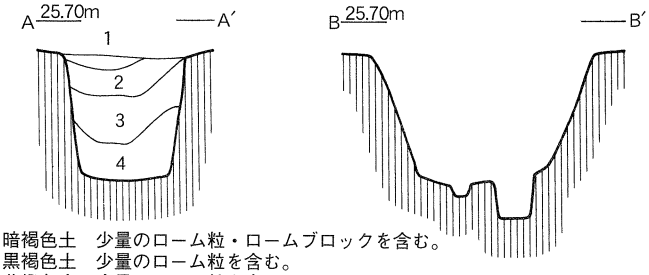




Ⅰ. 表土層　耕作土
Ⅱ. 暗褐色土　少量のローム粒を含む。
1. 黒色土　少量のローム粒を含む。
2. 暗褐色土　少量のローム粒を含む。
3. 黒褐色土　少量のローム粒を含む。
4.褐色土　多量のローム粒を含む。
5. 黄橙色土　多量のローム粒を含む。

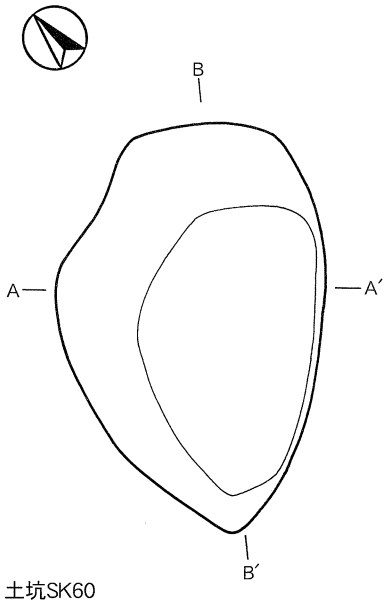


土坑SK58

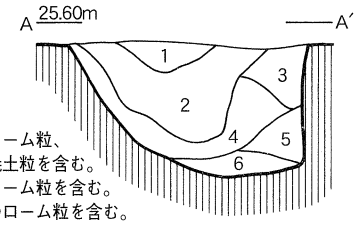


1. 暗褐色土　少量のローム粒・ロームブロックを含む。
2. 黒褐色土　少量のローム粒を含む。
3. 黄橙色土　多量のローム粒を含む。
4. 褐色土　多量のローム粒を含む。

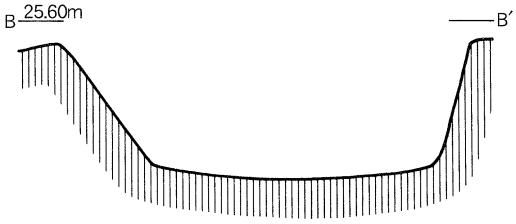
SK72
SK62
SK60

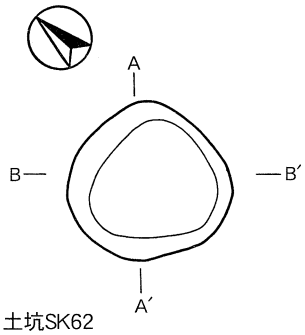


土坑SK60

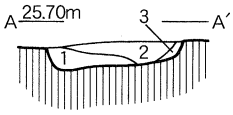


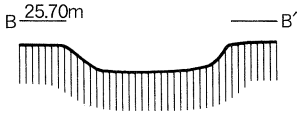
1. 黒色土　少量のローム粒、
　　多量の焼土粒を含む。
2. 黒色土　少量のローム粒を含む。
3. 黄橙色土　多量のローム粒を含む。
4. 暗褐色土　多量のローム粒、少量のロームブロックを含む。
5. 黄橙色土　多量のローム粒、多量のロームブロックを含む。
6. 褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。



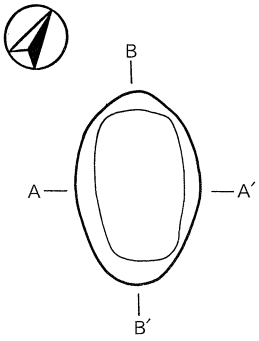


土坑SK62

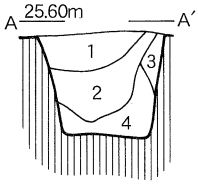


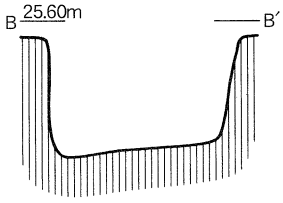


1. 黒褐色土　少量のローム粒を含む。
2. 暗褐色土　微量のローム粒を含む。
3. 暗褐色土　少量のローム粒を含む。

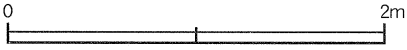


土坑SK72

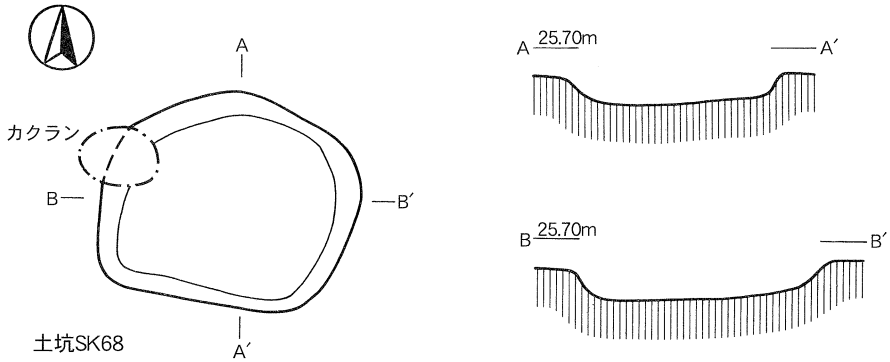




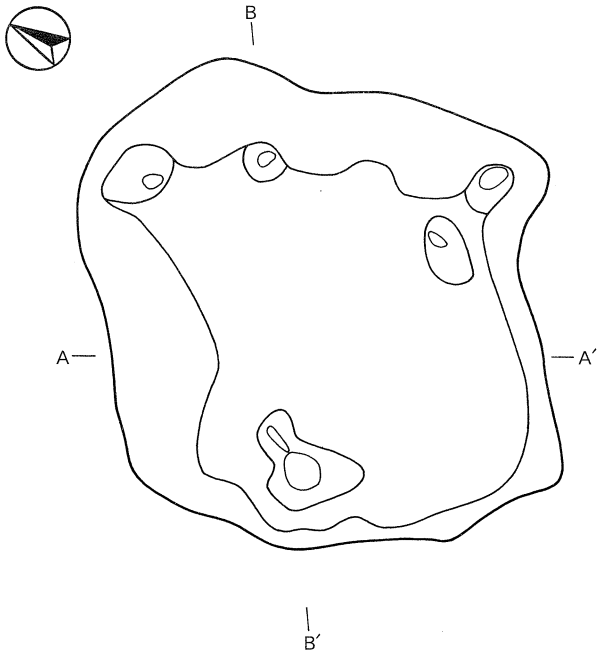
1. 暗褐色土　少量のローム粒・ローム
　　ブロックを含む。
2. 黒褐色土　少量のローム粒を含む。
3. 黄橙色土　多量のローム粒を含む。
4. 褐色土　多量のローム粒を含む。

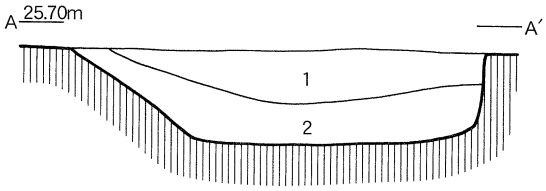


風倒木3
SK68

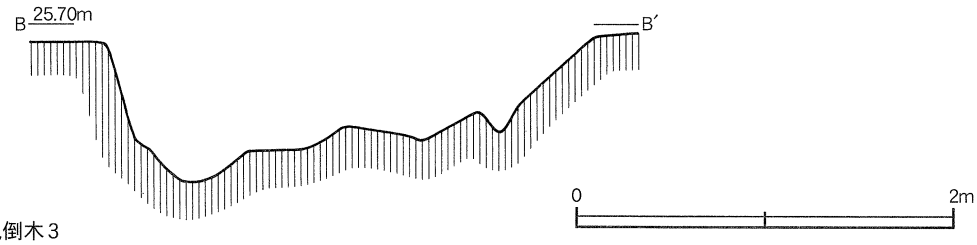


土坑SK68

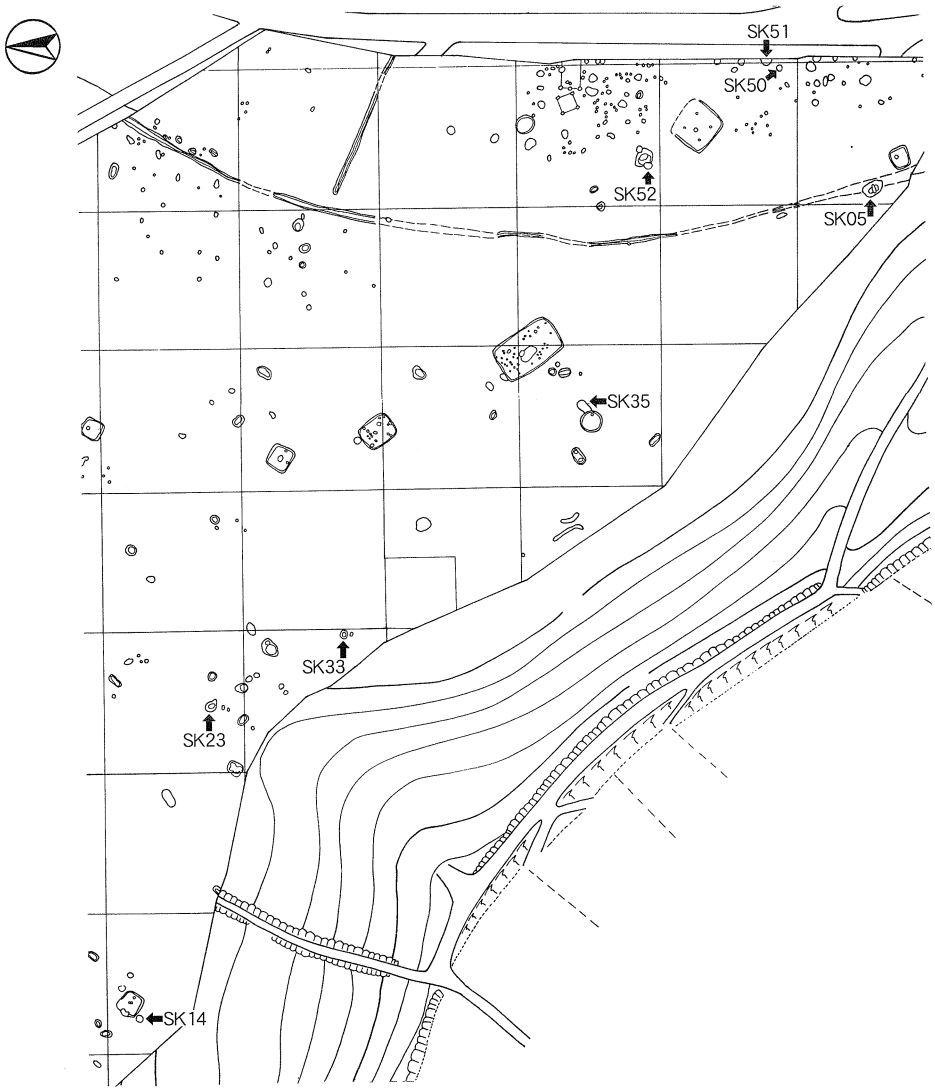


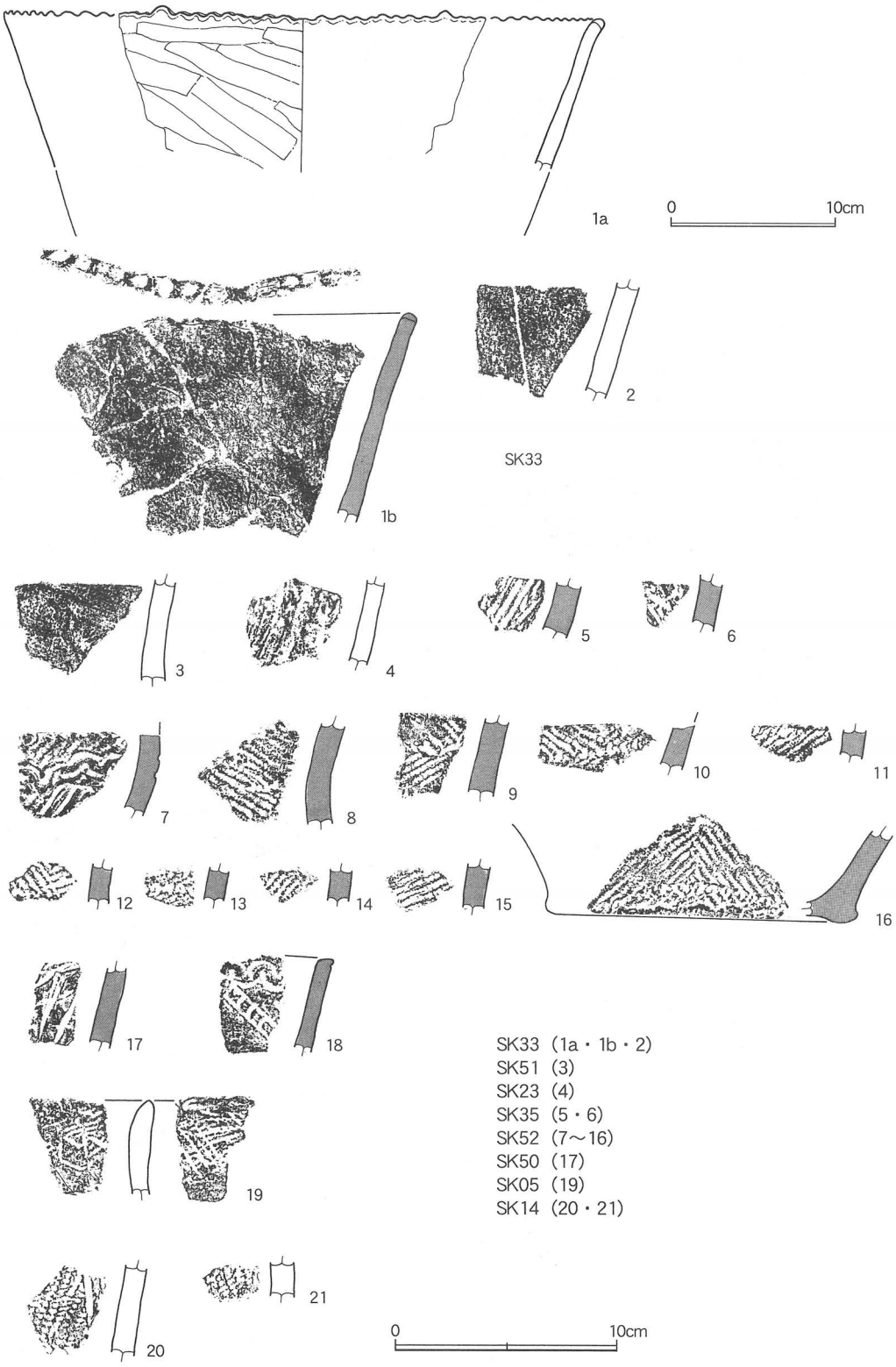


1. 褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
2. 黄橙色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。

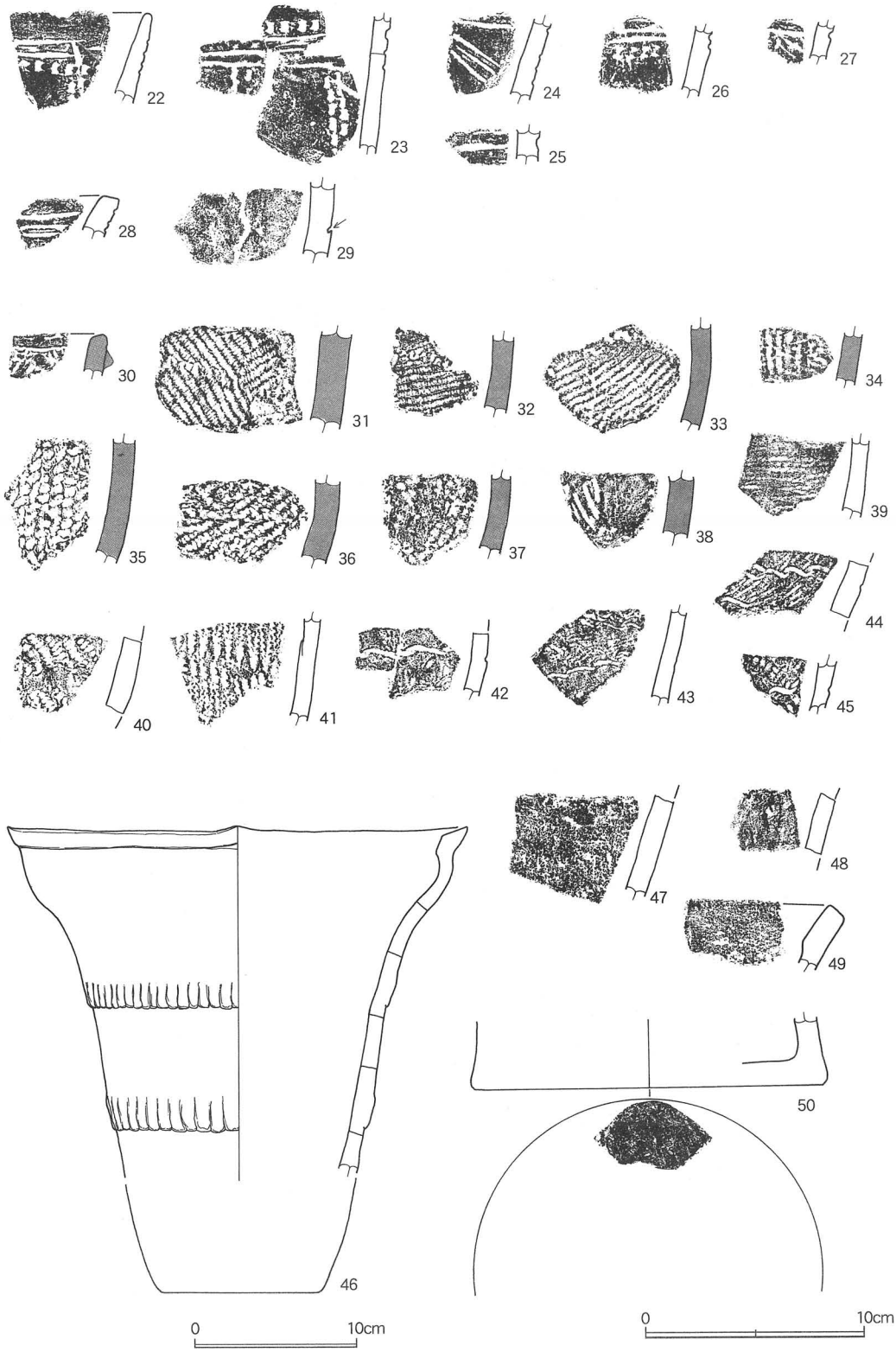


風倒木3

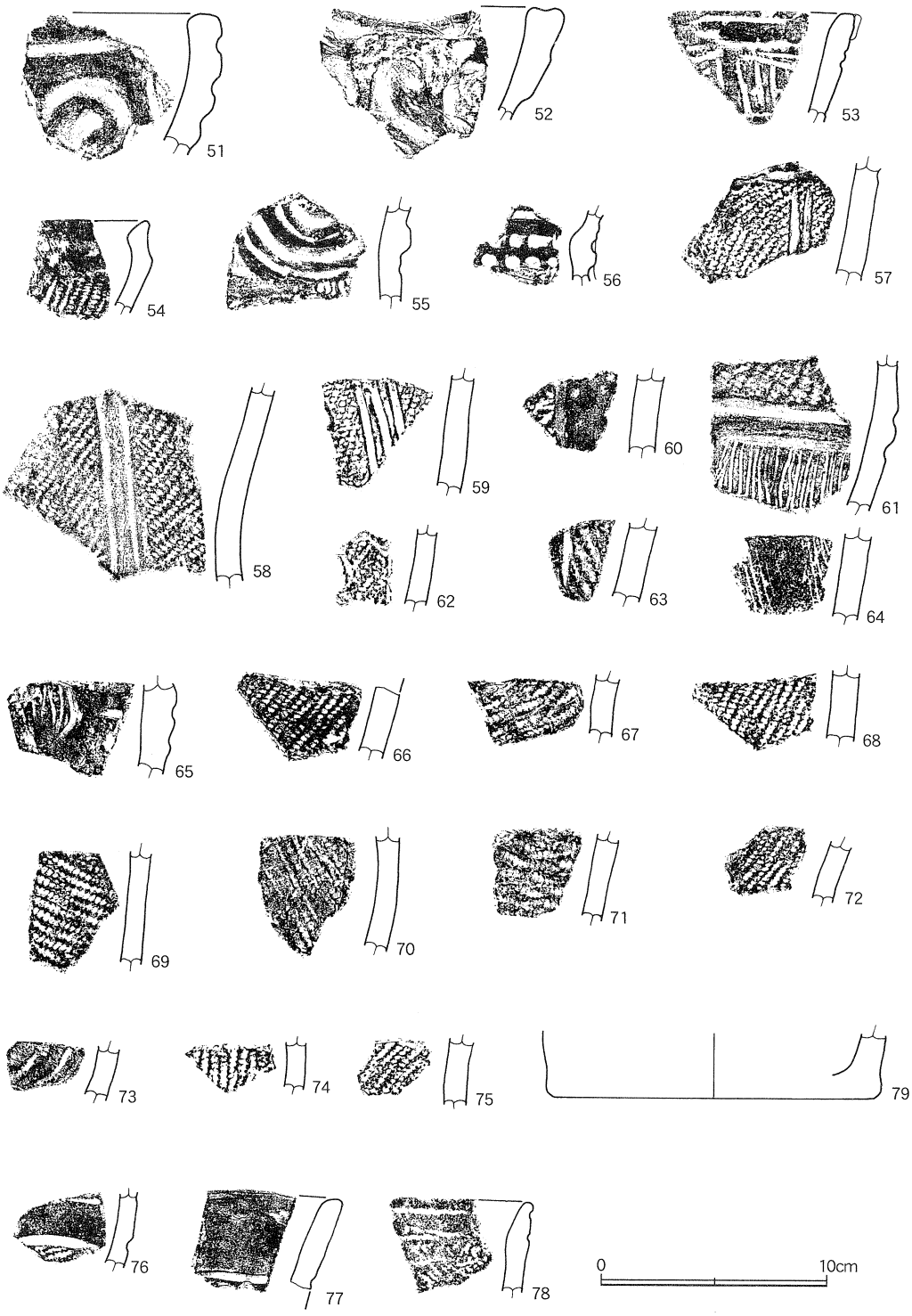

SK51
SK50
SK52
SK05
SK35
SK33
SK23
SK14



SK33（1a・1b・2）
SK51（3）
SK23（4）
SK35（5・6）
SK52（7～16）
SK50（17）
SK05（19）
SK14（20・21）

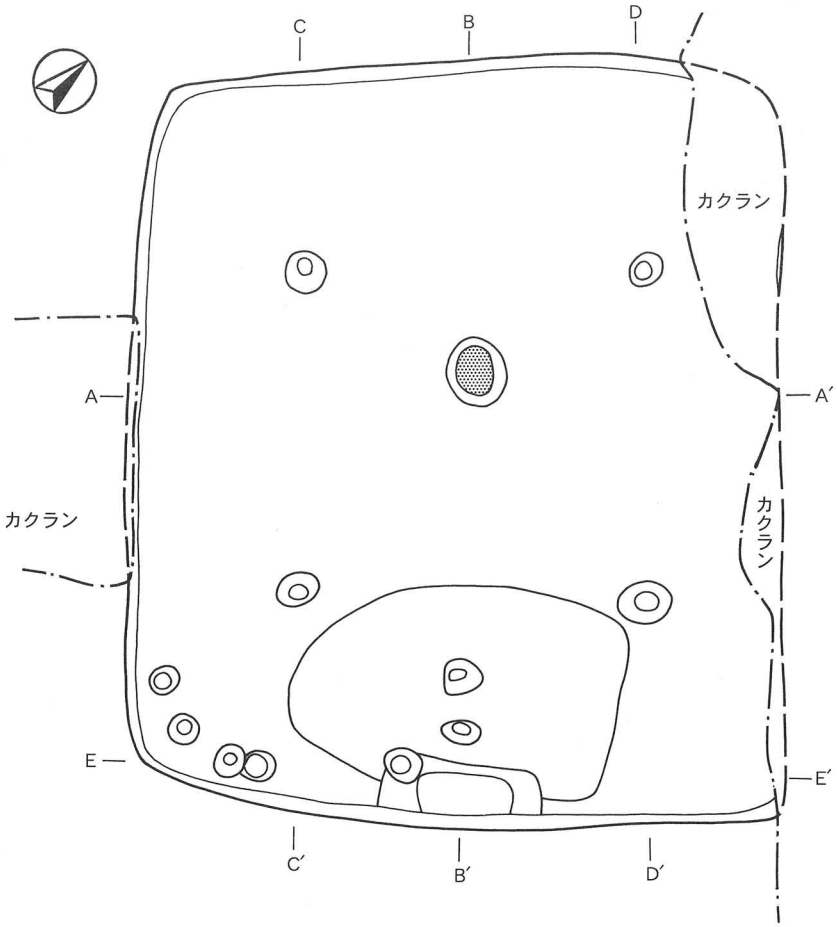


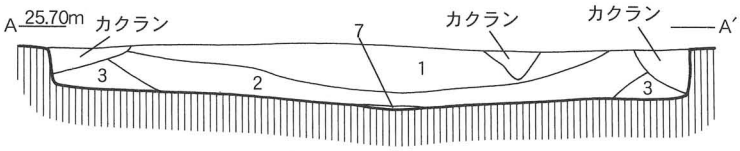
グリット出土土器（22～45、47～50）、埋甕（46）



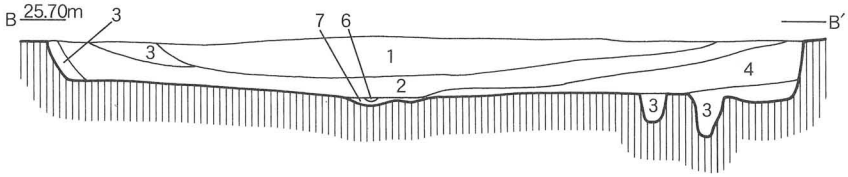
グリット出土土器（51～79）

SI01

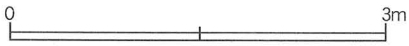




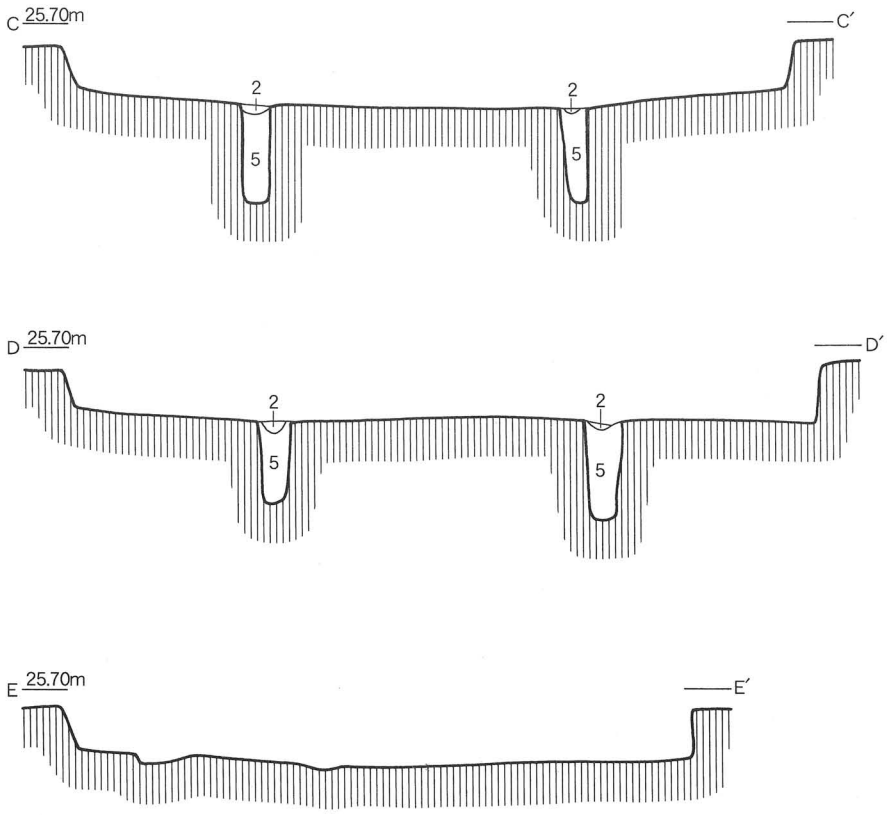
1. 黒色土　微量のローム粒を含む。
2. 黒褐色土　微量のローム粒を含む。
3. 暗褐色土　多量のローム粒を含む。
4. 黒色土　少量のローム粒を含む。
5. 黒褐色土　多量のローム粒を含む。
6. 黒褐色土　少量のローム粒、多量のロームブロック、微量の焼土粒を含む。
7. 黒褐色土　少量のローム粒、多量の焼土粒を含む。



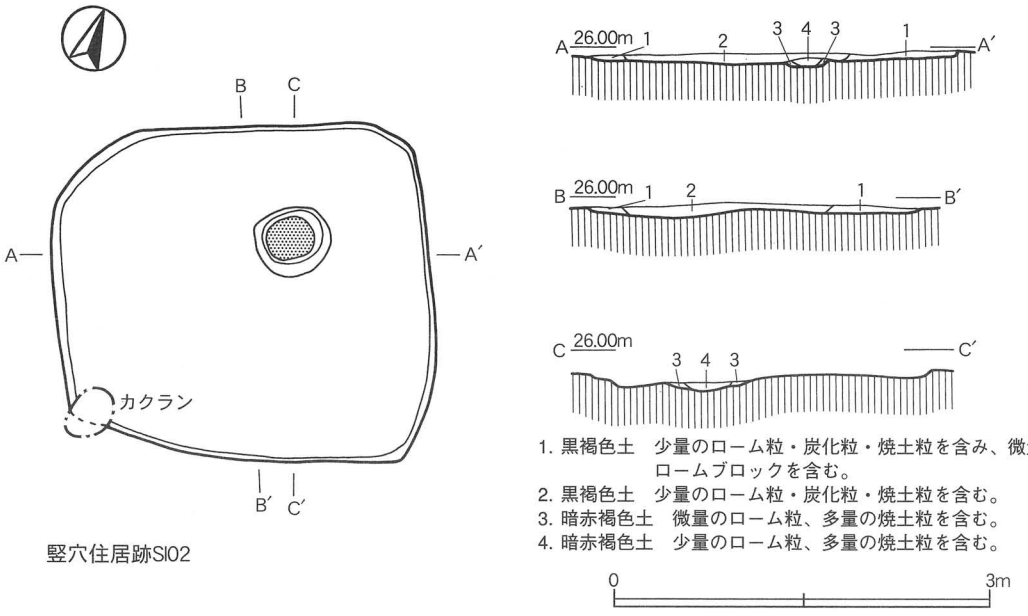
竪穴住居跡SI01



SI01
SI02



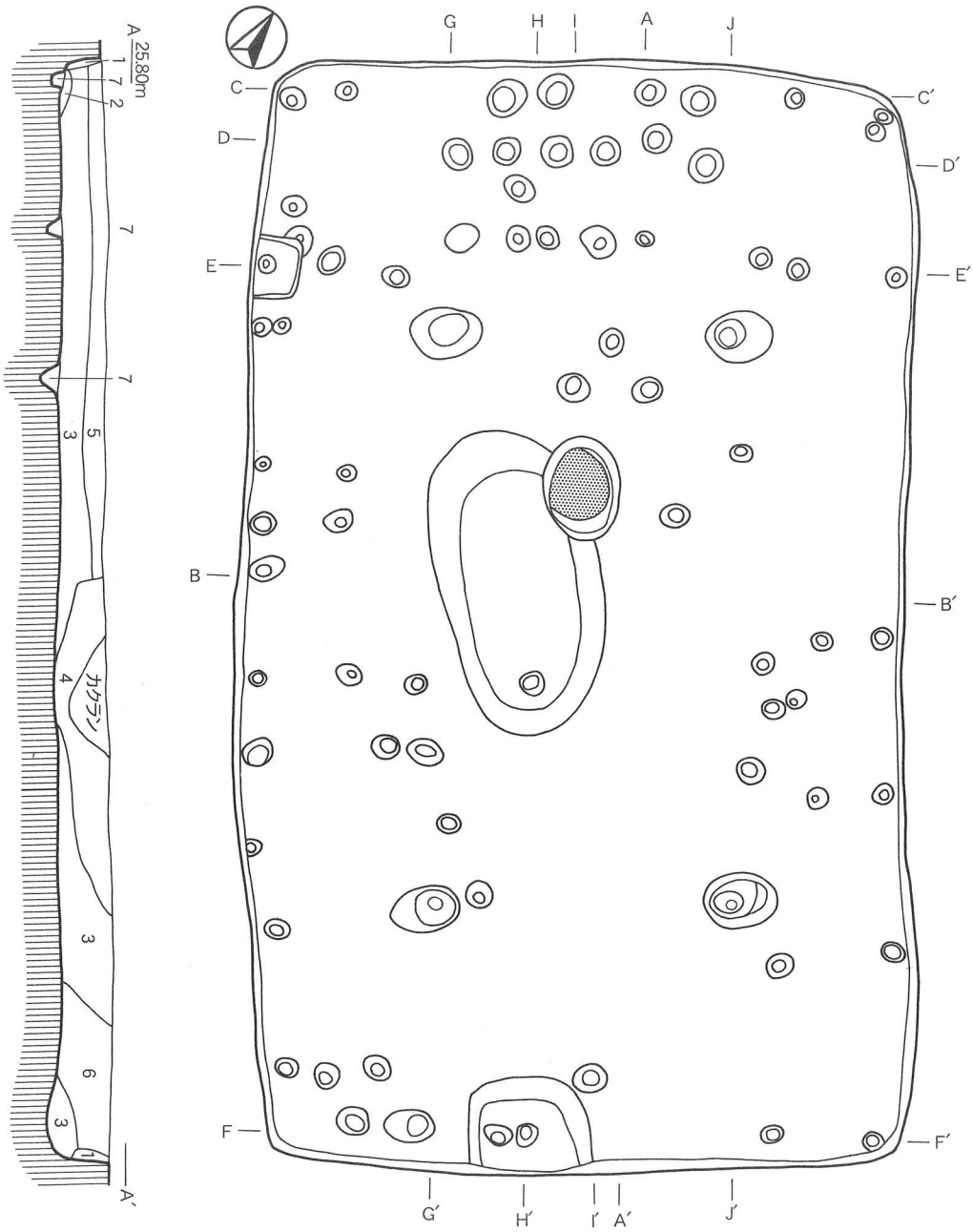
竪穴住居跡SI01



1. 黒褐色土　少量のローム粒・炭化粒・焼土粒を含み、微量のロームブロックを含む。
2. 黒褐色土　少量のローム粒・炭化粒・焼土粒を含む。
3. 暗赤褐色土　微量のローム粒、多量の焼土粒を含む。
4. 暗赤褐色土　少量のローム粒、多量の焼土粒を含む。

竪穴住居跡SI02

SI03

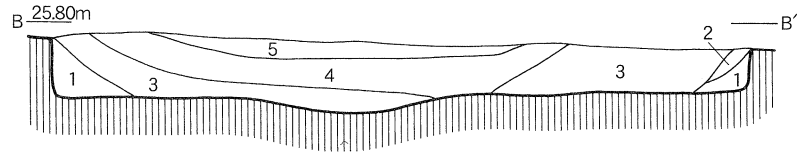


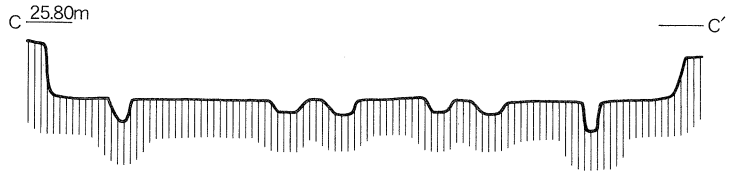
1. 暗褐色土　少量のローム粒・ロームブロックを含む。
2. 暗褐色土　少量のローム粒・焼土粒を含む。
3. 黒褐色土　少量のローム粒を含む。
4. 黒色土　少量のローム粒を含む。
5. 黒色土　微量のローム粒を含む。
6. 暗褐色土　少量のローム粒を含む。
7. 褐色土　多量のローム粒を含む。
8.黒褐色土　少量のローム粒・焼土粒を含む。

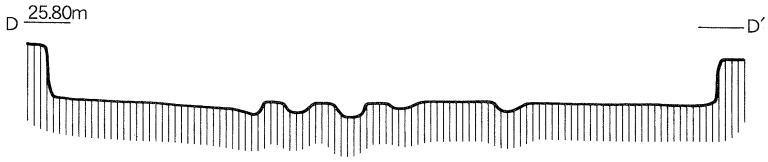
竪穴住居跡SI 03

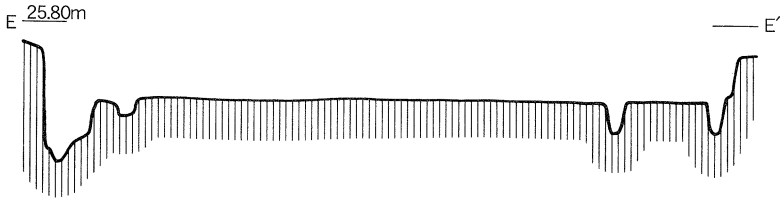
0　3m

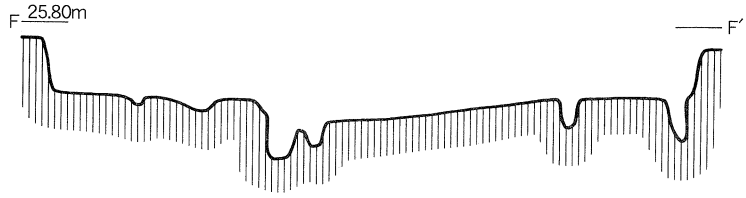
SI03



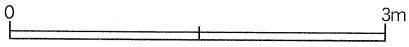




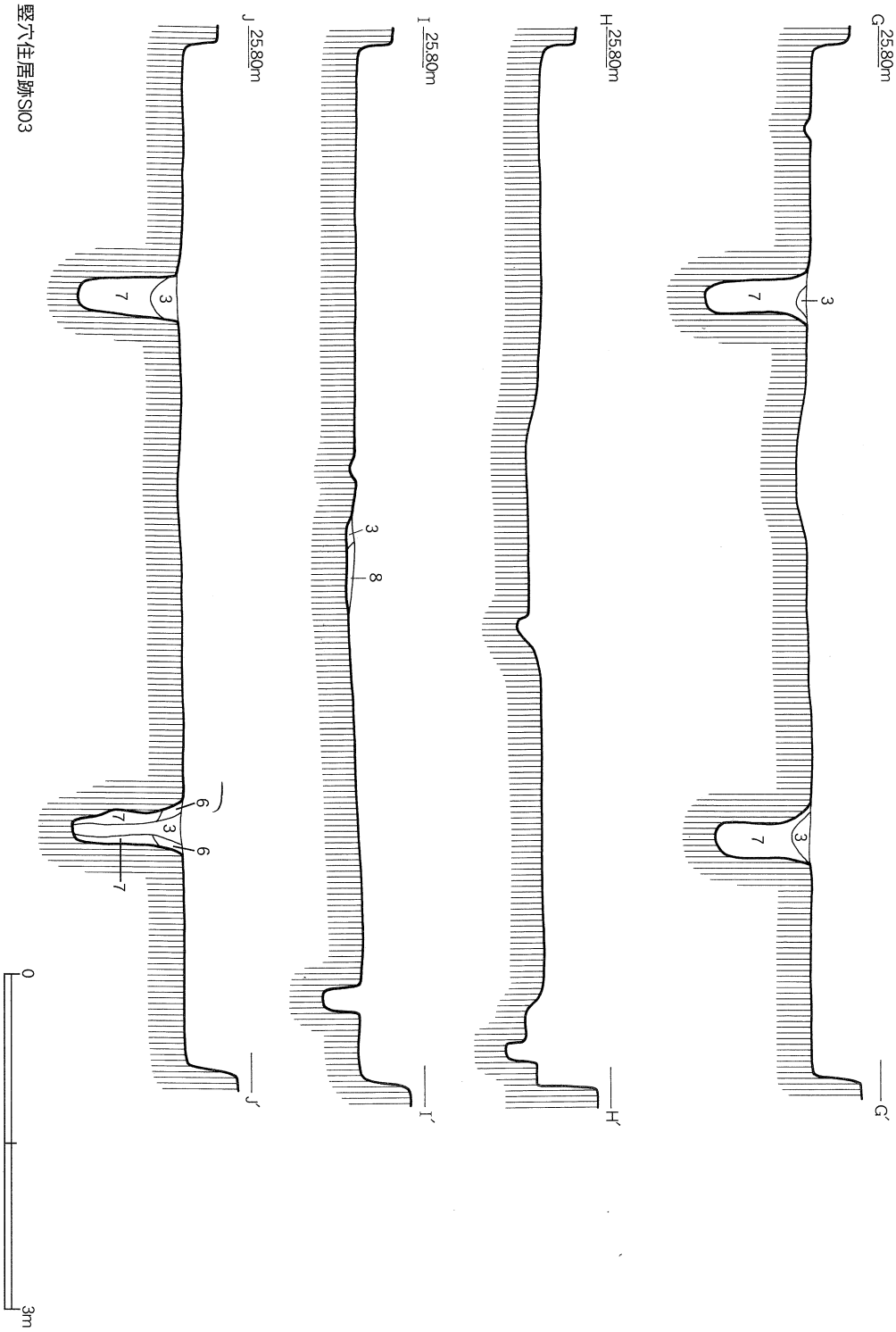




竪穴住居跡SI03

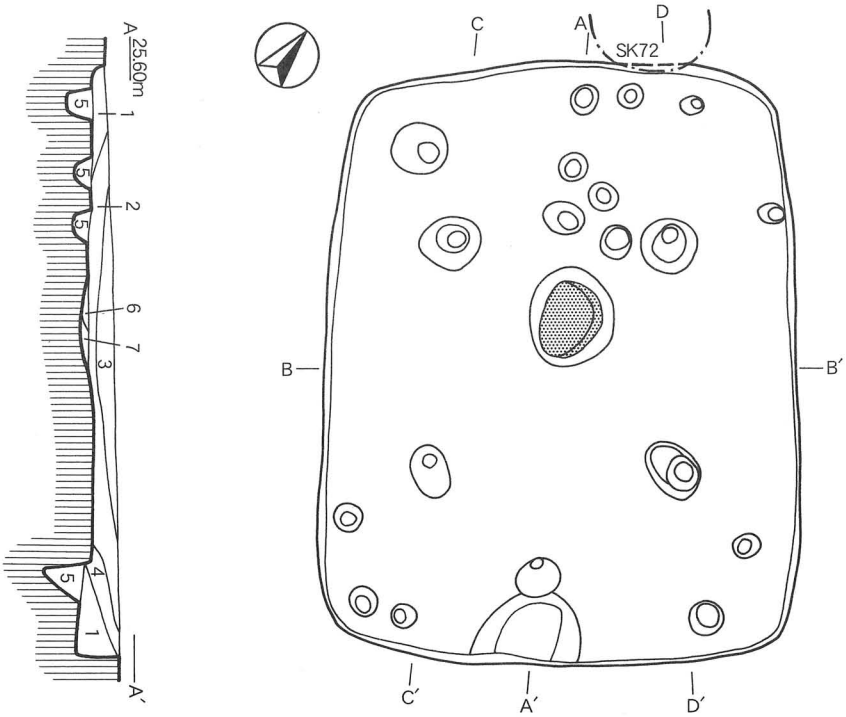


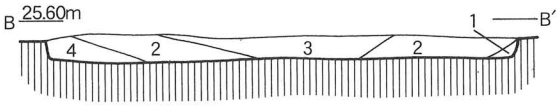
SI03



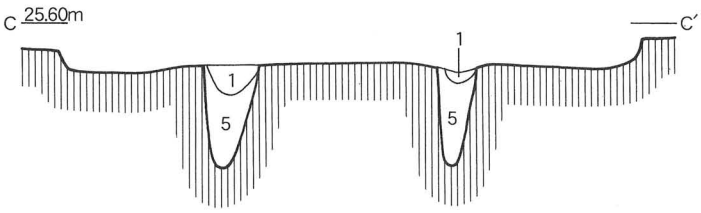
竪穴住居跡SI03

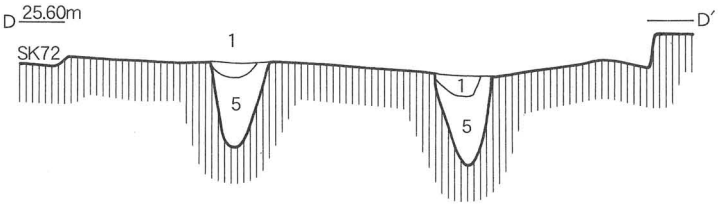
SI04





1. 黒褐色土　微量のローム粒を含む。
2. 黒褐色土　少量のローム粒を含む。
3. 黒色土　少量のローム粒を含む。
4. 暗褐色土　少量のローム粒を含む。
5. 褐色土　多量のローム粒を含む。
6. 黒褐色土　多量の焼土粒を含む。
7. 赤褐色土　多量の焼土粒を含む。

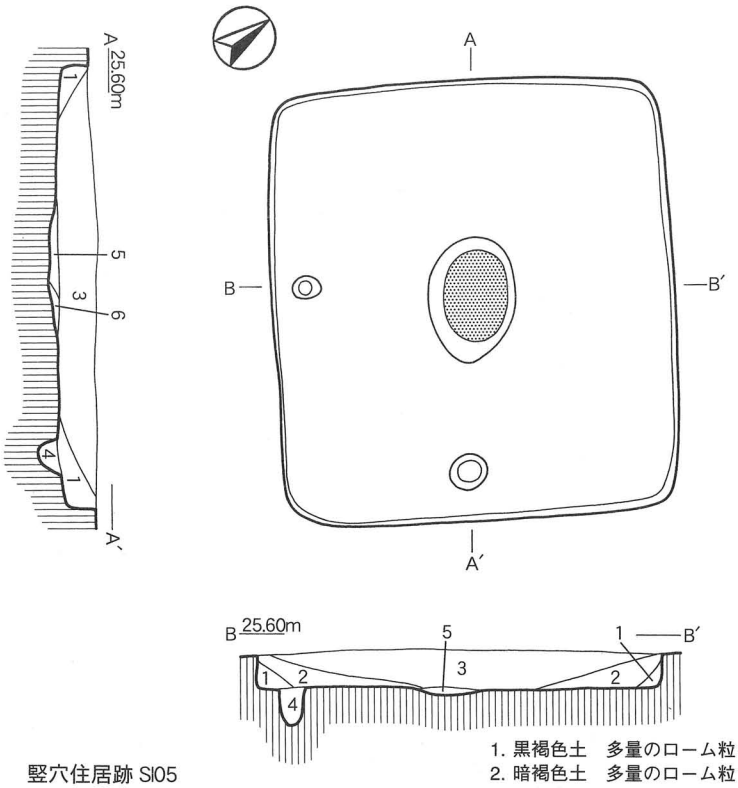




竪穴住居跡SI04

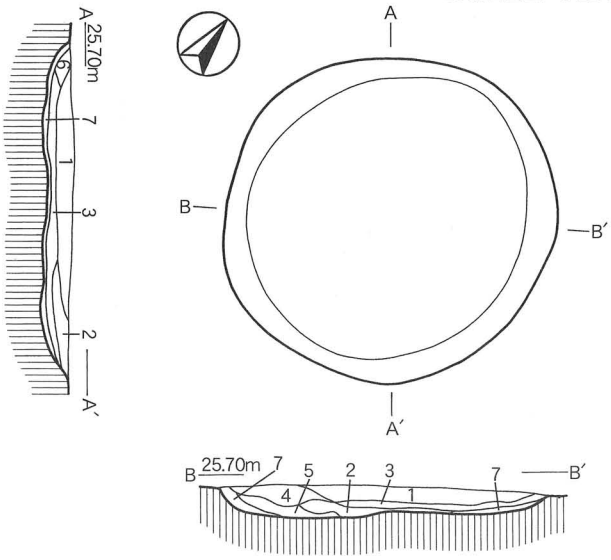
0　3m

SI05
SX01



竪穴住居跡 SI05

1. 黒褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
2. 暗褐色土　多量のローム粒を含む。
3. 黒色土　少量のローム粒、微量の焼土粒を含む。
4. 褐色土　多量のローム粒を含む。
5. 黒褐色土　多量の焼土粒、少量のローム粒を含む。
6. 黒褐色土　少量の焼土粒・ローム粒を含む。

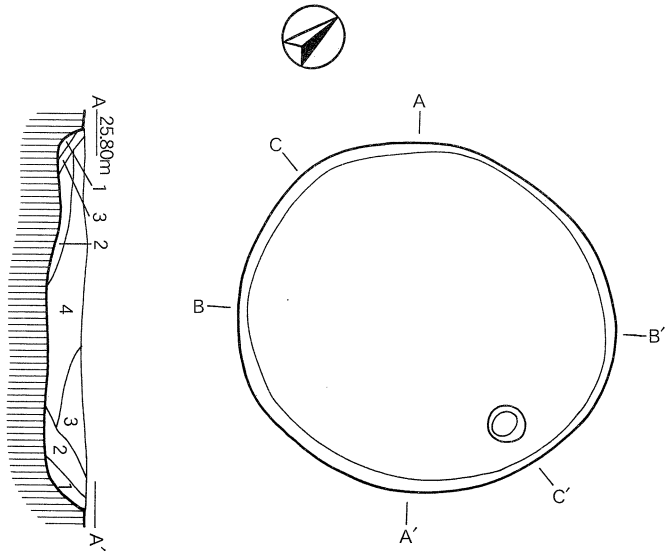


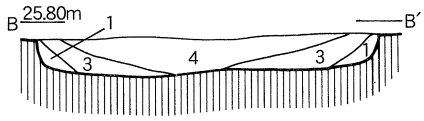
1. 黒褐色土　少量のローム粒を含む。
2. 黒色土　微量のローム粒を含む。
3. 黒褐色土　多量のローム粒を含む。
4. 暗褐色土　多量のローム粒を含む。
5. 暗褐色土　少量のローム粒を含む。
6. 褐色土　少量のローム粒を含む。
7. 黄褐色土　多量のローム粒を含む。

竪穴状遺構SX01

0　3m

SX02



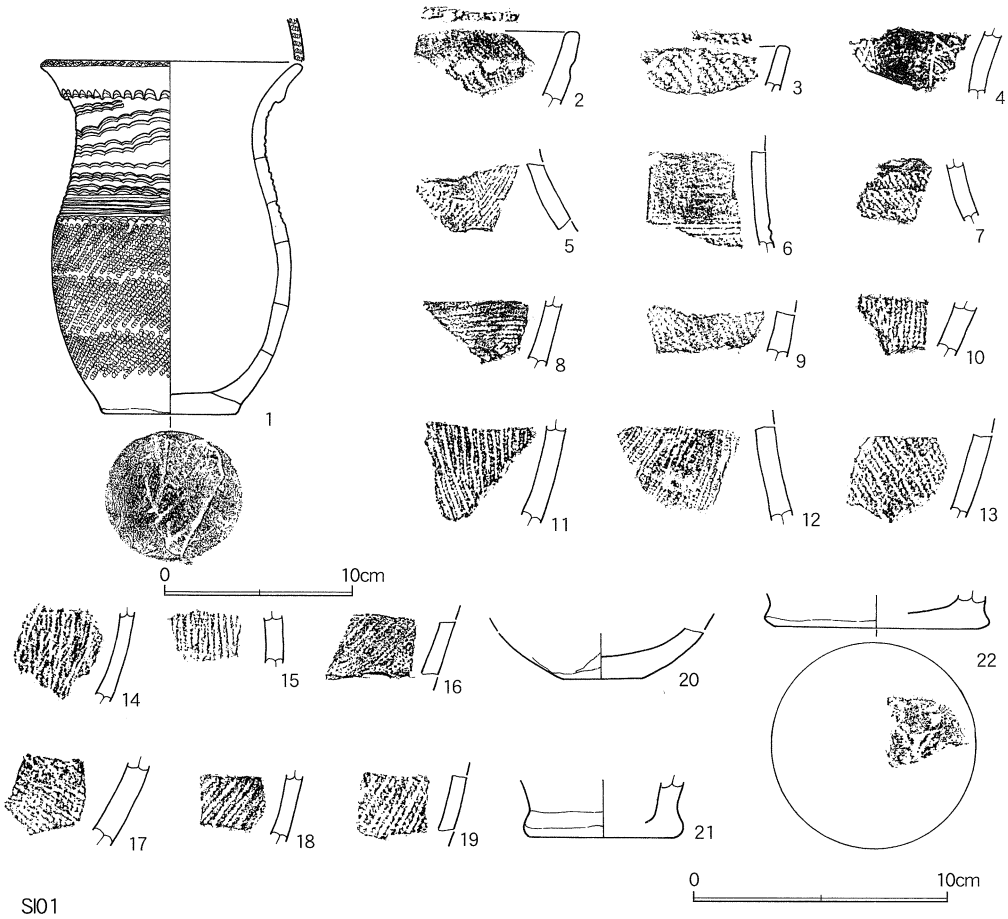


1. 暗褐色土　多量のローム粒を含む。
2. 暗褐色土　少量のローム粒を含む。
3. 黒褐色土　少量のローム粒を含む。
4. 黒色土　少量のローム粒・微量のロームブロックを含む。
5. 黄橙色土　多量のローム粒を含む。

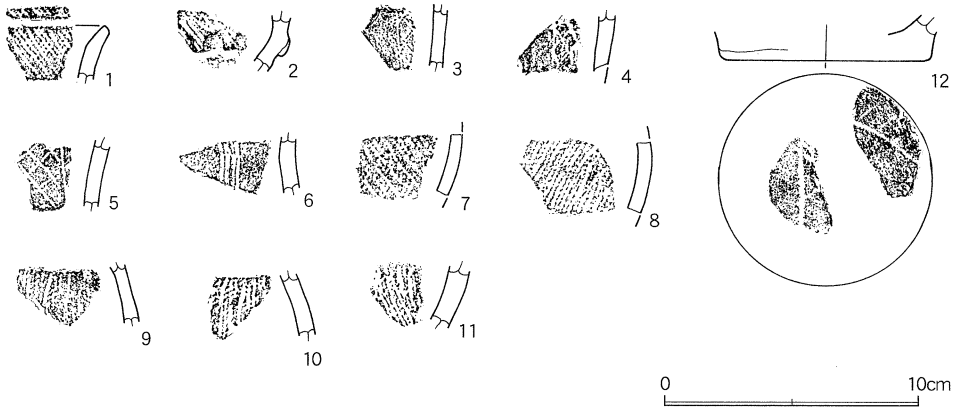
0　3m

竪穴状遺構SX02

SI01
SI02

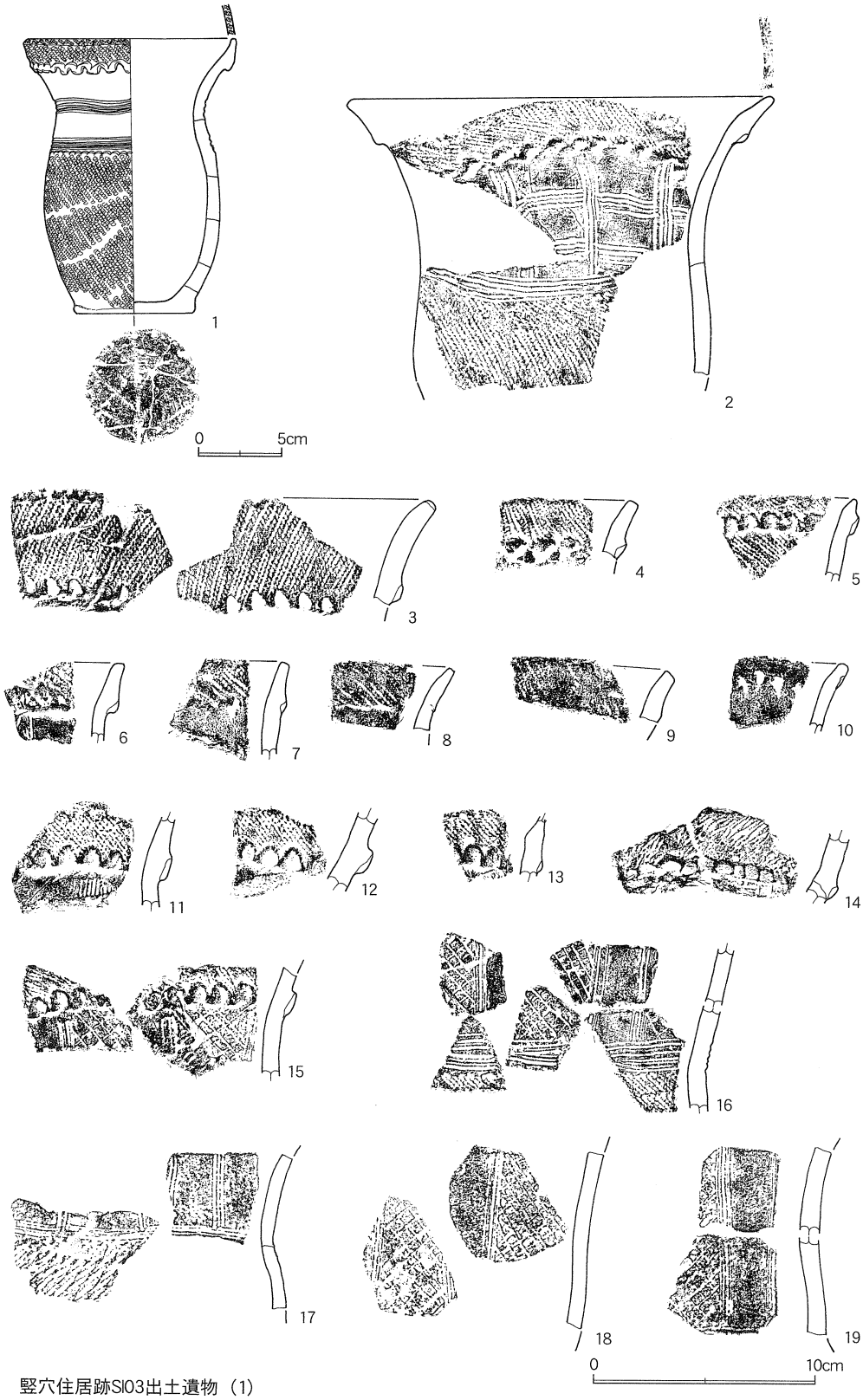

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
0
10cm
14
15
16
20
22
17
18
19
21
0
10cm

SI01


1
2
3
4
12
5
6
7
8
9
10
11
0
10cm

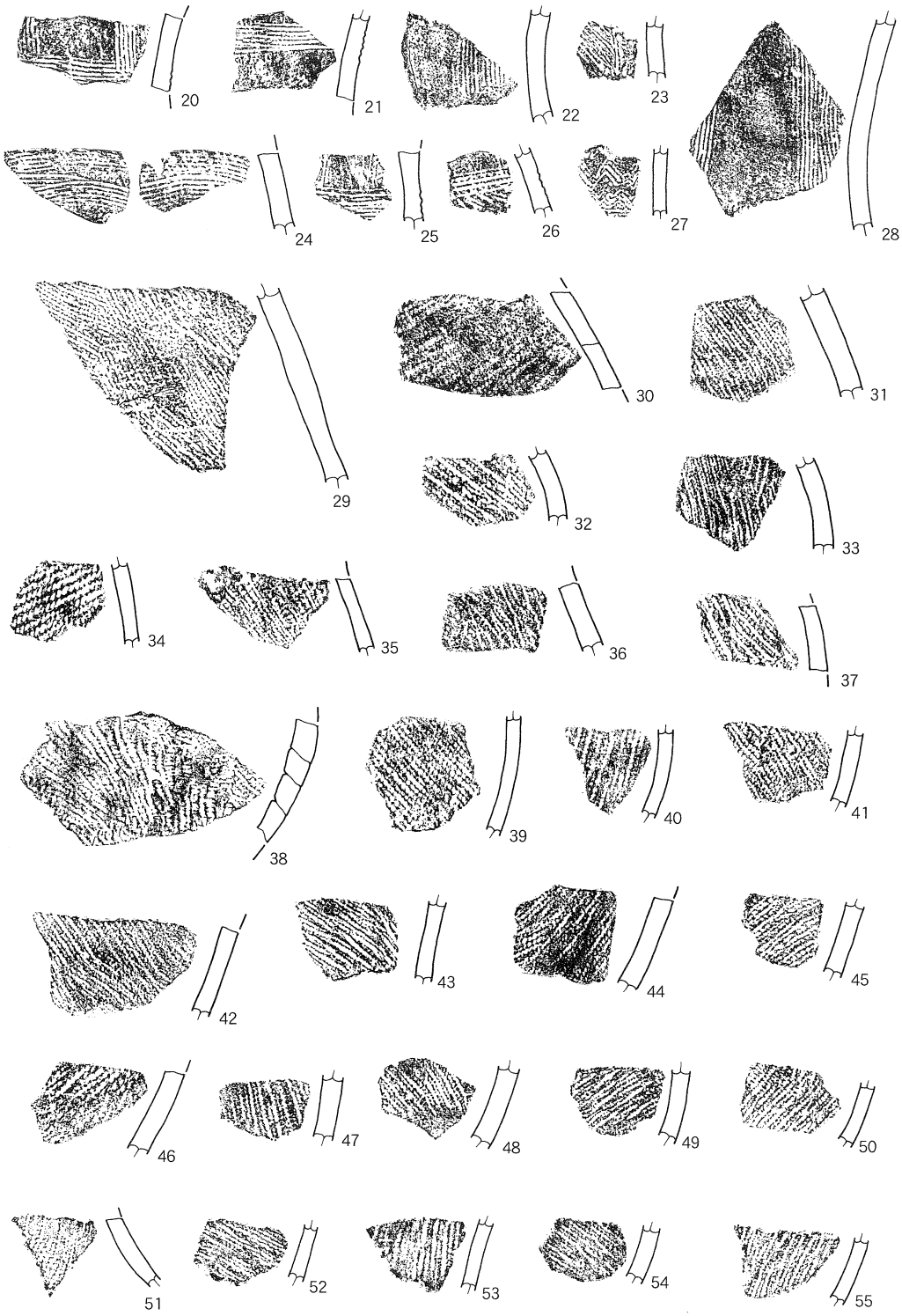
SI02

SI03



竪穴住居跡SI03出土遺物（1）

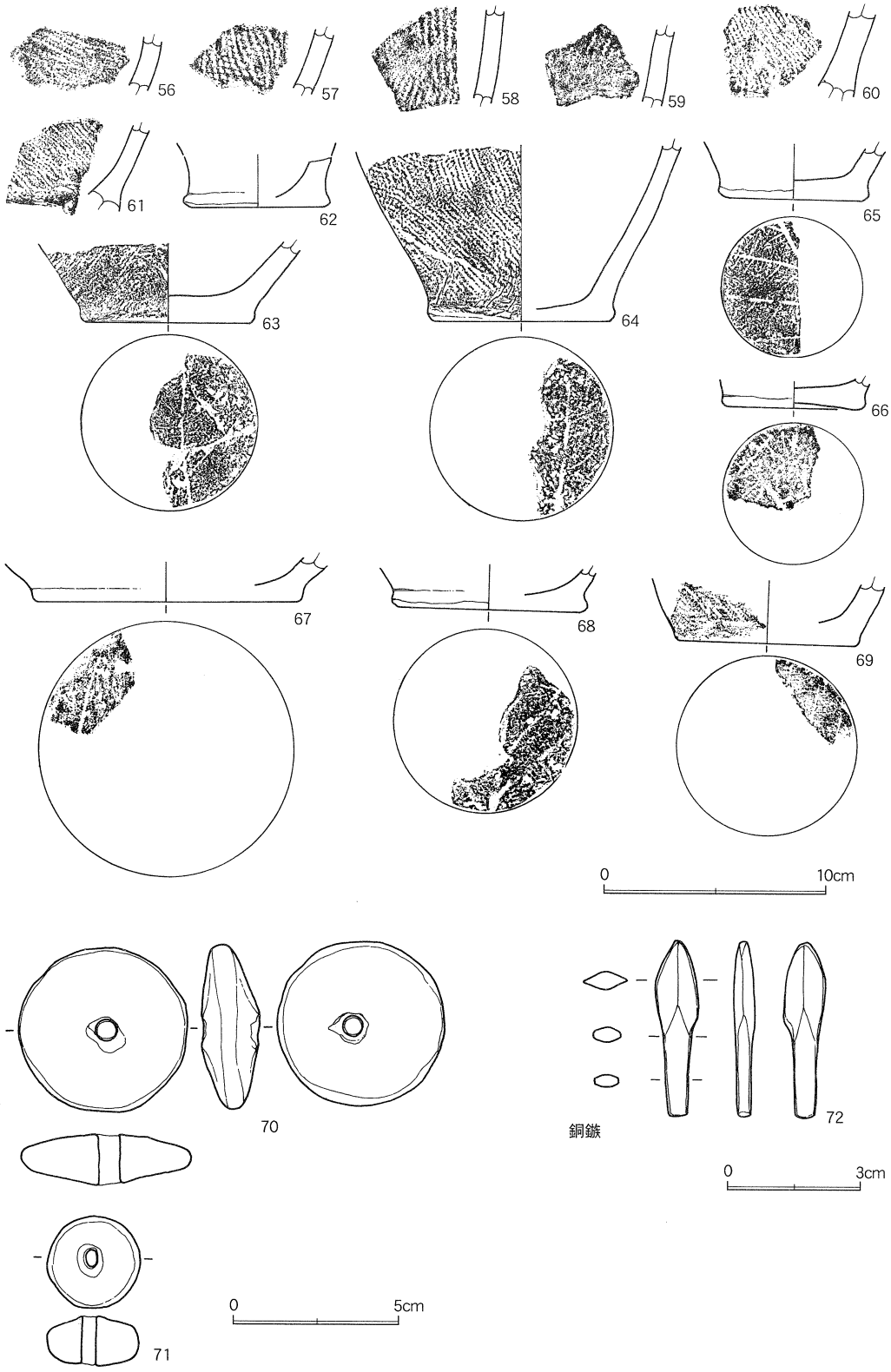
SI03



竪穴住居跡SI03出土遺物（2）

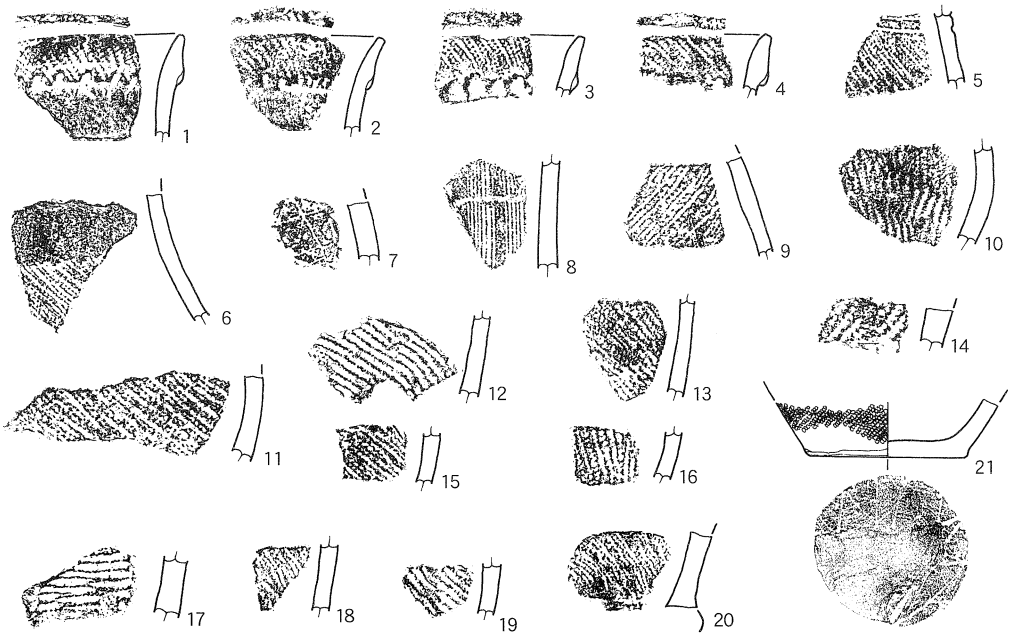
0　10cm

SI03



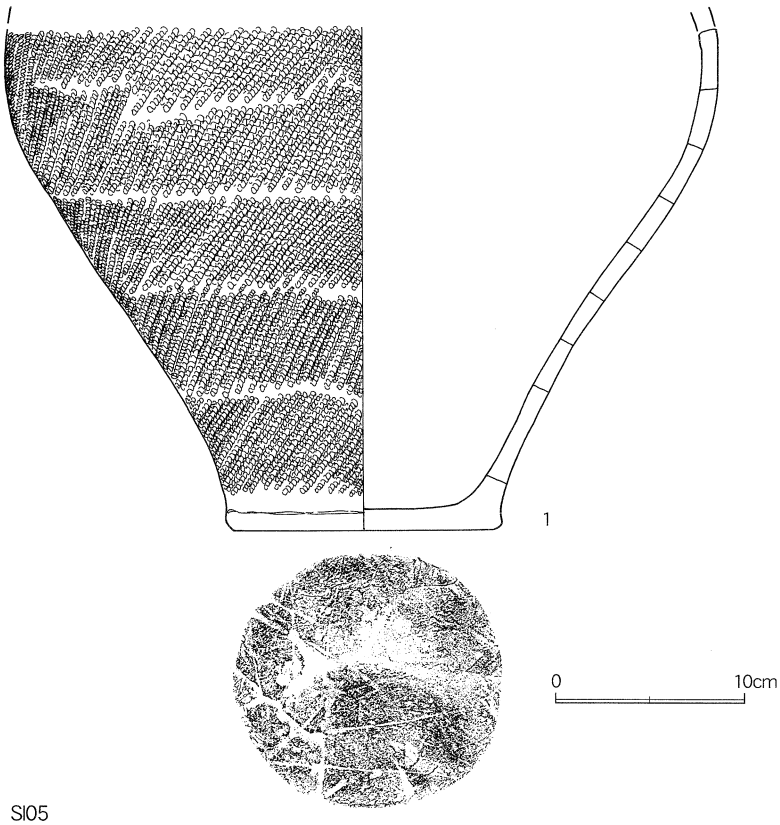
竪穴住居跡SI03出土遺物（3）

S105
S104



SI04

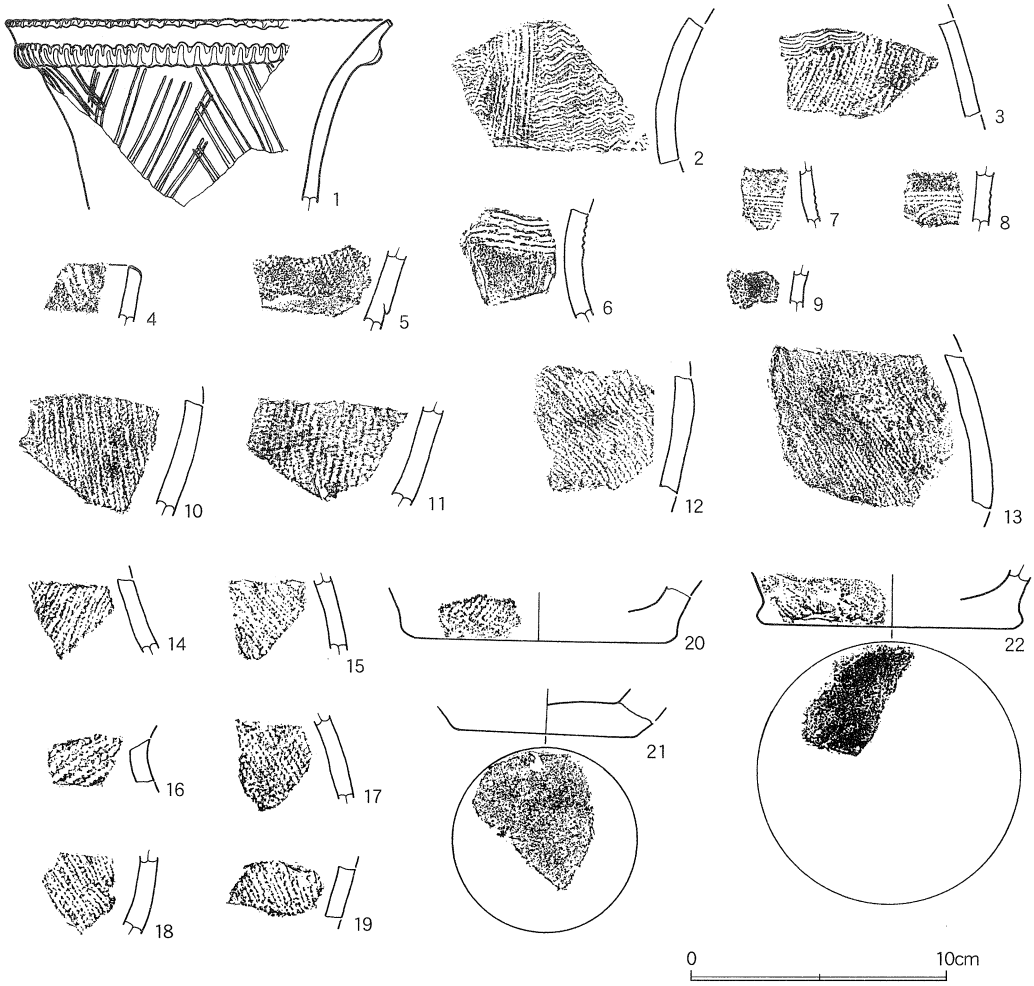
0　10cm



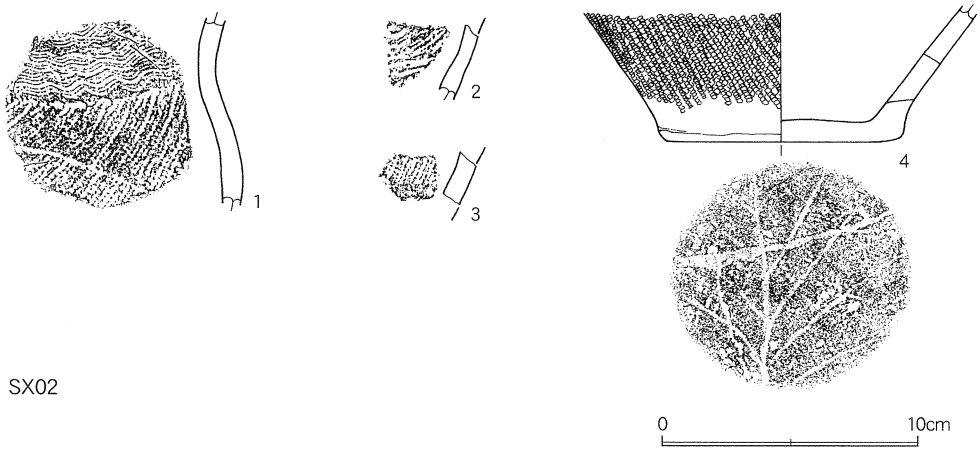
0　10cm

SI05

SX01
SX02

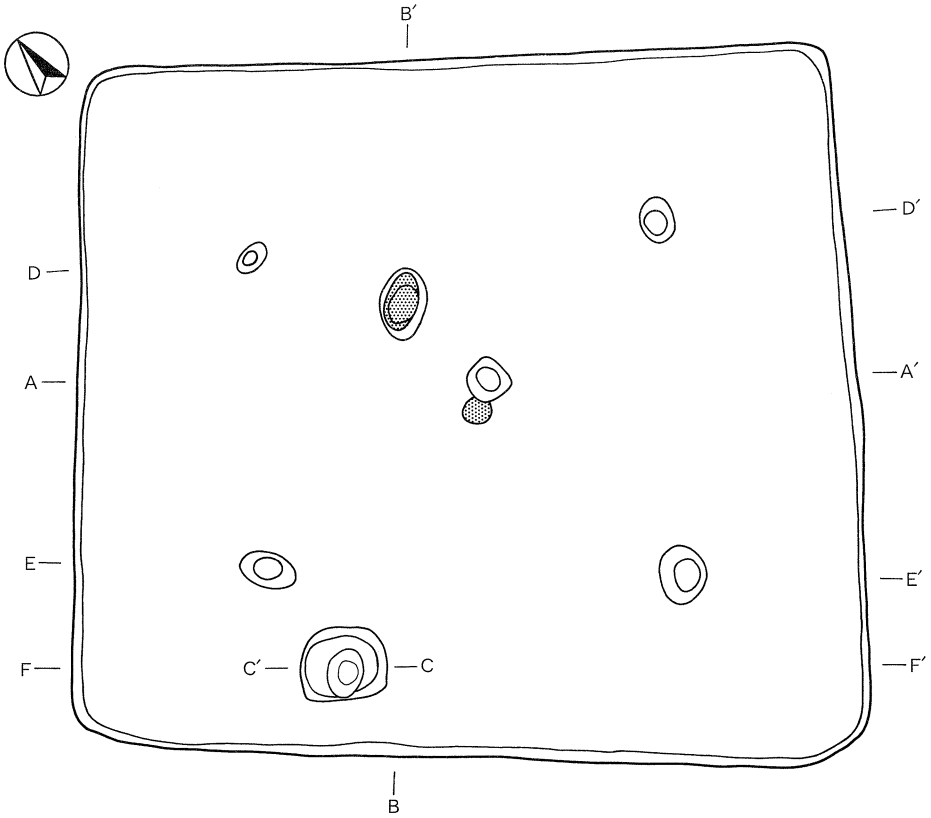


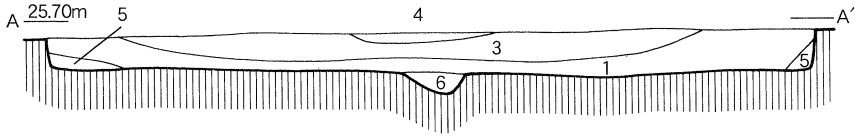
SX01

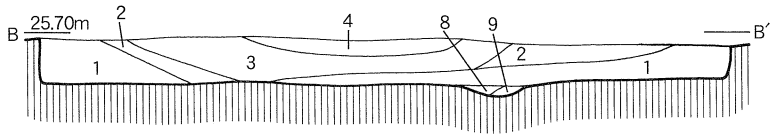


SX02

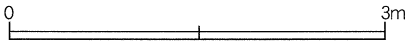
SI06



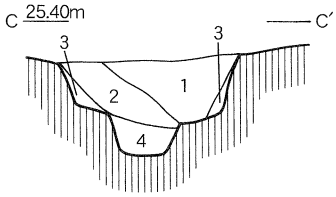




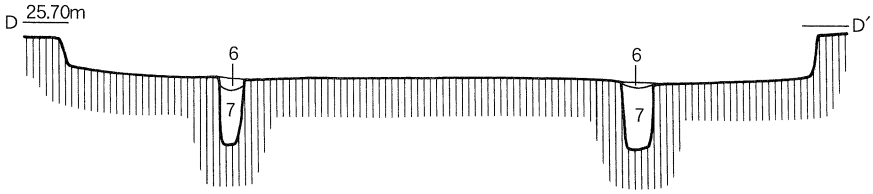
竪穴住居跡SI06

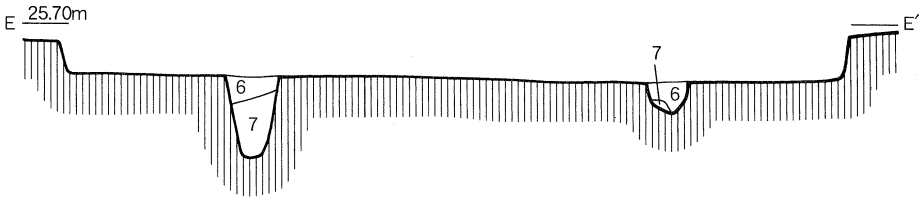


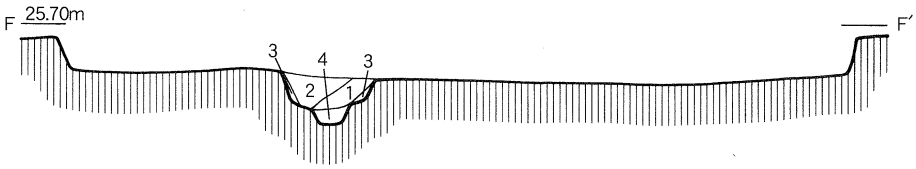
SI06



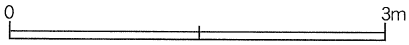
1. 暗褐色土　多量のローム粒、少量の炭化粒を含む。
2. 黒褐色土　多量のローム粒を含む。
3. 黒色土　多量のローム粒を含む。
4. 黒色土　少量のローム粒を含む。
5. 黒褐色土　少量のローム粒を含む。
6. 黒褐色土　少量のローム粒・ロームブロックを含む。
7. 暗褐色土　多量のローム粒を含む。
8. 黒褐色土　少量のローム粒、多量の焼土粒を含む。
9. 暗褐色土　多量のローム粒、少量の焼土粒を含む。



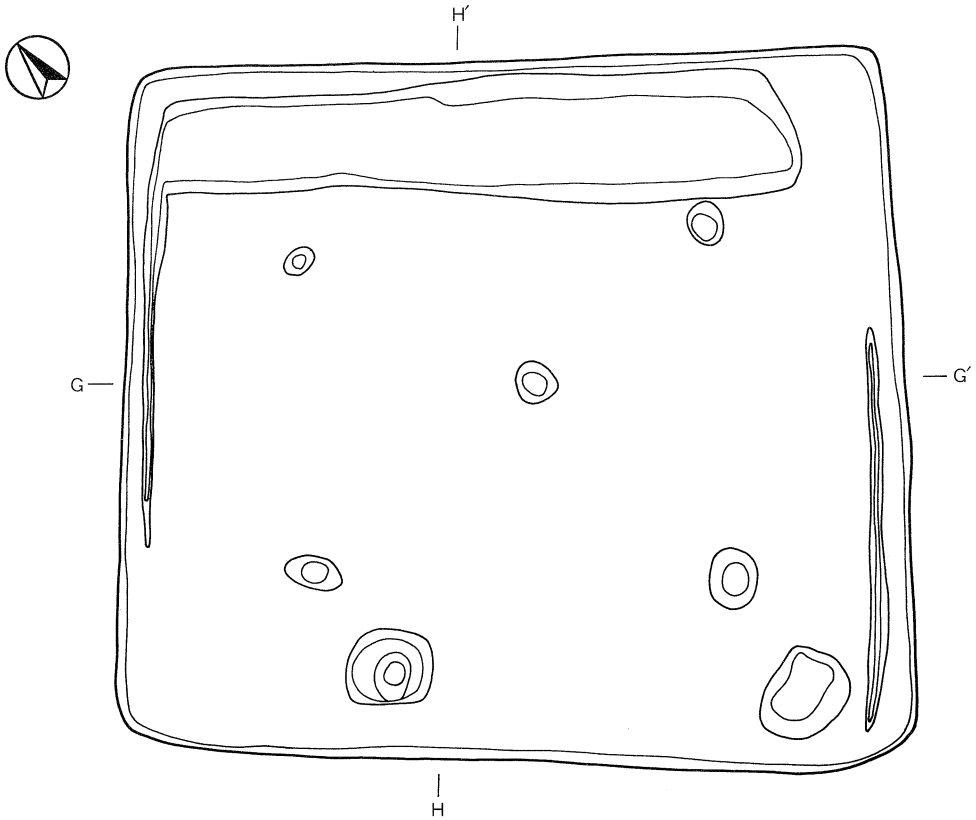


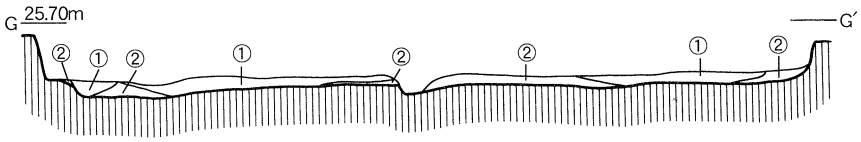


竪穴住居跡SI06

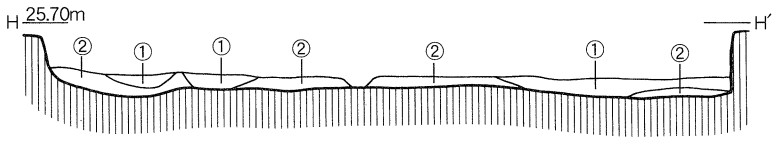


SI06

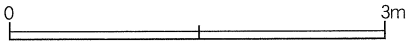




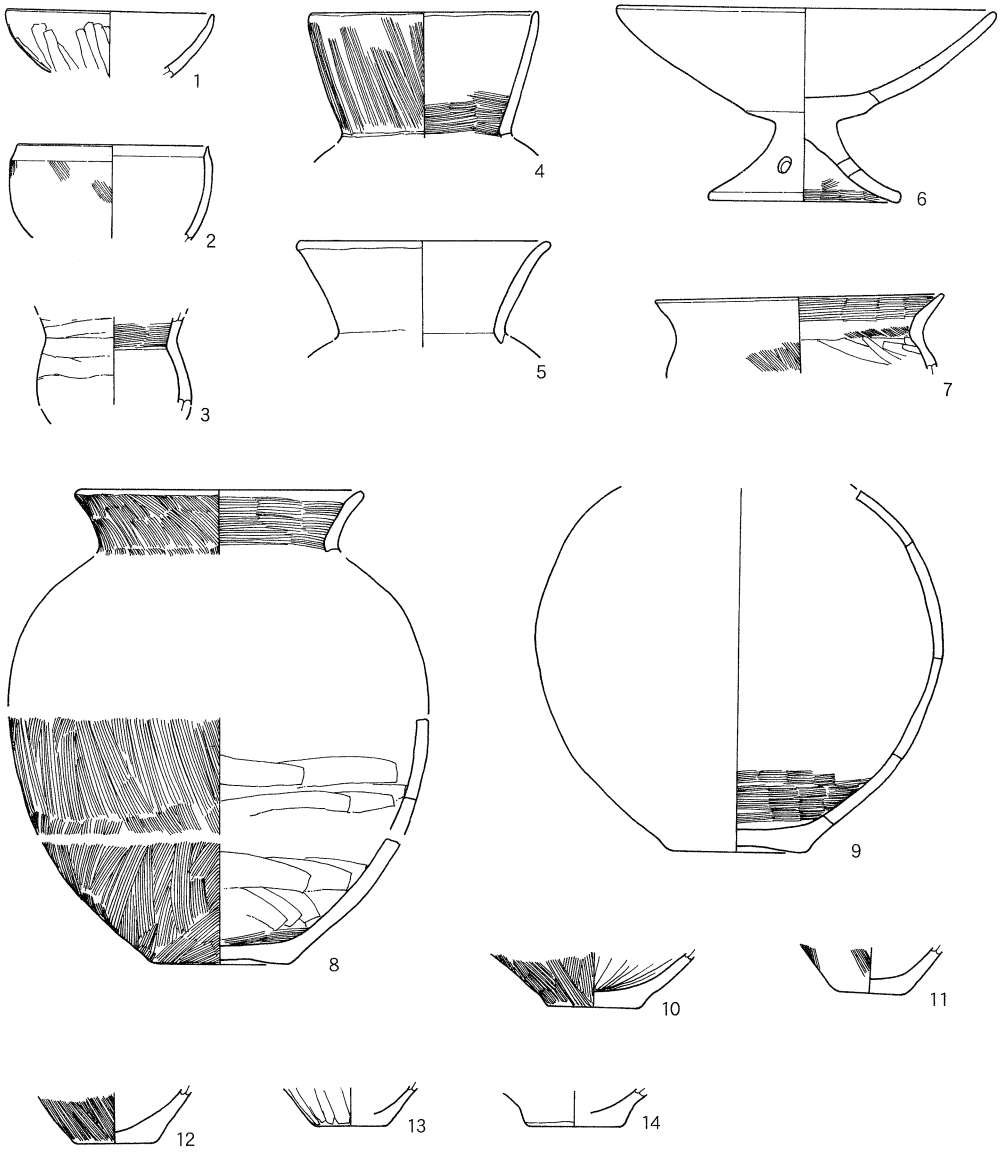
①黒褐色土　多量のローム粒を含む。
②暗黄褐色土　多量のローム粒を含む。



竪穴住居跡SI06掘形（貼床下）

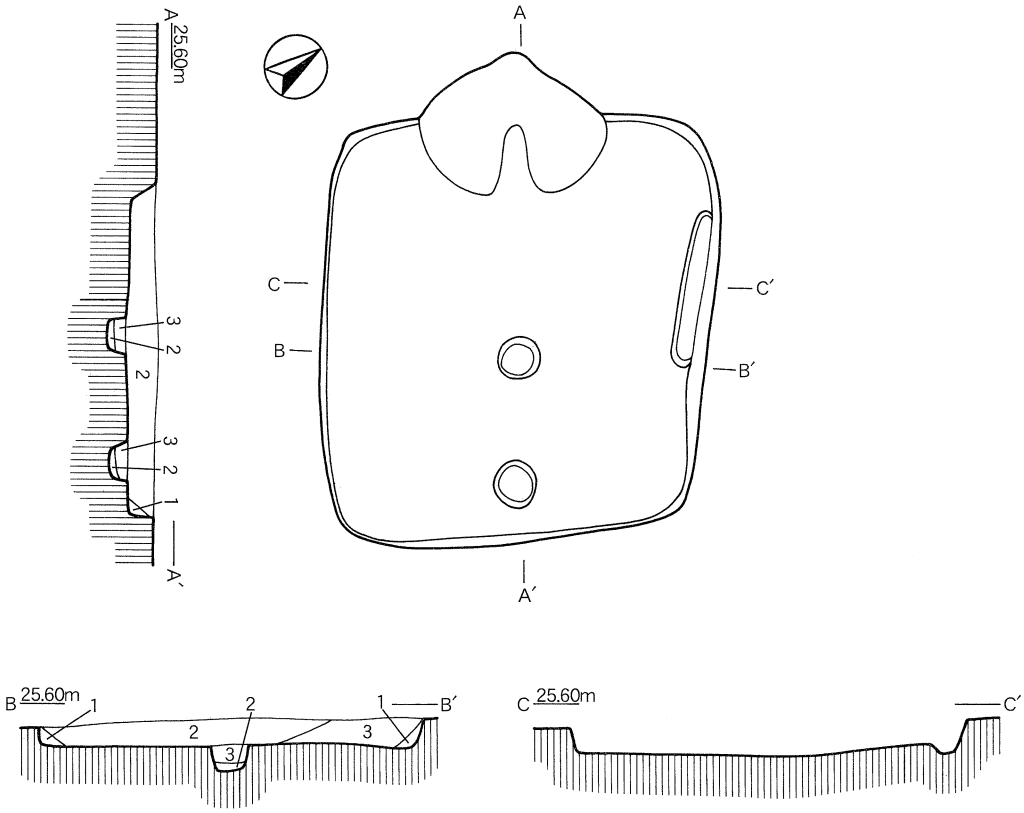


SI06

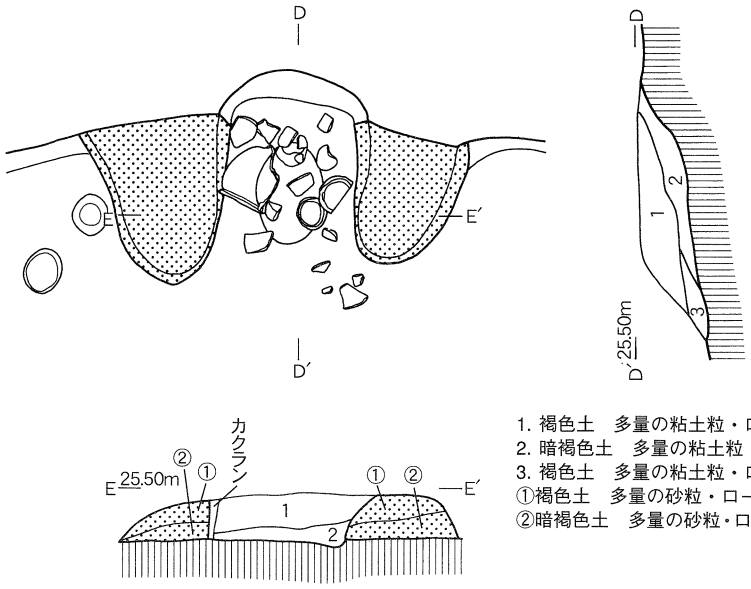


SI06

SI07

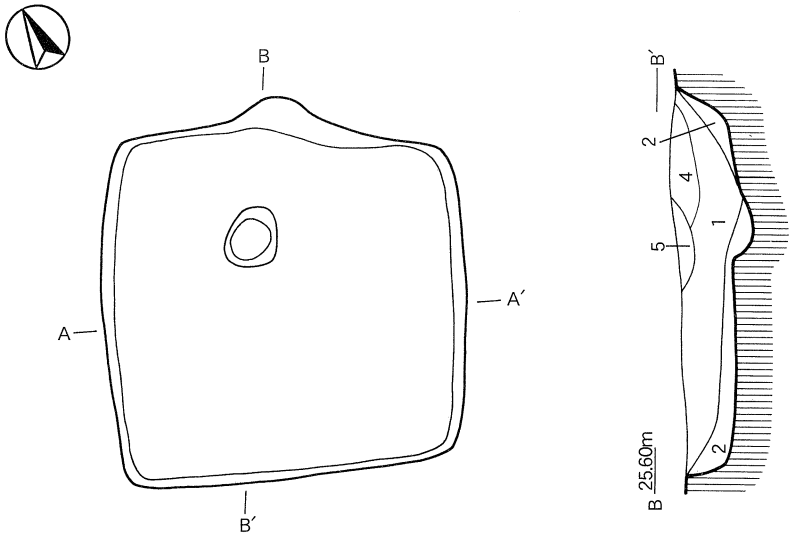


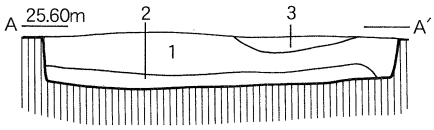
竪穴住居跡SI07



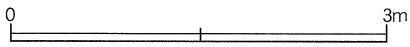
竪穴住居跡SI07カマド

SX03

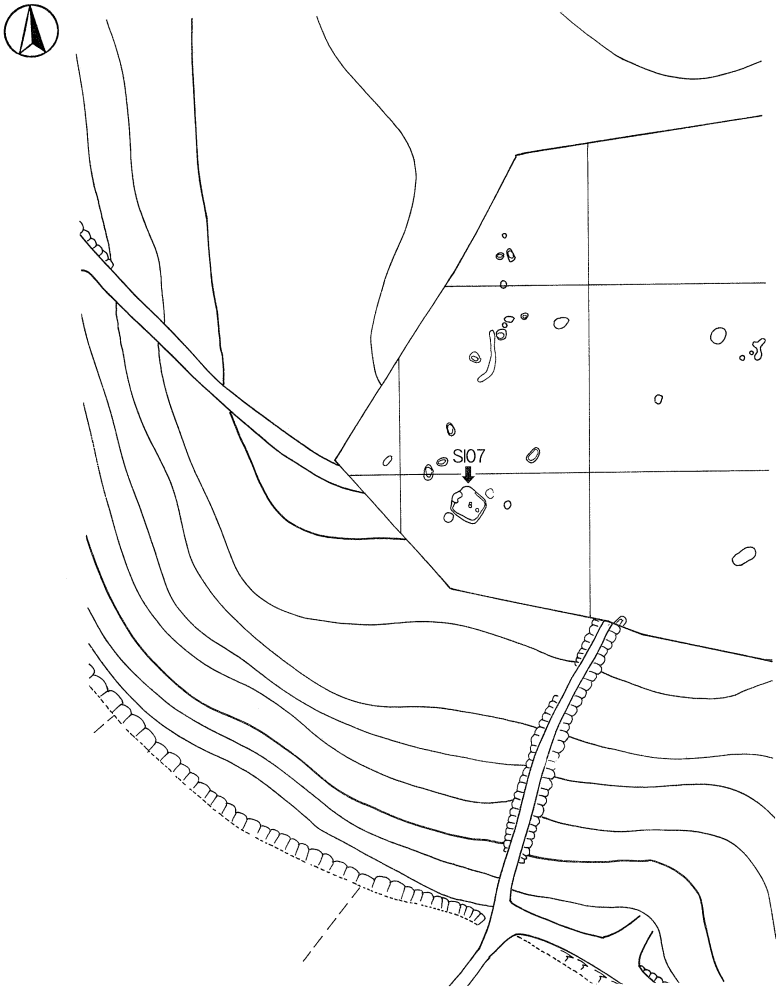


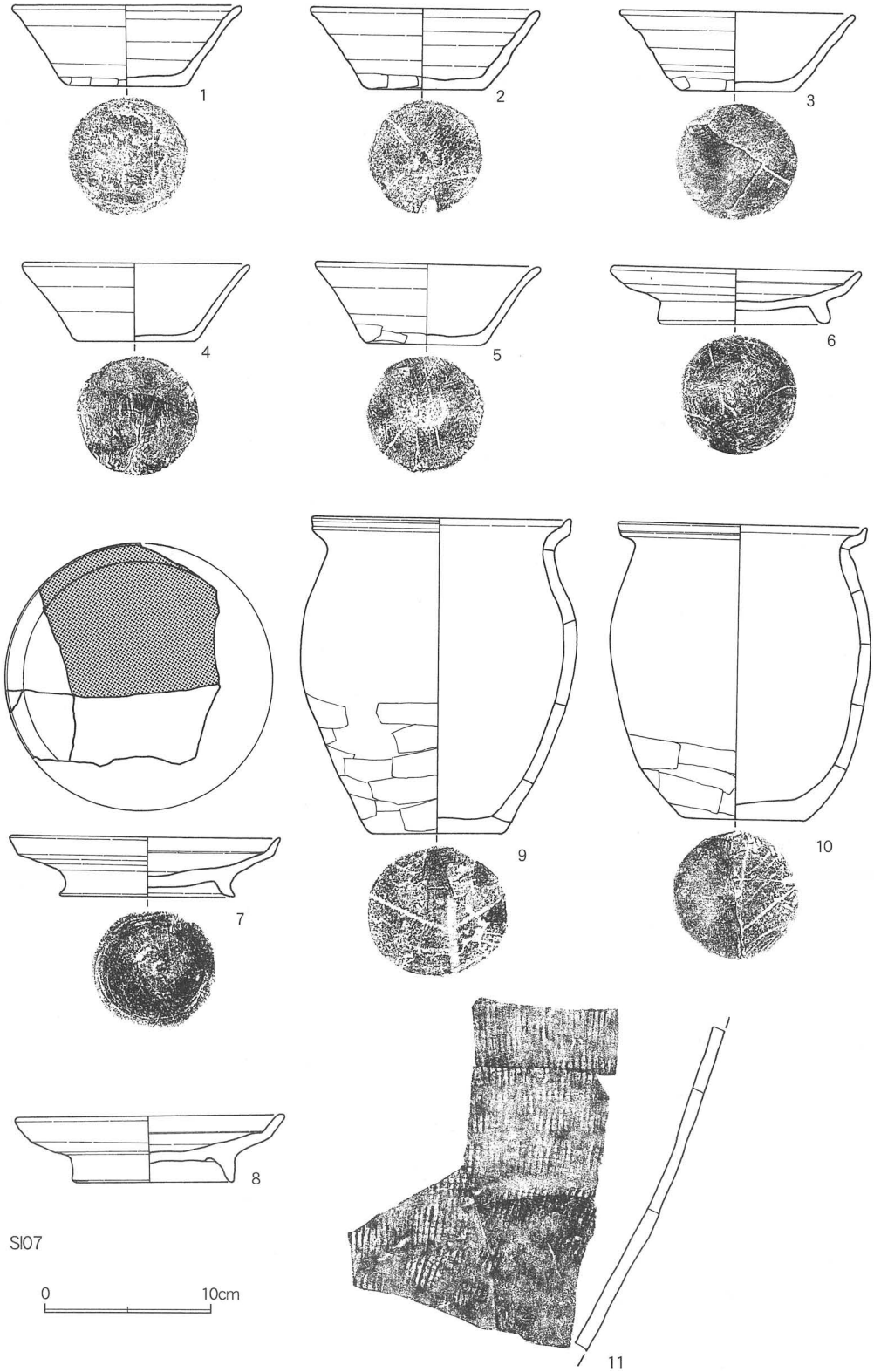


1. 黒褐色土　多量のローム粒、微量の炭化粒・焼土粒を含む。
2. 黄橙色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
3. 暗褐色土　多量のローム粒・ロームブロック、微量の焼土粒・炭化粒を含む。
4. 暗褐色土　多量のローム粒を含む。
5. 黒色土　少量のローム粒を含む。

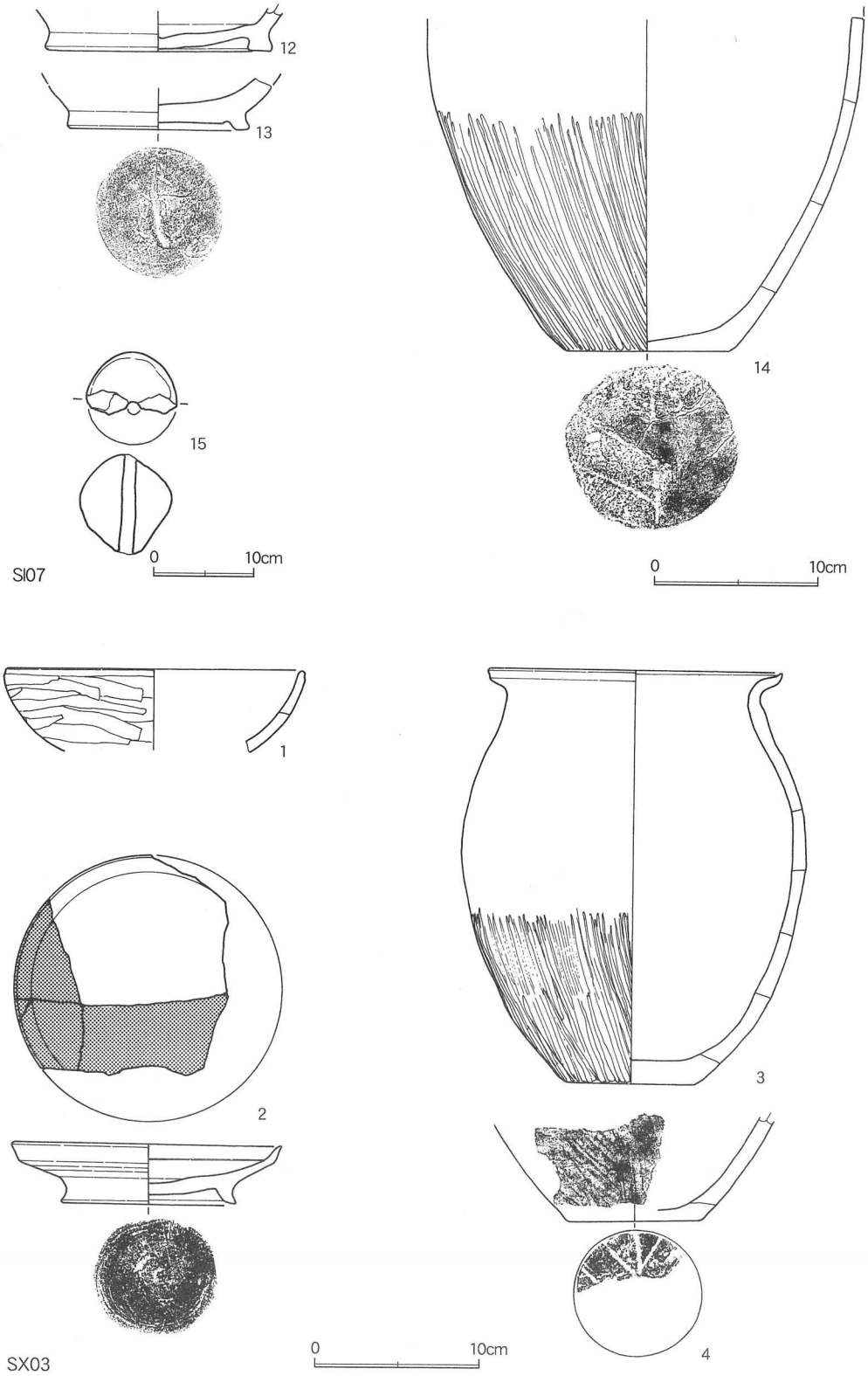


竪穴状遺構SX03

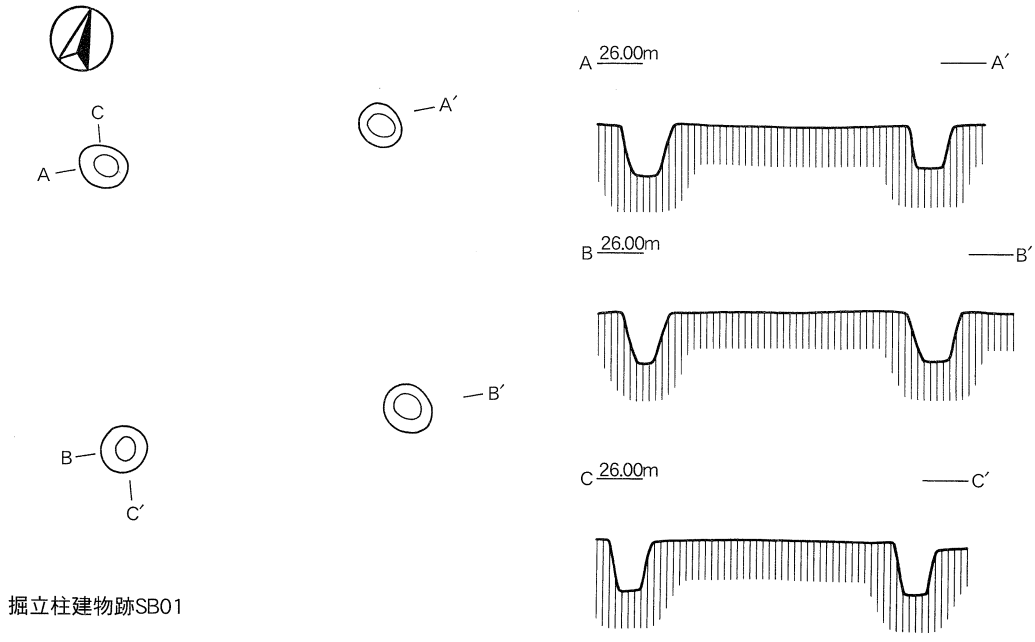

SI07


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
SI07
0
10cm

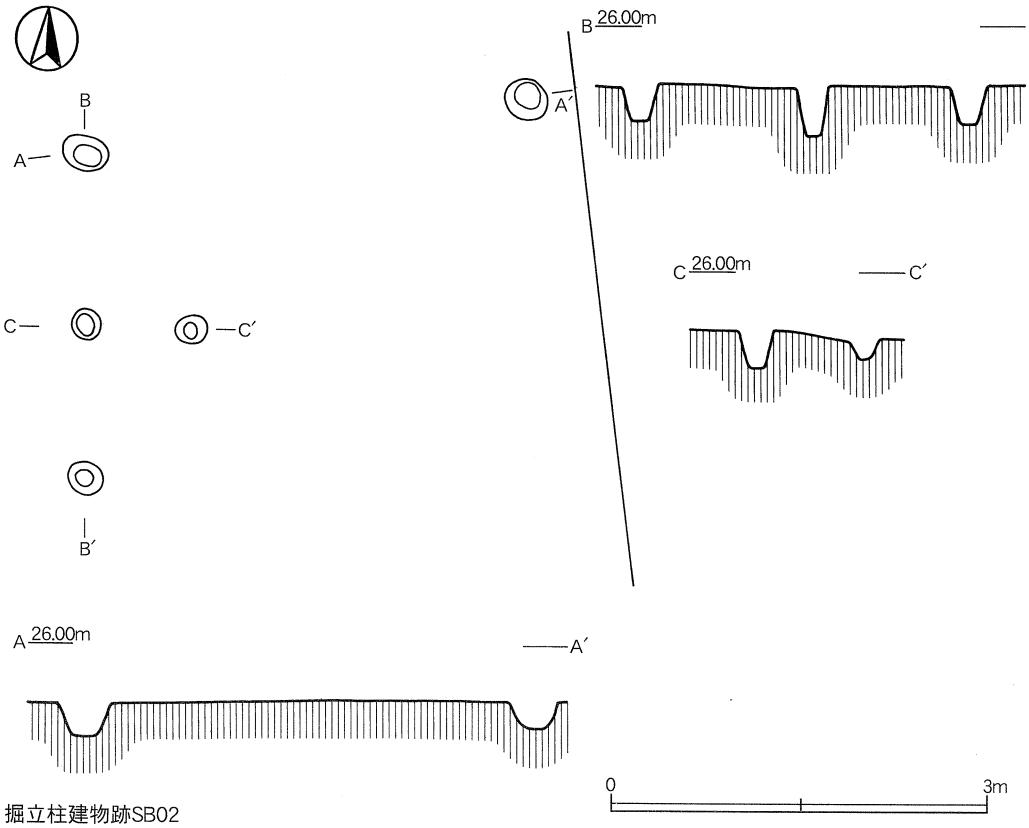
SI07
SX03


12
13
14
15
0
10cm
SI07
0
10cm
1
2
3
4
SX03
0
10cm

SB01
SB02

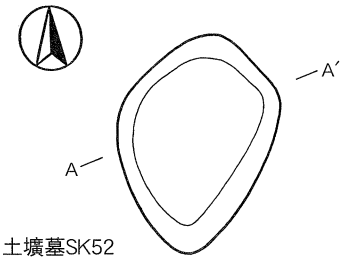


掘立柱建物跡SB01

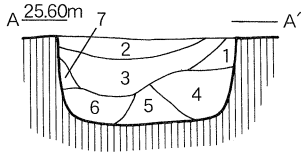


掘立柱建物跡SB02

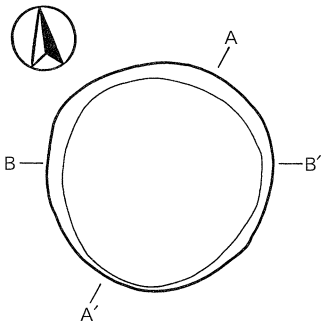
SK66
SK67
SK69
SK52



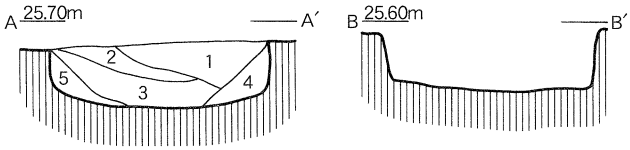
土壙墓SK52



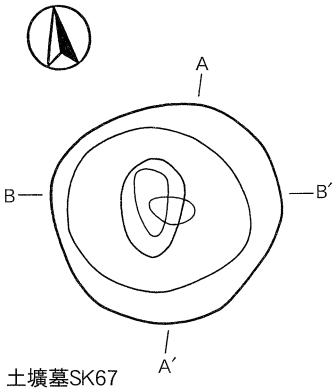
1. 暗黄褐色土　多量のローム粒を含む。
2. 黒褐色土　多量のローム粒、微量のロームブロックを含む。
3. 黒色土　多量のローム粒、微量のロームブロックを含む。



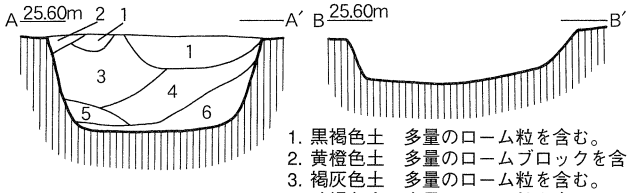
土壙墓SK66



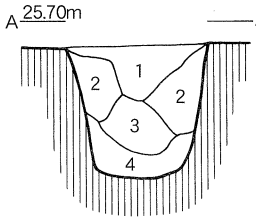
1. 黄褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
2. 黒褐色土　多量のローム粒を含む。
3. 暗褐色土　多量のローム粒を含む。
4. 黄橙色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
5. 黄褐色土　多量のローム粒を含む。



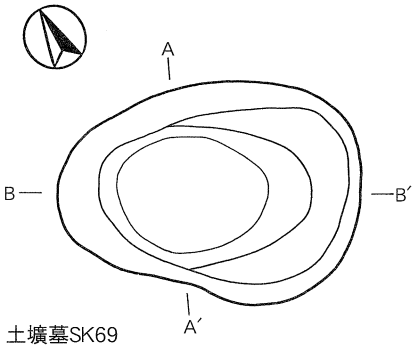
土壙墓SK67



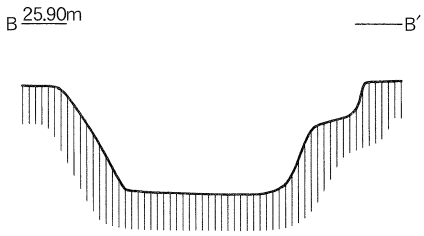
1. 黒褐色土　多量のローム粒を含む。
2. 黄橙色土　多量のロームブロックを含む。
3. 褐灰色土　多量のローム粒を含む。
4. 暗褐色土　多量のローム粒を含む。
5. 褐色土　多量のローム粒を含む。
6. 黄褐色土　微量のローム粒を含む。

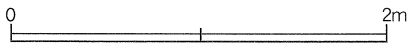


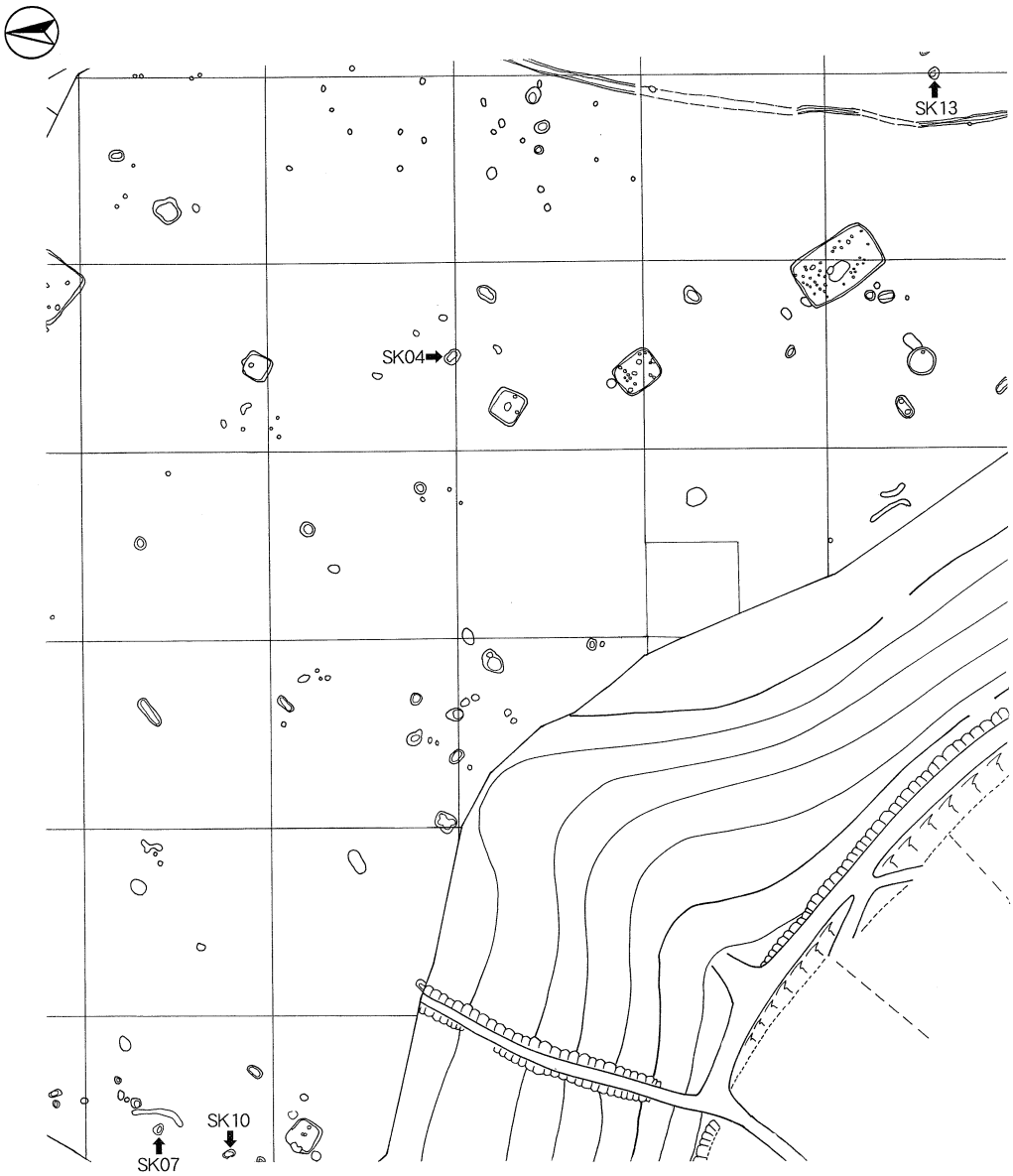
1. 黒褐色土　多量のローム粒を含む。
2. 黄褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
3. 暗褐色土　少量のローム粒を含む。
4. 黄橙色土　多量のローム粒を含む。

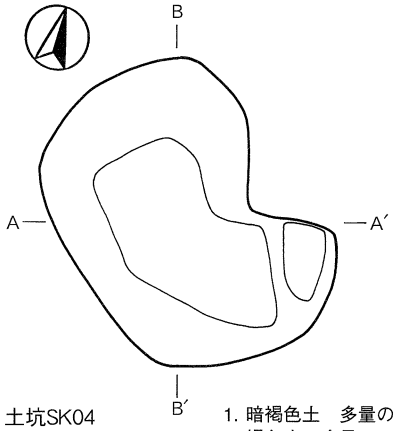


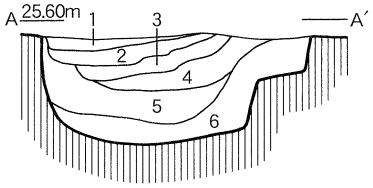
土壙墓SK69

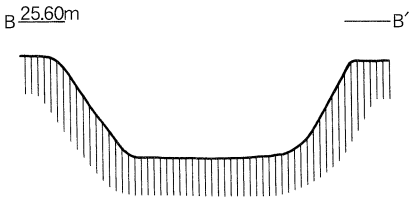





SK13
SK04
SK10
SK07

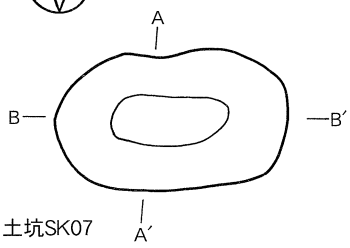




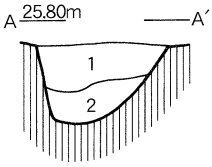


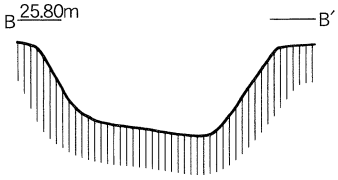
土坑SK04

1. 暗褐色土　多量のローム粒を含む。
2. 褐色土　多量のローム粒を含む。
3. 黒褐色土　微量のローム粒を含む。
4. 褐色土　多量のローム粒を含む。
5. 黒褐色土　多量のローム粒を含む。
6. 黄橙色土　多量のロームブロックを含む。

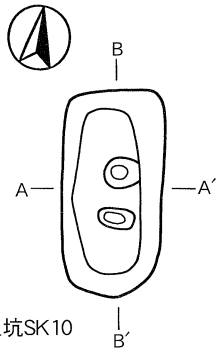


土坑SK07

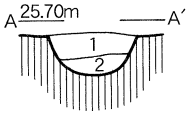


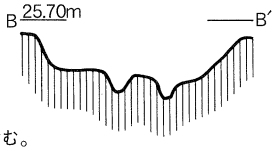


1. 褐色土　多量のローム粒を含む。
2. 暗褐色土　少量のローム粒・微量のロームブロックを含む。

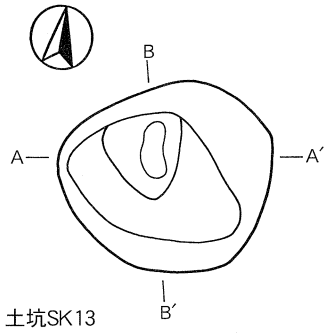


土坑SK10

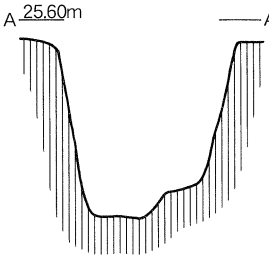


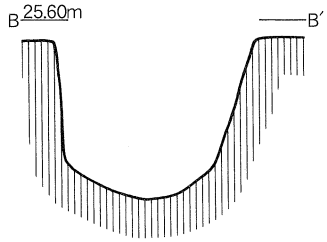


1. 黒褐色土　少量のローム粒を含む。
2. 暗黄褐色土　多量のローム粒を含む。

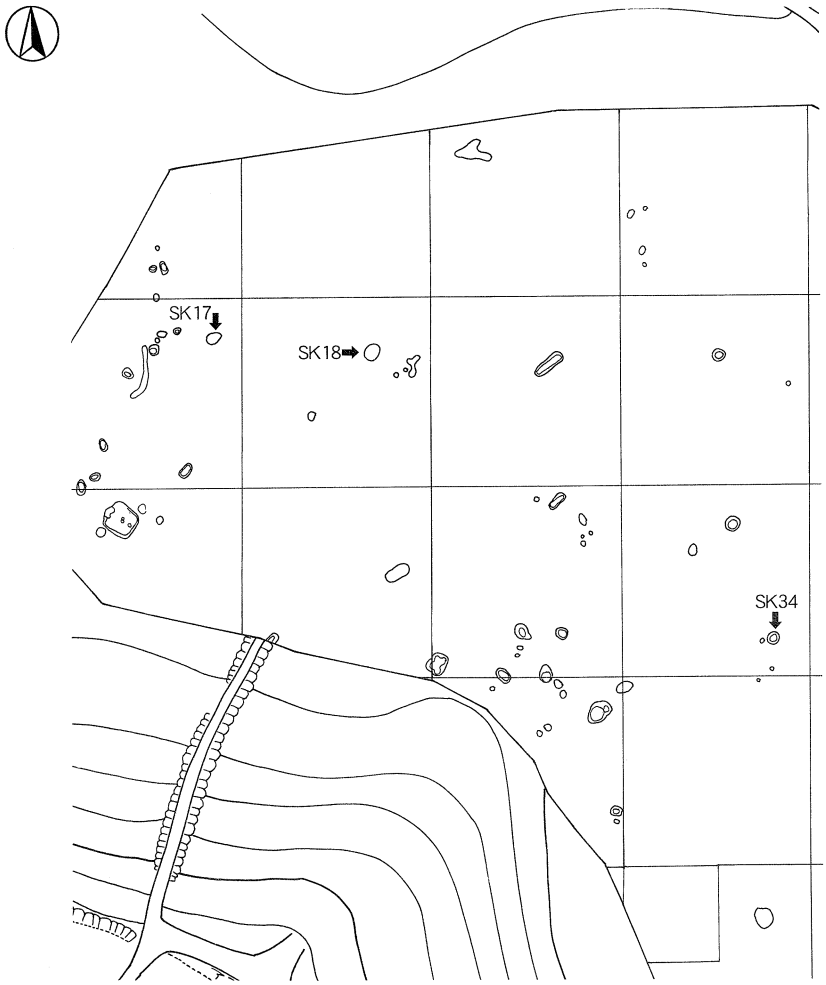


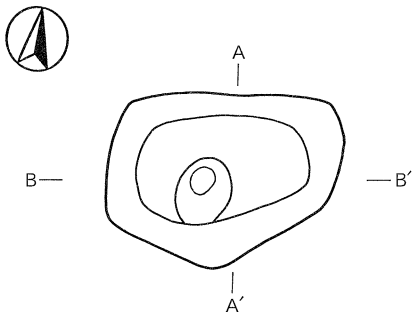
土坑SK13

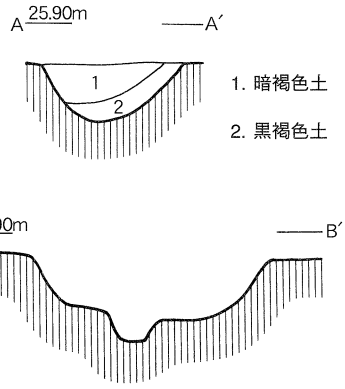




0　2m

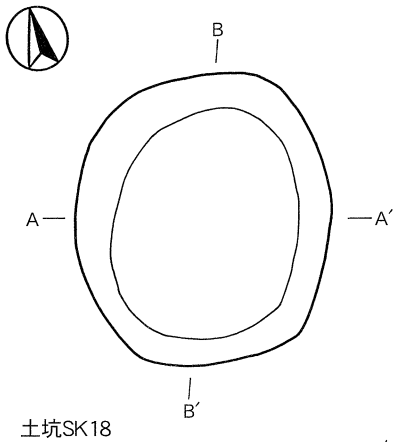

SK17
SK18
SK34

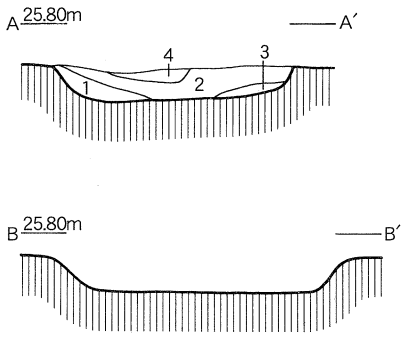




1. 暗褐色土　少量のローム粒を含む。
2. 黒褐色土　少量のローム粒を含む。

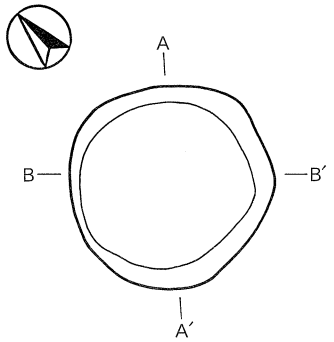
土坑SK17

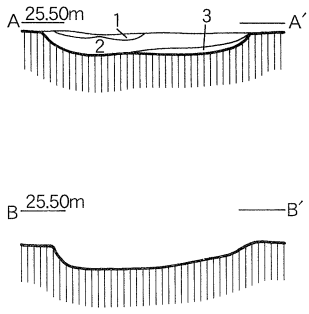




土坑SK18

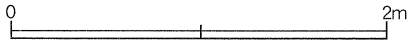
1. 暗褐色土　多量のローム粒・ロームブロック、少量の炭化粒・焼土粒を含む。
2. 黒褐色土　多量のローム粒、少量の炭化粒・焼土粒を含む。
3. 黒褐色土　多量のローム粒・炭化粒・焼土粒を含む。
4. 黄橙色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。

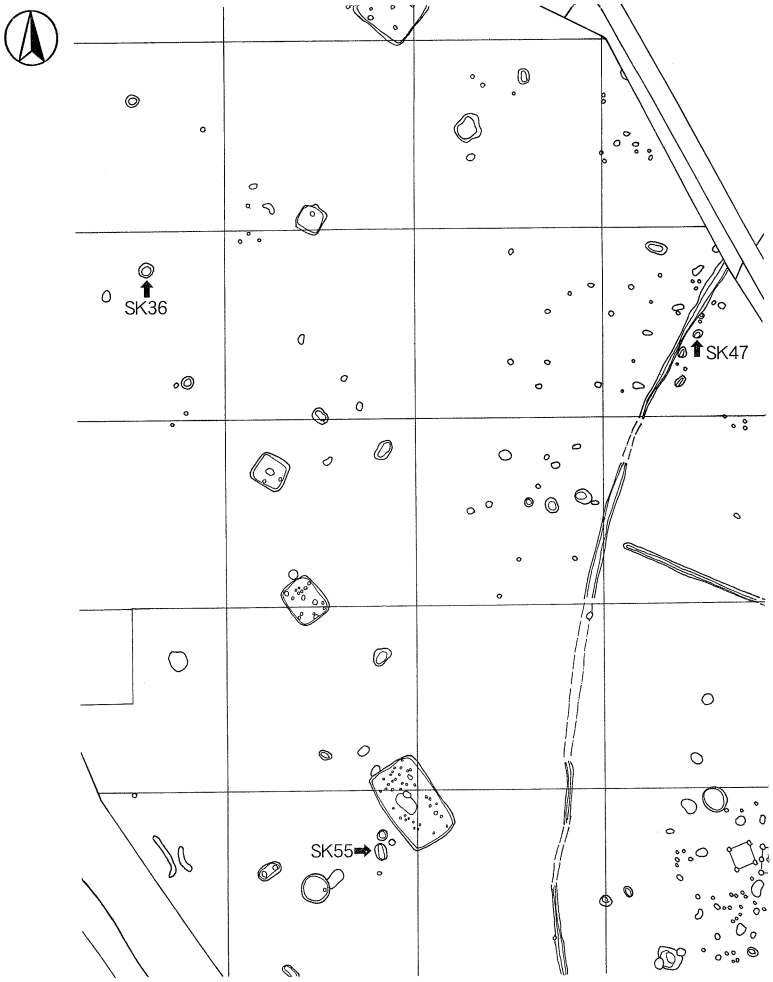


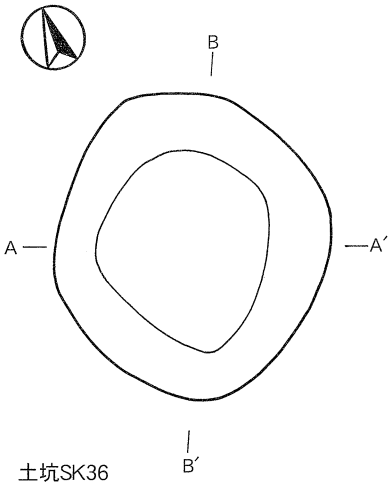


1. 褐色土　多量のローム粒を含む。
2. 黒褐色土　多量のローム粒・炭化粒を含む。
3. 暗褐色土　微量のローム粒を含む。

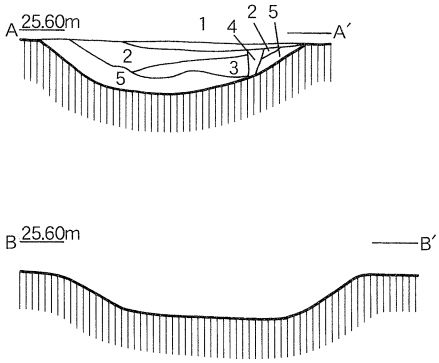
土坑SK34



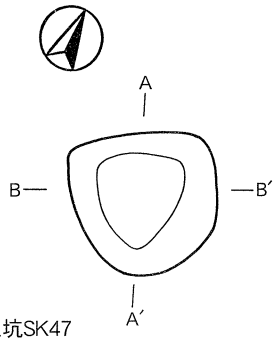

SK36
SK47
SK55



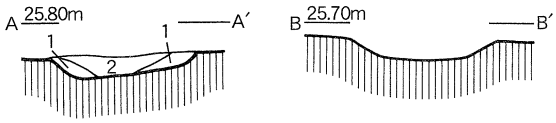
土坑SK36



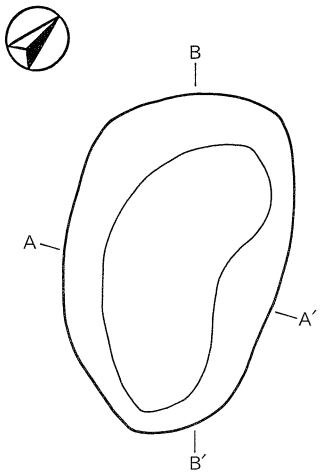
1. 暗褐色土　多量のローム粒を含む。
2. 黒褐色土　微量の炭化粒を含む。
3. 暗褐色土　多量のローム粒・炭化粒を含む。
4. 黒褐色土　多量の炭化粒・焼土粒を含む。
5. 黒褐色土　微量のローム粒・炭化粒を含む。

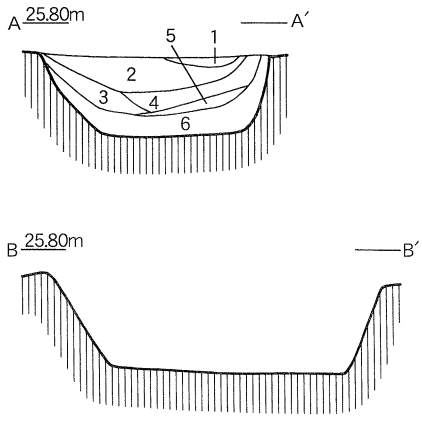


土坑SK47



1. 黒褐色土　多量のローム粒、少量の炭化粒を含む。
2. 黒色土　少量のローム粒・ロームブロック・炭化粒を含む。

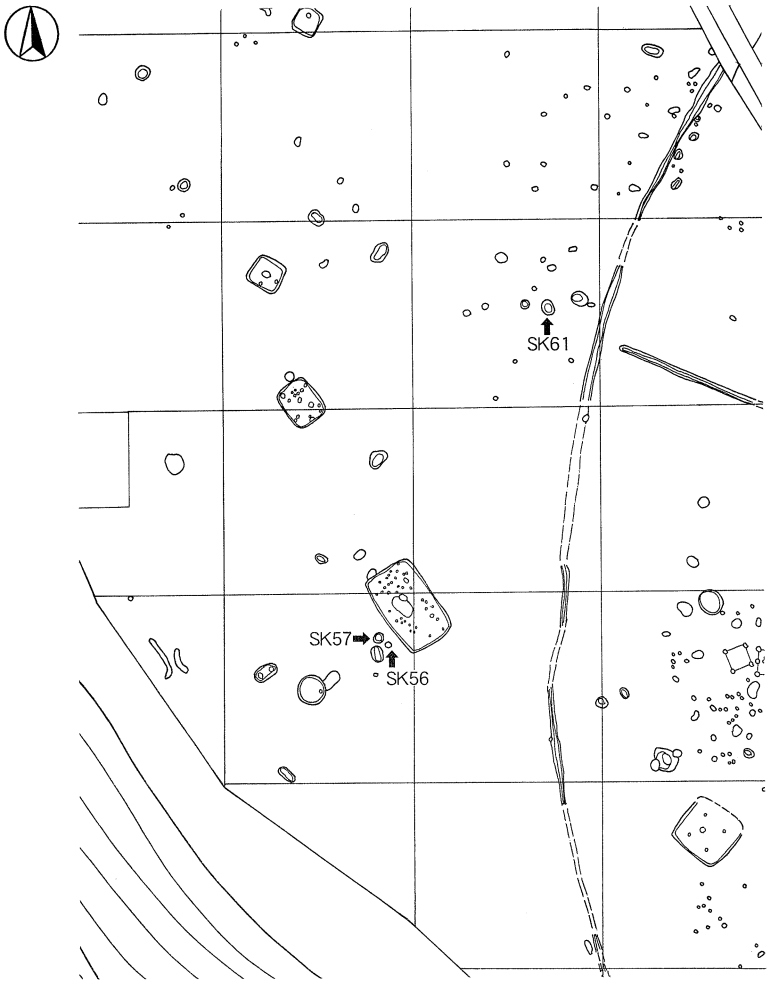


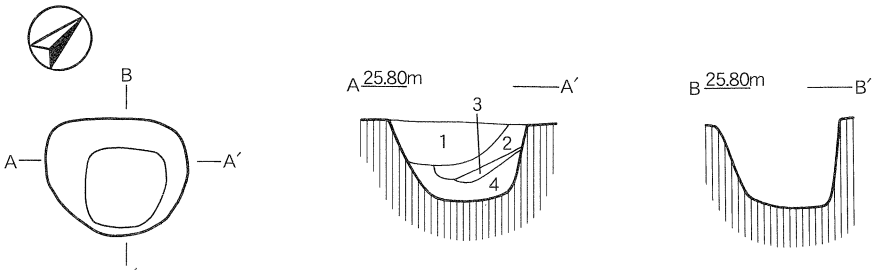


土坑SK55

1. 黒褐色土　少量のローム粒を含む。
2. 暗褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
3. 黒褐色土　少量のローム粒・ロームブロックを含む。
4. 黒色土　少量のローム粒・微量のロームブロックを含む。
5. 黒色土　少量のローム粒、微量のロームブロックを含む。
6. 褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。

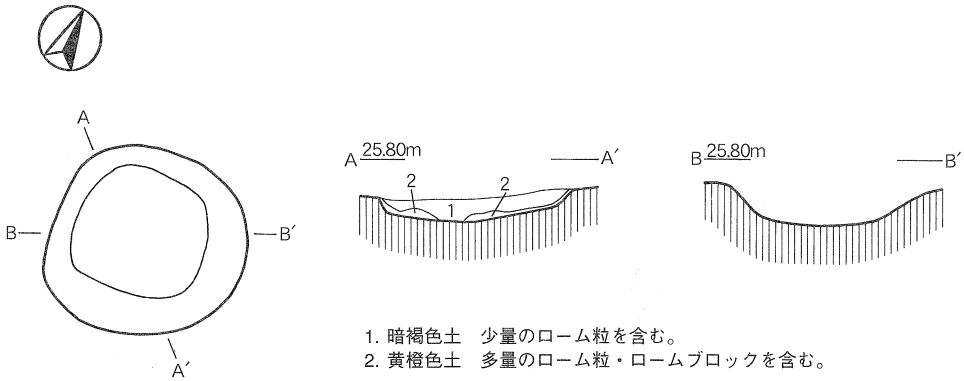
0　2m


SK61
SK57
SK56



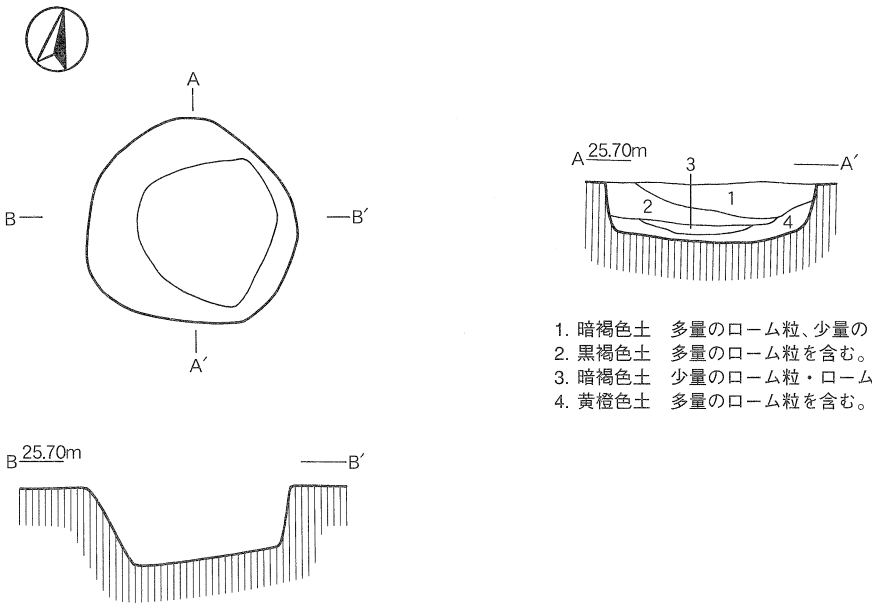
土坑SK56

1. 褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
2. 暗褐色土　多量のローム粒、少量のロームブロックを含む。
3. 黒褐色土　少量のローム粒・微量のロームブロックを含む。
4. 暗褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。



土坑SK57

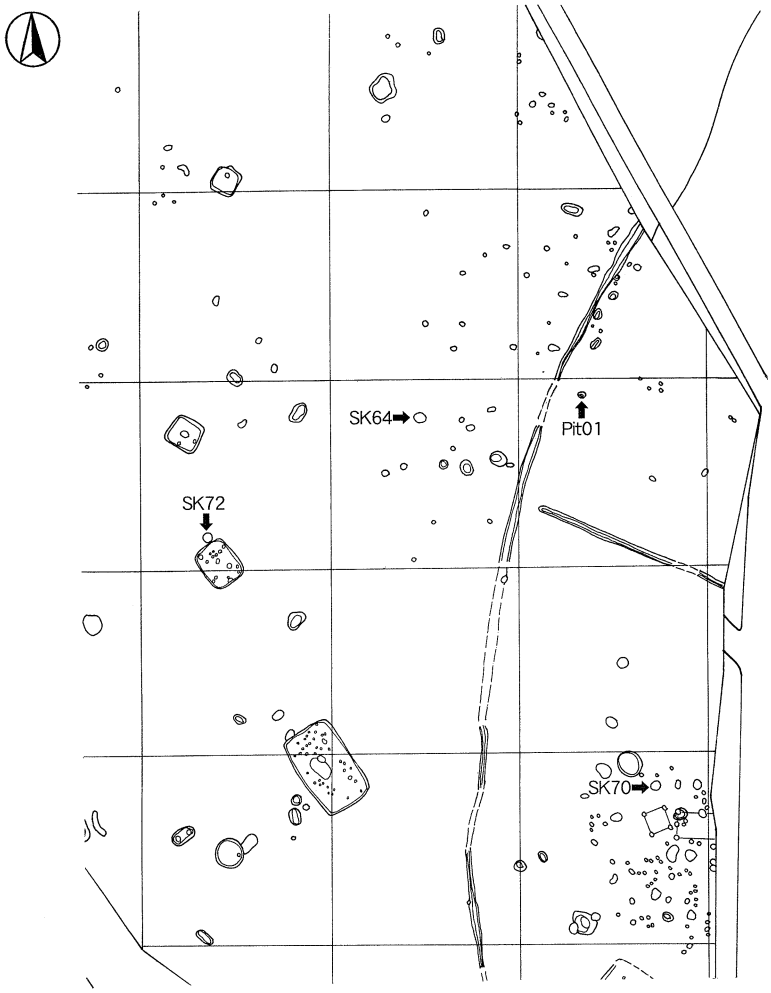
1. 暗褐色土　少量のローム粒を含む。
2. 黄橙色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。

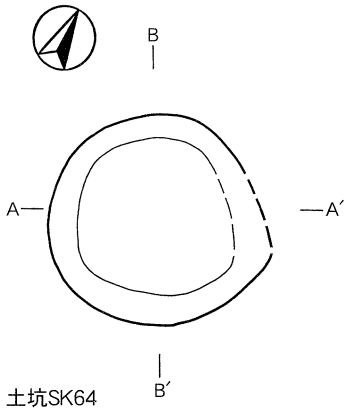


土坑SK61

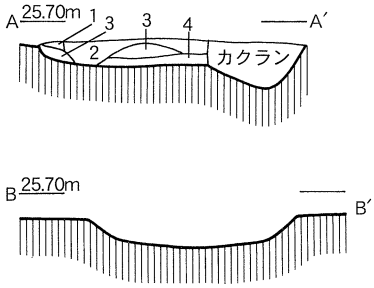
1. 暗褐色土　多量のローム粒、少量のロームブロックを含む。
2. 黒褐色土　多量のローム粒を含む。
3. 暗褐色土　少量のローム粒・ロームブロックを含む。
4. 黄橙色土　多量のローム粒を含む。

0　2m

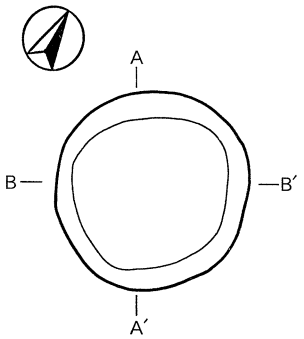

SK64
Pit01
SK72
SK70



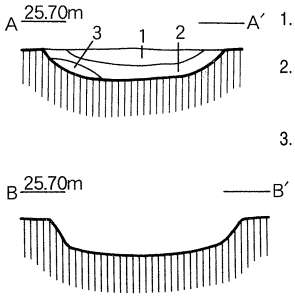
土坑SK64



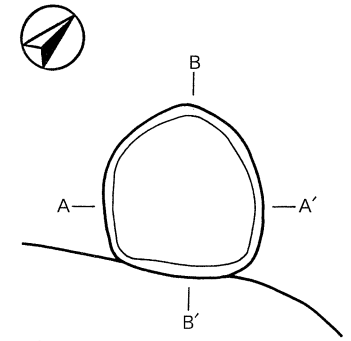
1. 褐色土　少量のローム粒・炭化粒を含む。
2. 暗褐色土　少量のローム粒・炭化粒を含む。
3. 黒褐色土　少量のローム粒・炭化粒を含む。
4. 黒色土　少量のローム粒、多量の炭化粒を含む。



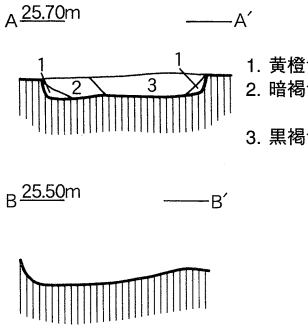
土坑SK70



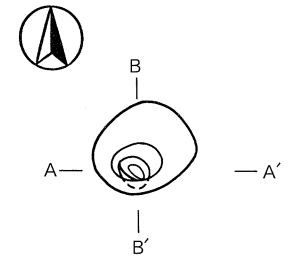
1. 褐色土　少量のローム粒・炭化粒を含む。
2. 黒色土　少量のローム粒、微量のロームブロック、多量の炭化粒を含む。
3. 黄橙色土　多量のローム粒・ロームブロック、少量の炭化粒を含む。



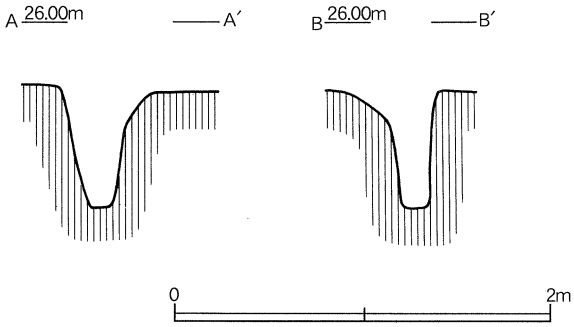
土坑SK72



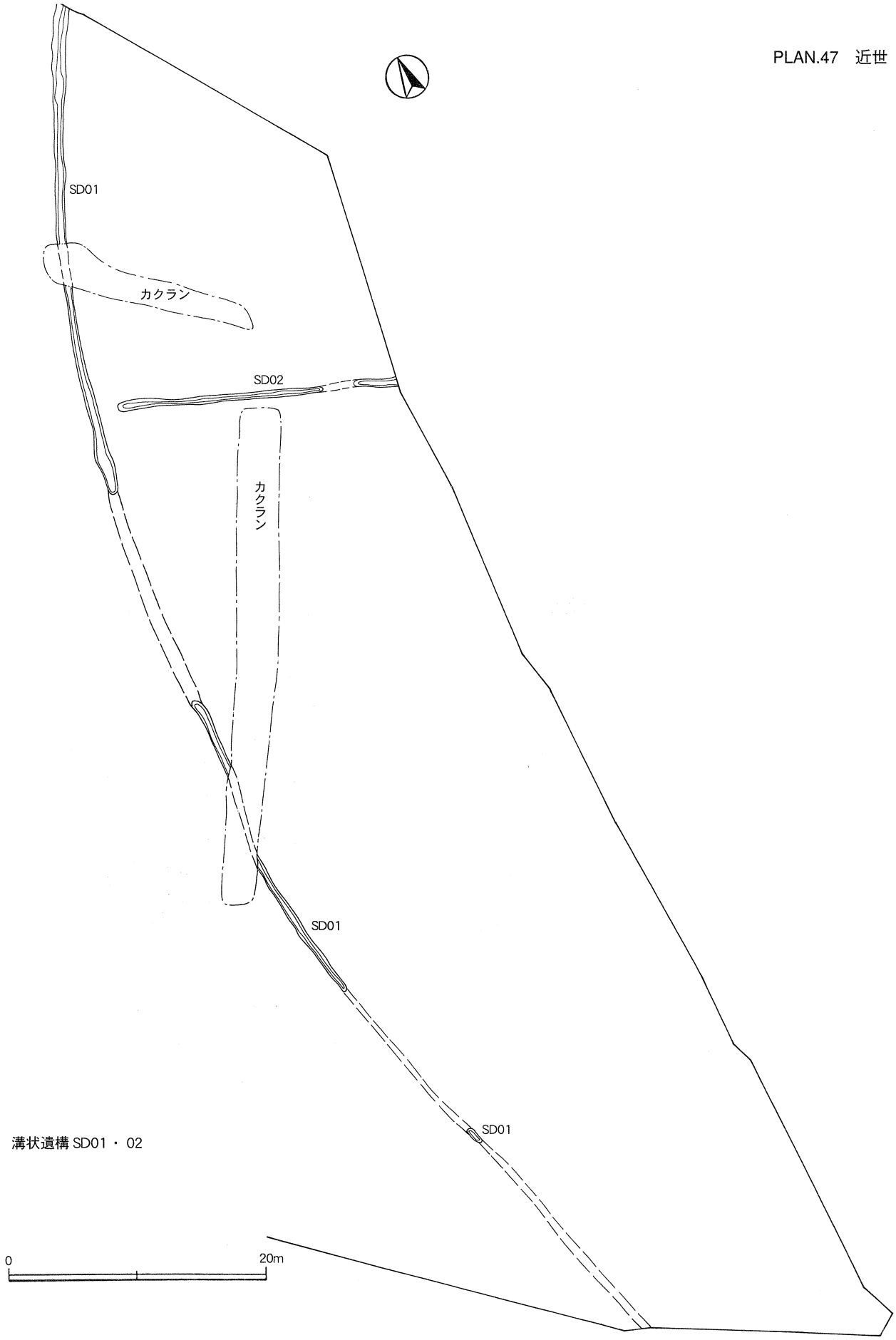
1. 黄橙色土　多量のローム粒を含む。
2. 暗褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
3. 黒褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。



ピット状遺構　Pit01

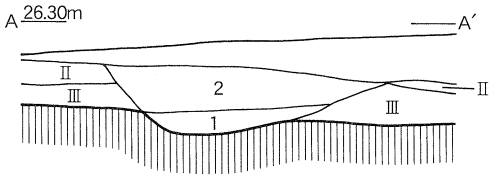


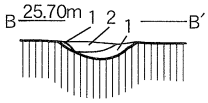
SD01
SD02

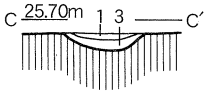


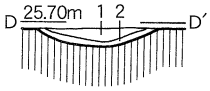
溝状遺構 SD01・02

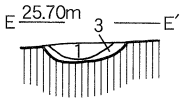
SD01
SD02

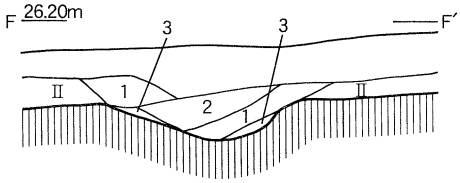






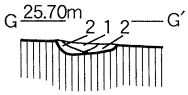


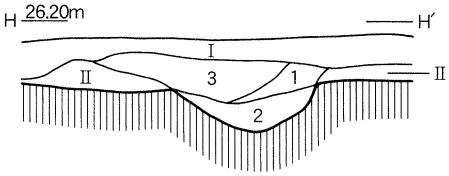




Ⅰ.暗褐色土　表土層
Ⅱ.褐色土
1. 黒褐色土　少量のローム粒・ロームブロックを含む。
2. 黒色土　少量のローム粒を含む。
3. 暗褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。

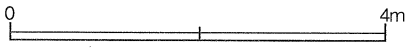
溝状遺構SD01

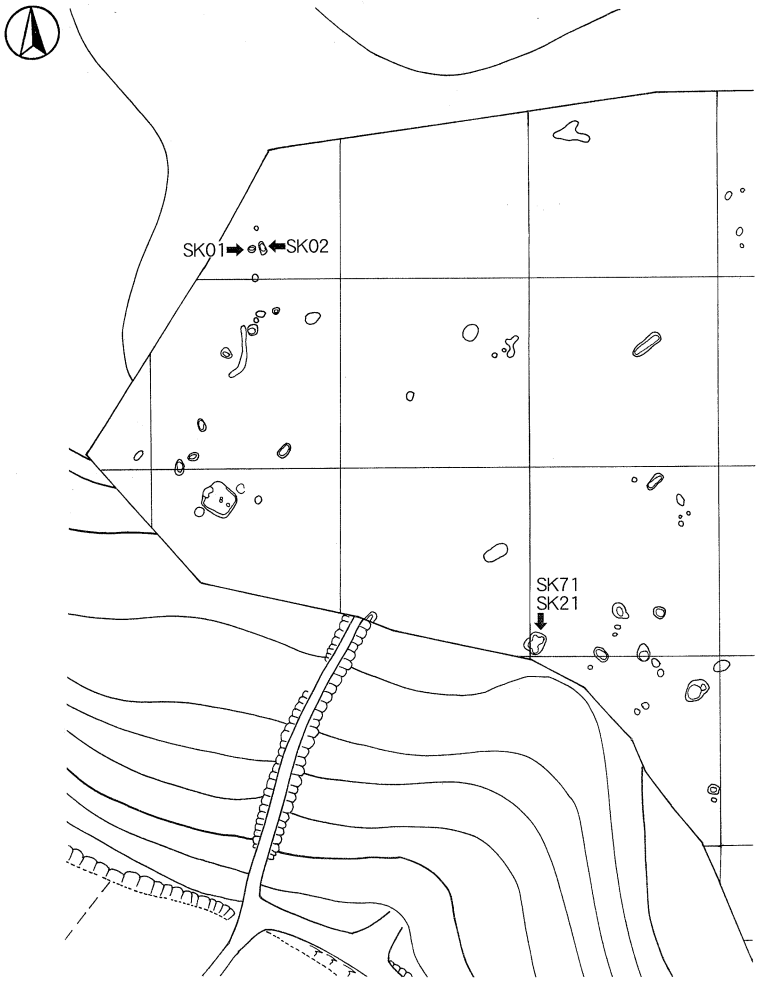


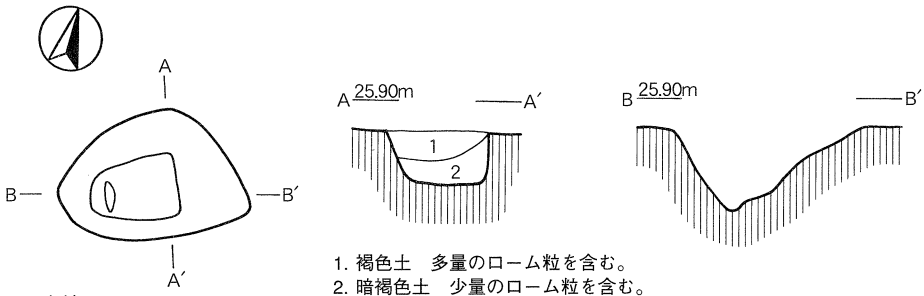


Ⅰ.暗褐色土　表土層
Ⅱ.褐色土
1. 黒褐色土　少量のローム粒を含む。
2. 暗褐色土　少量のローム粒を含む。
3. 黒色土　少量のローム粒を含む。

溝状遺構SD01

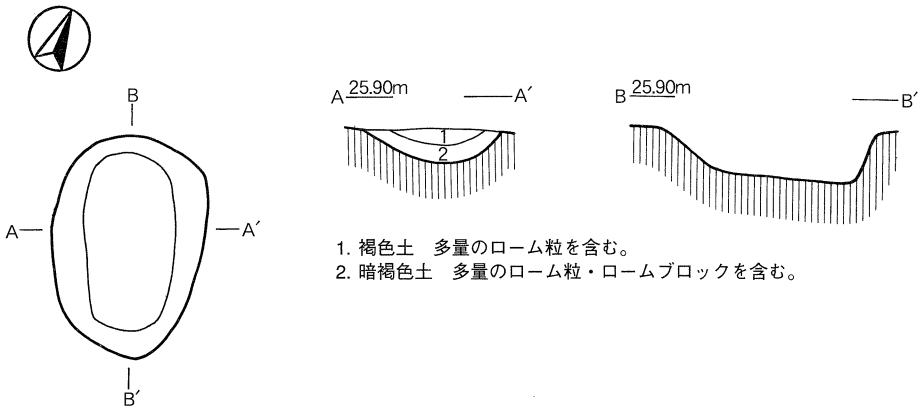



SK01
SK02
SK71
SK21



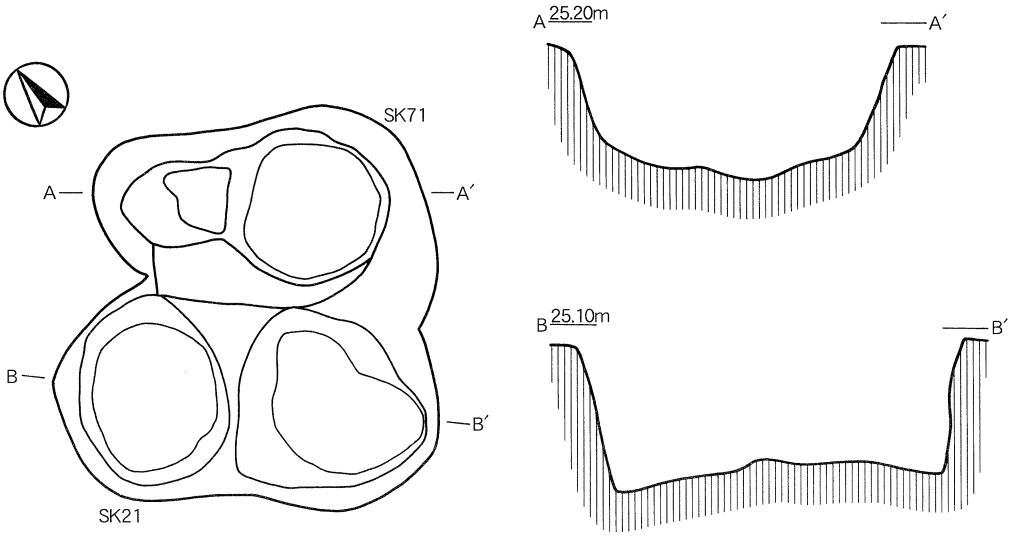
1. 褐色土　多量のローム粒を含む。
2. 暗褐色土　少量のローム粒を含む。

土坑SK01

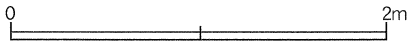


1. 褐色土　多量のローム粒を含む。
2. 暗褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。

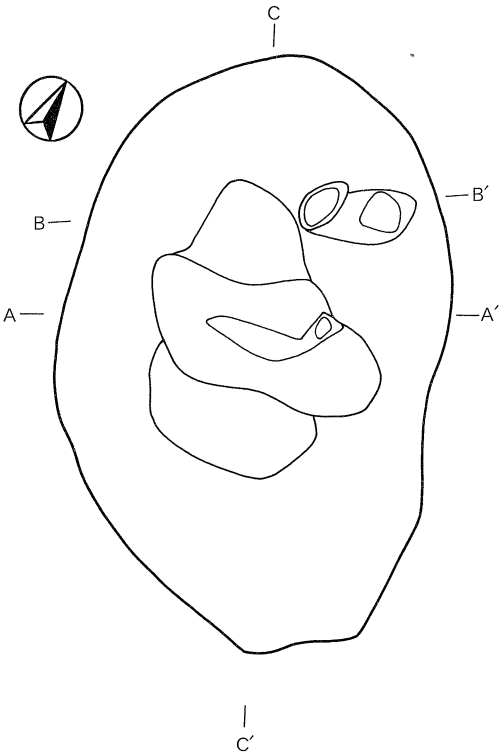
土坑SK02

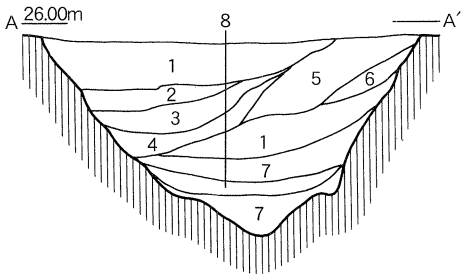


土坑SK21・SK71

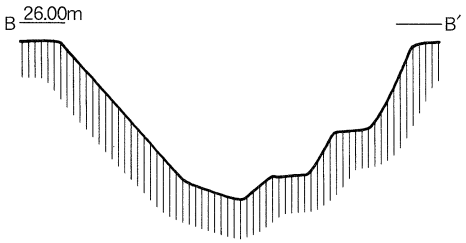


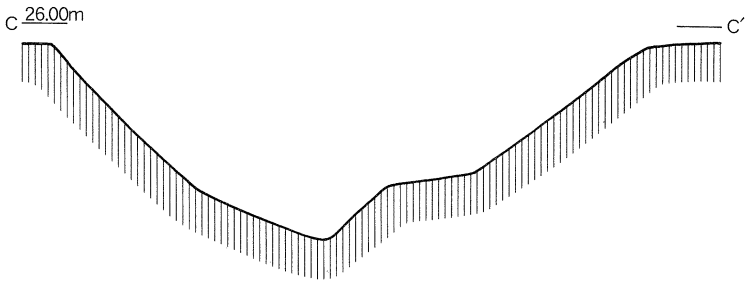
SK05



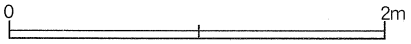


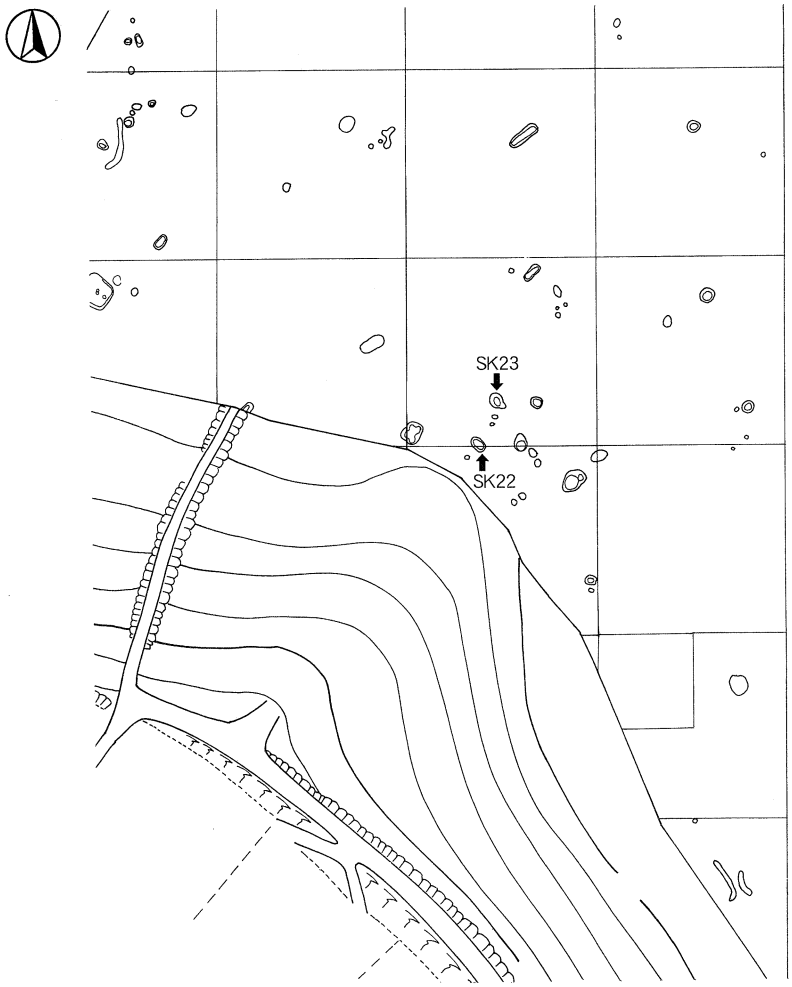
1. 黄褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
2. 褐灰色土　多量のロームブロックを含む。
3. 暗褐色土　微量のロームブロックを含む。
4. 褐色土　多量のローム粒を含む。
5. 褐灰色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
6. 黒褐色土　微量のローム粒を含む。
7. 黄橙色土　ロームブロック層
8. 黒色土　多量のローム粒を含む。

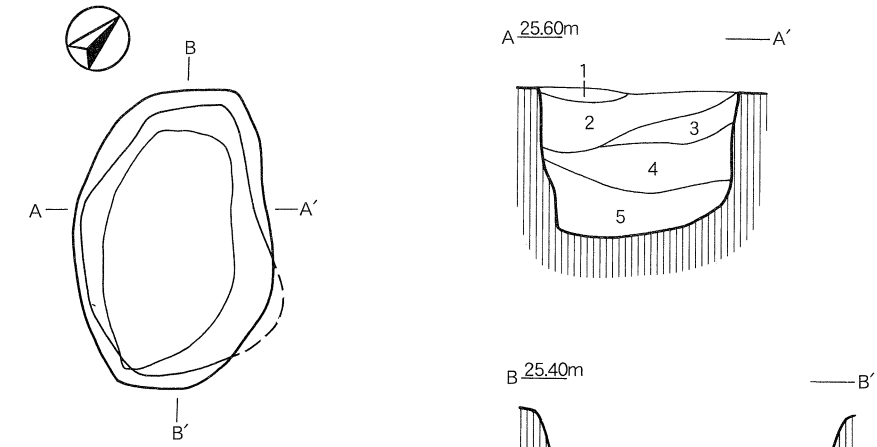




土坑SK05

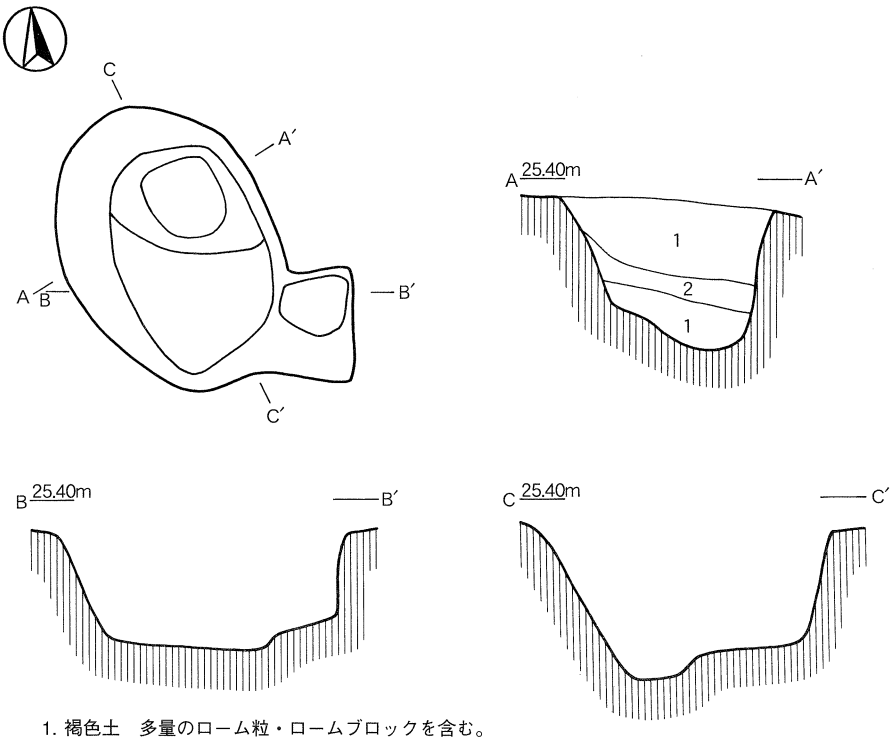



SK23
SK22



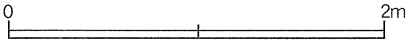
1. 褐色土　多量のローム粒を含む。
2. 暗黄褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
3. 暗褐色土　多量のローム粒・少量のロームブロックを含む。
4. 暗褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
5. 褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。

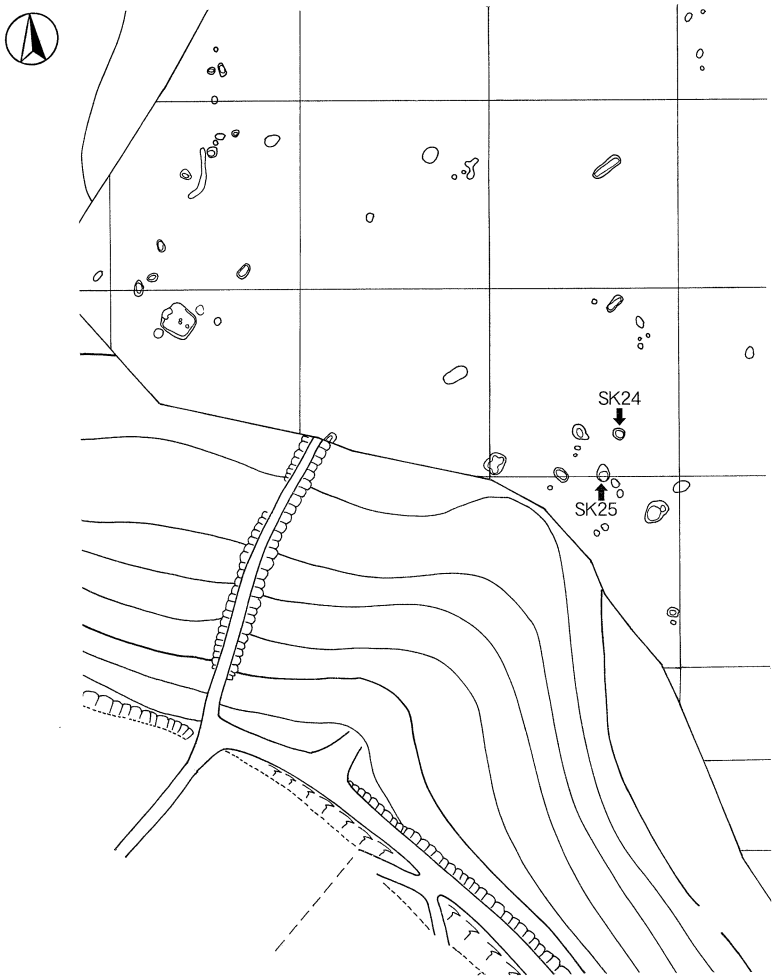
土坑SK22

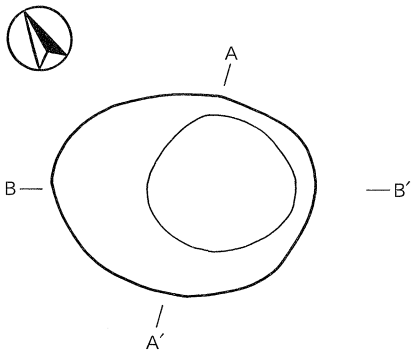


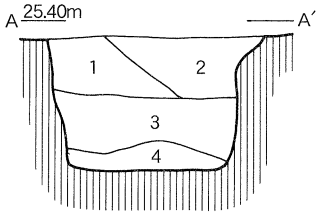
1. 褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
2. 黄褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。

土坑SK23

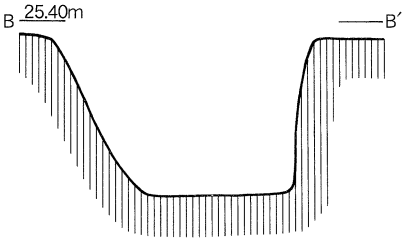



SK24
SK25

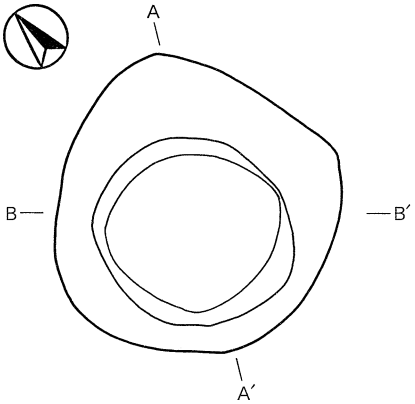


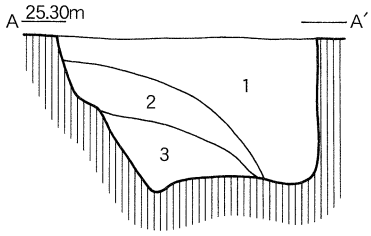


1. 褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
2. 暗褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
3. 暗黄褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
4. 黒褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。

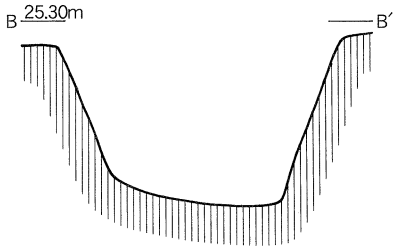


土坑SK24

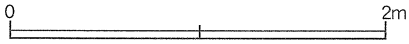


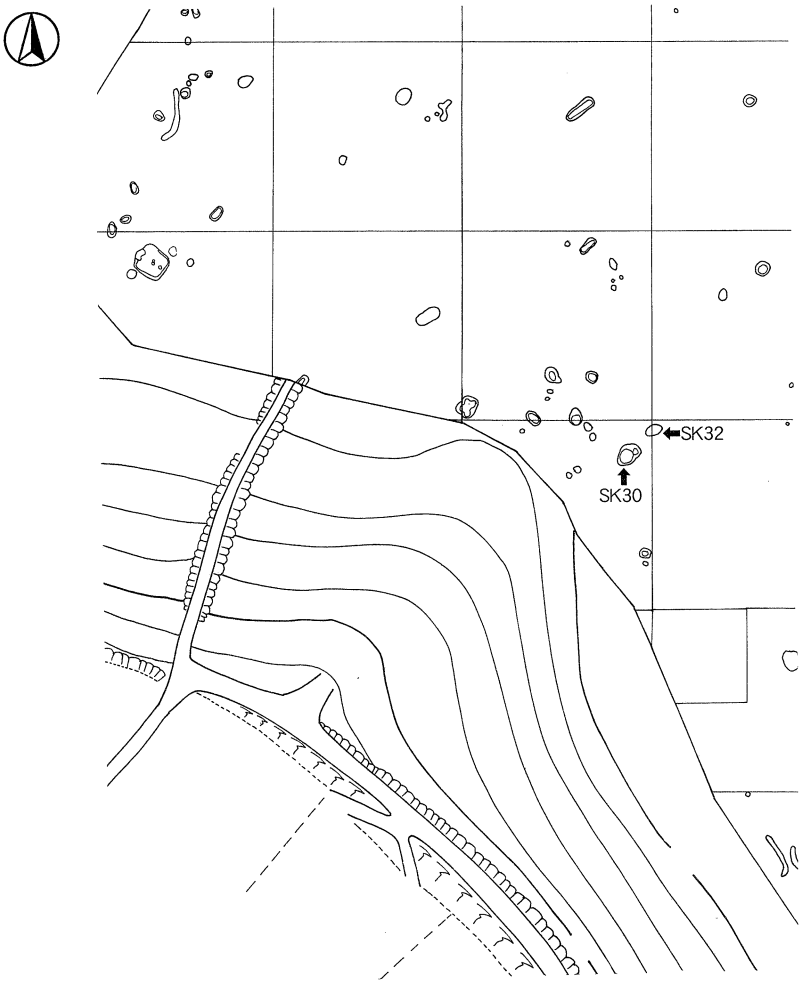


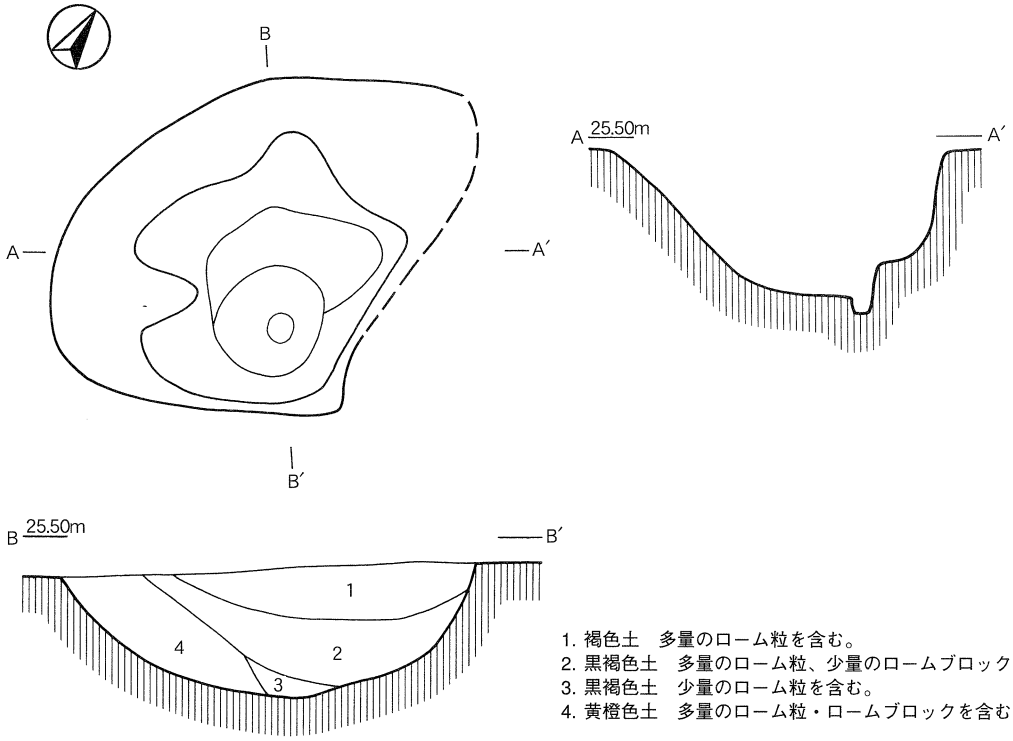
1. 褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
2. 暗黄褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
3. 黒褐色土　少量のローム粒・ロームブロックを含む。



土坑SK25

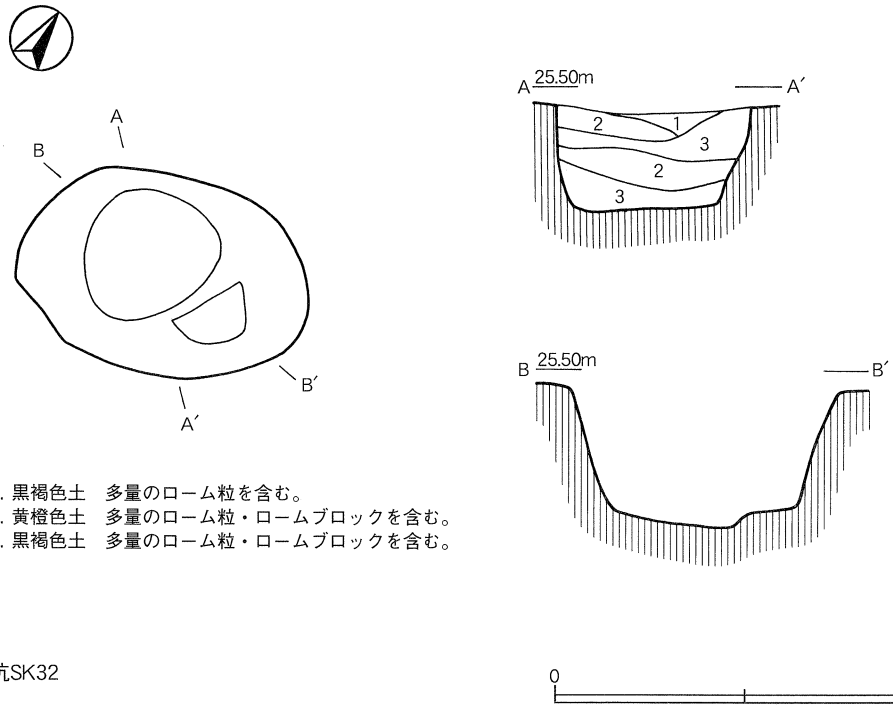



SK32
SK30



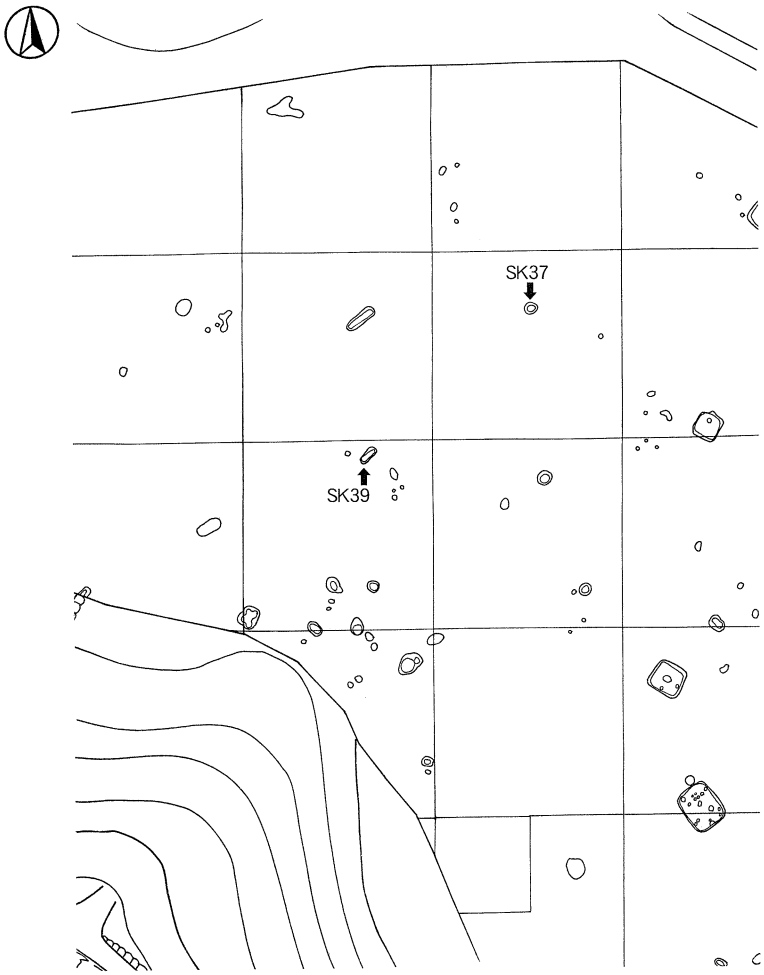
1. 褐色土　多量のローム粒を含む。
2. 黒褐色土　多量のローム粒、少量のロームブロックを含む。
3. 黒褐色土　少量のローム粒を含む。
4. 黄橙色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。

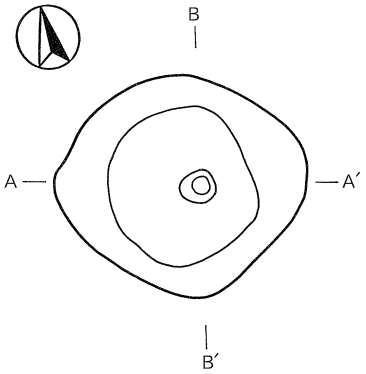
土坑SK30

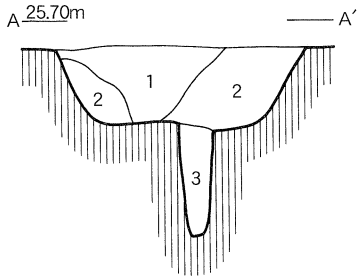


1. 黒褐色土　多量のローム粒を含む。
2. 黄橙色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
3. 黒褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。

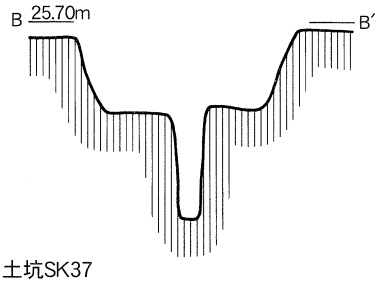
土坑SK32


SK37
SK39

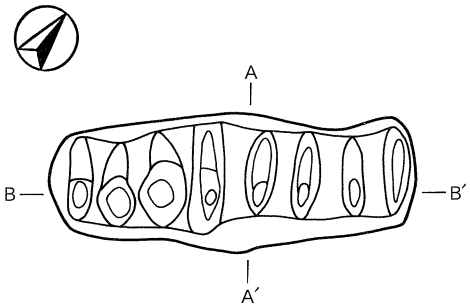


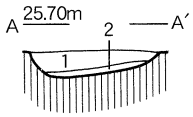


1. 暗褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
2. 黒褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
3. 黒褐色土　多量のローム粒を含む。

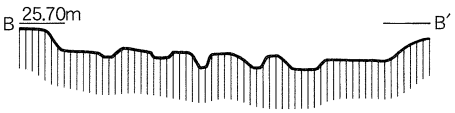


土坑SK37

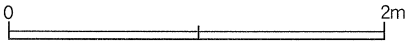




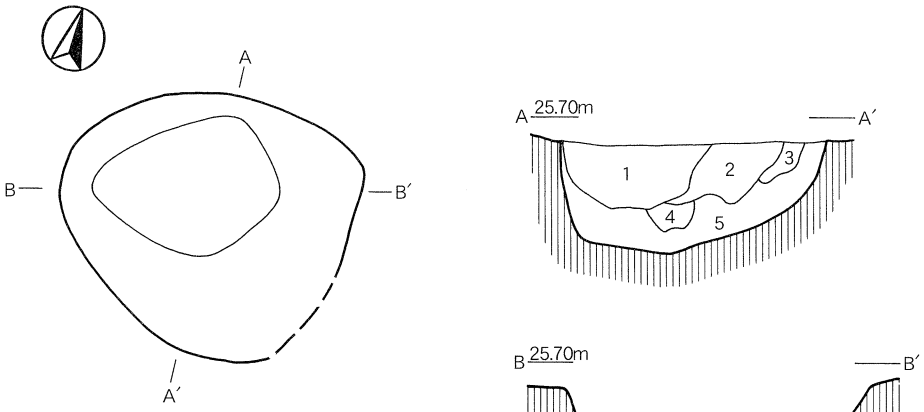
1. 褐色土　微量のローム粒を含む。
2. 褐色土　多量のローム粒を含む。



土坑SK39

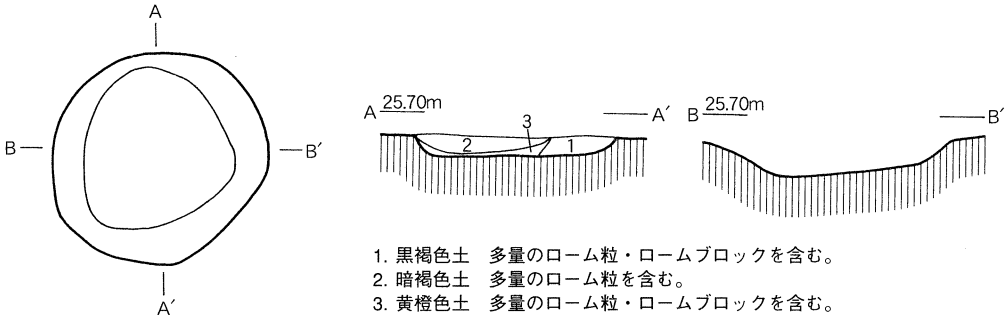


SK48
SK42
SK59



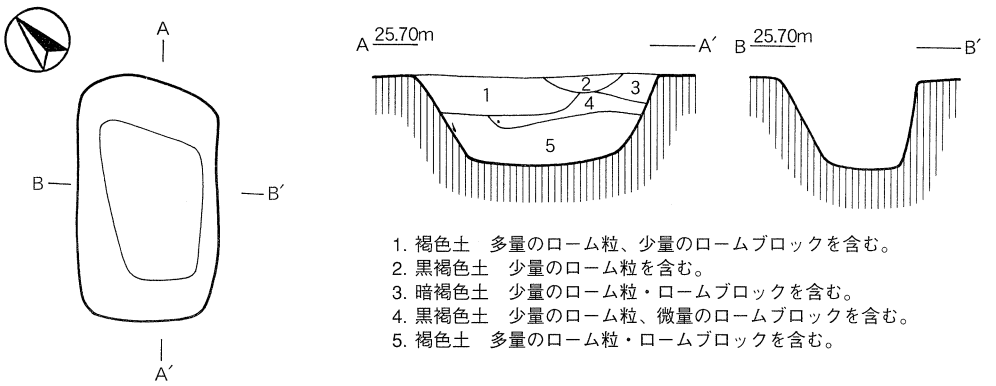
土坑SK42

1. 黄橙色土　ロームブロック層
2. 黄褐色土　多量のロームブロックを含む。
3. 暗褐色土　多量のローム粒を含む。
4. 黒褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
5. 褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。



1. 黒褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。
2. 暗褐色土　多量のローム粒を含む。
3. 黄橙色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。

土坑SK48



1. 褐色土　多量のローム粒、少量のロームブロックを含む。
2. 黒褐色土　少量のローム粒を含む。
3. 暗褐色土　少量のローム粒・ロームブロックを含む。
4. 黒褐色土　少量のローム粒、微量のロームブロックを含む。
5. 褐色土　多量のローム粒・ロームブロックを含む。

土坑SK59

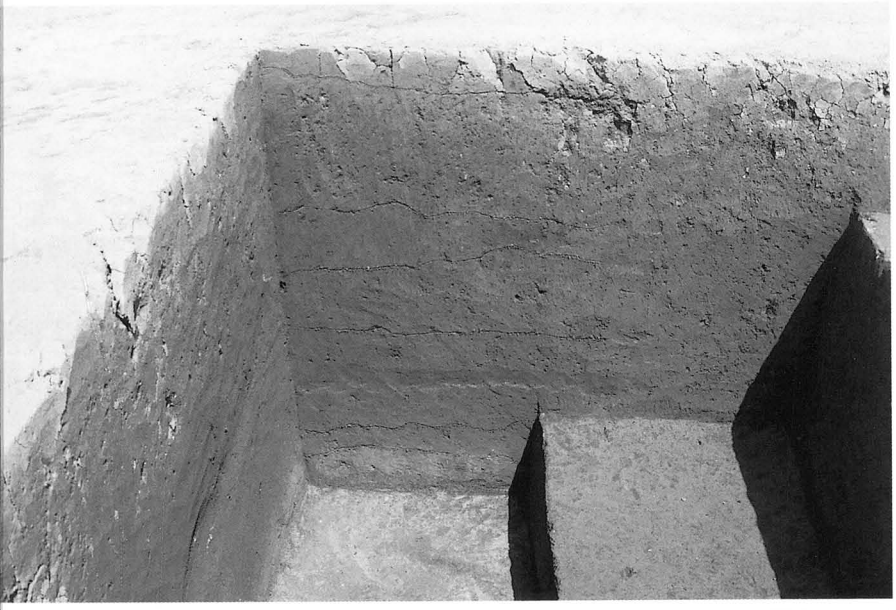
遺跡近景

調査前遺跡全景

調査終了後遺跡全景

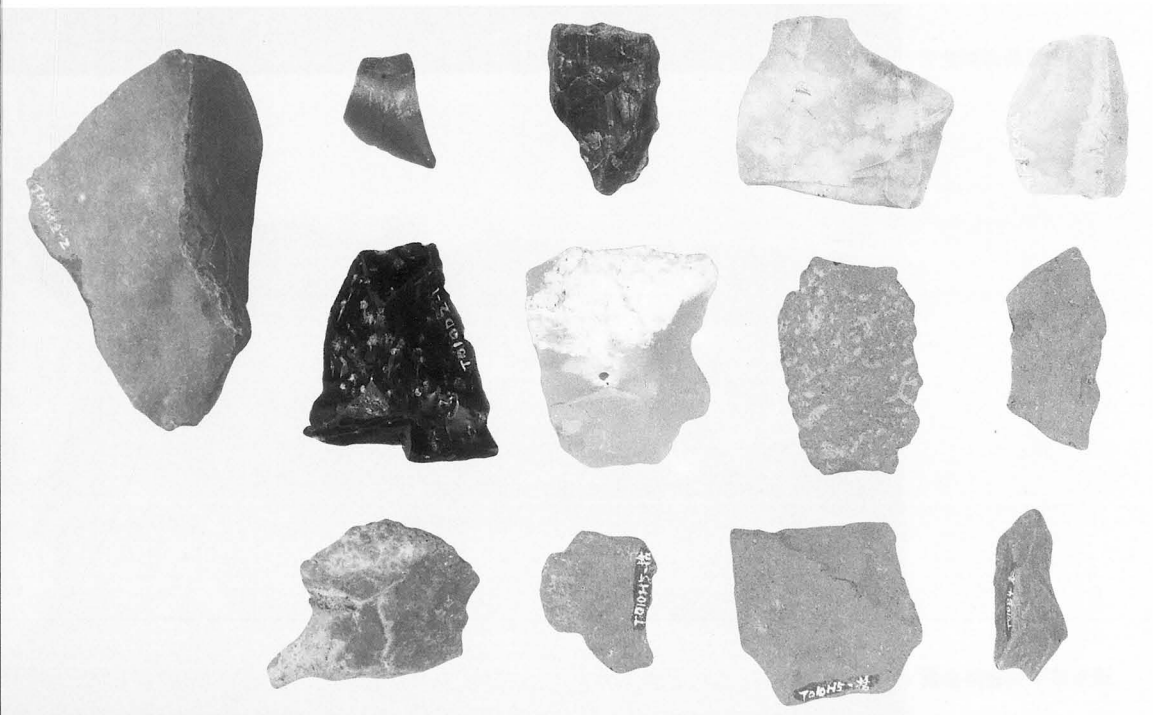
PL.2　旧石器時代

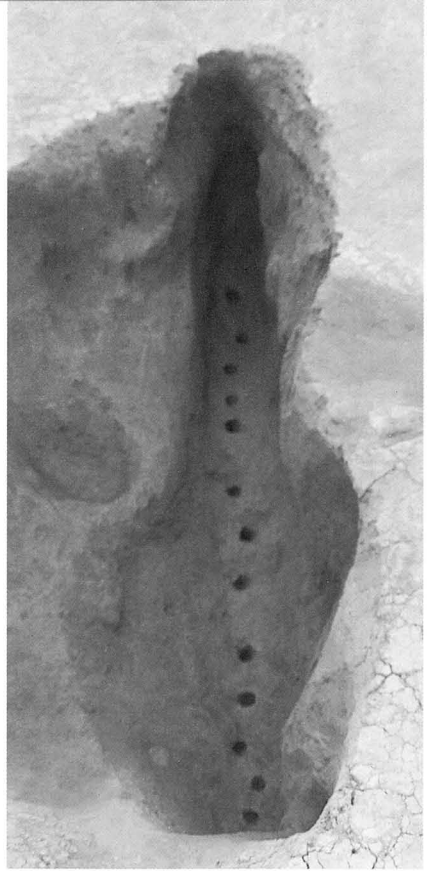
旧石器時代調査区



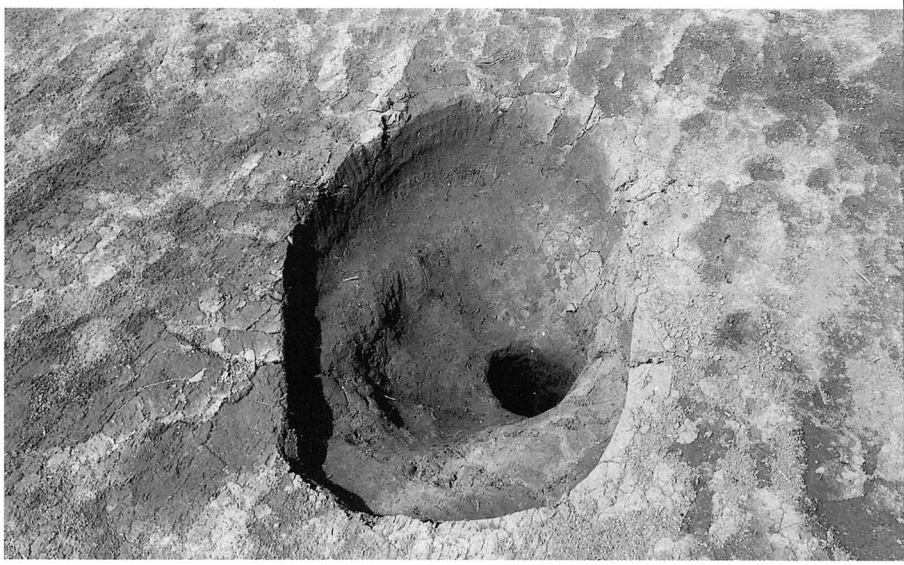
◀旧石器時代層序

▼旧石器時代石器

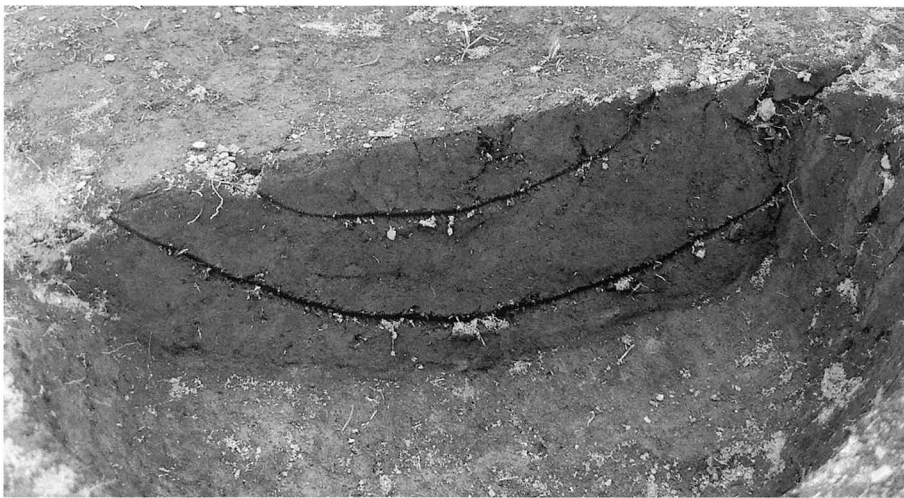




土坑SK03 ◀
土坑SK16 ▶



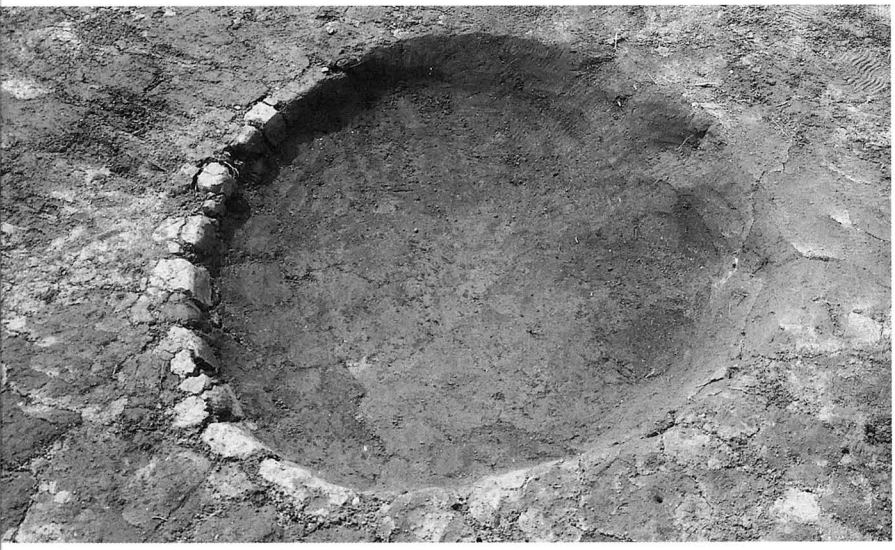
土坑SK11



土坑SK08

PL.4　縄紋時代

◀土坑SK19
▶土坑SK20



土坑SK14

土坑SK49

土坑SK33

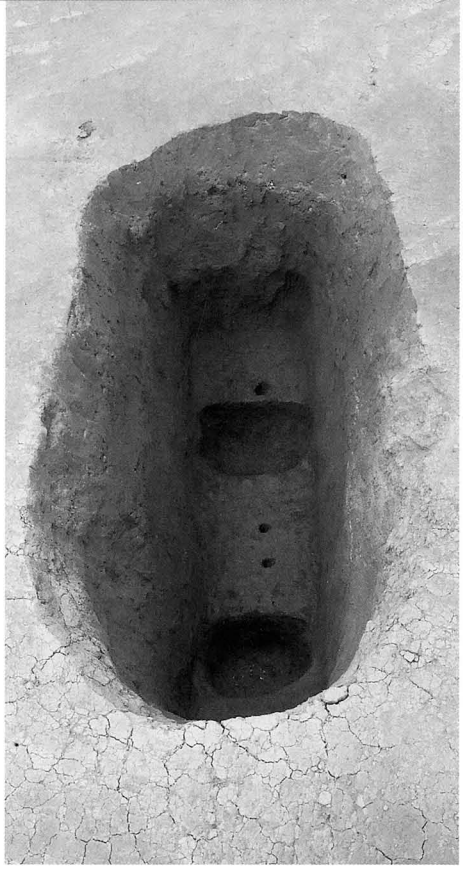
土坑SK33

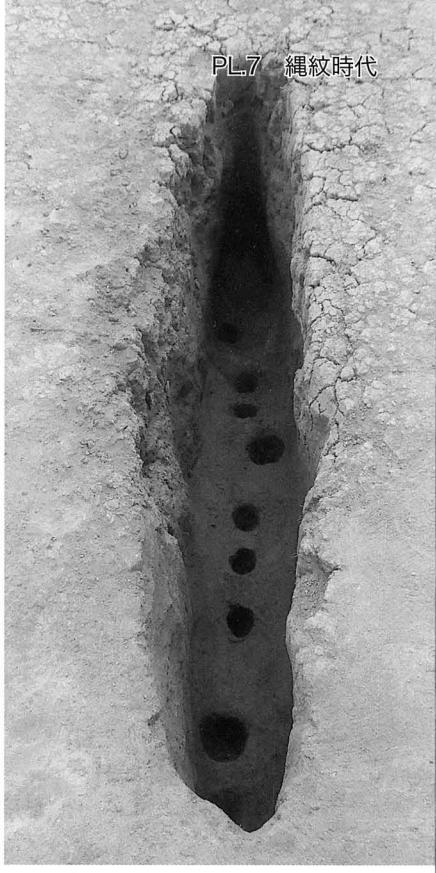
土坑SK33

土坑SK50

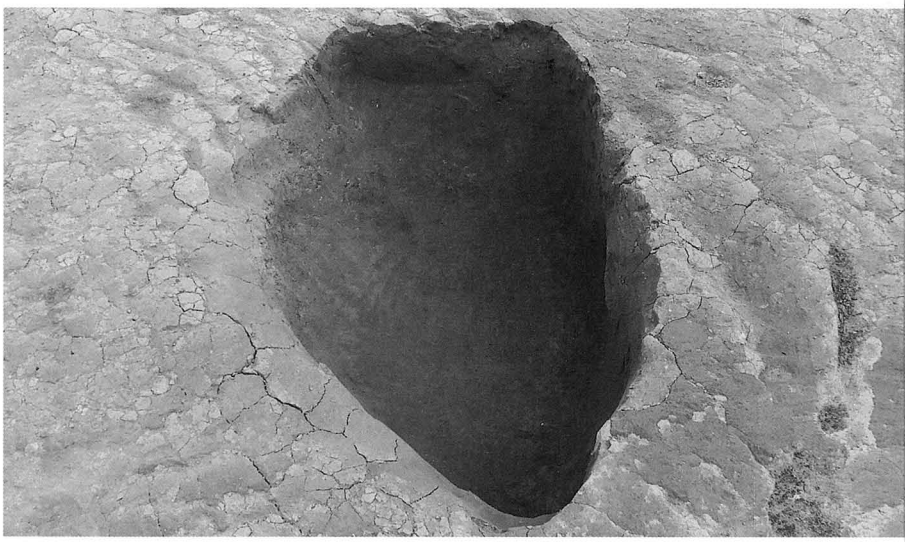
土坑SK51

◀土坑SK35
▶土坑SK38



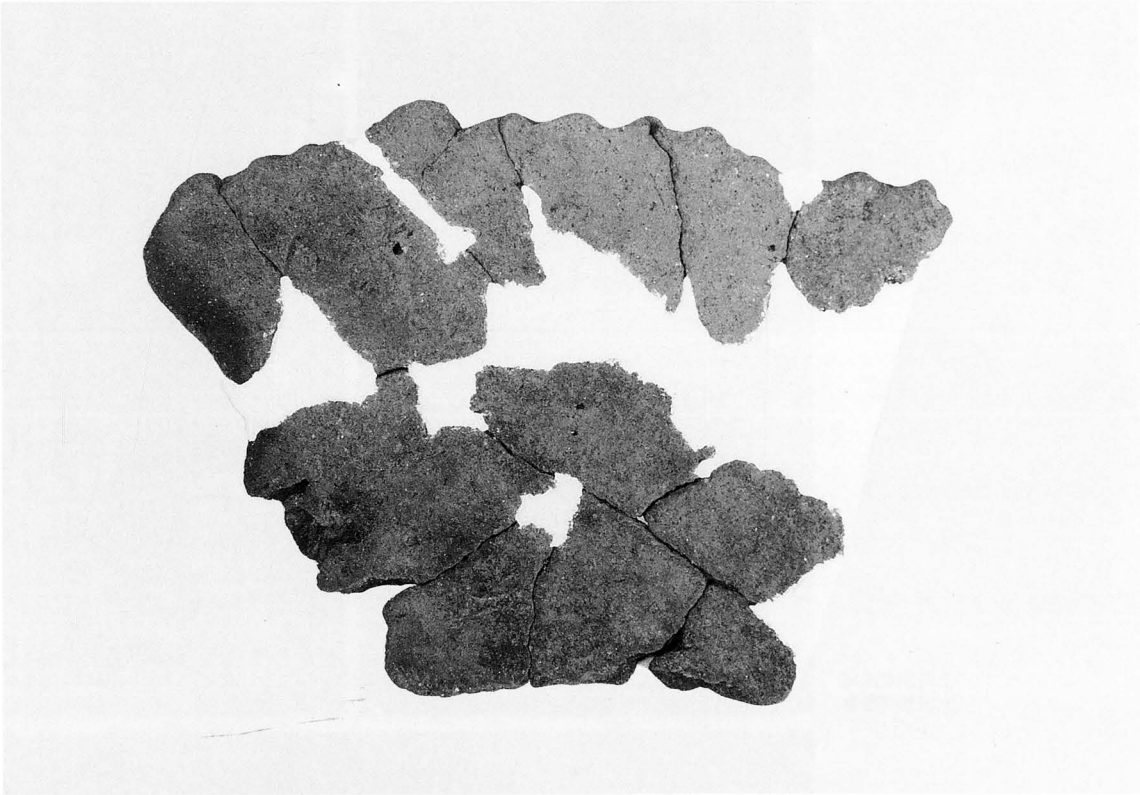


土坑SK54 ◀
土坑SK65 ▶

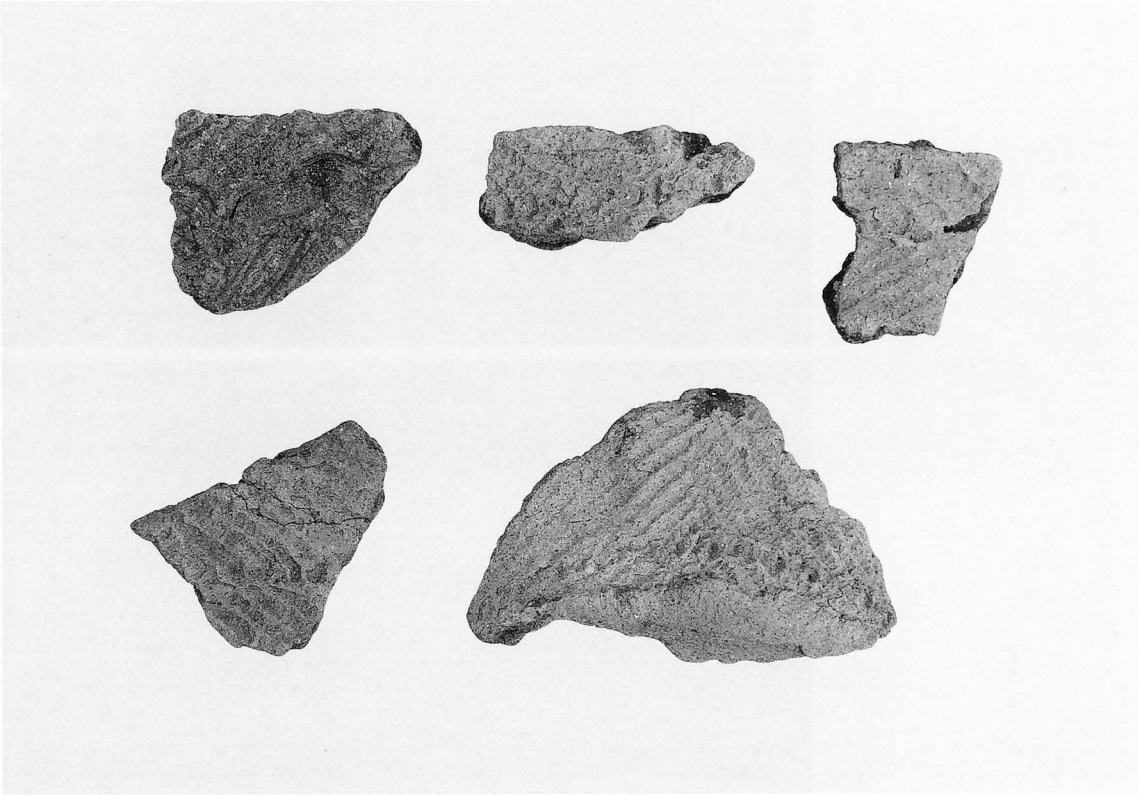


土坑SK60

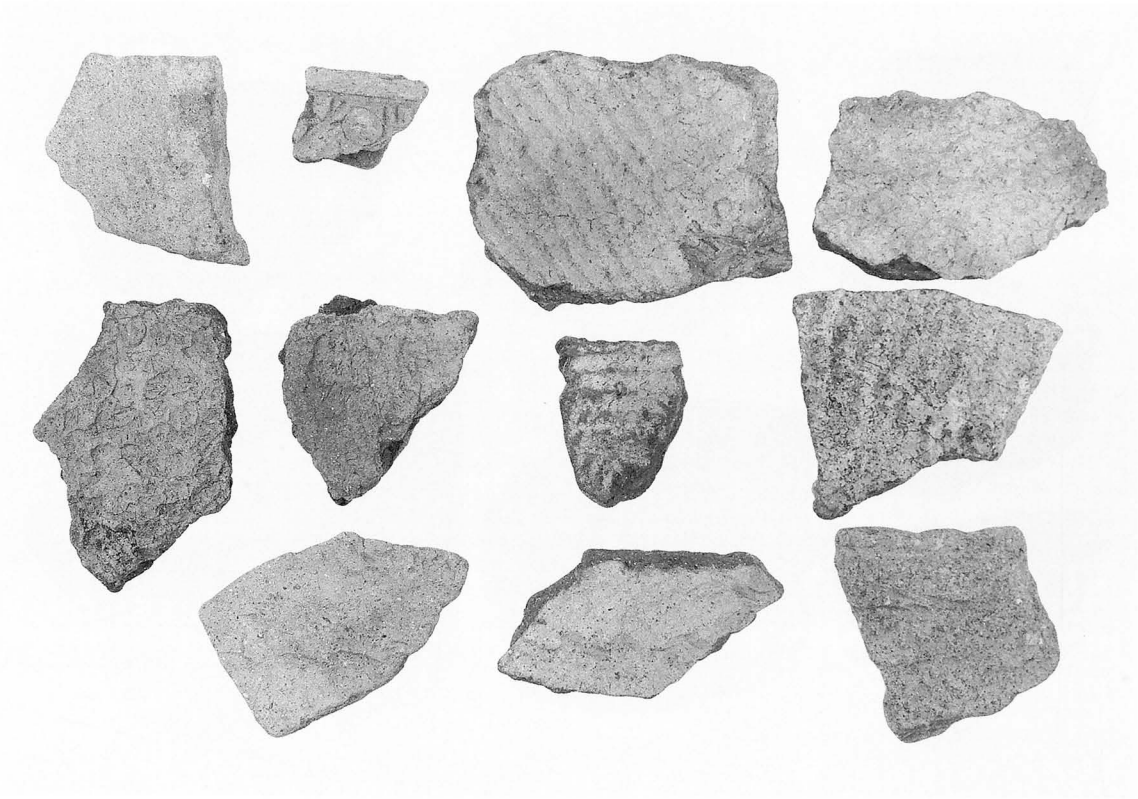
土坑SK68



土坑SK33出土土器

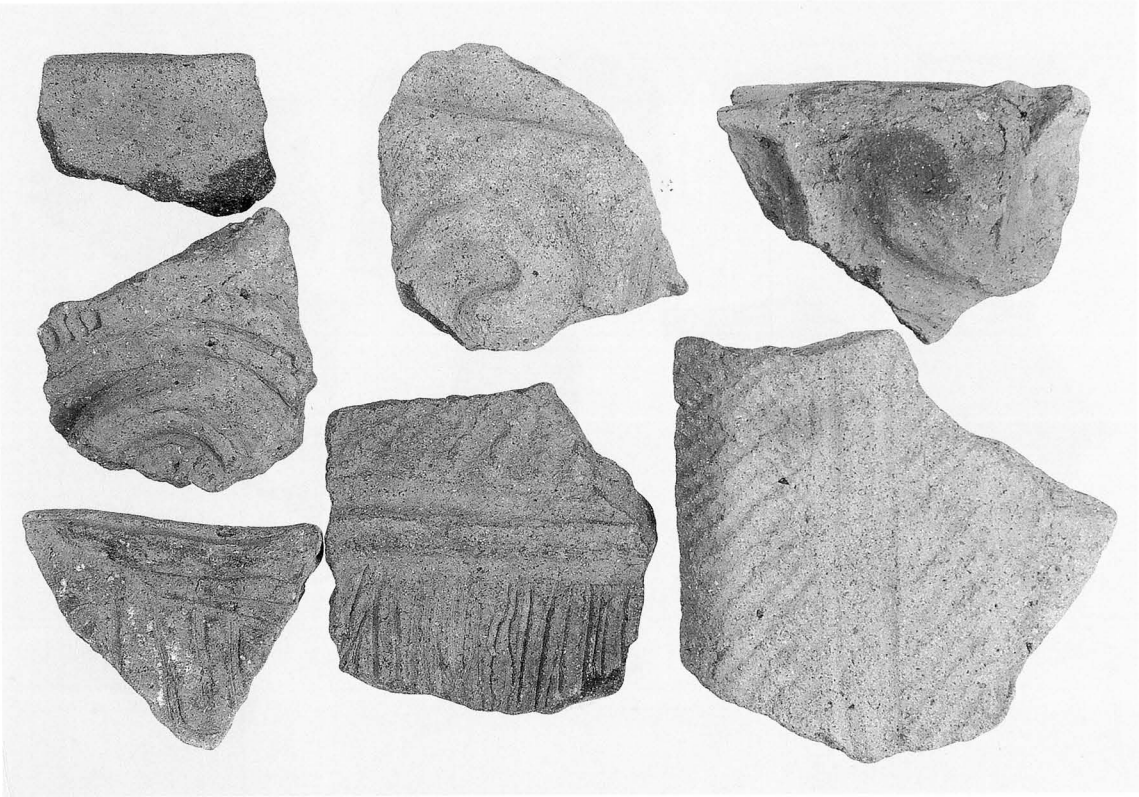


土坑SK73出土土器

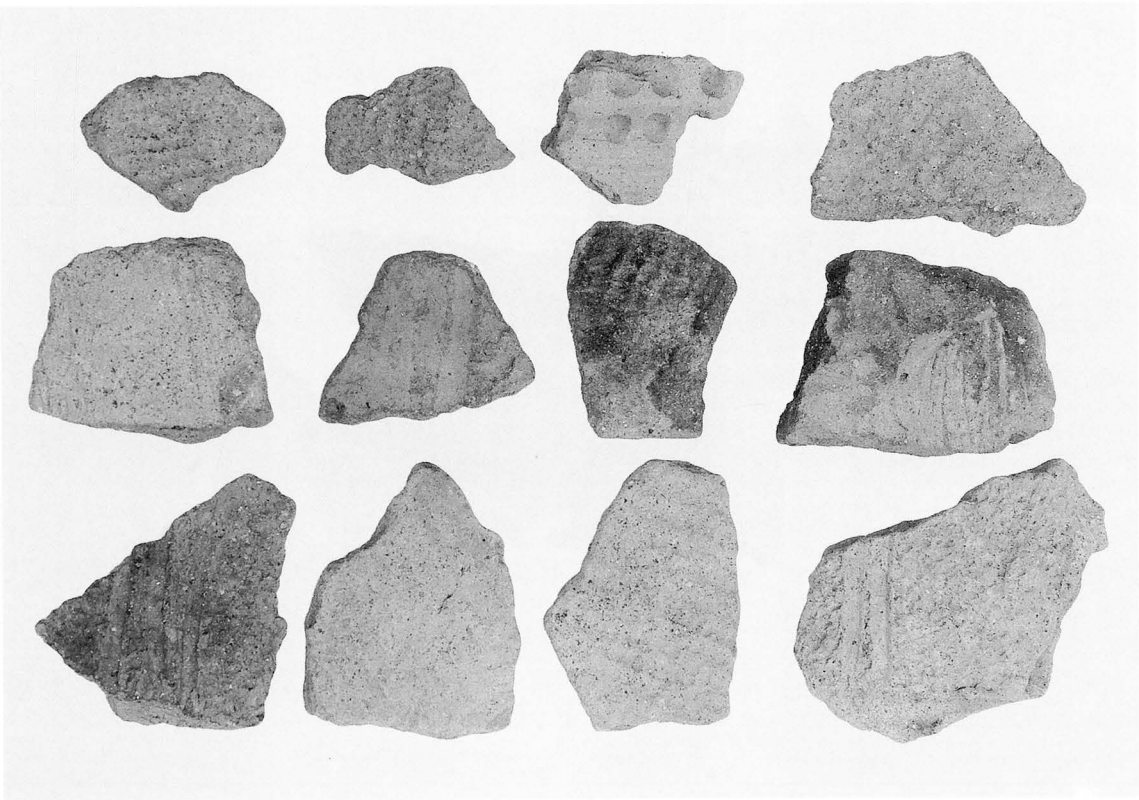


グリット出土土器（前期）

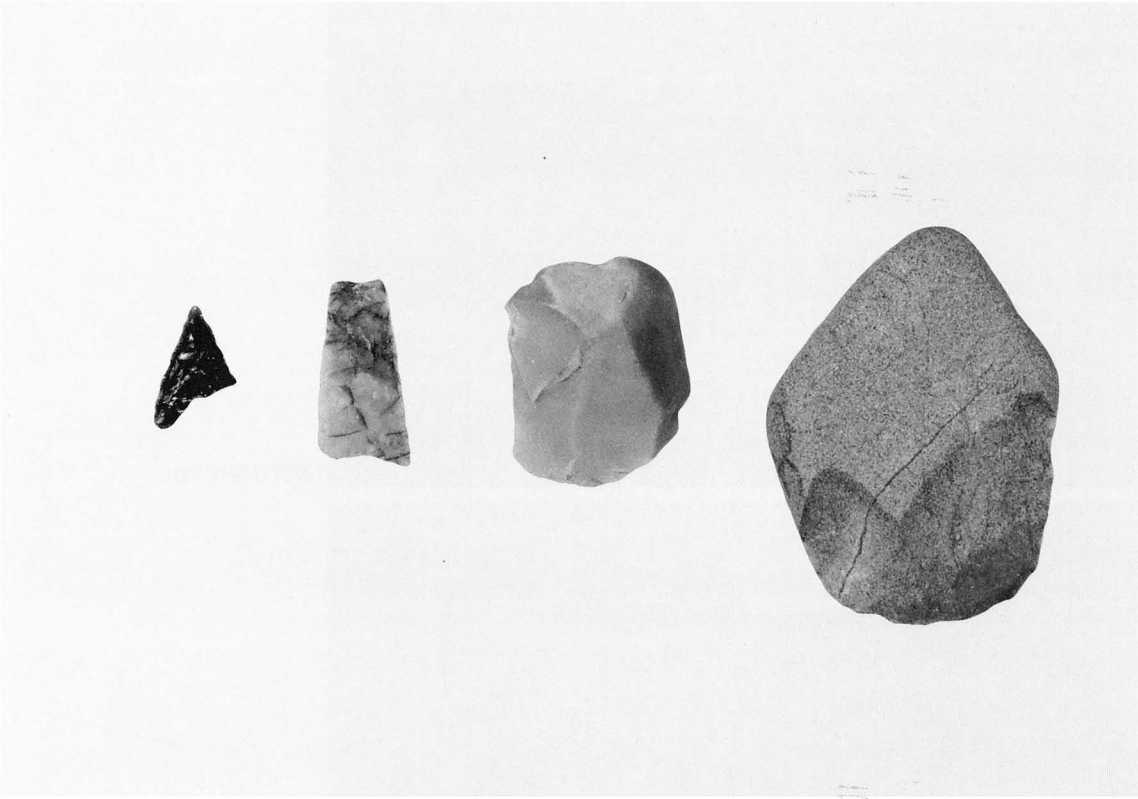
埋　甕（中期）



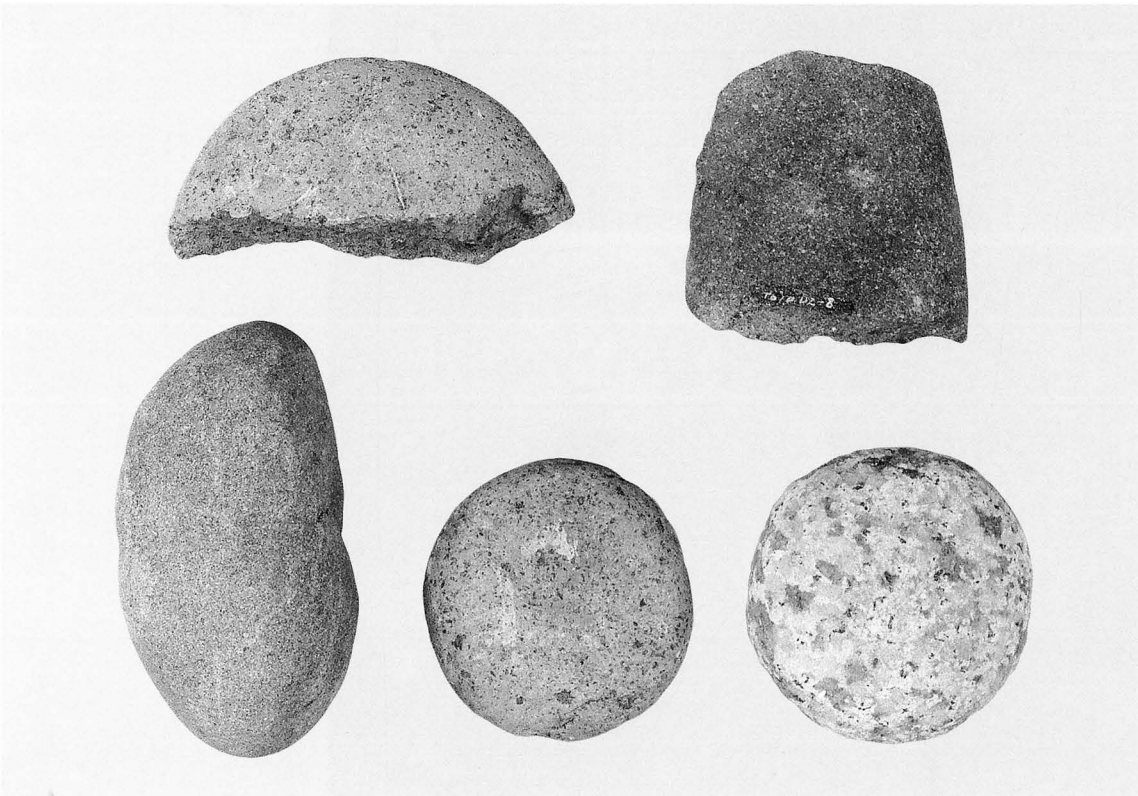
グリット出土土器（中期）



グリット出土土器（中期）



石　器



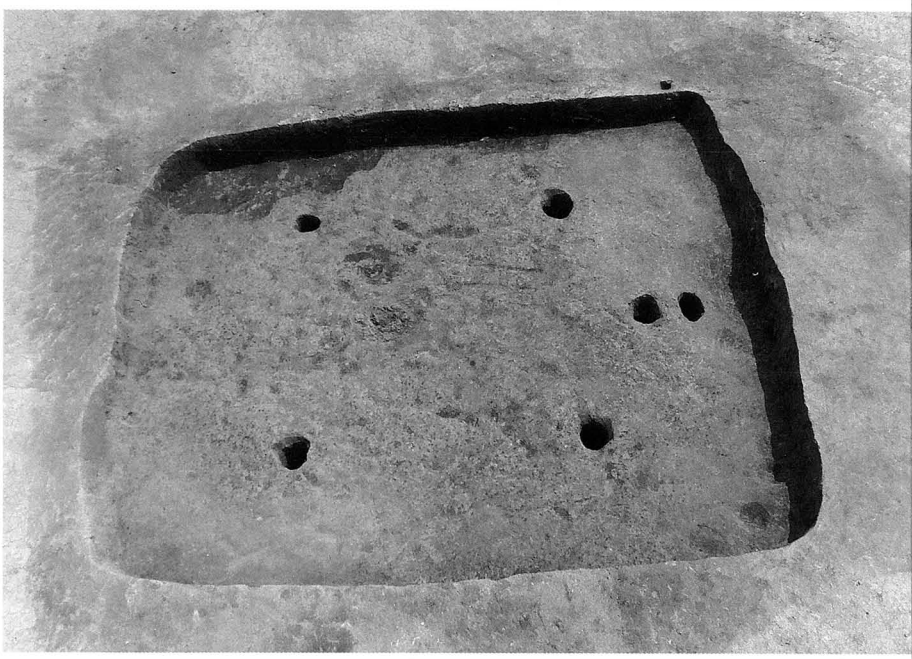
石器（礫器・磨石類）

竪穴住居跡SI01

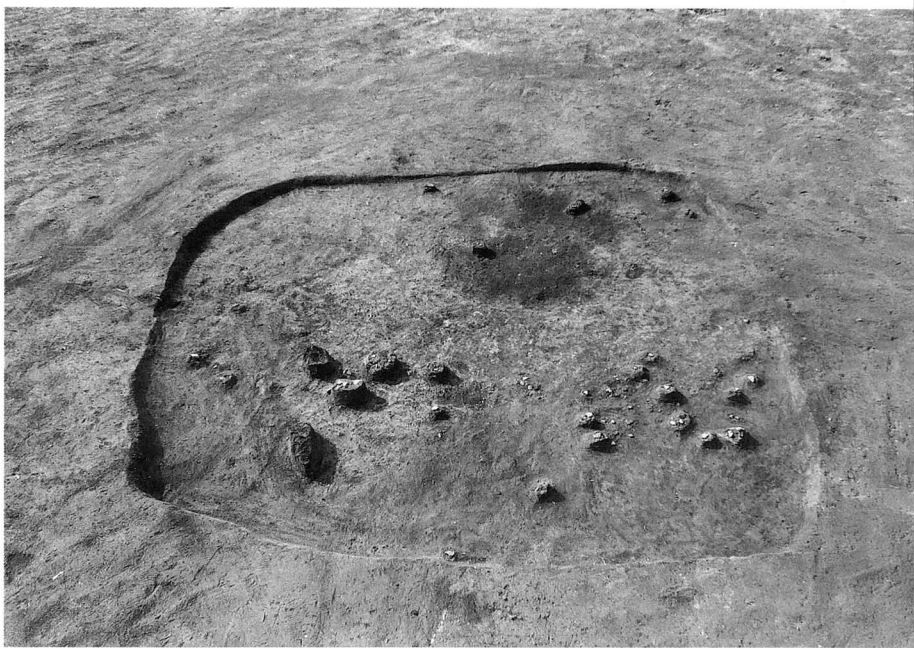
竪穴住居跡SI01

竪穴住居跡SI01

竪穴住居跡SI01

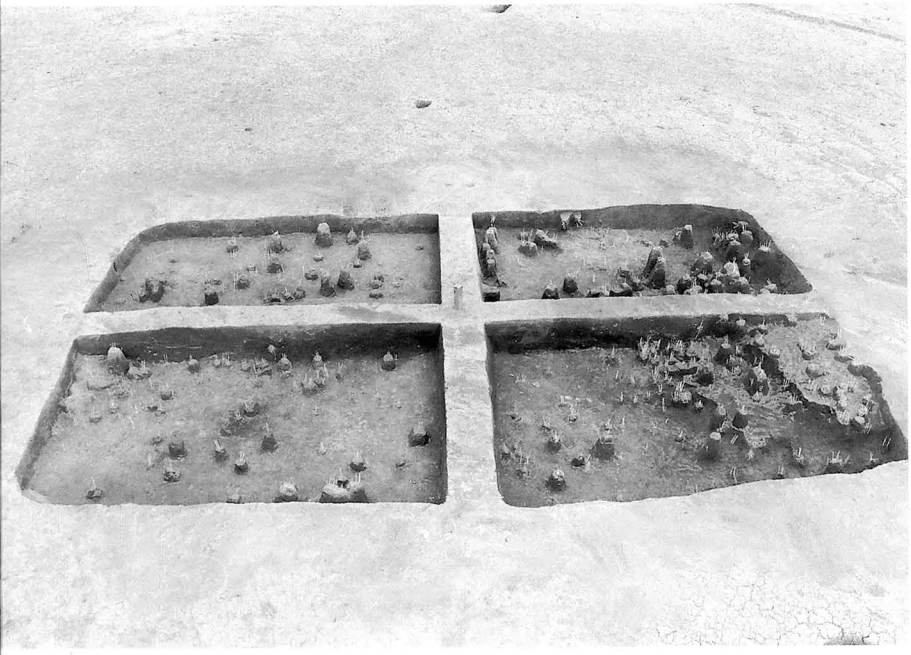


竪穴住居跡SI01



竪穴住居跡SI02

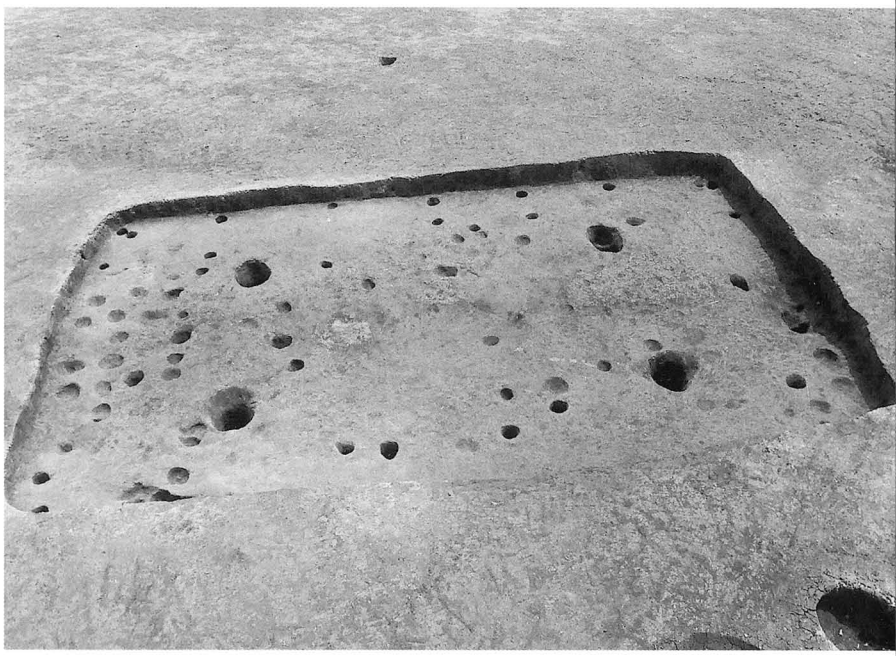
竪穴住居跡SI02



竪穴住居跡SI03

竪穴住居跡SI03

竪穴住居跡SI03

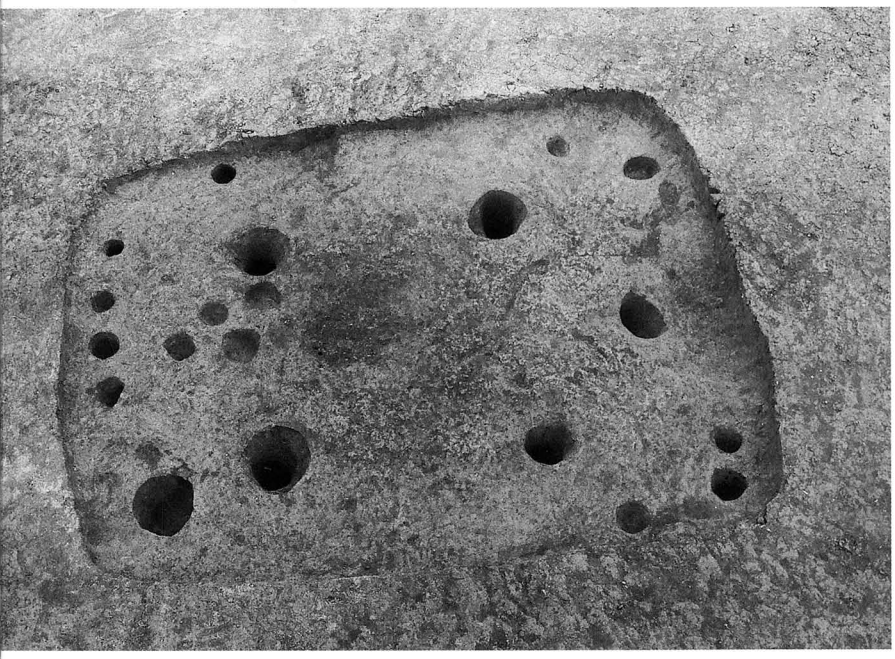


竪穴住居跡SI03

竪穴住居跡SI04

PL.16　弥生時代

竪穴住居跡SI04



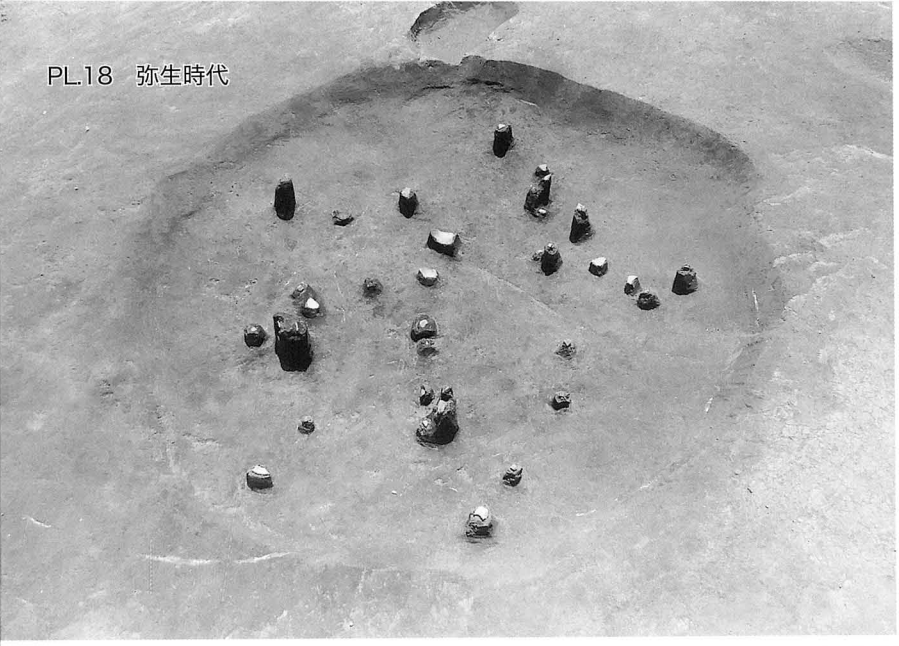
竪穴住居跡SI04

竪穴住居跡SI05

竪穴住居跡SI05

竪穴住居跡SI05

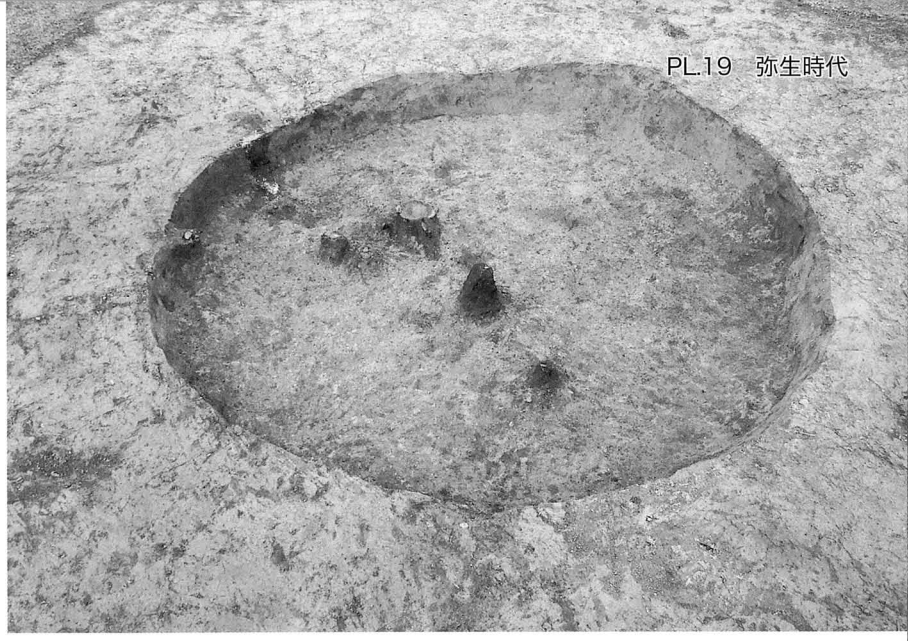
竪穴住居跡SI05



竪穴状遺構SX01

竪穴状遺構SX01

竪穴状遺構SX02

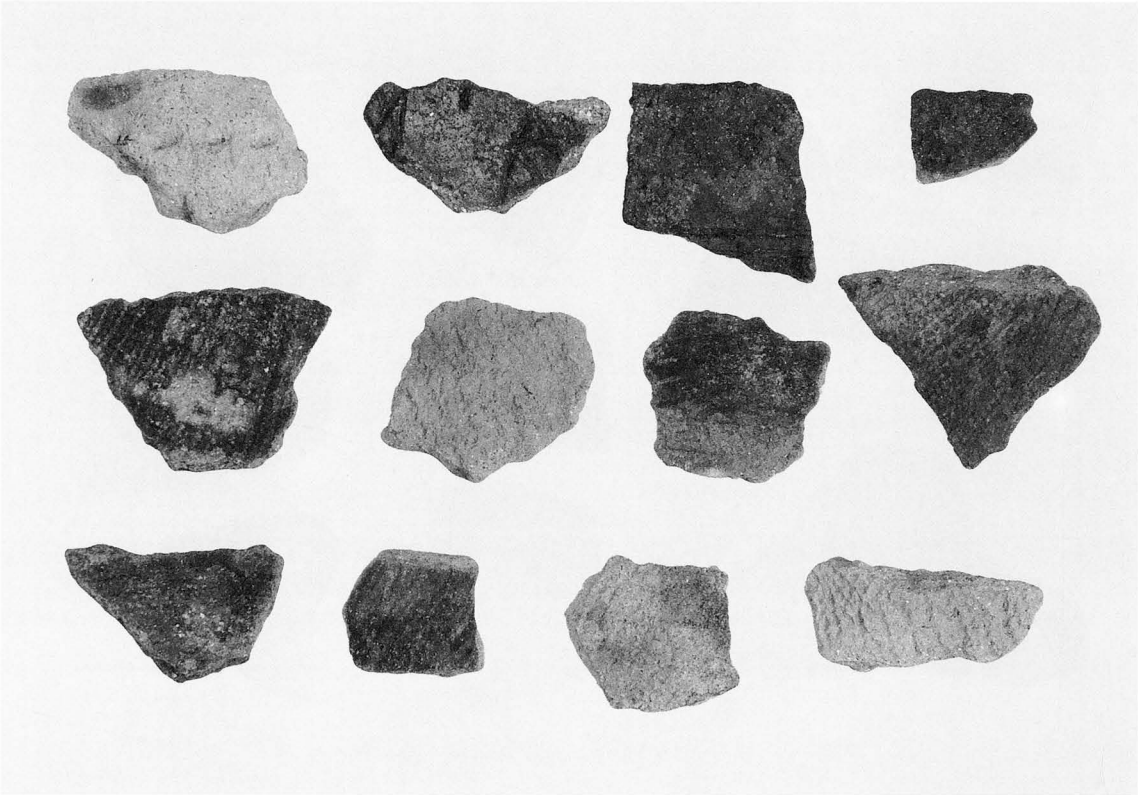


竪穴状遺構SX02

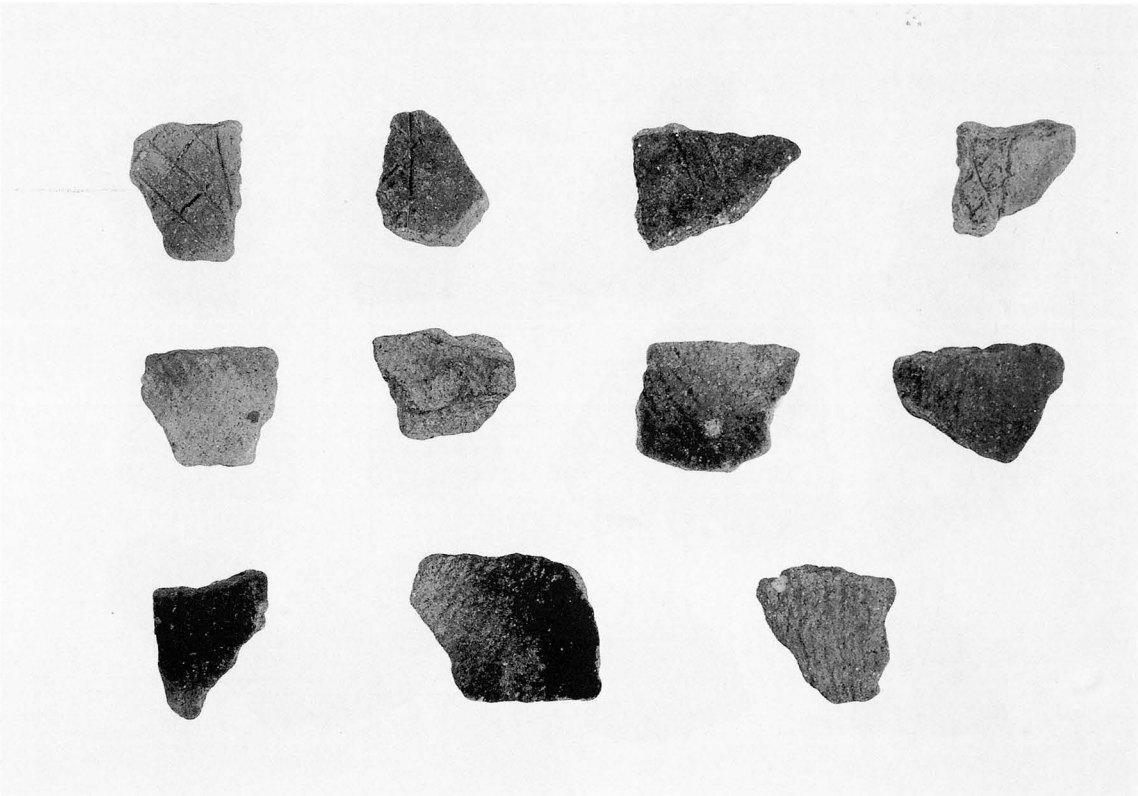
竪穴状遺構SX０２

竪穴状遺構SX02

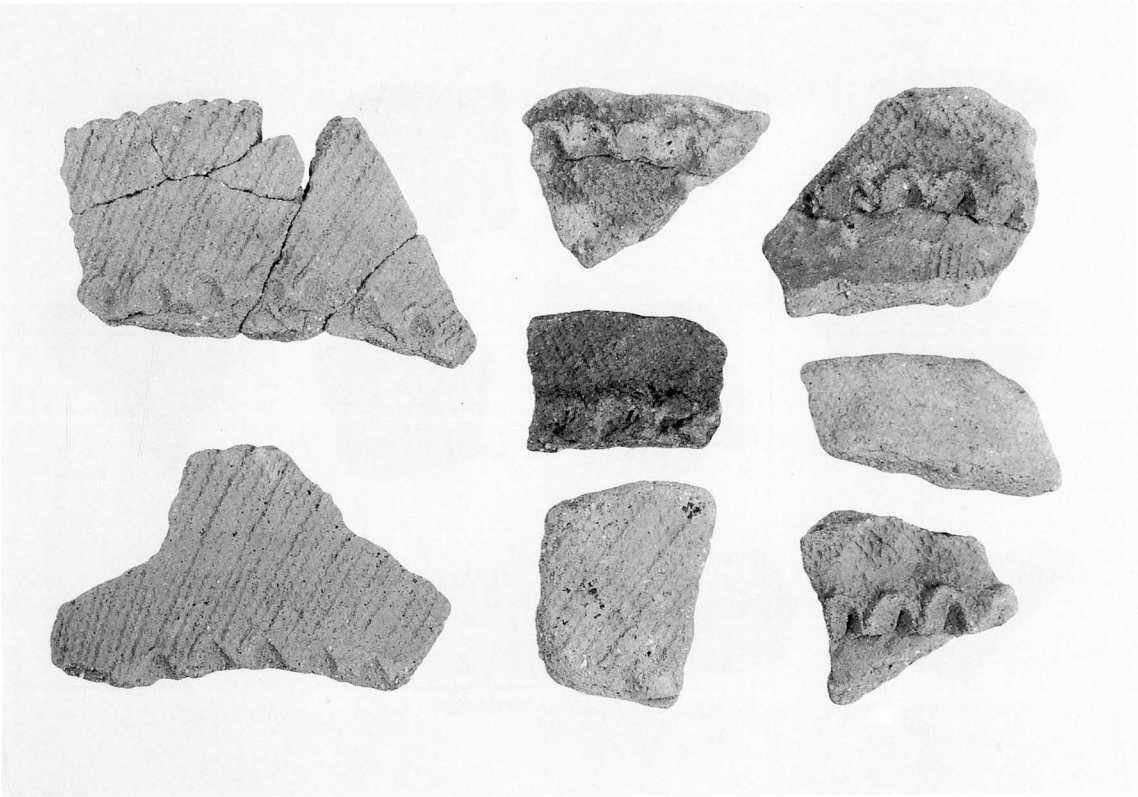
竪穴住居跡SI01・SI03・SI05出土土器



竪穴住居跡SI01出土土器

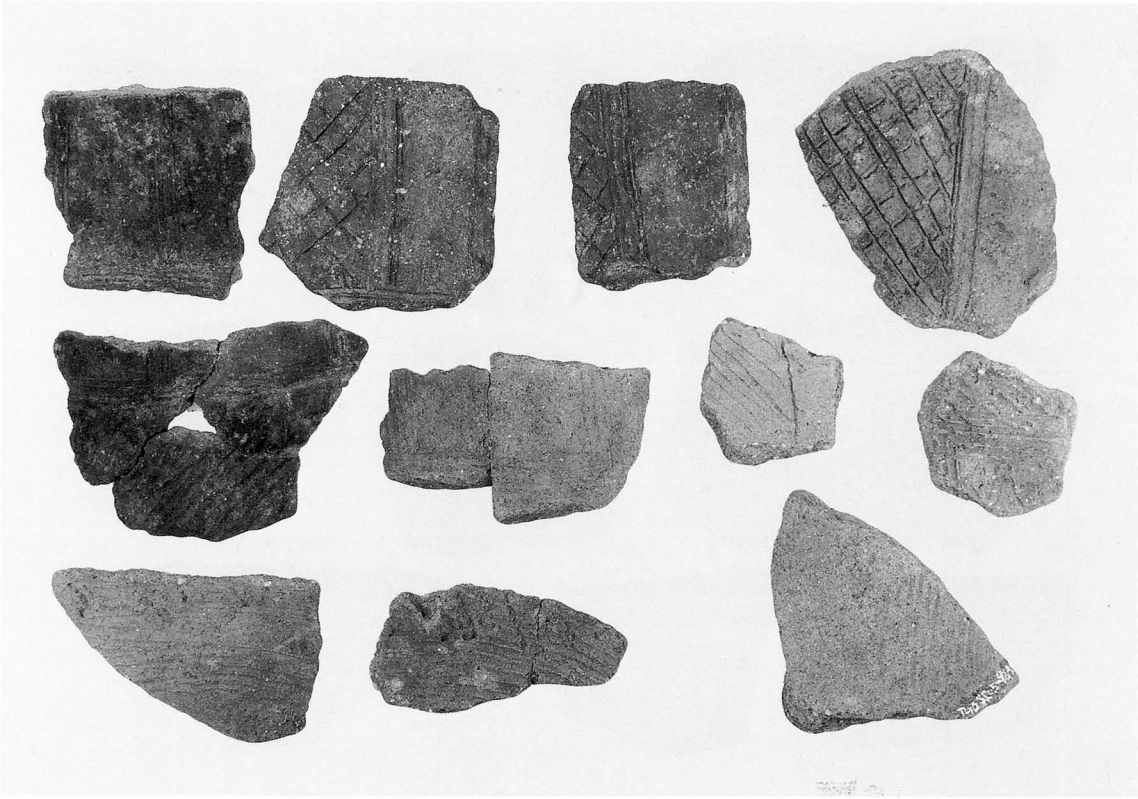


竪穴住居跡SI02出土土器

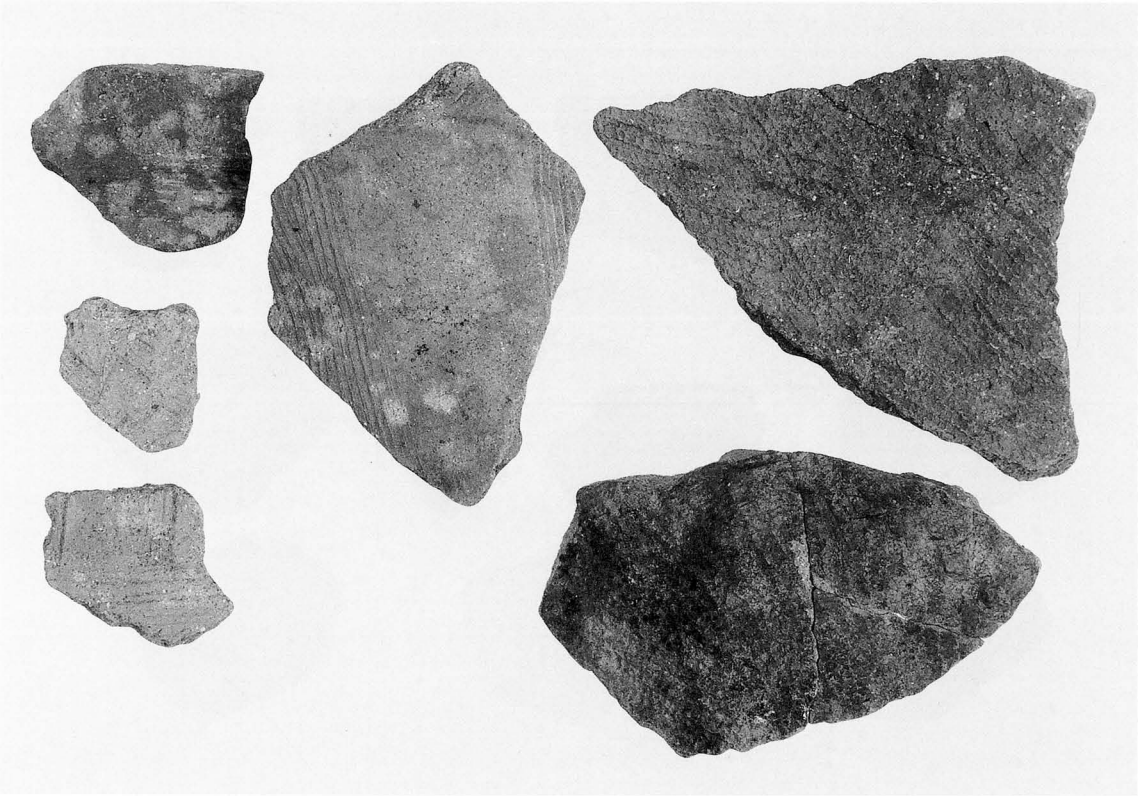


竪穴住居跡SI03出土土器

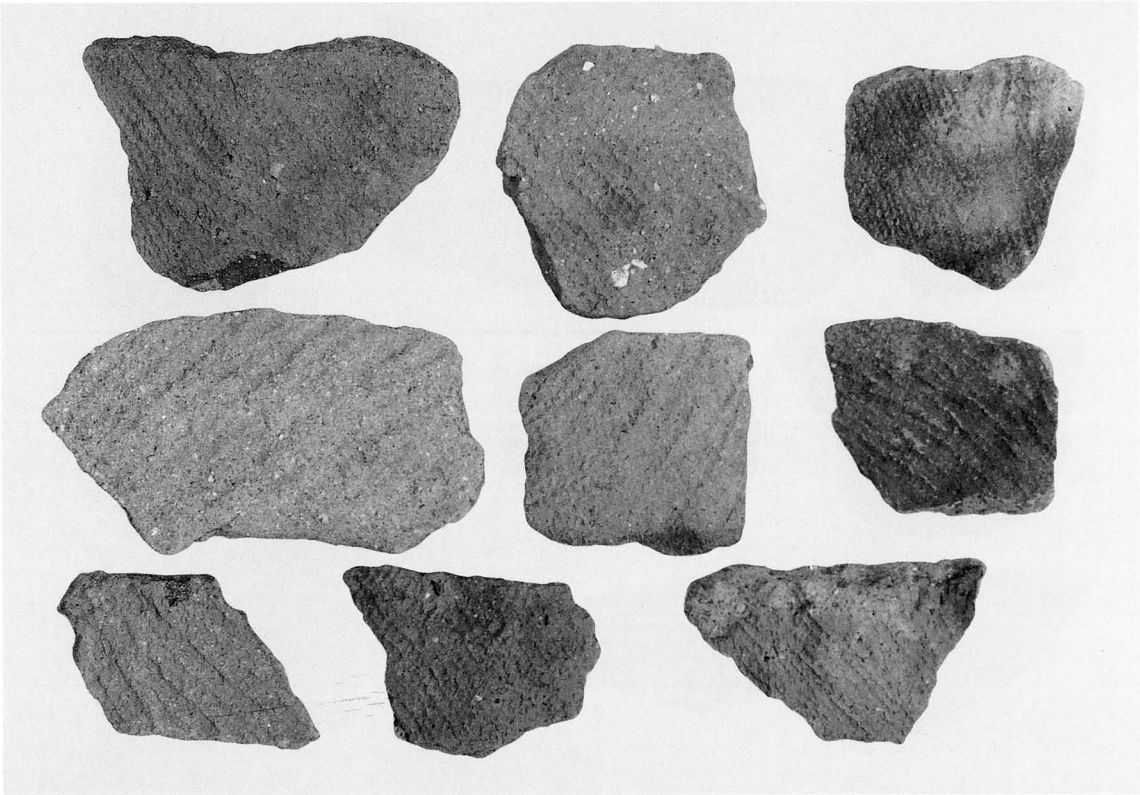
竪穴住居跡SI03出土土器



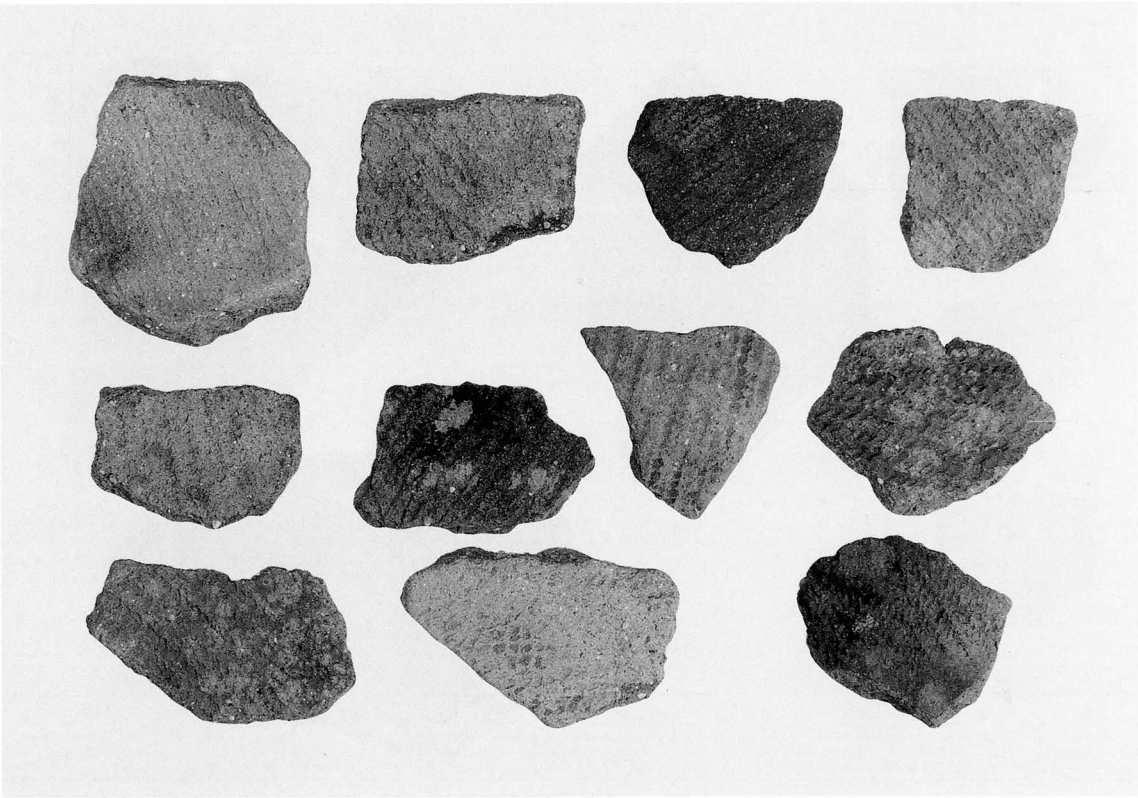
竪穴住居跡SI03出土土器



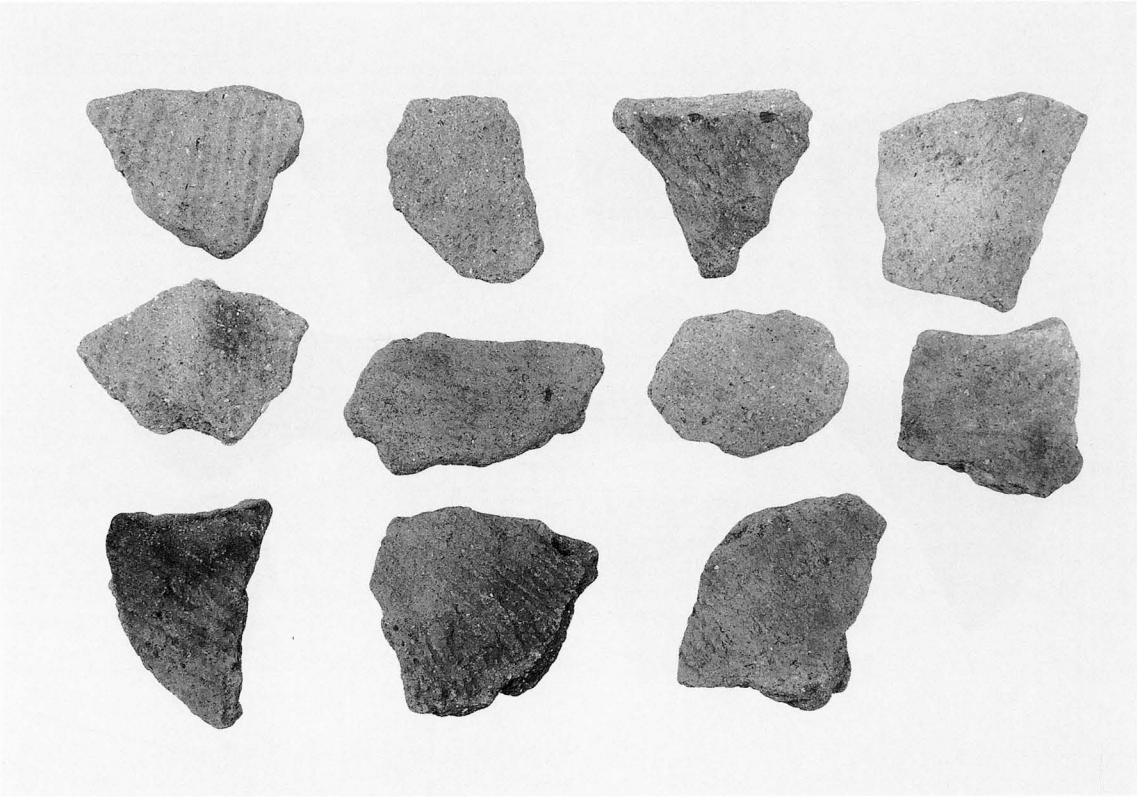
竪穴住居跡SI03出土土器



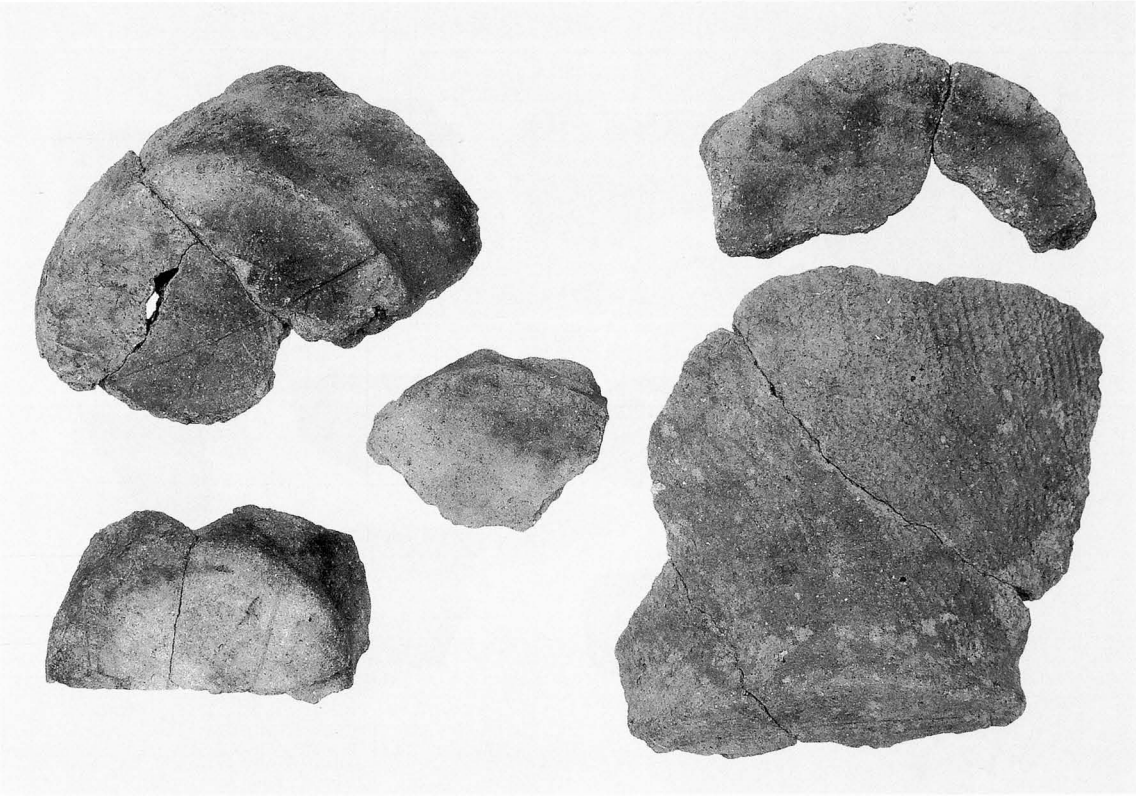
竪穴住居跡SI03出土土器



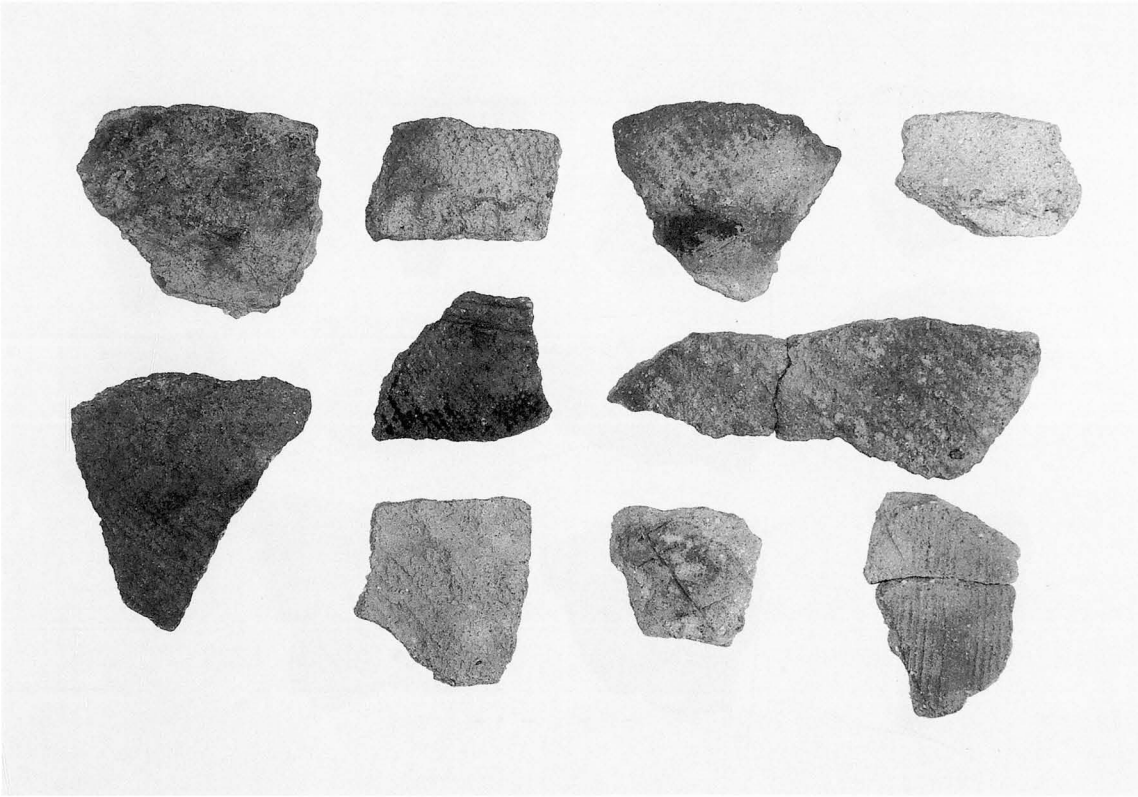
竪穴住居跡SI03出土土器



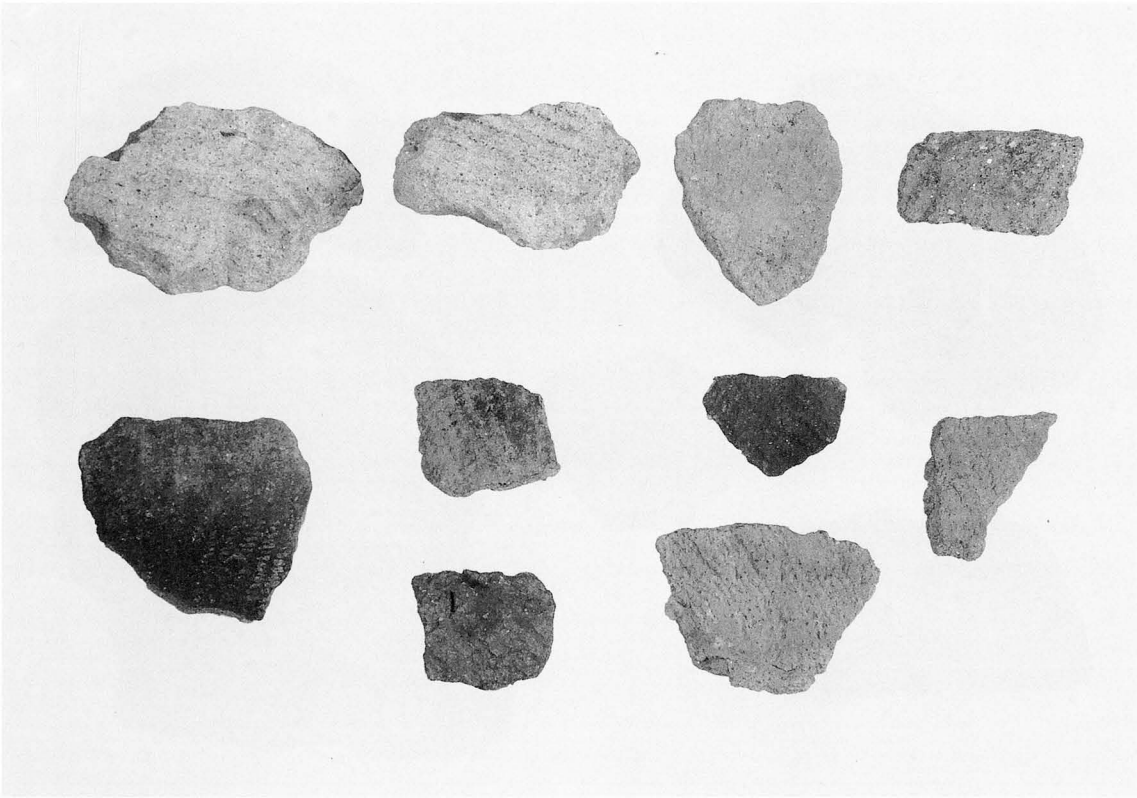
竪穴住居跡SI03出土土器



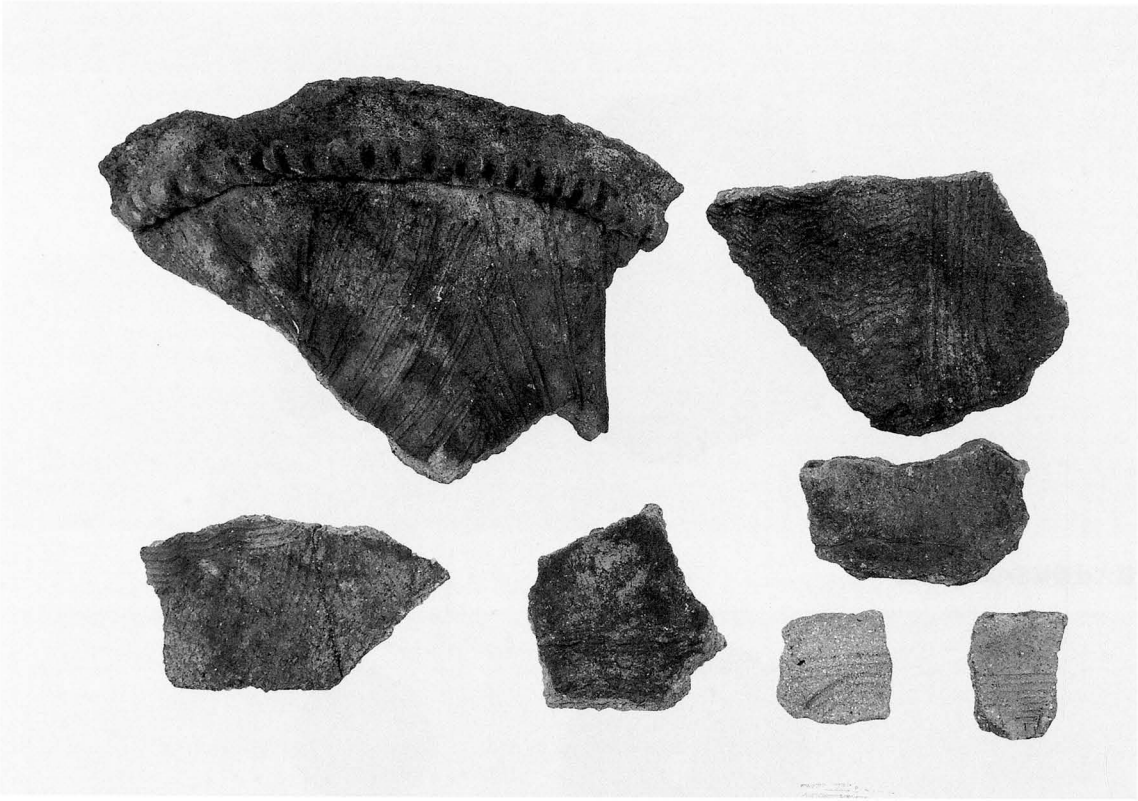
竪穴住居跡SI03出土土器



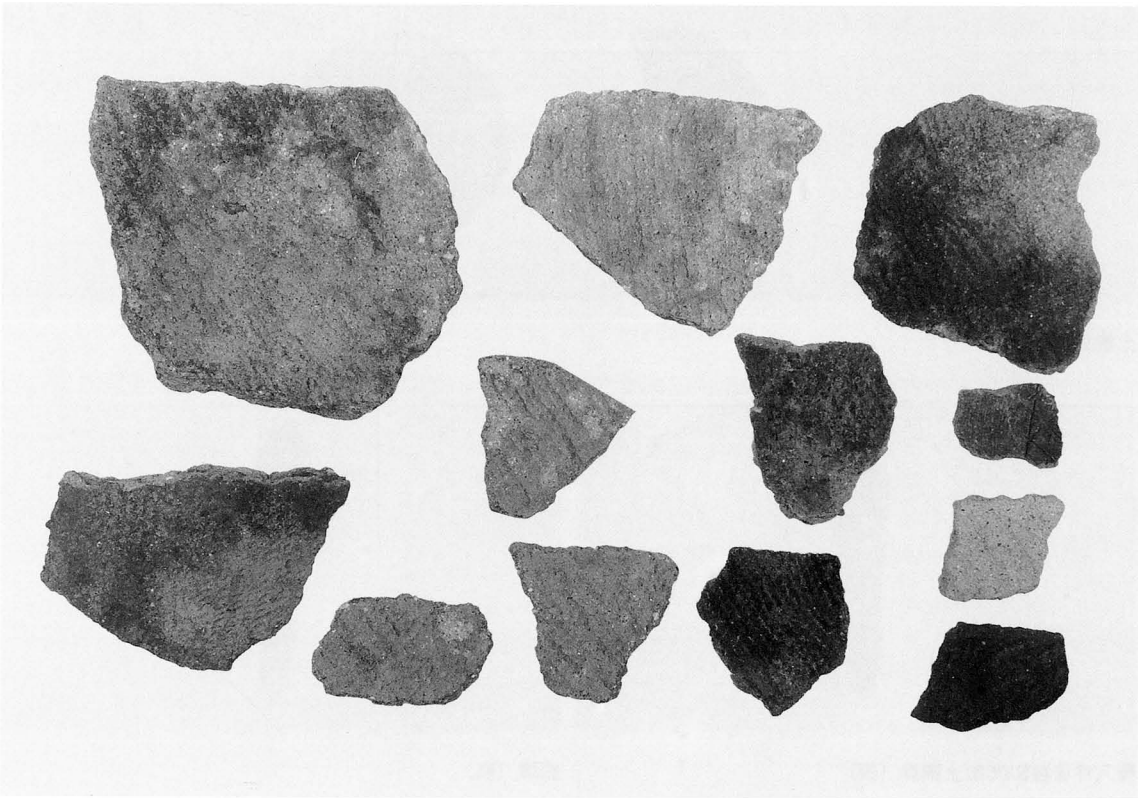
竪穴住居跡SI04出土土器



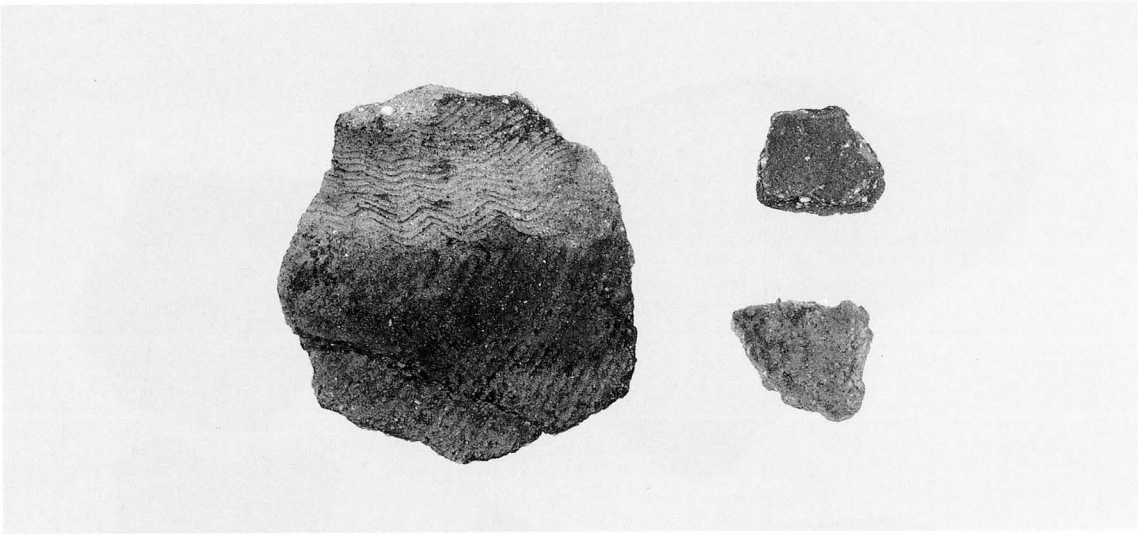
竪穴住居跡SI04出土土器



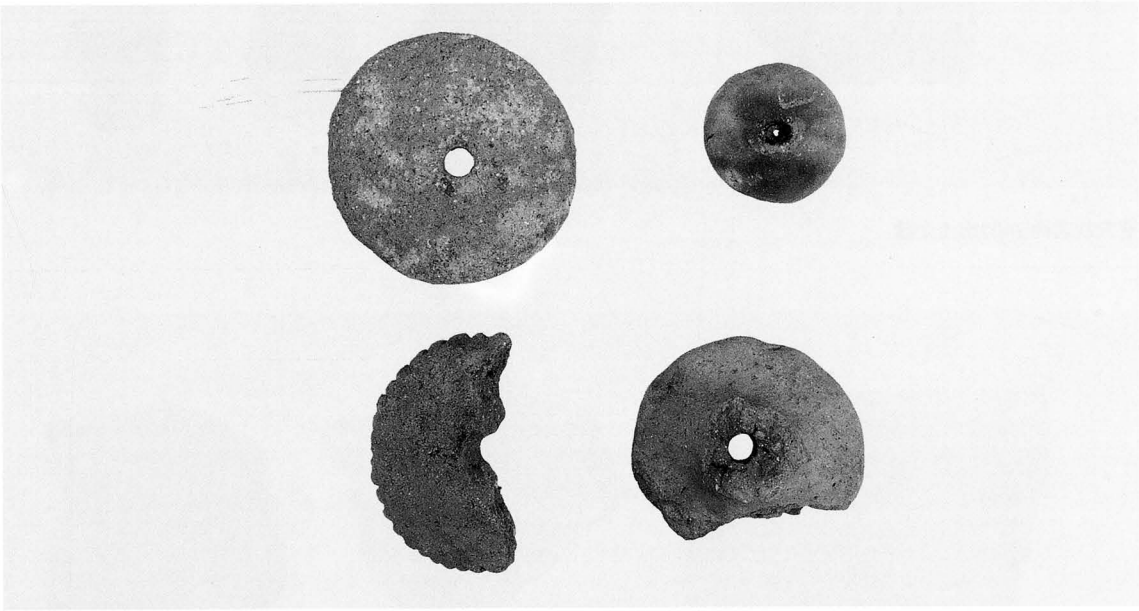
竪穴状遺構SX01出土土器



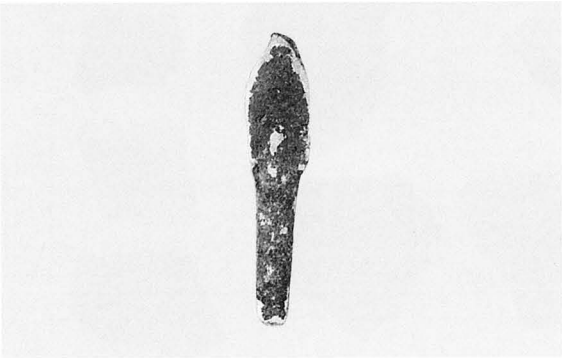
竪穴状遺構SX01出土土器



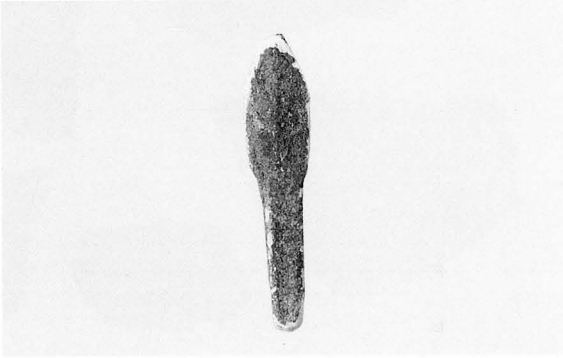
竪穴状遺構SX02出土土器



土製品



竪穴住居跡SI05出土銅鏃（表）



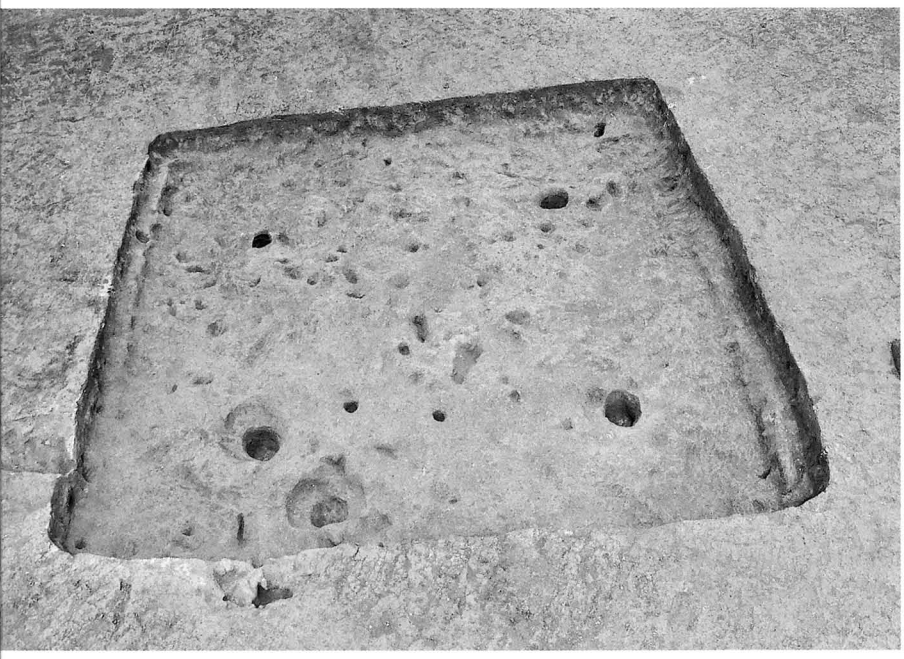
銅鏃（裏）

竪穴住居跡SI06

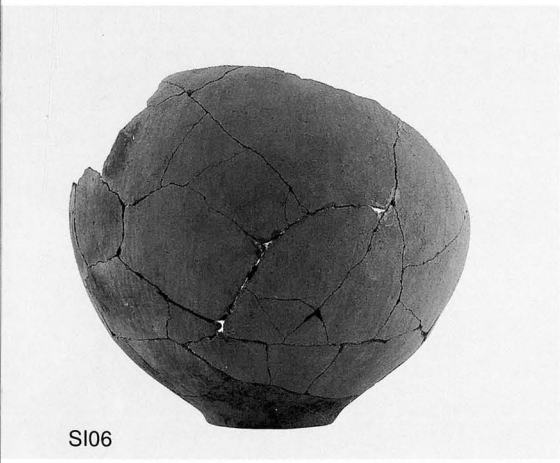
竪穴住居跡SI06

竪穴住居跡SI06

竪穴住居跡SI06
貼床下土層断面



竪穴住居跡SI06
貼床下完掘



SI06

SI06

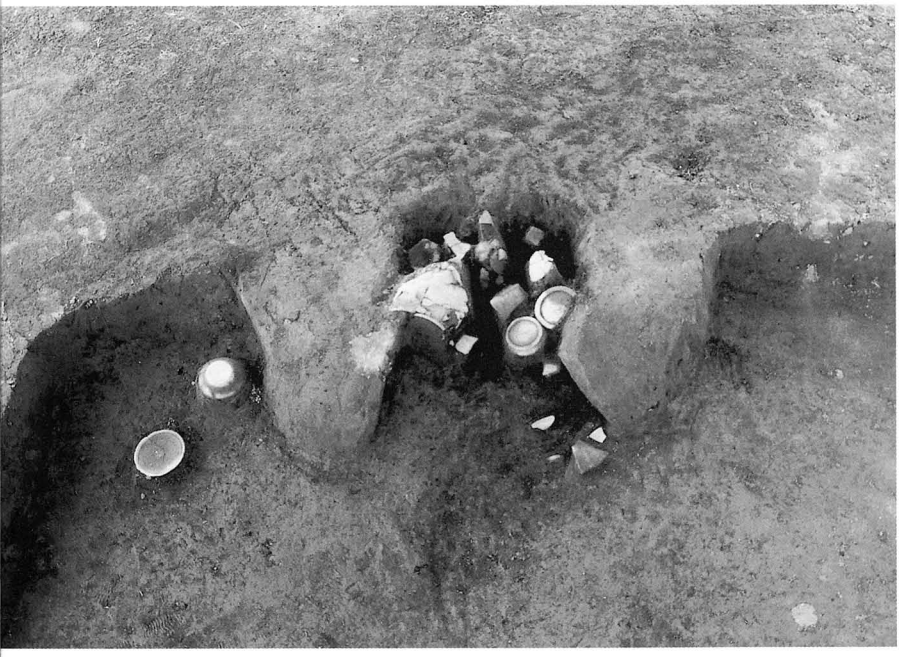
竪穴住居跡SI06出土土器

竪穴住居跡SI07

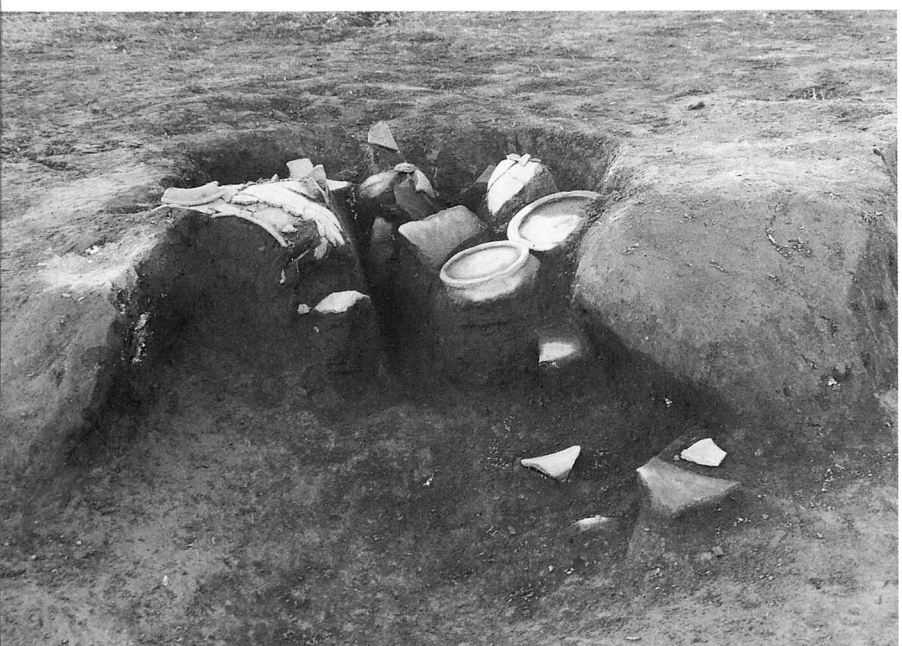
竪穴住居跡SI07

竪穴住居跡SI07

竪穴住居跡SI07

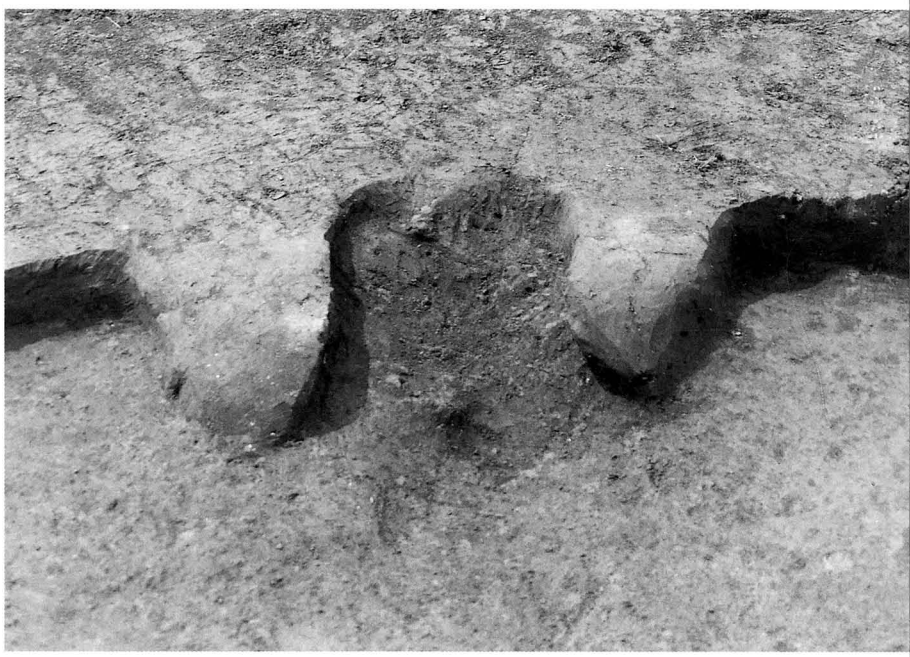


竪穴住居跡SI07
カマド

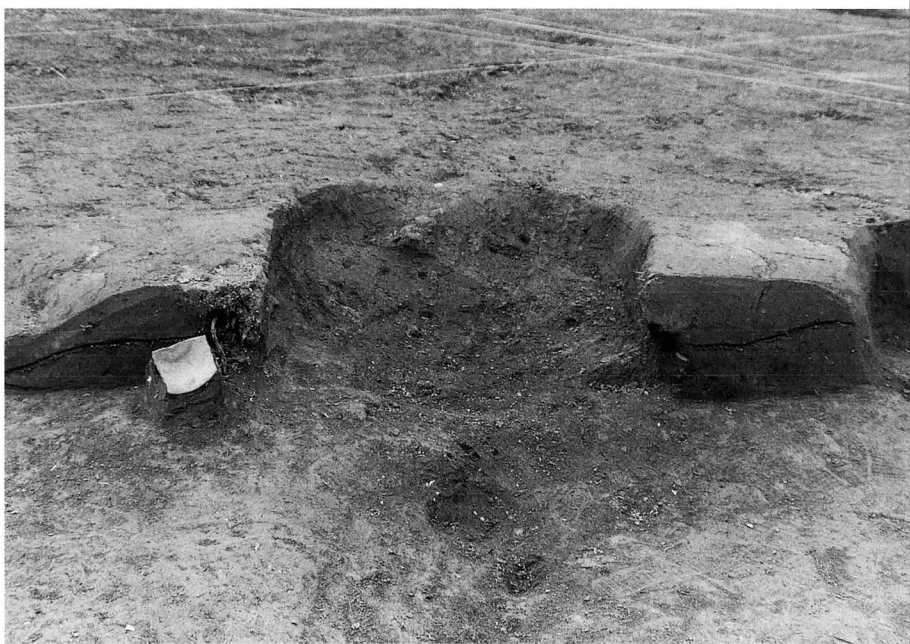


竪穴住居跡SI07
カマド

竪穴住居跡SI07
カマド土層層序



竪穴住居跡SI07
カマド

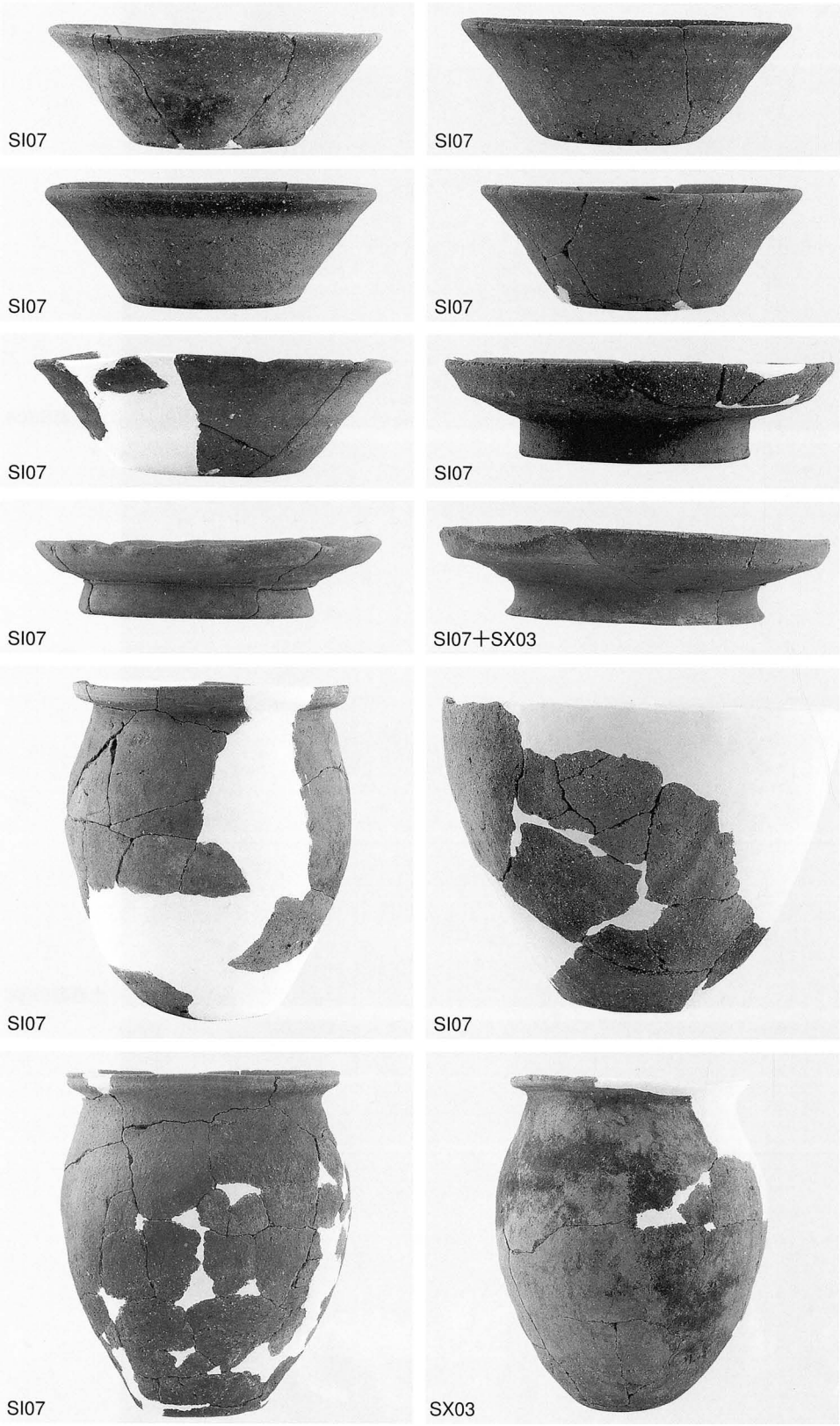


竪穴住居跡SI07
カマド袖部断面

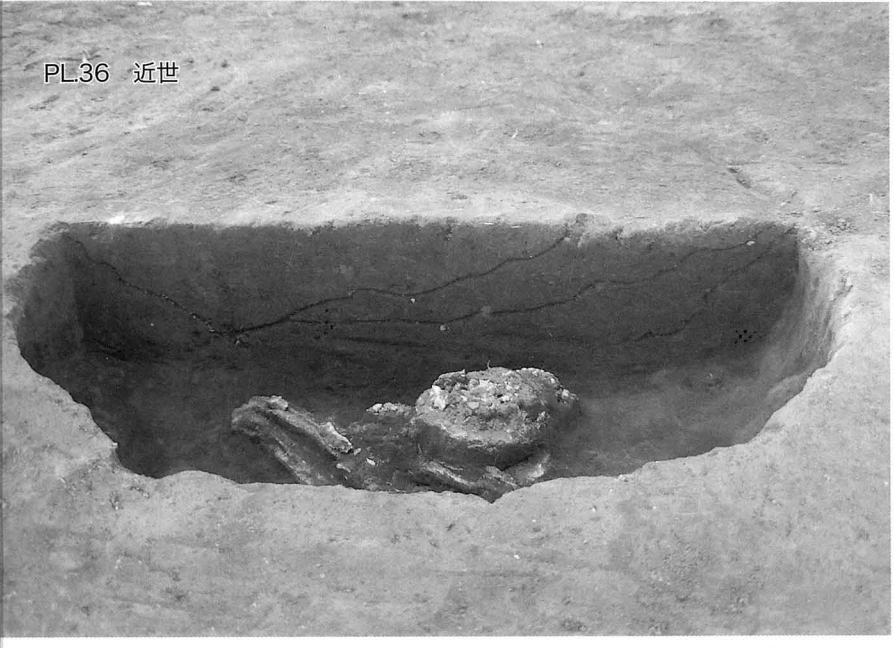
竪穴状遺構SX03

竪穴状遺構SX03

竪穴状遺構SX03

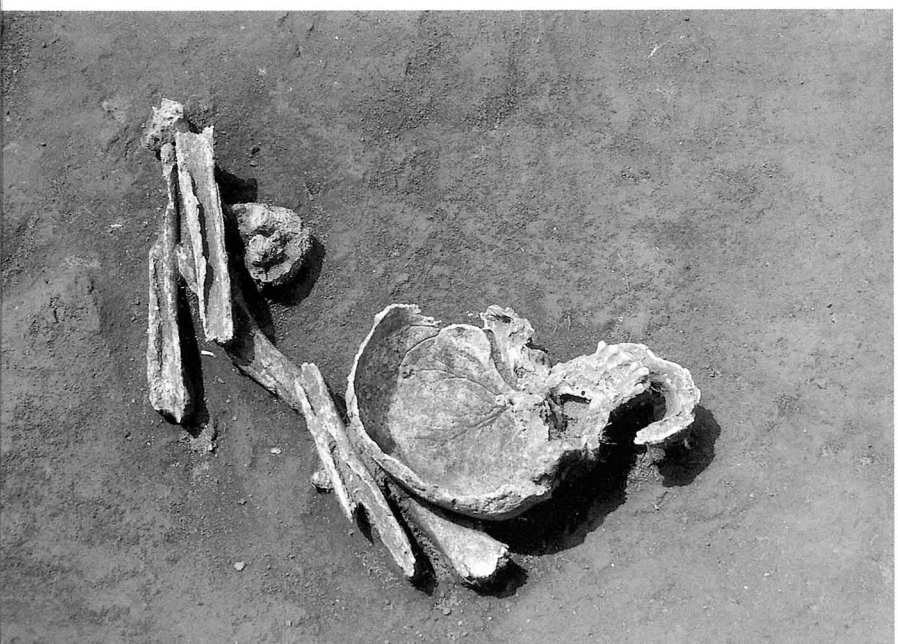


竪穴住居跡SI07・竪穴状遺構SX03出土土器



土壙墓SK66

土壙墓SK66



土壙墓SK66

土壙墓SK67

土壙墓SK67

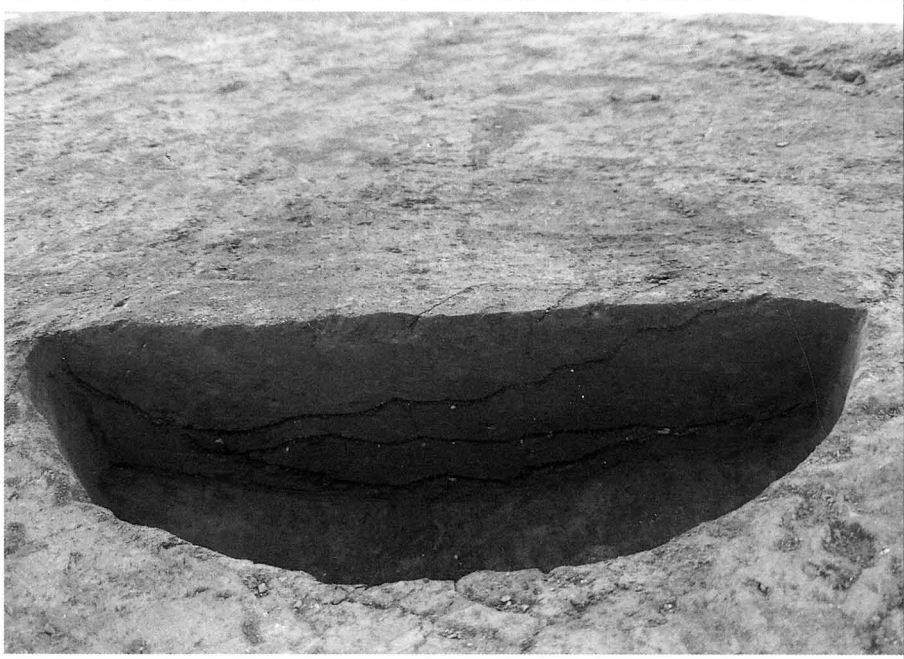
土坑SK40◀
土壙墓SK52▶

土壙墓SK69

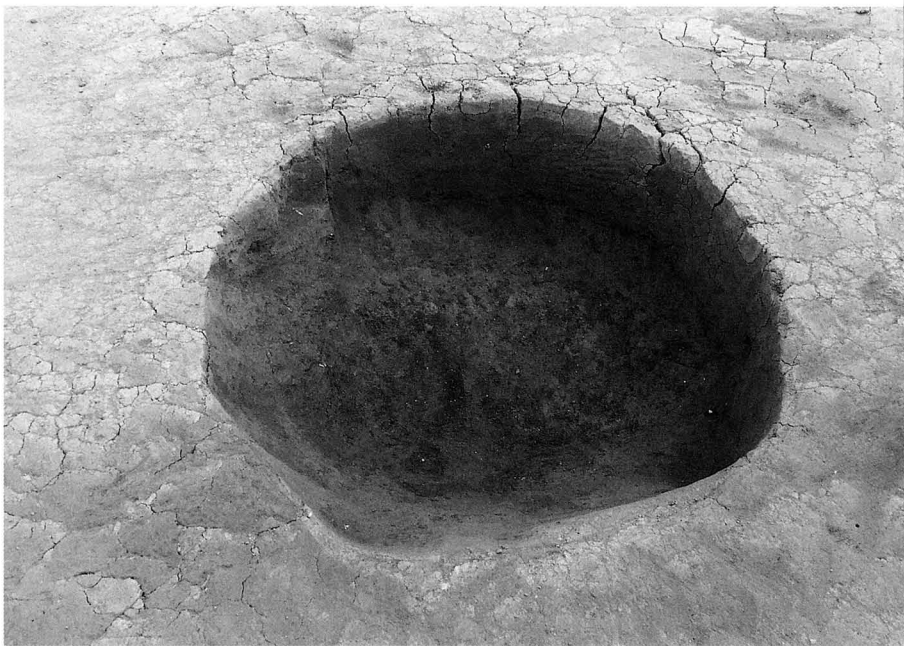
土壙墓SK69

土坑SK55

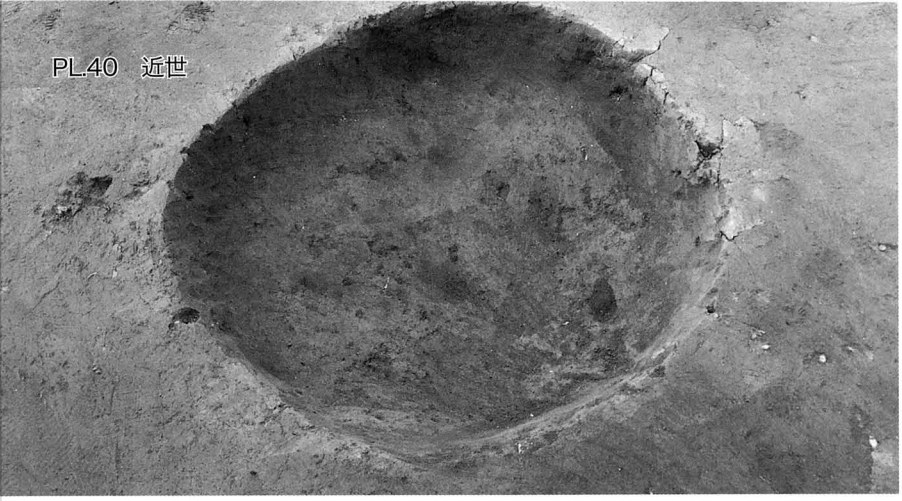
土坑SK56



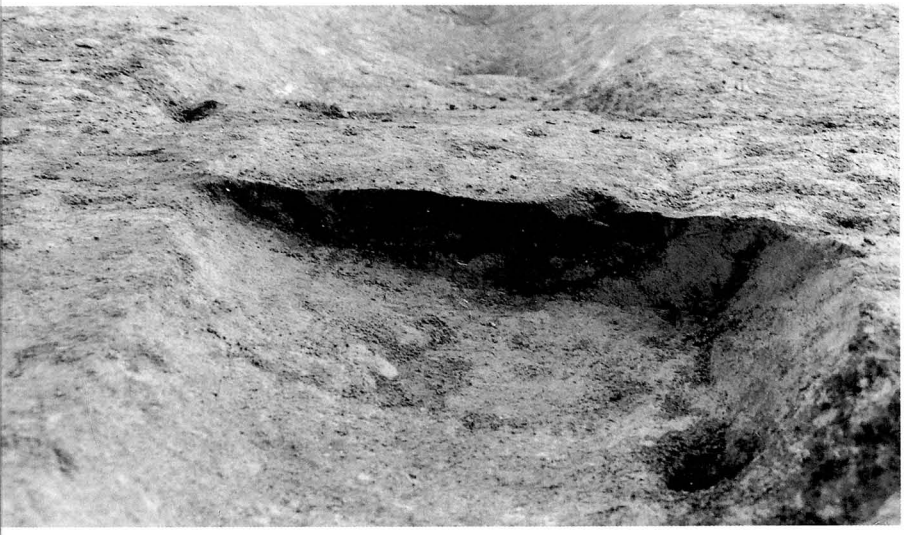
土坑SK61



土坑SK61

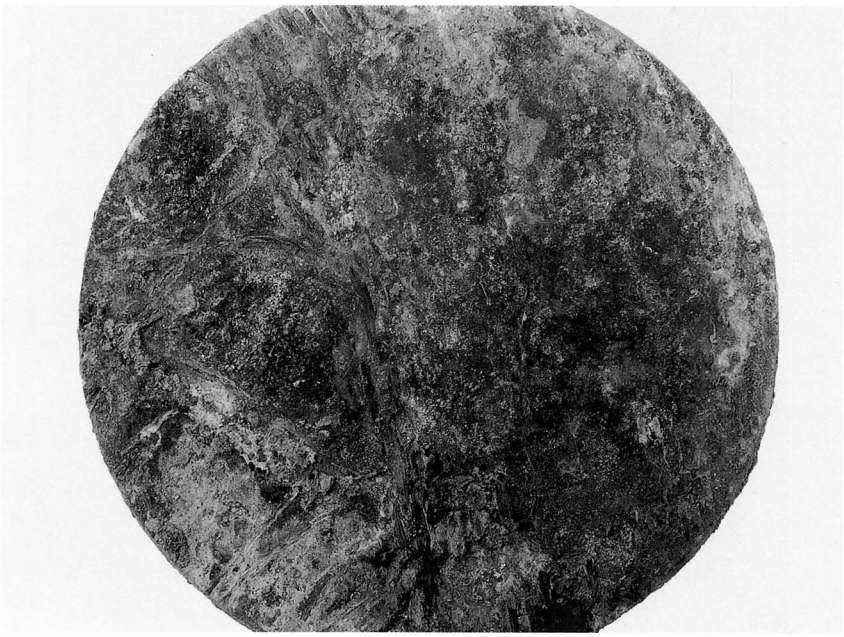


土坑SK70

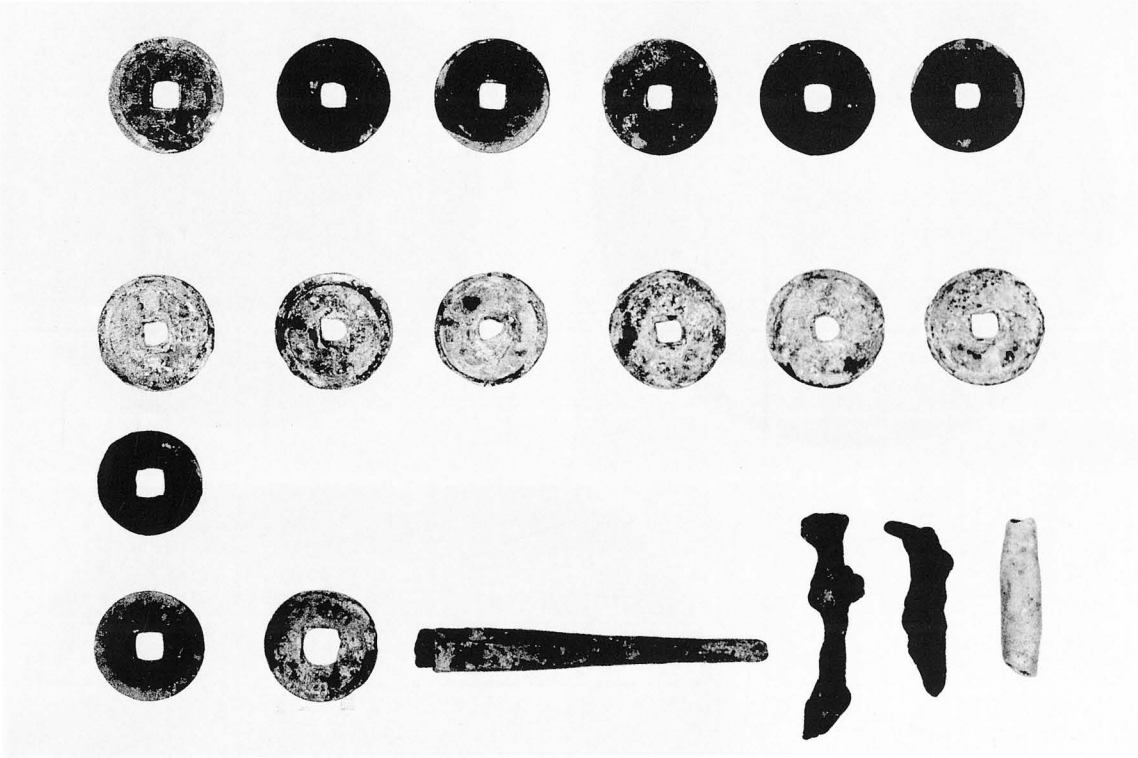


溝状遺構SD01

溝状遺構SD01

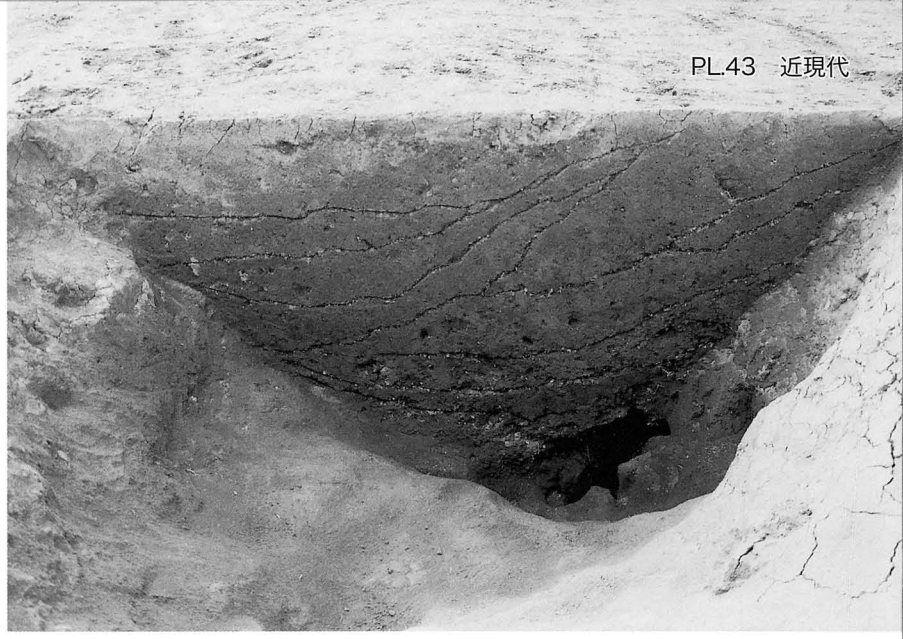


土坑墓SK69出土
銅鏡（1～4）



銭貨・煙管・釘類・土錘

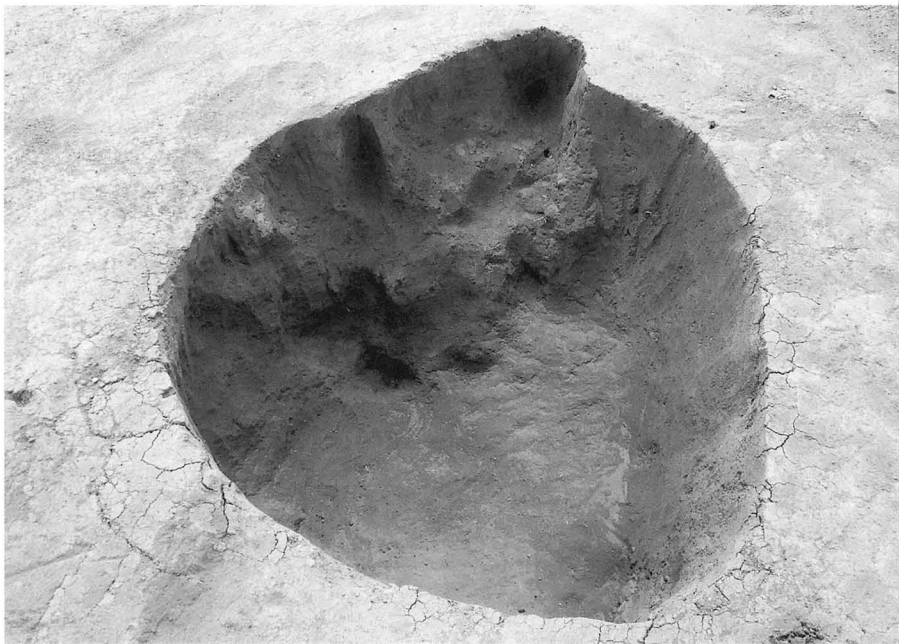
玉類



土坑SK05

土坑SK71◀

土坑SK21▶



土坑SK42

報告書抄録

ふりがな	ろくじゅうづかいせき		
書名	六十塚遺跡		
副書名			
巻次	9		
シリーズ名			
シリーズ番号			
編集者名	小川和博、大渕淳志	著者名	小川和博、大渕淳志、鍛治文博
編集機関	土浦市遺跡調査会		
発行機関	土浦市遺跡調査会		
所在地	〒300－0812　茨城県土浦市下高津2－7－36		
発行年月日	1997年3月31日		

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
六十塚遺跡（ろくじゅうづか）	茨城県土浦市（いばらきけんつちうらし）沖宿町字（おきじゅくまちあざ）六十塚（ろくじゅうづか）	D－78		36°04'45"	140°15'38"	19910518～19910726	15.100m²	土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
		旧石器	集石遺構　1	二次加工のある剥片他	
		縄紋	陥し穴状遺構　10 土坑　21 集石遺構　1 風倒木痕　3	縄紋土器（早～中） 石器	
	集落	弥生	竪穴住居跡　4 竪穴状遺構　2	弥生土器・紡錘車 土錘・銅鏃	
	集落	古墳	竪穴住居跡　1	土師器	
	集落	奈良	竪穴住居跡　1 竪穴状遺構　1	須恵器 土玉	
	墓地	中・近世	土坑基　4 土坑　17 溝状遺構　2 掘立柱建物跡　2	古銭・銅鏡 数珠玉・煙管 土錘	
		近現代	土坑		

六十塚遺跡

―― 茨城県土浦市所在の古代集落跡の調査 ――

平成9年3月25日　印刷
平成9年3月31日　発行

発　行　土浦市教育委員会
茨城県土浦市高津二丁目7-36　TEL　0298-22-2613

編　集　土浦市遺跡調査会
日本考古学研究所
千葉県佐倉市川崎170-8　TEL　043-485-8381

問合先　上高津貝塚ふるさと歴史の広場
〒300-0811 茨城県土浦市上高津1843　TEL　0298-29-7111

印　刷　有限会社　田　辺　印　刷
千葉県夷隅郡夷隅町苅谷663-4　TEL　0470-86-2298